



宮城県の 絶滅のおそれのある 野生動植物 2026



はじめに



宮城県は、東は太平洋に、西は奥羽山脈に面し、県土の北東部に北上山地が、南部に阿武隈山地が連なっています。そしてその間に、これらの山地を水源とする北上川や阿武隈川などの河川が流れ、その流域には広大な仙台平野が広がっています。さらに、内陸北部には伊豆沼・内沼、蕪栗沼・周辺水田、化女沼、そして沿岸部には志津川湾と、県内にはラムサール条約湿地に登録されている4つの貴重な湿地があります。また、唐桑半島から牡鹿半島に至るリアス式海岸や特別名勝松島など、変化に富んだ海辺が、美しい自然景観を有しています。

この豊かな自然の中に、多種多様な野生動植物が生息・生育していますが、開発や環境の変化により、依然として多くの種が絶滅の危機に瀕しています。県では、これらの希少な野生動植物種の保護・保全を図るため、平成13年3月に本県最初のレッドデータブックとなる『宮城県の希少な野生動植物－宮城県レッドデータブック』を発行し、平成28年3月には、東日本大震災による自然環境の変化を反映させた『宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016』を発行しました。

その後県では、気候変動の影響や外来種の侵入など、野生動植物を取り巻く環境の変化を踏まえ、最新の生息・生育状況を評価するため調査検討を重ね、令和6年3月に「宮城県の希少な野生動植物－レッドリスト 2024年版」を公表しました。

その後県では、気候変動の影響や外来種の侵入など、野生動植物を取り巻く環境の変化を踏まえ、最新の生息・生育状況を評価するため調査検討を重ね、令和6年3月に「宮城県の希少な野生動植物－レッドリスト 2024年版」を公表しました。

そしてこのたび、前回2016年のレッドデータブック発行から10年の節目を迎えるにあたり、「宮城県の希少な野生動植物－レッドリスト 2024年版」の評価結果に一部最新の調査結果を加え、『宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 2026』として取りまとめました。

国内では、令和5年3月に閣議決定された「生物多様性国家戦略2023－2030」において、生物多様性の損失を止め、反転させる「ネイチャーポジティブ(自然再興)」を2030年までに達成するという目標が掲げられています。すべての野生動植物は生態系の中で密接に繋がっており、私たちの暮らしは、健全な生態系がもたらす水や空気、食料といった自然の恵みによって支えられています。このかけがえのない財産を後世へ受け継ぐためには、私たち一人ひとりが足元の自然に目を向け、行動を起こすことが不可欠です。

本書が、県民の皆様の野生動植物への理解を深める契機となるとともに、行政、事業者、関係団体等の皆様による保護・保全活動や環境学習の基礎資料として、幅広く活用されることを願っています。

最後に、本改訂にあたり、多大なる御尽力をいただきました検討会の皆様をはじめ、貴重な情報の提供や現地調査に御協力を賜りました関係各位に心から感謝を申し上げます。

令和8年3月

宮城県知事 村井 嘉浩

宮城県地域マップ



目次

はじめに	1
宮城県地域マップ	2
I 宮城県の自然環境	4
1 地形・地質	4
2 気候	6
3 野生動植物	8
II 宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 2026 (RED DATA BOOK MIYAGI 2026) の作成過程	16
1 レッドデータブック作成の背景と我が国の状況	16
2 宮城県レッドデータブック(レッドリスト)の作成の状況と目的	16
3 調査・検討体制	17
III カテゴリー区分について	18
1 動植物種のカテゴリー区分	18
2 植物群落のカテゴリー区分	20
IV 選定の結果	21
1 宮城県レッドデータブックの改訂概要	21
(1)宮城県レッドデータブック2016の改訂	21
(2)植物の概要	21
(3)動物の概要	22
(4)植物群落の概要	23
(5)干潟の底生動物群集の概要	23
(6)レッドリスト種の動向と今後の課題	23
2 植物編(蘚苔類・維管束植物)	
植物	26
3 動物編	
哺乳類	260
鳥類	276
両生類・爬虫類	304
汽水・淡水魚類	314
昆虫類	334
海岸地域の無脊椎動物類	422
淡水産貝類	458
4 群落・群集	
植物群落	466
干潟の底生動物群集(沿岸域における底生動物群集の保全)	558
1 生物や生物群集の成り立ちについての基本的知識	558
2 生息環境の保全と野生生物の保護(干潟を例にして)	559
3 宮城県における重要な干潟(干潟環境とそこに生息する底生動物群集)	562
V 宮城県レッドリスト(カテゴリー順)	579
VI 索引	589
和名索引	589
学名索引	600

I 宮城県 の 自然環境

日本列島は、ユーラシア大陸の東岸・中緯度帯にあって、南北3000kmにわたって弓なりに連なっている。宮城県は本州の北端を占める東北地方の南部、太平洋側に位置し、東は太平洋、西は山形県、南は福島県、北は岩手県に接している。面積は7286km²(日本の総面積の約1.9%)で、224.7万人(2024年10月時点)が暮らしている。

以下では、菅原(2016)の記述を下敷きとしながら、地形・地質については西城(2017)の、気候については高橋(2017)と設楽(1987)の、植生・植物については平吹・滝口(2017)と菅野ほか(2026)の著作を、また動物については齊藤千映美、小室智幸、太田宏、旗薫、溝田浩二、鈴木孝男、藤本泰文ら宮城県希少野生動物調査会分科会代表者諸氏からいただいた情報を、それぞれ参照して宮城県の自然環境のあらましを述べる。なお、図1・2の作成では、齊藤賢治氏(宮城植物の会)からご支援いただいた。

1 地形・地質

宮城県の大地は、南北方向に連なる3列の山並みと、その間を埋める低標高域によって特徴づけられる(図1a-c)。そもそもこの地形的・地質的特徴の成り立ちには、「東日本の太平洋沖を縦走する日本海溝を境界として、西方向に移動する海洋プレート(太平洋プレート)が、日本列島が東端に位置する大陸プレート(北アメリカプレート)の下に沈み込んでいく」という、壮大な地球の営みがかかわっており、地震、津波、火山噴火などを引き起こしながら変動し続けている。

宮城県の西部には、南北450kmにわたって東北地方の中央部を背骨のように貫く奥羽山脈が連なり(図1a)、太平洋側と日本海側の気候や水系を分け、野生動物の分布や人の暮らし・文化に影響を及ぼしている。この山脈を構成する主たる地層(基盤岩)は新第三紀(およそ2300万年前~)の火山活動に由来するグリーンタフ(緑色凝灰岩)で、栗駒山(標高1626m)、船形山(1500m)、蔵王山(1841m)では、第四紀(およそ260万年前~)の火山噴出物がそれを厚く覆っている(図1b)。新第三紀中新世前期頃に海底にあった火山域が、中新世後期頃から第四紀にかけて地殻変動で大きく隆起し、さらに第四紀に火山活動が活発化して噴出、隆起、陥没、そして侵食、地滑りなどが繰り返されて、現在のような起伏に富んだ地形が生じたとされる。そこには磐司岩や材木岩のような基盤岩の絶壁、前森山(968m)や三方倉山(971m)などに局在する風穴、船形山北東~東斜面の広大な地滑り地とそこに散在する池沼(湖沼)・湿原など、特色のある立地が認められる。

長大な奥羽山脈の東麓には丘陵、台地、低地(盆地や平野)が連なるが、県北と県南の沿岸域では北上山地と阿武隈山地がそれぞれ海岸に沿って縦走している(図1a)。これらの山地全体はおおむね、海洋プレートが運んできた堆積物の付加やマグマ(花崗岩)の貫入によって形成されたもので(図1b)、長期にわたる緩慢な隆起と侵食が作用した結果、なだらかな山容を呈している。

北上山地は岩手県の早池峰山(1917m)を最高峰とする南北250km、東西80kmにおよぶ紡錘形の高地で、標高を減じて丘陵状となった南縁域が宮城県に及んでいる。北から順に黒沢山(534m)、徳仙丈山(710m)、田東山(511m)、翁倉山(531m)、硯上山(519m)、大六天山(439m)などの山々が連なり、また東縁は南三陸海岸、南縁は牡鹿半島となって海に没している。急崖を伴う半島・島嶼と、湾奥に小規模な低地を伴う入り江が顕著なりアス海岸である。主たる基盤岩は古生代ペルム紀(およそ2億9900万年前~)から中生代白亜紀(およそ1億4500万年前~)の堆積岩で、複雑に褶曲している。

阿武隈山地は茨城県から宮城県にまたがる南北180km、東西50kmにおよぶ紡錘形の高地で、主に中生代白亜紀の花崗岩類を基盤岩とする。北縁域にあたる宮城県では標高を減じて丘陵の様態を呈し、手倉山(672m)、窓ノ倉山(674m)、次郎太郎山(529m)などから構成される福島県境付近の高地から北方では、阿武隈川沿いの角田盆地を挟んで、東西ふたつの低標高の山列・山塊に姿を変えている。東側は幅が狭く、南から順に、深山(287m)、四方山(272m)、山門山(205m)などの山々が連なる亘理丘陵である。新第三紀の凝灰岩や古生代・中生代の堆積岩が分布し、その東縁は双葉断層によって区切られ、海岸線との間に平野が並走する。他方、西側の山塊は斗蔵山(250m)、権現堂(262m)、大萩山(264m)などから構成される

より幅の広い角田丘陵で、白石川沿いの白石盆地や大河原盆地などに接続している。

奥羽山脈と北上・阿武隈山地に挟まれた低標高域は、主に新第三紀の堆積岩からなる丘陵・台地と、沖積層からなる盆地・平野から構成されている(図1a・b)。丘陵は奥羽山脈の東麓に沿って広い面積を占めて分布し、おおむね標高300m以下のなだらかな丘頂、樹枝状に分岐した水系、侵食によって生じた凹形の谷頭や急峻な下部谷壁斜面といった微地形によって特徴づけられる。北から順に磐井、築館、篁岳、旭山、玉造、加美、大松沢、富谷、松島、七北田、青葉山、高館、角田などの丘陵が、奥羽山脈に源を発して東流するいくつもの大川と交互に並走する。このうち県中央部に位置する松島丘陵は、東端が沈下して、大小260あまりの島嶼が散在する松島湾を形成している。

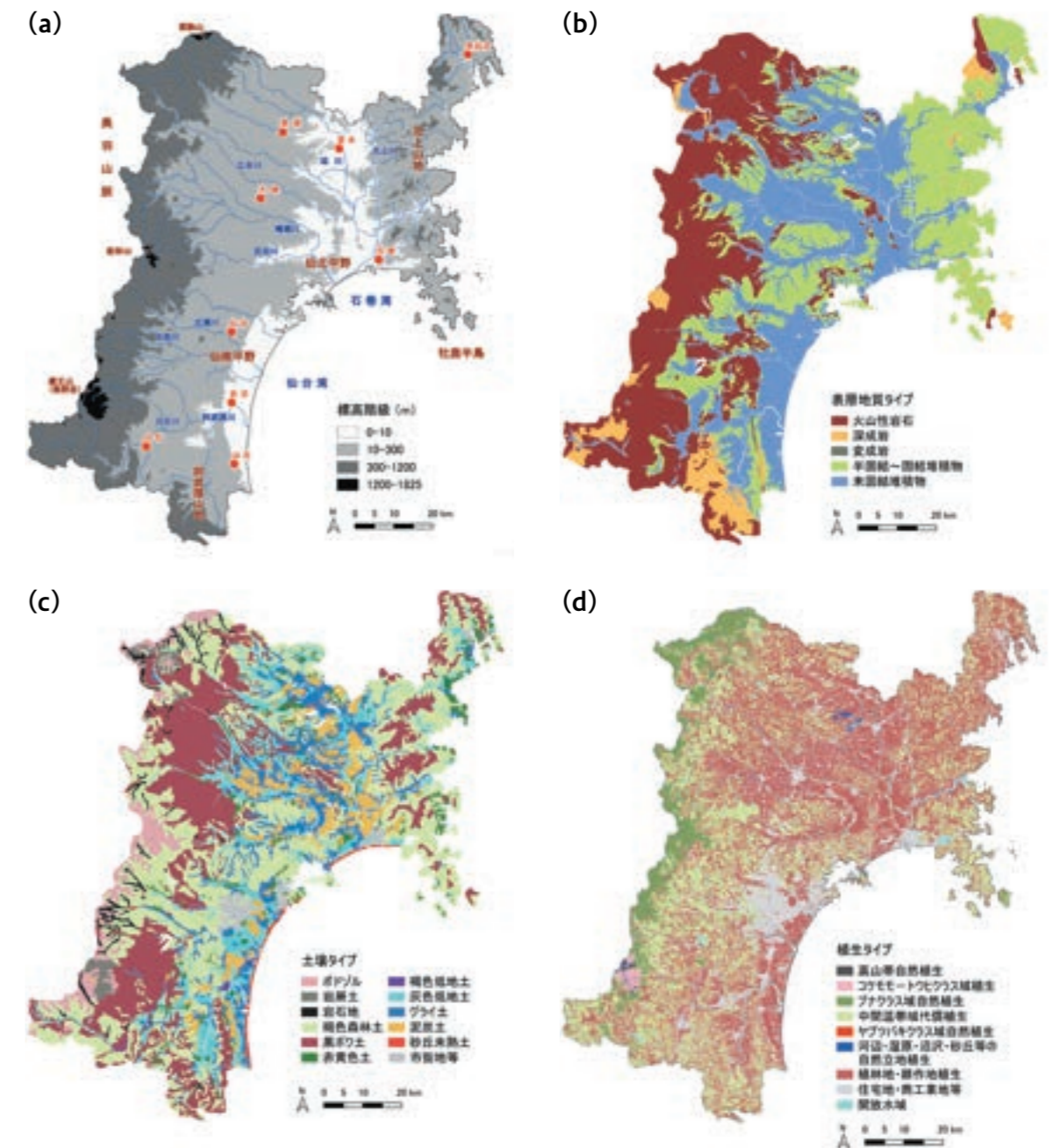


図1 宮城県の地勢、表層地質、土壌、現存植生の概要。地形(a)、表層地質(b)、土壌(c)に関しては、国土交通省国土数値情報ダウンロードサイト(<https://nlftp.mlit.go.jp> 2025年3月25日最終閲覧)と国土交通省国土地理院基盤地図情報サイト(<https://www.gsi.go.jp/kiban/> 2025年3月25日最終閲覧)から、現存植生(d)に関しては、環境省自然保護局生物多様性センター自然環境調査Web-GIS(<http://gis.biodic.go.jp/webgis/> 2025年7月27日最終閲覧)からそれぞれデータを入手して図化した。作図では齊藤賢治氏から支援いただいた。

仙台湾と接する広大な平野は仙台平野と総称され、さらに松島・富谷丘陵によって仙北平野と仙南平野に二分される。仙北平野は奥羽山脈と北上山地の間、ないしは奥羽山脈と仙台湾(石巻湾)の間であって、北上川・迫川・江合川、鳴瀬川・吉田川などの流域に発達した低地で、また仙南平野は奥羽山脈と阿武隈山地の間、ないしは両者と仙台湾の間であって、七北田川、名取川・広瀬川、阿武隈川・白石川などの流域に発達した低地である。およそ2万年前に最終氷期が終息して以降、大規模な洪水がおびただしい礫、砂、粘土を海辺や河辺に堆積させていったことと、海面高(海水準)が上下したことによって、水域と陸域が混在する陸水域が東方に向かって徐々に拡大した。平野は「一様に平坦な土地」として認識されがちであるが、目を凝らしてみると、自然堤防や浜堤といった微高地と、流路や池沼(湖沼)、湿原といった水辺が複雑に入り組んでおり、それらは洪水、津波、地盤沈下や海進、海退といった大規模な環境変動に繰り返しさらされてきた証に他ならない。現在では、河川改修、干拓、用水・排水施設や耕地の整備などによって、こうした原地形はほとんど姿を消し、わずかに伊豆沼、内沼、長沼、蕪栗沼、富士沼、阿川沼、大沼、水神沼などの池沼に名残をとどめるにすぎない。

海岸の地形・地質の様態は、すでに触れたように、牡鹿半島より北側のリアス海岸と南側の砂浜海岸(松島湾域を除く)に二分され、植生、土地利用、産業、自然攪乱・災害のあり方を異なるものとしてきた。重鋸歯状に複雑な湾入が続くリアス海岸では急崖と岩礁が顕著で、湾奥の河口付近に小規模な砂浜・礫浜や干潟が現れる。また、北から順に大島、椿島、八景島、出島、江島、金華山島、網地島、田代島など、大小の島嶼が多数散在する。一方、石巻市万石浦から山元町磯に至る南北およそ60kmにおよぶ砂浜海岸は、前浜、後浜、砂丘から構成される浜堤によって縁取られていて、それは最大で標高7mほど、奥行き500mほどもある。また、万石浦をはじめ、河川の河口部に蒲生、井土浦、広浦、鳥の海といった潟湖も認められ、干潮時には広大な干潟が出現する。なお、これら海岸とその背後の平野隣接域は、2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震・津波(東日本大震災)とその後の復興事業で大きく変貌し、盛土やコンクリート構造物の被覆面積が著しく増加した。

2 気候

地球は、膨大な放射エネルギーを発する太陽に対して、地軸を23.4°傾けた状態で回転しながら、おおむね1億4960万kmを隔てた空間を一年で周回している。そしてこの自転と公転が、半径6400kmほどの地球の表面とそれを包み込む層厚わずか11kmほどの対流圏に、風、雲、雨、雪、雷や水流、波、凍結などのダイナミックな気象現象を生み出している。

大局的にみると宮城県は、地球の北半球、中緯度の温帯域にあつて、その気候は海洋性の大陸東岸タイプの様相を呈する(高橋、2017; 図2a-d)。すなわち、温暖湿潤で四季の変化が明瞭でありながらも、同じ北緯38°付近に位置する諸国の沿岸域に比べて降水量が比較的多く、海に面している割に夏は暑くて冬は寒く、一年を通じて寒暖差が大きいとされる。ちなみに、仙台管区气象台(北緯38°15.7'、東経140°53.8'、標高39m)における30年間(1991年~2020年)の観測の平均によると、年平均気温12.8℃、年降水量1276.7mm、最暖月8月の日最高気温28.2℃、最寒月1月の日最低気温-1.3℃、年最深積雪16cmである(https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/nml_sfc_ym.php?prec_no=34&block_no=47590 2024年11月27日最終閲覧)。降雨は7月と9月を中心に梅雨季と台風・秋雨季に多く、春・夏は南東からの風が、秋・冬は北北西や西北西からの風がそれぞれ卓越する。

宮城県内各地の気候を特色あるものとしている大きな要因は地形で、すでに述べたように、それは県土の西端を南北に縦走する奥羽山脈、その東側に標高を減じながら並列する丘陵、台地、低地(盆地や平野)、海岸、そして県北と県南の沿岸域に連なる北上山地と阿武隈山地という基本構造を有している(図1a)。また、東端が広大な水界としての海洋に接し、しかも近海で黒潮(暖流)と親潮(寒流)がぶつかり合っていることの影響も見逃せない。

こうして生じる四季の様態の違いに着目すると、県内は奥羽山脈積雪気候、県北内陸性気候、県南内陸性

気候、三陸海岸性気候、仙台湾岸性気候の5領域に大別できる(設案、1987)。それぞれの気候領域の概況は、以下の通りである。

奥羽山脈積雪気候域はもっとも寒冷で、降雨量・積雪量が多い(高橋、2017; 図2a-d)。一般に標高が100m上昇すると気温は0.6℃ほど低下することが知られているので(気温遞減率)、奥羽山脈を構成する標高1500m級の峰々では、海岸線付近より気温が9℃ほど低くなると見積ることができる。また、尾根の風背側を中心に雪田や雪崩を生み出し、半年にもわたって存続することもある積雪は、地表付近の温度を0℃前後の安定した状態に保つ反面、植物に物理的な重圧と損傷をもたらしている。気象庁の30年間(1991年~2020年)の観測の平均によると(https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/select/prefecture.php?prec_no=34 2024年11月27日最終閲覧; 以下の気象データも同様)、栗駒山中腹の駒ノ湯(標高532m)では、年平均気温8.6℃、年降水量2124.9mm、最暖月8月の日最高気温24.9℃、最寒月1月の日最低気温-6.3℃で、年最深積雪(ただし24年間の観測の平均)は125cmである。また、仙台市新川(標高265m)では、年平均気温10.2℃、年降水量1568.9mm、8月の日最高気温26.8℃、1月の日最低気温-4.6℃、年最深積雪は36cmである。

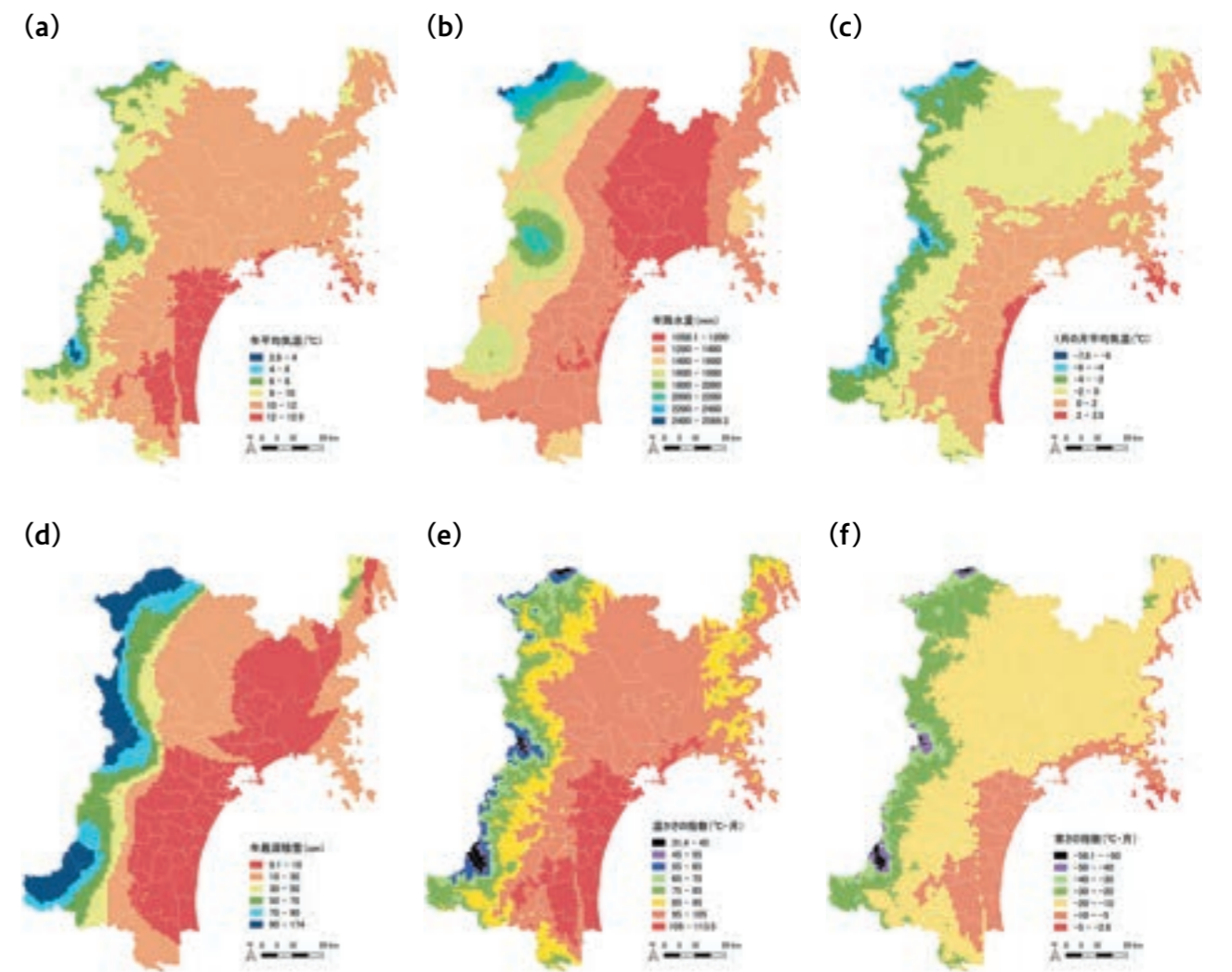


図2 宮城県の気候の概要。年平均気温(a)、年降水量(b)、最寒月1月の月平均気温(c)、年最深積雪(d)、吉良の温かさの指数(e)、吉良の寒さの指数(f)を取り上げ、国土交通省 国土数値情報ダウンロードサイト 平年値メッシュ2022年度(令和4年度)版(https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-G02-2022.html 2025年3月25日最終閲覧)からデータを入手して図化した。作図では齊藤賢治氏から支援いただいた。

県北内陸性気候域は、奥羽山脈と北上山地に挟まれた低標高域が該当する。梅雨季、三陸海岸地域や仙台湾岸地域には、オホーツク海高気圧を発した風が親潮(寒流)の上を通過して冷湿な北東風となって吹き付け、低温、曇天、霧雨をもたらすが、北上山地が障壁となる県北内陸地域では、この「やませ」が低減される。一方、冬季には、奥羽山脈主稜線上の低標高域である大崎市中山峠(約320m)や加美町鍋越峠(約520m)などから、寒冷で湿った北西季節風が雪雲を伴って吹き抜けてくることが多く、強風、降雪、低温となる。栗原市築館(標高25m)では、年平均気温11.3℃、年降水量1230.8mm、8月の日最高気温28.6℃、1月の日最低気温−4.7℃である。また、大崎市古川(標高28m)では、年平均気温11.5℃、年降水量1173.5mm、8月の日最高気温28.4℃、1月の日最低気温−3.8℃、年最深積雪は26cmである。なお、最寒月1月の月平均気温は、築館−0.3℃、古川0℃、登米市米山(標高4m)−0.1℃で、氷点である0℃の等温線はこの県北内陸性気候域の平野を横断して北東の北上山地の山裾に達している。この地域が、厳冬期に氷結・融解が繰り返される気候の北限域となっている。

県南内陸性気候域の冬は、北西季節風が蔵王山、さらには西方の出羽山地や朝日山地によって低減されるため、日照に恵まれ、乾燥した気候となる。一方、早春には、太平洋岸を北上する発達した低気圧によって、湿った重い雪がもたらされることがしばしばある。夏季は仙台湾岸から内陸に向かって気温が高まる傾向があり、白石、丸森、角田などの盆地では高温になる。白石市白石(標高86m)では、年平均気温12.1℃、年降水量1327.2mm、8月の日最高気温28.3℃、1月の日最低気温−2.7℃、年最深積雪は19cmである。また、丸森町丸森(標高18m)では、年平均気温12.2℃、年降水量1298.7mm、8月の日最高気温28.6℃、1月の日最低気温−3.7℃である。

南三陸海岸や仙台湾岸に沿った三陸海岸性気候域や仙台湾岸性気候域では、海洋の影響で夏と冬、昼と夜の気温差が小さく、総じて温和な気候がもたらされる。とりわけ三陸海岸性気候域では、梅雨季には「やませ」によって冷涼で雲霧の多い天気が、冬季には北西季節風が奥羽山脈や北上山地で遮られることで日照に恵まれて日中は暖かく、乾燥した天気が顕著となる。気仙沼市気仙沼(標高62m)では、年平均気温11.2℃、年降水量1375.8mm、8月の日最高気温27.2℃、1月の日最低気温−3.2℃である。また、石巻市石巻(標高42.5m)では、年平均気温11.9℃、年降水量1327.2mm、8月の日最高気温28.3℃、1月の日最低気温−2.7℃、年最深積雪は16cmである。2月頃、湿って重い雪が降り、一時的に積雪をみることがある。なお、阿武隈山地(亘理丘陵)を背にした県南の仙台湾岸性気候域の気候は、島嶼を除くと県内でもっとも温暖で、亘理町亘理(標高4m)では、年平均気温12.4℃、年降水量1091.3mm、8月の日最高気温27.0℃、1月の日最低気温−2.2℃である。

3 野生動植物

野生動植物の生存や繁殖には、地形・地質や気候にかかわる土壌、水、太陽光、温度、降水、積雪といった物理化学的要因と、食う・食われる、競争、寄生、共生、ヒトの営み(人為)といった生物的要因が互いに影響しあいながら、複雑に作用している。私たちの周囲には多数の生物種が暮らしているが、それら一つひとつの種は、環境と進化の地質学的な変遷を踏まえながら、自らの生き方(生活史、生存戦略)と生活環境(ハビタット、ニッチ)を見い出してきた。そして、その土地、その地域に根ざした多様な生物種の存在(生物多様性)は、私たちヒトの存続を支える基盤となってきた(生態系サービス)。

これまで宮城県で生息が確認されている野生動物(絶滅種を除く)は、哺乳類が74種(齊藤千映美私信; 秋葉ほか、1996)、鳥類が424種(日本鳥学会、2024)、両生類が16種、爬虫類が13種(ともに太田宏私信、宮城県野生動植物調査会両生爬虫類分科会による調査に基づく種数)、汽水・淡水魚類が96種(旗薫私信、文献と私信に基づく種数)、海岸地域の無脊椎動物類(底生動物)が約870種(鈴木孝男私信、宮城県野生動植物調査会海岸動物分科会による調査に基づく種数)、淡水産貝類が約20種(藤本泰文私信)である。種数が膨大な昆虫類では総数は明確になっておらず、チョウ目で1824種(渡辺、1973)、甲虫目で約1900種(渡部、1989)、蛾類(チョウ目)で2506種(柳田・斎藤・蛾類目録編集委員会、2009)、トンボ目で93種(柳田、

2017)との報告がある(溝田浩二私信)。また、野生植物に関しては、コケ植物が約690種、維管束植物が約3560種(宮城植物の会、2024)である。上述したような地形・地質や気候の下で、これらの種はどのように分布・生活しているのか、そして自然環境の改変を加速させてきたヒトはどれほどの影響を及ぼしてきたのか、県土を海岸帯、平野帯、丘陵帯、山地帯、亜高山帯・高山帯の5タイプの地勢領域に区分して、主要種や標徴種に着目して概観する。

なお、地球スケールで宮城県のバイオーム(生物群系)・植生帯の分布様態を俯瞰すると、県土のほとんどは冷温帯性の落葉広葉樹林帯(または夏緑樹林帯)に該当し、そして県南を中心とする沿岸域に暖温帯性の常緑広葉樹林帯(または照葉樹林帯)の北縁を構成する植物群落が、西端の奥羽山脈の高標高域に亜寒帯性の常緑針葉樹林帯、矮性低木植生、雪田が、それぞれ断片化して不連続に存在していることが知られている(図1d)。ただし、宮城県における落葉広葉樹林帯と常緑広葉樹林帯の接合領域に関しては、(1)おおむね標高300m以下の広大な丘陵・平野・海岸領域(図1a)を「両者が徐々に入れ替わる推移帯(エコトーン)」とみなして(「中間温帯」と呼ばれることが多い)、(2)その原植生を「多様な落葉樹と常緑樹、広葉樹と針葉樹が混交する中間温帯林(あるいはモミ林、温帯混交林)」とする見解(菅原、1978; 平吹、1991、2005; 平吹・滝口、2017)も少なからず支持を得ている(「吉良の温量指数」(吉良、1971)に関する図2e・f参照)。微地形、斜面方位、土壌などに対応して多様な植物種がそれぞれ不均一に分布し、その結果、パッチワークのような植生景観が広がっていたのであろう。ヒトによる改変が進んだ今となっては、この接合領域本来の様態を明確にすることは難しい。

また、県北部を中心に、奥羽山脈の稜線付近には大量の積雪が生じる山岳があり(図2d)、そこでは常緑針葉樹林の成立が妨げられて、亜高山帯落葉低木植生という矮性化した樹林が広域に分布している。この植生タイプに関しても、環境要因のひとつである積雪深の多寡が強く作用したエコトーンの植生とみなすことができるだろう。

一方、バイオーム・植生帯の内部に局在する河辺、湿原、塩沼、砂丘、開放水域(池沼や水路など)には、それぞれの特殊な立地に対応して独特の植生が認められ(図1c・d参照)、土地的極相と総称される植生タイプへと発達する。

(1) 海岸帯

宮城県の東端は太平洋に接しており、陸域と海域が交差する海岸に特有の塩水、波浪、潮風といった環境は、動植物の分布に強く作用している。本県の海岸の様態は、牡鹿半島より北側のリアス海岸と南側の砂浜海岸(ただし、リアス海岸の松島湾域が介在)に二分されることは前述した(図1a)。

リアス海岸の海崖では、海面に近い露岩領域の上方にラセイタソウ、ハマギク、ハマボッス、キリンソウ、スカシユリなどがまばらに生育する草本領域、オオバイボタ、マサキ、ミヤマビャクシン、トベラ、ヒサカキなどが生育する低木領域が垂直的に配列している。さらに海の影響が和らぐ高所・内陸には、アカマツ林、クロマツ植林やケヤキ、エゾイタヤ、イヌシデなどが顕著な落葉広葉樹林、そして「里浜」の暮らしを支えてきたアカマツ、コナラ、ミズナラなどが優勢な二次林(御塩木山、薪炭林、雑木林)が連なる。また、島嶼や岬の、冬季の乾冷な北西季節風が緩和される陽だまりで、鎮守の森や魚付き林として保護されてきた場所には、タブノキ群落が残存する。優占するタブノキはしばしば樹高20mほどに達し、林内にヤブツバキ、トベラ、テイカカズラ、モチノキ、ユズリハなどの暖温帯性常緑広葉樹も生育する。

金華山黄金山神社が鎮座し、修験の霊場でもあった金華山島には、保護の下、ニホンジカとニホンザルが多数生息しており、巨木となった極相樹種とともに、被食圧を受けた特異な植生が認められる。また、ニホンジカは海を渡って牡鹿半島に至り、植生を著しく荒廃させながら急増してきたが、近年は分布をさらに内陸域に広げており、適正な個体群管理が喫緊の課題となっている。

リアス海岸の急崖・岩礁や漁港では、ウミネコ、オオセグロカモメ、ミサゴなどが一年を通して生息し、繁殖している。波が穏やかな内湾では、冬季に多くの鳥類が確認されており、ハジロカイツブリ、ウミアイ

サ、コクガンなどの水鳥のほか、オオワシ、オジロワシが越冬している。近年、海岸帯では稀であったオオバンが生息数を増加させ、一方、主に沿岸部に生息していたイソヒヨドリは内陸の市街地にも分布を拡大させている。また、洋上に点在する島嶼ではウミウ、アマツバメなどが繁殖し、女川湾沖の江島列島はウミネコ、オオミズナギドリ、ウトウ、コシジロウミツバメなど海鳥の集団繁殖地となっている。親潮と黒潮が交わる三陸沖の海上には、オオミズナギドリ、クロアシアホウドリ、ウミスズメ、トウゾクカモメなどが生息し、渡りの時期にはハシボソミズナギドリの大群やアホウドリなどの海鳥をはじめ、多様な鳥類がこの海域を通過して行く。

仙台湾岸を縁取る南北60kmに及ぶ砂浜海岸では、波浪が押し寄せる砂裸地(前浜)の内陸側に、テンキグサ(ハマニンニク)、コウボウムギ、ハマニガナ、ハマヒルガオ、ハマエンドウ、コウボウシバ、ケカモノハシ、ウンランなどの草本が成帯的に分布する砂丘が連なり、ヤマトマダラバツタ、スナヨコバイ、オオウスバカゲロウ、カワラハンミョウなどの昆虫も生息する。砂丘の内陸側には、ヨシ、シオクグ、カモノハシ、ズミ、ハンノキなどによって特徴づけられる後背湿地(堤間湿地)が並列する。ただし、海岸の内陸に広がる平野で新田開発・集落形成が本格化した350年ほど前から、浜堤や砂丘といった微高地にはクロマツが組織的に、繰り返し植栽され、飛砂・潮風・強風の低減と燃料・用材・肥料・食材などの確保が図られてきた(菊池、2016)。前浜に向かって林帯幅を増しながら、長大な海岸林となった松林は、白砂青松の景観・文化の基盤となった。また、河川の河口部に形成された蒲生、井土浦、広浦、鳥の海などの潟湖では、周縁部にヨシ、シオクグ、ハママツナなどが生育する特異な塩性湿地(塩沼地)が認められる。

干潮時に干潟が顕著に現れる潟湖や内湾・河口の浅水域は、カニ類のアシハラガニ、貝類のアサリ、ゴカイ類のヤマトカワゴカイなど多様な底生動物(海岸地域の無脊椎動物類)と、エドハゼやイシガレイの稚魚など多くの魚類が高い密度で生息する「海辺の生物多様性ホットスポット」のひとつである。そして、汽水性の湿原や池沼は、アベハゼ、マサゴハゼなどの魚類、カラカネイトトンボ、ヒヌマイトトンボといった昆虫類のかけがえのないハビタットとなっている。こうした水辺は、春季・秋季にはシギ・チドリ類の渡りの中継地、冬季にはカモ類を中心とした渡り鳥の越冬地にもなっており、休息や採餌の場として重要である。また、波の来ない砂浜ではシロチドリ、コアジサシなどが営巣し、県南部はアカウミガメが産卵する北限域と考えられている。海岸線付近に消波堤、防潮堤、護岸堤といった人工構造物が設置され、潟湖や湿原の埋め立て、砂浜の侵食や草地化も進んで、生息・繁殖環境は劣化・消失している。

浅海域や汽水域には海棲哺乳類のスナメリが、海上にはカンムリカイツブリ、クロガモ、アビ、ビロードキンクロなどが生息している。

なお、海岸とその内陸側に接続する平野の沿岸部は、2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震・津波(東日本大震災)で大きく攪乱され、その後の復興事業によってさらに改変されて、盛土とコンクリート構造物、帰化植物の被覆面積が著しく増加した。反面、放置・保全された攪乱跡地の多くでは、水・土壌環境に応じた自生種が自律的に再生し、多様な植生・生態系が専門家の予測を上回る速さと規模で回復しつつある。

(2)平野帯

北上川、迫川、江合川、鳴瀬川、吉田川、七北田川、名取川、広瀬川、阿武隈川、白石川など、県土を貫く河川の下流域には、おおむね標高10m以下の沖積地が広がり、仙台平野と総称される(図1a)。この平野帯は、ほとんどが人為による改変を受けて、広大な水田・畑地と散在する集落・樹林から構成される田園、さらには住宅、商工業施設、行政機関などが集中する市街地に変貌している。原植生の面影を残す場所はごく一部で、自然環境が保全されてきた河辺・池沼(湖沼)あるいは発達した屋敷林(いぐね、居久根)・社寺林などに限定され、それぞれ水草群落、ヨシ群落、マコモ群落、ヤナギ群落、ハンノキ群落あるいは多様な落葉樹と常緑樹、広葉樹と針葉樹がさまざまに混交する中間温帯林(温帯混交林)二次林などが見出されている。かつての田園生態系は、「里地」や「里山(広義)」とも呼ばれ、自給自足、資源循環、有機肥料の使用、無農薬を基本とする生業によって創り出された「自然共生型の社会システム・環境」であったが、1960年代

に始まる高度経済成長期以降、生活水準や防災施設はめざましく充実した反面、重機やコンクリートを用いた河川改修、干拓、用水・排水施設や耕地の整備、そして殺虫剤や除草剤の使用、水環境の悪化、さらには農業の担い手減少などが進んで、里地の野生動植物とそのハビタットの多くが失われた。現代の市街地・都市はさらに人工化が進んだ空間で、その土地本来の土壌や水域は埋設され、植物は植栽個体や外来種が主体となって街路、公園、庭園、空き地などに生育している。

かつての平野帯には、洪水に伴って蛇行や分岐を変える河川と、湖岸境界がはっきりしない大小の池沼が、湿原を交えて複雑かつ連続的に分布していた。自然環境が保全されてきた北上川、名取川、阿武隈川などの下流部や伊豆沼、内沼、長沼、蕪栗沼、化女沼などの池沼の調査から、岸辺付近ではヤナギ類、スゲ類、ガマ類、ヨシ、ハンノキなどが優勢な湿生植物群落で、また止水環境下では浅水域から深水域に向かって、ヨシ、マコモ、フトイなどの抽水(挺水)植物、ヒシ類、ヒツジグサ、ガガブタなどの浮葉植物、クロモ、マツモ、イバラモ、センニンモなどの沈水植物が順に配列する水生植物群落が分布していたと推定されている。

淡水・汽水領域と陸域が錯綜するこれらの河川や池沼、そして田園には、さまざまな動物も生息・繁殖している。鳥類では、サギ類のほかヒバリ、オオヨシキリ、オオジュリン、ホオアカ、猛禽類のチョウゲンボウ、ハイイロチュウヒなどがみられる。また、トウキョウダルマガエル、ヒガシニホンアマガエル、アズマヒキガエル、アカハライモリなどの両生類、アオダイショウ、シマヘビ、ニホンカナヘビなどの爬虫類、ニホンウナギ、タナゴ、ミナミメダカなどの魚類、メガネサナエ、オオキトンボ、ベッコウトンボ、オオセスジイトトンボ、オオモノサシトンボなどの昆虫類、メンカラスガイ、マメタニシなどの淡水貝類が確認されており、絶滅危惧に指定されている種も少なくない。最寒月1月の月平均気温が0℃を上回る地域の北限域に位置する本県北部の平野帯(図2c)は、水面が全面結氷することが少ないことから、多数の水鳥が飛来し、マガンを中心としたガン類やハクチョウ類などの国内屈指の越冬地となっている。河辺や休耕地には、哺乳類のカヤネズミも生息している。

(3)丘陵帯

主に新第三紀の堆積岩からなる丘陵は、所々に台地を付帯させながら奥羽山脈の東麓に沿って連なり、広い面積を覆っている(図1a)。また、宮城県の中央部に位置する松島丘陵は仙台湾まで延び出て、東端は沈下して多島な松島湾を形成している。丘陵の微地形的特徴は、おおむね標高300m以下のなだらかな丘頂と、樹枝状の水系によって侵食された凹形の谷頭や急峻な下部谷壁斜面から構成されていることにあり、こうした立地の違いが野生動植物の生活、分布、多様性に深くかかわっている。なお、海岸と並走する北上山地と阿武隈山地も、県内では標高と東西幅を減じて丘陵状の地形となっており、ふたつに分かれた阿武隈山地の北端はそれぞれ亘理丘陵、角田丘陵とも呼ばれる。

気候的にみて、宮城県の海岸帯、平野帯、丘陵帯は暖温帯と冷温帯、そして太平洋型と日本海型の境界領域に位置することから(図2)、植生学の分野ではこのエリアを「植生帯の移行領域(エコトーン)」とみなして、「多様な温帯性植物がさまざまに組み合わされた原植生」の実態解明が続けられてきた(吉岡、1952; 菅原、1978; 平吹、1991、2005)。丘陵帯では、標高の違いはもちろん、斜面の向き、「やませ」・積雪・降雨の程度、土壌の理化学性、地表の安定性といった環境要因(図1・2)の組み合わせが多様なハビタットを生み出し、暖温帯から冷温帯、寡雪域から多雪域に生育するさまざまな植物種の存続を可能にしてきたと考えられている。林冠の欠損や階層の分化といった植生の発達段階に応じた植物種のすみ分けも顕著で、興味深い。しかし、平野帯と同様、古来より人間活動が活発であったことから、原植生はほぼ消失し、またモミ、カヤ、マツ類、カシ類、ケヤキといった有用かつシンボリックな極相樹種に関しては植栽・撫育もなされてきた歴史があり、宮城県における中間温帯林の全貌、とりわけ地理的推移の実態解明は難しい状況にある。

社寺林や保護林として存続する、稀に樹高30mほどに達する巨木から構成される発達した林分には、①暖温帯性常緑広葉樹のウラジロガシ、シラカシ、アカガシ、シロダモ、ヤブツバキなどと、温帯性針葉樹のモミ、カヤ、アカマツなどが生育する常緑性の針広混交林タイプ(仙南平野・松島湾・石巻湾と接する丘陵

帯東端部(端山)や北上山地の臨海部に点在)、②暖温帯性常緑広葉樹が欠落し、温帯性針葉樹と冷温帯性落葉広葉樹のケヤキ、イヌシデ、オニイタヤ、アカシデ、コナラ、クリ、イヌブナなどから構成される針広混交林タイプ(丘陵帯全域に点在)、③温帯性針葉樹が欠落し、冷温帯性落葉広葉樹が優勢となるタイプ(丘陵帯内の渓谷、急峻な谷壁斜面、高標高の山地帯隣接域に点在)があるが、これら3者の種組成は連続的に推移している。

一方、長い歳月をかけてヒトが植生をさまざまに改変し、その履歴が土地利用に反映されてきた丘陵帯には、多様な二次植生がパッチワークのように分布する独特の景観が広がり、「里山(狭義)」と呼ばれる。コナラ、クリ、カスミザクラ、アカマツなどが優勢な二次林(薪炭林、雑木林)、スギ、アカマツ、ヒノキ、モウソウチクなどの植林、ススキ、ワラビ、ヤマハギなどが優勢な放牧地や採草地(牧野、まぐさ場)、ヨシ、ハンノキ、ヤナギ類などが優勢な湿地、水生植物が生育するため池、水田(谷津田、棚田)、畑地(段々畑)、果樹園といった植物群落から構成される二次植生は、斜面や水系に沿った立地の違い、あるいは屋敷地からの距離などを勘案して合理的、持続的に配置・利活用されてきた。しかし、里地と同様、高度経済成長期以降、エネルギー・化学工業原料としての石油と安価な木材・食料の輸入、急激に進む少子高齢化、都市への人口集中などによって、これら二次植生の管理不足や放棄が増大している。その結果、例えば病虫害拡散によるアカマツやコナラの立ち枯れ、耕作放棄地における頑強な帰化植物の繁茂、森林を大規模に伐採・造成しての太陽光・風力発電施設の設置など、里山・丘陵帯のあり方が問われる事象が多発している。

動物相をみると、哺乳類ではアズマモグラ、ニホンノウサギ、タヌキ、アナグマ、イノシシ、イタチ、アブラコウモリなどが生息し、ツキノワグマも現れる。鳥類では、樹林でシジュウカラ、ヒヨドリをはじめセンダイムシクイ、サンコウチョウ、クロツグミ、ウグイス、ホオジロなどが、耕作地周辺でムクドリ、スズメ、ツバメ、ハシボソガラス、ジョウビタキなどが、林床でキジ、ヤブサメなどがみられる。猛禽類ではオオタカ、サシバなどが生息し、外来種のガビチョウが分布を拡大している。両生類ではトウホクサンショウウオ、アズマヒキガエル、カジカガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、ムカシツチガエルが、爬虫類ではニホンカナヘビ、ニホンマムシ、シマヘビ、ヤマカガシがみられる。魚類ではスナヤツメ類、ホトケドジョウ、ギバチなどが、貝類ではカワシンジュガイなどが、昆虫ではヒグラシ、カブトムシ、コクワガタ、ヒメギフチョウ、ゲンジボタルなどが生息する。

里山・丘陵帯全体の荒廃は、単に野生動植物の生活・存続に影響を及ぼすだけでなく、土砂災害や野生動物との軋轢を誘発し、豊かな生物相や生態系サービスに根ざした食文化、伝統行事、生活様式、伝統知の消失にも繋がることから、近未来の地域社会のあり方にも直結する切実な課題である。

(4)山地帯

山地帯は、丘陵帯よりもさらに寒冷・多雪で、土壌の浅い急傾斜地が卓越する領域である(図1・2)。ここでは冷温帯性の落葉広葉樹林帯(または夏緑樹林帯)を代表するブナ林が気候的極相として広域を占め、県南と県北では多少標高が上下するものの、垂直分布の下限は300~400m付近、上限は1100~1400m付近と見積もられている(菅原、2016; 平吹・滝口、2017)。

里山に対する「奥山」として認識されてきた山地帯では、人為の関与が比較的緩やかであったため、今日においても森林が卓越している。ただし、おおむね標高600m以下の山地帯下部では、丘陵帯に続いて自然林が伐採されてしまい、ミズナラ二次林、スギ、カラマツ、アカマツの植林、ススキ群落、人工草地(外来牧草を播種した草地)、畑地などが広がる景観が認められる。ブナ林の伐採跡地ではチシマザサやチマキザサといった高茎・頑強なササ類が密生して、ブナの更新が阻害されてしまうことが知られており、またブナ林が繰り返して伐採されると、萌芽力に優れたコナラ(おおむね標高500m以下の領域)あるいはミズナラ(それより高標高の領域)が優占する二次林に退行遷移するとされる。ススキ群落は、古くから放牧地や萱刈場として利用されてきた日本特有の草地であるが、牛馬や茅葺き屋根が激減した1960年代以降、放置に伴う樹林化の進行、スギなどの広域植樹(拡大造林)、人工草地の造成などによって面積が激減した。

ブナ林は林床植物の種組成によってふたつのタイプに大別され、地理的にも分布を異にしている。奥羽山脈にみられるタイプは、日本海側の多雪気候下に広がるブナ-チシマザサ群落で、樹高25mほどに達するブナが林冠で優占し、林内には積雪圧に耐性のあるしなやかな幹・枝を有するオオカメノキ、オオバクロモジ、タムシバ、チシマザサ、ヒメアオキ、エゾユズリハ、ヒメモチ、ハイイヌガヤ、ツルシキミといった低木と、シノブカグマ、ヤマソテツ、オクノカンスゲ、ミヤマカンスゲ、ユキザサといった草本が生育する。一方、北上・阿武隈山地にみられるタイプは、太平洋側の寡雪・冬季乾燥気候下に分布するブナ-スズタケ群落で、ブナの優占度が低下する反面スズタケが林床で優勢となって、シラキやヤマボウシを伴うことで特徴づけられる。ブナ-スズタケ群落は伐採や山火事によって早々に姿を消して牧野や薪炭林となったことから、残存林は丸森町手倉山、石巻市金華山島など少数に限られている。

ブナは通常、緩傾斜地の土壌の厚い立地に、巨木の森を形成している。尾根沿いの表土が薄くて基盤岩が露出し、乾燥しやすい立地にはキタゴヨウ・クロベ群落が、頻繁に雪崩が発生する岩壁状の急斜面にはヒメヤシャブシ・タニウツギ群落が、それぞれパッチ状に分布し、土地的極相とみなされている。また、溪流や急斜面下端に沿って形成された崖錐には、サワグルミ・トチノキ群落が成立している。ブナ帯と総称される山地帯ではあるが、水系に沿って頻繁に生じる地表攪乱がつくり出す湿潤で通気性のよい岩塊地を中心に、サワグルミ・トチノキ群落は広範に分布しており、古来よりさまざまな食材や生活資材を人々に供給してきた重要な森林でもある。さらに大崎市鬼首では、自生山(標高829m)の急峻な斜面にスギ自然林が、田代川・保呂内沢のやや高位の氾濫原にハルニレ群落、片山地獄と荒湯地獄に硫気孔荒原が、それぞれ保護の下で存続している。同様に、岩壁、岩角地、風穴、溪畔・河辺、池沼(湖沼)、沼沢といった特定の地形や立地に限って成立する自然植生も、奥羽山脈を中心に点々と残存しており、極めて貴重である。

2008年6月に発生した宮城・岩手内陸地震によって、栗駒山を中心とする栗原市花山・栗駒地域の山地帯では、大規模な地滑り、斜面崩壊、土石流が各所で発生し、植生も大きく攪乱されて裸地化した。災害復旧工事の完了後、地域に由来する植生の自律的再生が期待される。

自然度の高い森林が広く残存する山地帯は、ツキノワグマ、カモシカなどの大型哺乳類やヤマネ、カワネズミ、アカネズミ、多くの森林性コウモリ類といった哺乳類にとって、大切な生息域になっている。鳥類ではブナ林やミズナラ二次林にゴジュウカラ、アオバト、オオアカゲラなどが、サワグルミ・トチノキ群落にノジコ、オオルリなどが、溪流・河川にオシドリ、カワガラス、ミソサザイ、ヤマセミなどが生息する。また、クマタカ、ハチクマなどの猛禽類もみられる。両生類ではキタオウシュウサンショウウオ、バンダイハコネサンショウウオが源頭部の小流に、タゴガエルが溪流に、クロサンショウウオ、モリアオガエルが池沼・沼沢に生息し、爬虫類ではシロマダラ、タカチホヘビなどがみられる。魚類では溪流・河川にエゾイワナ、ヤマメ、カジカなどが生息し、加美町小野田の「魚取沼テツギョ生息地」は1933(昭和8)年に国指定文化財の天然記念物に指定されている。昆虫類ではコエゾゼミ、ヒメハルゼミ、ヒメオオクワガタ、ルシボシカミキリ、フジミドリシジミなどが生息する。

(5)亜高山帯・高山帯

宮城県では、亜高山帯・高山帯に該当する領域は奥羽山脈の標高1100~1400m付近より上部に限られ、北上山地と阿武隈山地には存在しない(図1a)。低温、強風、多雪、貧栄養、短い生育期間といった厳しい環境の下(図1・2)、この領域にはいわゆる「高山植物」を含む固有かつ希少な植生が成立しており、それは標高に留まらず、斜面の方位・傾斜、土壌の様態、そして火山活動の影響を反映して、多様な種組成・相観を有する植物群落のパッチワークのような景観を生み出している。

蔵王山では、標高1300~1700m付近に亜寒帯を指標する常緑針葉樹のオオシラビソ(アオモリトドマツ)が優占する森林が分布している。疎林状の林冠では、樹高20mほどに達するオオシラビソが優占し、ダケカンバもわずかに混生する。林内には密生するチシマザサとともに、ナナカマド、オオカメノキ、オオバスノキ、ハクサンシャクナゲなどの低木状樹木や、ヤマソテツ、シノブカグマ、ツバメオモト、ハリブキ、タ

ケシマラン、マイズルソウなどの草本が生育する。一方、船形山と栗駒山では、それぞれ標高1250～1480m付近、標高1100～1500m付近に、ブナ低木群落やミヤマナラ低木群落などから構成される矮性低木植生が分布し、亜高山帯の領域を覆っている。著しく多雪な環境下ではオオシラビソが欠落し、ブナ、ミヤマナラ、ミネカエデ、ナナカマド、サラサドウダン、ウラジロヨウラクといった落葉広葉樹が斜めに立ち上がって生育する。同様の植生は、禿岳、大東岳、雁戸山などの山頂部や稜線風衝地にも分布している。なお、岩手県側であるが、栗駒山の山頂付近に、ごく少数のオオシラビソが遺存的に生育していることが知られている(若松・菊池、2006)。

蔵王山の標高1500～1800m付近、船形山の標高1450～1500m付近、栗駒山の標高1400～1628m付近では、高山帯を指標するハイマツが認められる。この植物群落はおおむね高さ1.5m以下で、匍匐状となったハイマツが優占し、矮性化したミネカエデ、ミネザクラ、ミネヤナギ、ハクサンシャクナゲ、ナナカマド、キャラボク、アカミノイヌツゲなどが混生する。また、これらの樹冠の間隙には、チシマザサ、ツルツゲ、コケモモ、マイヅルソウ、タケシマラン、ミツバオウレンなどが生育する。相観としては高山帯の植生に相当するが、種組成は上述した亜高山帯の植生に類似することから、「北海道東部や本州中部の高標高域に分布する真の高山帯とは異なる」とする見解が一般的で、「偽高山帯」とも呼ばれる。

南蔵王不忘山の山頂・稜線部や船形山山頂南西の風衝・岩角地(標高1250～1450m付近)には、ミヤマハンノキが優勢で、コメツツジやヒメノガリヤスのほかイワオウギ、キンロバイ、チシマゼキショウ、キバナノコマノツメ、ユキワリコザクラ、ウスユキソウ、ミヤマキンバイ、ホソバイワベンケイなどが生育する風衝矮性低木植生(高山ハイデ)が分布する。

亜高山帯においても、稜線の風背側には大量の雪が吹きだまり、時には盛夏まで残雪が認められる。栗駒山東斜面の御室(標高1350m付近)の雪渓は規模が大きく、アオノツガザクラ、ヒナザクラ、イワイチョウ、シラネニンジン、チングルマなどから構成される雪田植生が成立している。この群落は船形山や蔵王山にも、小規模であるが各所に点在する。また、南蔵王の杉ヶ峰と屏風岳の鞍部には芝草平と呼ばれる湿原があり、ミヤマイヌノハナヒゲ、チングルマ、キンコウカ、イワイチョウ、シロバナトウウチソウ、キダチミズゴケ、ワタミズゴケなどが生育する山地貧栄養湿原が広がっている。

蔵王山の賽の嶺にみられる火山荒原は、溶岩流の上に成立した遷移途上の植生である。低木状・匍匐状に矮性化した五葉のマツ類(ハイマツ、キタゴヨウ、ハッコウダゴヨウ)が散生し、ミネヤナギ、ミヤマハンノキ、イヌエンジュ、ミネズオウ、ガンコウランなどもパッチ状に生育している。また、蔵王山の山頂部は、噴火口であるお釜や比較的新しい火山噴出物で覆われた五色岳から構成される領域で、遷移初期段階の岩礫地が広がっている。ミネズオウ、コメバツガザクラ、ガンコウラン、コケモモ、ヤマハハコ、シラネニンジン、ヒメスゲなどがパッチ状に生育し、コマクサ、コメススキ、ミヤマコウゾリナ、メイゲツソウなどによって特徴づけられる火山荒原植生が認められる。

哺乳類では、シントウトガリネズミ、ヒメヒミズ、オコジョなどが亜高山帯・高山帯に生息する。鳥類は、亜高山帯でウソ、ルリビタキ、コマドリ、クイタダキ、コガラなどが、ハイマツが生育する山頂部でカヤクグリ、ホシガラスなどがみられる。蔵王山の刈田岳から馬の背にかけての火山荒原にはイワヒバリが生息し、五色岳東側の崖地はアマツバメの集団繁殖地になっている。また、蔵王山の稜線付近の湿原でクロサンショウウオ、アカハライモリが、溪流でエゾイワナあるいはニッコウイワナがみられる。昆虫類は、亜高山帯にハヤチネフキバツタ、ホソヒメクロオサムシ、ケベリタテハなどが、高山帯にチビヒサゴコメツキ、ミヤマコガネヒラタコメツキ、ヒメクロオサムシなどが生息する。

亜高山帯・高山帯は、古くから信仰の対象として厳重に保護され、また早くから国定公園や県立自然公園に指定されて、保護・保全を図りながら観光や登山に利用されてきた。これまでの主要課題であった来訪者の増加や登山道の荒廃に端を発する生態系破壊に加えて、地球規模の気候変動に伴う温暖化、気象・土砂災害、野生動植物の応答変化や蔵王山におけるオオシラビソ(アオモリトドマツ)の集団枯死に留意する必要がある。

引用文献

秋葉保夫・高橋修・高橋雄一. 1996. 宮城県の野生哺乳動物. 101pp. 宮城野野生動物研究会.

平吹喜彦. 1991. 分布北限域に位置する一温帯混交林の構造と木本構成種の生態的特性. 宮城教育大学紀要(第二分冊 自然科学・教育科学), 25: 23-43.

平吹喜彦. 2005. 限界地めぐり16 太平洋岸北限域のカシ類. 森林科学, 44: 32-36.

平吹喜彦・滝口政彦. 2017. 宮城県の植生. 『宮城県植物誌』(宮城県植物誌編集委員会編), 39-53.

菅野洋・西中(沖田) 董・齊藤賢治・平吹喜彦. 2026. 植物群落. 『宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物』(宮城県環境生活部自然保護課編), 466-489.

菊池慶子. 2016. 仙台藩の海岸林と村の暮らし クロマツを植えて災害に備える. よみがえるふるさとの歴史 10. 74pp. 蕃山房.

吉良竜夫. 1971. 生態学からみた自然. 295pp. 河出書房新社.

宮城植物の会(編). 2024. 宮城県野生植物目録(電子版) 2024. https://www.miyagi-syokubutsu.org/syokubutsushi_download.html 2025年4月23日最終閲覧.

日本鳥学会(編). 2024. 日本鳥類目録 改訂第8版. 539pp. 日本鳥学会.

西城潔. 2017. 宮城県の地形地質. 『宮城県植物誌』(宮城県植物誌編集委員会編), 33-38.

設楽寛. 1987. 気象と気候. 『ふるさと宮城の自然』(ふるさと宮城の自然編集委員会編), 79-123. 宝文堂出版販売.

菅原亀悦. 1978. 北限地帯モミ林の生態学的研究. 宮城県農業短期大学紀要, 4: 1-68.

菅原亀悦. 2016. 宮城県の自然環境. 『宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物』(宮城県環境生活部自然保護課編), 1-6.

高橋信人. 2017. 宮城県の気候. 『宮城県植物誌』(宮城県植物誌編集委員会編), 19-32.

若松伸彦・菊池多賀夫. 2006. 奥羽山脈栗駒山に断片的にみられるオオシラビソ林の立地環境について. 森林立地, 48, 33-41.

渡辺徳. 1973. 宮城県の鱗翅類. 358pp. 日本蛾類学会.

渡部徳. 1989. 宮城県の甲虫. 364pp. 日本鞘翅学会.

柳田則明. 2017. 宮城県トンボ目録. 247pp. 自費出版.

柳田則明・斎藤勝雄・蛾類目録編集委員会(編著). 2009. 宮城県蛾類目録. 416pp. 宮城昆虫地理研究会.

吉岡邦二. 1952. 東北地方森林の群落学的研究. 第1報 仙台市付近モミ-イヌブナ林地帯の森林. 植物生態学会報, 1: 165-175.

(執筆者：平吹 喜彦)

II 宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 2026 (RED DATA BOOK MIYAGI 2026) の作成過程

1 レッドデータブック作成の背景と我が国の状況

自然界の生物は、生命が誕生して以来、時間的・場所的な環境変化に適応して、種としての多様な姿に進化し、それぞれの種にふさわしい生活環境の下で生き続けている。

現在、地球上には500万～3000万種ともいわれる多様な生物が存在し、そのうち日本で確認されている生物は約9万種で、まだ知られていない生物も含めると30万種を超えるとも言われている。これらの生物は、森や川、海などの多様な環境の中で、他の生物との間に様々な関わりをもって生存しており、この状態を生物多様性と呼んでいる。

しかし今、日本の生物多様性は4つの危機、①「開発や乱獲による種の減少・絶滅、生息生育地の現況」、②「里地里山などの管理不足による自然の質の低下」、③「外来種などの侵入による生態系の攪乱」、④「地球温暖化などの地球環境の変化による危機」にさらされている。長い地球の歴史の中では、過去にも自然現象などの影響により生物の大量絶滅が幾度も起きているが、現在は第6の大量絶滅と呼ばれている。地球上の種の絶滅は人間活動による影響が主な要因であり、そのスピードは人間が関知しない自然状態と比べて約100～1000倍にも達しており、多くの生物が絶滅の危機に瀕している。

絶滅のおそれのある野生生物の動向が体系的に把握されるようになったのは、国際自然保護連合 (IUCN) が世界全域を対象に基礎資料から絶滅危惧種を選定し、昭和39年(1964年)にレッドリストを発行したことに始まる。日本では環境省が定期的にレッドリストを見直し、平成26年(2014年)から平成27年(2015年)にかけて第4次レッドリストに対応したレッドデータブックが刊行された。この間、平成4年(1992年)に制定された「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」や、平成20年(2008年)に制定された「生物多様性基本法」、さらに「生物多様性国家戦略」の策定等を通じ、人類の生存基盤である自然生態系の健全性を維持するためには種の多様性の確保が不可欠であるとの認識が深まった。平成22年(2010年)に愛知県名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)では、生物多様性に関する初めての包括的な世界目標である「愛知目標」が採択され、2020年までに達成すべき20の目標が設定された。しかし、一部の目標は部分的に達成されたものの、ほとんどの目標を達成することができなかった。こうした状況を受け、令和4年(2022年)のCOP15で採択された「昆明・モンテリオール生物多様性枠組(GBF)」では、2030年までに自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め反転させる、いわゆる「ネイチャーポジティブ(自然再興)」のための緊急行動が盛り込まれ、その具体策の1つに、2030年までに地球上の陸海域の30%を保全する「30by30目標」が掲げられた。我が国では、令和5年(2023年)にネイチャーポジティブの実現に向けた第6次戦略として「生物多様性国家戦略2023-2030」が策定され、社会全体で生物多様性の保全・回復を進める方針が示された。こうした動きを背景に、希少種保全の重要性は一層高まっている。

2 宮城県レッドデータブック(レッドリスト)の作成の状況と目的

本県において生物多様性の保全を図るためには、本県の自然環境を象徴する貴重な存在である野生動植物の現状を的確に把握し、緊急に保護することが必要な野生動植物を明らかにし、広く周知する必要がある。レッドリストはその野生動植物を絶滅のおそれのある程度(カテゴリー)に応じて分類し、リスト化したものである。また、レッドデータブックは、レッドリストに選定された種の生息・生育状況などを記載した解説集である。

宮城県では、平成8年(1996年)から5か年計画で、全県を対象とした希少野生動植物の分布状況を調査し、その結果を平成13年(2001年)に『宮城県の希少な野生動植物—宮城県レッドデータブック—』として発行した。その後、平成19年(2007年)からレッドデータブックの改訂に向けて、全県レベルの調査とデータの蓄積を開始し、平成25年(2013年)に「宮城県の希少な野生動植物—宮城県レッドリスト2013年版」を公表した。

さらに、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の状況を一部反映させた『宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016』を発行したが、希少野生動植物の状況はその後も日々変化しており、東日本大震災以

降は特に著しいものがあり、『宮城県の希少な野生動植物—宮城県レッドリスト』については2022年版、2023年版、2024年版を公表した。そして、『宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016』から10年の期間が過ぎ、県内の野生動植物を取り巻く自然環境の変化に加え、新たな知見の蓄積が進んだことから、今回の『宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 2026』を発行するに至った。(以下、「宮城県レッドデータブック」という。)

宮城県レッドデータブックでは、(1)植物(蘚苔類・維管束植物)、動物では(2)哺乳類、(3)鳥類、(4)両生類・爬虫類、(5)汽水・淡水魚類、(6)昆虫類、(7)海岸地域の無脊椎動物類、(8)淡水産貝類の計9分類群、および群落・群集として(1)植物群落、(2)干潟の底生動物群集について作成している。

レッドデータブックやレッドリストへの掲載は、捕獲規制等の直接的な法的効果を伴うものではないが、広く県民に情報を提供することにより、絶滅のおそれのある野生動植物種の保護保全の理解を深めるとともに、本県の自然環境保全への配慮を促し、事業者や関係機関等において、様々な場面で多様な活用が図られることにより、野生動植物への保護保全対策が着実に進められることを目的としている。

また、宮城県では「自然に寄り添い、自然と共に生きるふるさと宮城」を目指し、平成27(2015)年3月に「宮城県生物多様性地域戦略」を策定し、令和2(2020)年3月にSDGsの取組を反映するため第1次改訂を行い、令和7(2025)年4月には「ネイチャーポジティブ実現」に向けた取組を促進するため、第2次改訂を行うなど、生物多様性の保全の取り組みを進めているところである。

3 調査・検討体制

レッドデータブックの編集方針、構成、そして種、植物群落、干潟の底生動物群集の選定方法及び記載項目について検討を行うために、平成19年(2007年)7月に「宮城県希少野生動植物保護対策検討会」(以下「検討会」という。)が、平成20年(2008年)4月に実際に調査を担う専門家を調査対象ごとに組織した「宮城県野生動植物調査会」が設置された。検討会の委員がそれぞれの種、植物群落、干潟を取り扱う分科会の代表となり、各分科会に所属する調査員が、既存の文献調査や標本調査、現地調査等を行い、種、植物群落、干潟の底生動物群集の現状についての情報を収集した。

【宮城県希少野生動植物保護対策検討会・調査会名簿】

氏名	所属	役職	担当分類群	備考
鈴木 孝男	みちのくベントス研究所	所長	干潟の底生動物群集 海岸地域の無脊椎動物類	会長
平吹 喜彦	東北学院大学	名誉教授	植物群落	副会長
溝田 浩二	宮城教育大学教育学部	教授	昆虫類	副会長
太田 宏	東北大学高度教養教育・学生支援機構	助教	両生類、爬虫類	
小室 智幸	日本野鳥の会宮城県支部	支部長	鳥類	
斉藤 千映美	宮城教育大学教職大学院	教授	哺乳類	
滝口 政彦	宮城植物の会	顧問	植物	
旗 薫	株式会社エコリス		汽水・淡水魚類	
藤本 泰文	宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	主任研究員	陸域地域の無脊椎動物類 (淡水産貝類)	

III カテゴリー区分について

1 動植物種のカテゴリー区分

カテゴリー区分については、環境省が第5次レッドリスト(2025～)及び第4次レッドリスト(2012～)で採用されている、絶滅確率等の数値基準により客観的な評価を加えたカテゴリー(以下「環境省カテゴリー」という。)に準じた各カテゴリーを採用した。しかし、環境省カテゴリーにおいて採用する定量的要件(数値基準)は、今回の調査対象となった多くの動植物種について、過去の数値的なデータが存在しない等の理由から採用していない。

さらに、生物多様性の保全に資するための基礎資料として、絶滅危険度からの評価のみならず、宮城県独自の視点から、「要注目種」というカテゴリー区分を設けている。これらの種は現時点では本県で普通に見られるため、環境省カテゴリーに準じた絶滅危険度から設定した各カテゴリーには該当しないものの、特徴のある生息・生育状況等により注目すべき種として定義づけたもので、具体的には「隔離分布種」、「分布北限・南限種」、「基準産地種」、「その他」の4種を設定している。以上のことを踏まえて、環境省のカテゴリー区分と本県のカテゴリー区分の対応関係は表1、本県で採用したカテゴリー区分は表2のとおりであるが、前回の宮城県レッドデータブック(2016)とカテゴリー区分に変更はない。

表1 環境省カテゴリーと宮城県カテゴリーの対比

環境省カテゴリー	宮城県カテゴリー
絶滅(EX)	絶滅(EX)
野生絶滅(EW)	野生絶滅(EW)
絶滅危惧Ⅰ類 絶滅危惧ⅠA類(CR) 絶滅危惧ⅠB類(EN)	絶滅危惧Ⅰ類 絶滅危惧ⅠA類(CR) 絶滅危惧ⅠB類(EN)
絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧(NT)
情報不足(DD)	情報不足(DD)
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)	絶滅のおそれのある地域個体群(LP)
	宮城県独自のカテゴリー
	要注目種 隔離分布種 分布北限・南限種 基準産地種 その他

表2 宮城県のカテゴリー区分

区分および基本概念	具体的要件
絶滅 Extinct(EX) 本県ですでに絶滅したと考えられる種	環境省カテゴリーの「絶滅」に相当 過去に本県に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、本県では既に絶滅したと考えられる種
野生絶滅 Extinct in the Wild(EW) 飼育・栽培下でのみ存続している種	環境省カテゴリーの「野生絶滅」に相当 過去に宮城県内に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ですでに絶滅したと考えられる種
絶滅危惧Ⅰ類 Critically Endangered + Endangered(CR+EN) 本県において絶滅の危機に瀕している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。	環境省カテゴリーの「絶滅危惧Ⅰ類」に相当 次のいずれかに相当する種 ①既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している。 ②既知のすべての生息地で、生息条件が著しく悪化している。 ③既知のすべての個体群が、その再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。 [絶滅危惧ⅠA類] Critically Endangered(CR) ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。 [絶滅危惧ⅠB類] Endangered(EN) ⅠAほどではないが、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
絶滅危惧Ⅱ類 Vulnerable(VU) 本県において絶滅の危険が増大している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの。	環境省カテゴリーの「絶滅危惧Ⅱ類」に相当 次のいずれかに該当する種 ①大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 ②大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化している。 ③大部分の個体群でその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。
準絶滅危惧 Near Threatened(NT) 存在基盤が脆弱な種 本県において、現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては、「絶滅危惧」として上位に移行する要素を有するもの。	環境省カテゴリーの「準絶滅危惧」に相当 次に該当する種 生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。 具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれのあるもの。 ①個体数が減少している。 ②生息状況が悪化している。 ③過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。 ④交雑可能な別種が侵入している。
情報不足 Data Deficient(DD) 評価するだけの情報が不足している種	環境省カテゴリーの「情報不足」に相当 環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性(具体的には次のいずれかの要素)を有しているが、生息状況をはじめとして、カテゴリーを判定するに足る情報が得られていない種 ①どの生息地においても生息密度が低く希少である。 ②生息地が局限されている。 ③生物地理上、孤立した分布特性を有する(分布域がごく限られた固有種等)。 ④生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。
絶滅のおそれのある地域個体群 Threatened Local Population(LP) 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの	環境省カテゴリーの「絶滅のおそれのある地域個体群」に相当 次のいずれかに該当する地域個体群 ①生息状況、学術的価値等の観点から、レッドデータブック掲載種に準じて扱うべきと判断される種の地域個体群で、生息域が孤立しており、地域レベルで見た場合、絶滅に瀕しているかその危険が増大していると判断されるもの。 ②地方型としての特徴を有し、生物地理学的観点から見て重要と判断される地域個体群で、絶滅に瀕しているか、その危険が増大していると判断されるもの。
要注目種 本県では、現時点で普通に見られるものの、特徴ある生息・生育状況等により注目すべき種	本県独自のカテゴリー 宮城県内では、現時点では普通に見られるため、上記のカテゴリー(※1)には含まれないが、下記に該当するため、その生息・生育状況に注目すべき種 ※1「絶滅～絶滅のおそれのある地域個体群」カテゴリー
隔離分布種	本県では、現時点では普通に見られるものの、日本における分布が稀である種又はその分布が分断されている種

IV 選定の結果

1 宮城県レッドデータブックの改訂概要

(1) 宮城県レッドデータブック2016の改訂

宮城県では、県区域内に生息・生育する野生動植物の現状を把握するとともに、特に緊急に保護することが必要な野生動植物(希少野生動植物)について、東日本大震災の影響を一部反映させた『宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物－RED DATA BOOK MIYAGI 2016』(宮城県RDB2016)を、平成28年(2016年)3月に発行した。

しかし、希少野生動植物の置かれている状況はその後日々変化しており、東日本大震災以降は特に著しいものがある。そのために、震災後の野生動植物の生息・生育状況を把握し、本県の野生生物保護行政の諸事項に関する基礎資料とするとともに、次期レッドデータブック改訂版作成のための情報の蓄積を意図して、宮城県は宮城県野生動植物調査会に、野生動植物の生息・生育状況調査等業務を2017年から継続して委託している。

宮城県野生動植物調査会では調査のために9つの分科会を設置し、植物(蘚苔類と維管束植物)、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、汽水・淡水魚類、昆虫類、海岸地域の無脊椎動物類(海岸動物)、陸域地域の無脊椎動物類(淡水産貝類)、植物群落のそれぞれについて、県内における調査を継続してきた。また、海岸動物分科会では、「干潟の底生動物群集」についても追加の調査を実施し、生息する底生動物群集の多様性を確認するとともに、新規に選定することが望ましい干潟について、その立地状況や生息する底生動物等の情報を収集した。

こうした調査の結果を踏まえ、震災から10年目を迎えた2021年3月には、宮城県RDB2016に掲載したレッドリスト種の見直しを行い、宮城県レッドリスト2021(宮城県RL2021)として公表した。これは、実際の調査を行なった「宮城県野生動植物調査会」から提出されたRL2021案について、「宮城県希少野生動植物保護対策検討会」において内容を精査し、体裁を整えた上で公表したものである。この宮城県レッドリストの見直しは、その後2022年以降は大きな改訂はなかったものの、2024年まで毎年継続して公表された。

宮城県RDB2016の発行から10年目となる2026年には、レッドデータブックの改訂版を公表する運びとなり、宮城県環境生活部自然保護課、宮城県希少野生動植物保護対策検討会、宮城県野生動植物調査会ではその準備を進めてきた。震災前における調査も含めて、これまでの宮城県内における野生動植物の生息・生育状況等を2024年度までの調査結果を基にして精査し(分科会によっては2025年の調査結果も勘案)、2025年度にはレッドデータブックに掲載する動植物種の選定を行い、種ごとの解説文等を作成した。また、植物群落分科会では希少な植物群落について、海岸動物分科会では重要な干潟について、取りまとめた。

こうした経緯を経て、今回、『宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 2026－RED DATA BOOK MIYAGI 2026』(宮城県RDB2026)を公表し、発行するものである。宮城県RDB2016と宮城県 RDB2026におけるレッドリスト種のカテゴリー別の選定種数を比較したものを表1に示す。また、以下には改訂結果の概要を記す。

(2) 植物の概要

蘚苔類では、新規に選定されたのは情報不足(DD)の1種のみであった。一方、カテゴリーの変更が3種であり、CR+ENからNTに引き下げられたのが1種、DDからCR+ENに引き上げられたのが1種、NTからCR+ENに引き上げられたのが1種であった。そのため、RDB2026では、CR+ENが28種、VUが8種、NTが1種、DDが6種となり、合計で43種になった。

維管束植物では、新規に選定されたのが135種であったが、リストから削除されたのが24種あり、差し引き111種の増加となった(RDB2016:513種→RDB2026:624種)。また、カテゴリーが変更された種も多く、上位に引き上げられたのが47種、下位に引き下げられたのが25種と、合計で72種について変更がなされた。EX(絶滅種)についてみると、新規に選定されたのが5種であったが、削除されたのが2種、絶滅とされていた種のうちCR+ENに変更されたのが2種で、合計で4種減少となったため、差し引き1種が増加ということ

分布北限・南限種	本県では、現時点では普通に見られるものの、日本における分布の北限又は南限とされる種
基準産地種	本県内に基準産地を有する種
その他	隔離分布種、分布北限・南限及び基準産地種には当たらないが、各分科会において、注目に値すると考えられる種

2 植物群落のカテゴリー区分

本県では、種レベルの評価に加えて、県内の貴重な植生を有する領域についても「植物群落」として評価対象に加えている。これは「植物」という種レベルで絶滅危険度・希少性を検討するとともに、「生物多様性の存続」をより確かなものとするためには、種の生息・生育環境として空間的な広がりや多種とのかかわりあいを実現させている「生態系」を保護保全することが大切で、その一方策として植物群落の検討が有益かつ必要と考えたためである。

一方、植物群落については、優占種は残存しているものの群落を構成する特定の種(とりわけ希少種)が失われている事例、優占種が破壊されて群落が消滅状態になった場合でも、土中に種子が埋没していて攪乱や遷移プロセスを経て自立的に復元する事例、あるいは都市化した地域にかろうじて残存する里山(広義)の二次的植物群落の事例が見られるなど、その絶滅危険度・希少性の把握と判定には種レベルの評価とは異なる難しさがある。そして、これを改善するための基礎データの蓄積・分析と絶滅危険度・希少性の検討は、現在も進行中である。

今回の植物群落のカテゴリー区分は表3のとおりで、『宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016』に同じである。県内の貴重な植生を構成する個々の植物群落(単一群落)と互いに密接に関連する植物群落の複合体(群落複合)を対象として、それらが現在どのような絶滅危険度・希少性を有しているのか、近隣や地域の植生状況と保護保全・自然攪乱・人為の履歴も踏まえて検討した。

表3 植物群落カテゴリー区分

区分	具体的要件
壊滅(D)	群落は壊滅した。
壊滅状態(4)	群落は全体的に壊滅状態にあり、緊急に対策を講じなければ壊滅する。
壊滅危惧(3)	対策を講じなければ、群落は徐々に悪化して壊滅する。
破壊危惧(2)	群落は当面保護されているが、将来破壊されるおそれがある。
要注意(1)	現在、保護・管理状態がよく、当面破壊されるおそれが少ない。しかし、監視は必要である。

になった。他のカテゴリーについては、EW(野生絶滅)はデンジソウがEWからCR+ENに変更されたため、0種になり、CR+ENは206種→228種と22種増加、VUは158種→200種と42種増加、NTは84種→157種と73種増加、DDは10種→7種と3種減少、要注目種は39種→16種と23種減少ということになった。このように新規に選定された種が全体の22%をしめ、またNT以上のカテゴリーでの種数の増加が137種もあるなど、全体として、より危機的な状況になってきていることが判明した。

(3) 動物の概要

哺乳類では、RDB2016で19種であったレッドリスト種は今回の改訂で26種となった。これは、海棲哺乳類がDDに4種、LP(局所個体群)に2種が新規に追加選定されたことに加え、ノレンコウモリ(旧ホンドノレンコウモリ)が追加されたことによる。ノレンコウモリ(旧ホンドノレンコウモリ)については、新規にDDとして選定された後、CR+ENにカテゴリーが引き上げられた。また、コウモリ類については生息状況が少し明らかになってきたことで、カテゴリーが変更された種が他にもいくつかみられた。最終的にRDB2026では、EXが2種、CR+ENが2種、VUが4種、NTが6種、DDが6種、LPが4種、要注目種が2種の合計26種が選定された。

鳥類では、RDB2016で57種(当時はヒシクイを種として評価されていたが、今回の改訂において亜種ヒシクイと亜種オオヒシクイとに別々に評価されるようになったことから、これを勘案すると58種に相当)であったレッドリスト種は、今回の改訂で新規に追加されたのが12種、削除されたのが4種であり、差し引き8種が増加したことから、合計で66種になった。東日本大震災による干潟環境の変化が落ち着いたことからシギ・チドリ類の評価の検討が進んだことなどが背景にある。また、カテゴリーがより危機的な方に引き上げられたのが24種、下方に引き下げられたのが2種であり、合計で26種に変更があったが、これはレッドリスト種全体の39%に達する。このように多くの種でカテゴリーの見直しがあったが、全体的により危機的な状況に推移してきていると言える。最終的にRDB2026では、CR+ENが11種、VUが18種、NTが30種、DDが4種、LPが1種、要注目種が2種の合計66種が選定された。

爬虫類では、ヒガシニホントカゲが新規にDDに選定され、アカウミガメがDDからENに引き上げられた。その結果RDB2026ではレッドリスト種が1種増加し、その内訳はENが1種とDDが5種であった。

両生類では、タゴガエルとヤマアカガエルが新規にNTに選定され、トノサマガエルが要注目種からVUにカテゴリーが引き上げられた。その結果、RDB2016では8種であったレッドリスト種は、RDB2026では10種に増加した。内訳は、VUが1種、NTが7種、LPが2種であった。

汽水・淡水魚類では、RDB2016で28種であったレッドリスト種は新規に12種が選定され、2種が削除されたので、RDB2026では38種に増加した。削除されたスナヤツメ類は、新たにキタスナヤツメとミナミスナヤツメに区別されて新規に選定された。また、県外からの移入に由来することが明らかになったヤリタナゴは削除された。カテゴリーの変更についてみると、上位に引き上げられたのが7種、下位に引き下げられたのが3種であった。また、これまでCR+ENとされていた種のうち6種については、CR(4種)とEN(2種)に分別して選定された。最終的にRDB2026では、CRが6種、ENが6種、VUが6種、NTが13種、DDが3種、要注目種が4種の合計38種が選定された。

昆虫類では、今回新規に追加して選定されたのが16種であったが、削除されたのが13種であったため、RDB2016での214種がRDB2026では3種増加して217種になった。削除された種の多くは複数の生息地が新たに発見されたための措置であった。また、カテゴリーが上位に引き上げられたのが9種に対して下位に引き下げられたのが3種であり、全体としてより危険度が高いカテゴリーの種が増加した。CR+ENとされていたクロシジミが新たに絶滅種に加えられた。また、今回の改訂では定量判定による基準の見直しが行われた結果としてのカテゴリーの変更が多かった。最終的にRDB2026では、EXが6種、CR+ENが38種、VUが40種、NTが75種、DDが58種の合計217種が選定された。

海岸地域の無脊椎動物類(海岸動物)では、RDB2016では70種であったレッドリスト種に、新たに追加で

選定された30種が加わり、一方10種が削除されたことから、差し引き20種が増加し90種になった。カテゴリーの変更についてみると、危険度がより高い上位に引き上げられたのが28種に対して、下位に引き下げられたのは3種であり、全体としてより危険度が高いカテゴリーの種が増加した。その結果、RDB2026ではCR+ENが11種、VUが24種、NTが33種、DDが22種の合計90種となり、NT以上のカテゴリーでは選定種の増加が目立った。

陸域地域の無脊椎動物類(淡水産貝類)では、今回の改訂での新規追加や削除はなく、カテゴリーの変更はヒガシタブネドブガイがDDからVUに引き上げられた1件のみであった。このため、RDB2026では、CR+ENが3種、VUが3種、NTが2種、DDが3種の合計11種が選定された。

(4) 植物群落の概要

植物群落では、群落全体について体系・呼称等の抜本的な見直しがなされた。このためRDB2026では、これまで単一群落として120カ所であったものが111カ所に、群落複合として62カ所であったものが70カ所に再編された。カテゴリーの変更においては、単一群落の1カ所がこれまでの壊滅状態から壊滅とされた。また、壊滅したとされた単一群落のうち2カ所が壊滅状態に変更され、危険度が引き下げられた。他にも危険度の引き上げが単一群落で10カ所、群落複合で3カ所、引き下げが単一群落で2カ所、群落複合で3カ所あった。最終的にはRDB2026において、単一群落では壊滅が2カ所、壊滅状態が19カ所、壊滅危惧が22カ所、破壊危惧が36カ所、要注意が32カ所、群落複合では壊滅が3カ所、壊滅状態が13カ所、壊滅危惧が21カ所、破壊危惧が18カ所、要注意が15カ所となり、両群落タイプ合わせて181カ所が選定された。

(5) 干潟の底生動物群集の概要

宮城県RDB2016では、宮城県に存在する干潟のうち17カ所が底生動物群集の生息にとって重要であるとして、それぞれの干潟についての解説がなされていた。今回は、最近までの調査の結果を受けて、震災後の復旧と現状について、また選定理由について最新の情報を基に内容を改訂した。また、石巻市の雄勝湾、東松島市の長浜海岸、山元町の坂元川河口を新たに重要な干潟として選定したことから、重要干潟の総数は20カ所になった。

(6) レッドリスト種の動向と今後の課題

全体を俯瞰してみると、多くの分類群で、宮城県RDB2016に比べて、宮城県RDB2026では、選定された種数が増加していた。レッドリスト種総数でみると、植物で1.2倍、動物で1.13倍(1~1.37倍)であり、植物群落では0.99倍、重要な干潟では1.18倍であった。また、カテゴリー別にみると、植物ではCR+ENが1.09倍、VUが1.25倍、NTが1.87倍、動物ではCR+ENが1.28倍、VUが1.18倍、NTが1.24倍となっていた。植物のNTにおいて2倍近くに増加していたのは注目される。他は概ね1.2倍前後であり、宮城県RDB2016に比べて、宮城県RDB2026では2割程度の増加が見られたと言える。総掲載種数で見ると、宮城県RDB2016で967種であったものが、今回の改定で1000種を超え、1133種になったことは注目に値する。また、カテゴリーが変更された種は植物で75種(全体の11%)、動物で91種(全体の19%)であったが、そのうち、上位のカテゴリーに引き上げられたのが植物では68%、動物では81%であった。このように、前回2016年にレッドデータブックを公表した時に比べて、10年間で野生動植物種の生息・生育環境がより危機的な状況に変化してきたことは明らかである。

こうした結果は、野外調査や文献調査等で野生動植物の実態把握が進んだことで、個々の種が置かれている状況がより詳細に把握できるようになったことを反映しているのはもちろんのことである。ところで、東日本大震災や豪雨による水害あるいはそれに伴う復旧工事等においては自然環境が各所で改変された。緊急でない場合の工事の際には、その場所に生息・生育する野生動植物の保護や保全について多くの配慮がなされた一方、それらの工事で絶滅の危険度が増した種もいるものと考えられる。

維管束植物 蘚苔類

東日本大震災から2026年で15年が経過し、被災地における復旧工事等はほぼ完了した。今後、野生動植物は、自然の営みの中で個体群の回復を遂げていくものと思われるが、人為による影響が止まることはないだろう。希少な生物種の現状を把握し、それらの種の保護・保全を考え、ひいては生物多様性を保持していく方策を編み出し実践していくことは、今後の大きな課題である。今回のレッドデータブックの改訂（宮城県RDB2026）を踏まえて、これ以上絶滅が危惧される動植物が増加していくことを抑え、生物多様性の損失を止め、自然を回復していく方向に舵を切り、ネイチャーポジティブを実現していくことが望まれる。

表1 宮城県RDB2026に掲載されたレッドリスト種数（ ）内の数字は宮城県RDB2016での種数

分類群	種数	レッドリストカテゴリー							
		絶滅 (EX)	野生絶滅 (EW)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	準絶滅危惧 (NT)	情報不足 (DD)	地域個体群 (LP)	要注目種
蘚苔類	43(42)			28(27)	8(8)	1(1)	6(6)		
維管束植物	624(513)	16(15)	0(1)	228(206)	200(158)	157(84)	7(10)		16(39)
植物合計	667(555)	16(15)	0(1)	256(233)	208(166)	158(85)	13(16)	0(0)	16(39)
哺乳類	26(19)	2(2)		2(3)	4(5)	6(3)	6(3)	4(1)	2(2)
鳥類	66(57)			11(7)	18(15)	30(16)	4(2)	1(1)	2(16)
爬虫類	6(5)			1(0)			5(5)		
両生類	10(8)				1(0)	7(5)		2(2)	0(1)
汽水・淡水魚類	38(28)			12(9)	6(6)	13(9)	3(4)		4(0)
昆虫類	217(214)	6(5)		38(35)	40(39)	75(78)	58(57)		
海岸地域の無脊椎動物類 (底生動物)	90(70)			11(4)	24(16)	33(21)	22(23)		0(6)
陸域地域の無脊椎動物類 (淡水産貝類)	11(11)			3(3)	3(2)	2(2)	3(4)		
動物合計	464(412)	8(7)		78(61)	96(83)	166(134)	101(98)	7(4)	8(25)
全合計	1131(967)	24(22)	1(1)	333(294)	304(249)	324(219)	114(114)	7(4)	24(64)

植物群落	群落数	壊滅(D)	壊滅状態(4)	壊滅危惧(3)	破壊危惧(2)	要注意(1)
単一群落	111(120)	2(3)	19(15)	22(23)	36(41)	32(38)
群落複合	70(62)	3(3)	13(14)	21(18)	18(15)	15(12)
群落合計	181(182)	5(6)	32(29)	43(41)	54(56)	47(50)



植物

宮城県は偽高山帯とされる蔵王山塊熊野岳(1841m)から海岸地帯の海拔0 m及び特別名勝松島に代表される島嶼まで多様な植物の生育環境を有しており、更に東北地方の南部という地理的条件のため暖地性植物の北上と北方系植物の南下による分布限界に近いという特徴を有している。したがって、種の多様性に恵まれ、かつ分布上注目すべき点を多数内包している。

これまで宮城県RDBのカテゴリーと判定基準は環境省の基準の「定性的要件」のみを用いてきた。今回は宮城県植物誌(2017)中の宮城県野生植物目録 2017の元となったデータベースから絶滅危惧植物を抜粋し、1883～2015年の植物の採集地・採集日・所蔵標本庫を記載した冊子を作製して資料とした。これには2008～2018年の宮城県絶滅危惧植物・RL見直し調査結果並びに1990～2004年の環境省RL見直し調査結果も付け加えた。後の二つのデータには個体数・増減率が記載されたものもある。この資料に基づいて調査が進められた。今回の改訂で、植物分科会では環境省のカテゴリーと判定基準の「定性的要件」と「定量的要件(数値基準)」を併用して判定することにした。

今回の改訂の基本的な考えは次の通りである。① 宮城県RDB 2001、宮城県RDB 2016のカテゴリーを基本とした。② 2016年に宮城県で絶滅危惧種に指定した種、宮城県RDB 2001の指定種のうち宮城県RDB 2016年で外された種、それ以外に環境省指定種、個人推薦種、合計791種を絶滅危惧植物の候補とした。③ 環境省の絶滅危惧植物として収録されているが宮城県で指定されていない種は、すべて宮城県絶滅危惧植物に指定した。また、カテゴリーの判定に当たっては、水草、湿地・草原の植物では絶滅・大幅に減少した種が多い、海岸の植物では津波浸水の影響で著しく増加あるいは減少した種が多い、国立・国定・県立自然公園内の植物は保護されているなどの理由からランクを下げるなどの考慮を行なった。

2011(平成23)年3月 11日に発生した三陸沖を震源地とする東日本大震災による津波により 沿岸地域及び平野地帯は浸水によって海岸地形は変貌し、海岸砂丘、防潮林、水田地域が大きく影響を受けた。これらにおいては水路のような開放水域が出現したり、あちらこちらに池沼ができ、さらに海岸の砂が水田地帯に運搬・堆積されるなど、生育環境が激変した。これらのことにより沿岸地域及び平野地帯の自然環境の変質が発生し、これに連動して種々の植物の 消長が発生した。その結果、生育地や個体数が増加した種が出現した一方、逆に生育地や個体数が激減した種も確認された。特に【絶滅危惧I類】のキンポウゲ科ヒメキンポウゲ、シバナ科シバナ、オオシバナ、サクラソウ科ウミミドリ、イソマツ科ハマサジなどは津波の影響によって生育地や個体数が激減した。しかし、一方では津波以前に生育していなかった場所にも生育するようになった事例も確認されている。また、【準絶滅危惧】のヒコ科ハママツナは海岸地帯各地のいたる所で個体数が激増している。今回の改訂では以上の調査結果も反映させた。

今回、宮城県RDB 2016からの大幅なカテゴリー見直しを行った結果、維管束植物及び蘚苔類を合わせると、新規に136種、カテゴリーが変更された種も多く、上位に引き上げられたのが49種、下位に引き下げられたのが26種と、合計で75種、削除24種を選定した。削除の理由は、分類学的な扱いの変更、同定の誤り、文献情報のみで標本が欠如、産地数・個体数ともに多い、植栽、国内帰化などである。新規に選定された種が全体の22%をしめ、またNT以上のカテゴリーでの種数の増加が137種もあるなど、全体として、より危機的な状況になってきていることが判明した。

収録した植物は蘚苔(コケ)植物では43種、維管束植物では、シダ植物66種、裸子植物 1 種、被子植物 557種の合計624種である。蘚苔(コケ)植物と維管束植物の合計は667種である。

【絶滅 EX】

蘚苔(コケ)植物には該当種はない。シダ植物では、ヒカゲノカズラ科ミズスギ、イワヒバ科カタヒバ、オシダ科サイゴクベニシダ、ウラボシ科ナガオノキシノブの4種である。

種子植物では、スイレン科オニバス、キンバイザサ科コキンバイザサ、カヤツリグサ科ウスイロスゲ、スミレ科タチスミレ、アブラナ科ハナハタザオ、オオバヤドリギ科マツグミ、ヒコ科アツケシソウ、ヒルガオ科マメダオシ、オオバコ科ヒシモドキ、シソ科ムシャリンドウ、ミズトラノオ、タヌキモ科フサタヌキモの

12種である。宮城県RDB 2016で【絶滅】としたリンドウ科ハルリンドウは標本が未確認、カワツルモ科ヤハズカワツルモは雑種、ナデシコ科ナガバツメクサは誤同定として削除した。宮城県RDB 2016と比較すると、新規に選定されたのが5種であったが、削除されたのが2種、絶滅とされていた種のうちCR+ENに変更されたのが2種で、合計で4種減少となったため、差し引き1種が増加ということになった。これらの多くは、土地開発、水質汚染、農業汚染など人為による要因が絶滅を招いた事に注目すべきである。

【野生絶滅 EW】

過去に宮城県内に生育していたことが確認されていたが、今回も野生では確認されず、栽培条件下で生育が確認されている種は、シダ植物のデンジソウ科デンジソウ1種のみであったが、2025年野生のものが登米市の水田で発見され、カテゴリーを【絶滅危惧I類】に変更した。

水生植物であるため池沼開発、農業汚染、水質悪化などにより野生では生育出来ない状況が続いているものと思われる。

【絶滅危惧I類 CR+EN】

宮城県は地理的条件から分布の限界に当たる植物が多い。① 県内での産地が局限されており個体数も少ないもの、② 開発などによる生育環境の急激な悪化が考えられるもの、③ 園芸用に乱獲が行われたもの、④ ある地域では絶滅してしまったもの、⑤ 自然災害によって生育環境が悪化したものなど、絶滅の危惧が切迫していると考えられるものを【絶滅危惧I類】として選定した。

蘚苔(コケ)植物ではツノゴケモドキ科イボイボツノゴケ、コマチゴケ科コマチゴケ、ウキゴケ科ウキウキゴケ、ミズゴケ科オオミズゴケなど28種を選定した。ミズゴケの仲間はその生育地である湿原が開発などにより減少した上に、園芸ブームにより園芸用材料として乱獲されて個体数が激減している。他の森林性の蘚苔(コケ)植物は、奥山の森林伐採や里山の開発、更には里山の荒廃などによる生育環境の悪化によって生育地が消失傾向にあり、個体数も減少している。

シダ植物はマツバラ科マツバラ、オシダ科サクライカグマのほか29種、裸子植物はカラマツ1種、被子植物はサトイモ科ザゼンソウ、オモダカ科マルバオモダカ、イバラモ科イバラモ、ラン科セッコク、バラ科キンロバイなど196種で、維管束植物の合計は228種であった。宮城県RDB 2016で【絶滅危惧I類】としたアカウキクサ科アカウキクサは分類学的扱いの変更、カヤツリグサ科クグガヤツリは国内帰化、チャセンシダ科ヒメイワトラノオ、イネ科イワテイチゴツナギは誤同定、タヌキモ科タヌキモは雑種、ウマノスズクサ科コシノカンアオイは植栽と判定し、削除した。宮城県RDB 2016と比較すると、206種→228種と22種増加ということになった。

全国的に自然環境の変遷が見られ、平野地帯や丘陵地帯は住宅団地や工業団地など土地造成が進行するとともに、また里山地域は農耕地の放棄や減反政策などにより耕作放棄地が増加し、植物の生育環境が悪化している。水生植物については、埋め立てによって池沼そのものの数が減少しており、残された池沼も浚渫工事が行われたり、富栄養化、農業などによる水質汚染、津波などによって生育環境の悪化が見られる。キンポウゲ科ヒメキンポウゲ、ヒシ科ヒメビシ、タヌキモ科ミミカキグサ、ヒメタヌキモ、トチカガミコスプタ、ヒルムシロ科ササバモ、ホソバヒルムシロ、イバラモ科イトイバラモ、ガマ科オオミクリ、イソマツ科ハマサジなど30種以上の水生植物はいずれも絶滅が危惧される状況にある。

また、園芸ブームによって鑑賞のため採掘される種が多く、キンポウゲ科イチリンソウ、オキナグサ、メギ科トガクシソウ、ウマノスズクサ科フタバアオイ、ケシ科オサバグサ、サクラソウ科サクラソウ、ムラサキ科ムラサキ、ユリ科ヒメサユリなどは地域によっては絶滅に瀕している。

ラン科植物は近年のランブームのため乱獲が進んでおり、ほとんどの種で生育地、個体数が激減している。特に、コアニチドリ、キンセイラン、ナツエビネ、サルメンエビネ、クマガイソウ、アツモリソウ、セッコク、サギソウでは一部の生育地において絶滅が確認されている。更に、大木や成熟した森林内の樹木などに

着生するラン科マツラン、モミランなどは、森林開発や森林伐採による大径木の減少や森林の樹冠の劣化によって空中湿度の低下など、生育環境の悪化により生育地、個体数の減少が見られる。また、場所によっては絶滅した所も確認されている。

【絶滅危惧Ⅱ類 VU】

宮城県内で分布域が限られており、個体数も減少しているが、近い将来直ちに絶滅に追い込まれる危険性が比較的少ないと思われる植物を絶滅危惧Ⅱ類とした。

蘚苔(コケ)植物ではクサリゴケ科マルバヒメクサリゴケ、キヌシッポゴケ科キヌシッポゴケモドキなど8種を選定した。

シダ植物ではハナヤスリ科ヤマハナワラビ、ナヨシダ科ウサギシダ、シシガシラ科コモチシダ、ウラボシ科イワオモダカなど18種、被子植物ではオモダカ科アギナシ、ラン科キンラン、アヤメ科カキツバタ、キンボウゲ科フクジュソウ、ヤナギ科コビソヤナギ、イワウメ科オオイワカガミ、キク科アズマギクなど182種、合計200種を選定した。宮城県RDB 2016で【絶滅危惧Ⅱ類】としたオシダ科ヒメイタチシダ、キノクニベニシダは分類学的な扱いの変更、オオバコ科ヤマルリトラノオは標本が未確認のため削除した。宮城県RDB 2016と比較すると、158種→200種と42種増加ということになった。

シシガシラ科コモチシダ、ウラボシ科イワオモダカなどは園芸品として採取されている。被子植物では、ラン科のキンラン、エビネなどが乱獲され、花の美しいキンボウゲ科カザグルマ、縁起物として珍重されるキンボウゲ科フクジュソウ、愛らしい花を咲かせるキク科アズマギク、花の変異が珍重されるサクラソウ科クリンソウなどが乱獲、あるいは土地開発により都市近郊から姿を消している。

【準絶滅危惧 NT】

宮城県内においてその生育地、個体数は減少しているが、現時点では比較的生育状況が良好であり、急激に絶滅に向かうとは考えられないが将来に向けて監視の必要があると考えられるものを準絶滅危惧として選定した。

蘚苔(コケ)植物では、キャラハゴケ科コウライイチイゴケ1種のみである。

シダ植物では、ミズニラ科ミズニラ、ゼンマイ科ヤシャゼンマイ、ウラボシ科マメツタなど10種を選んだ。被子植物では、オモダカ科サジオモダカ、ラン科ユウシュンラン、ヤナギ科トカチヤナギ、アジサイ科タマアジサイ、シソ科ナミキソウ、キク科オオニガナなど147種を選んだ。宮城県RDB 2016で【準絶滅危惧】としたシソ科コナミキは誤同定、カヤツリグサ科オニナルコスゲ、シソ科タイリンヤマハッカは産地数、個体数ともに多いため削除した。宮城県RDB 2016と比較すると、84種→157種と73種増加ということになった。

ミズニラ科ミズニラ、サンショウモ科サンショウモ、オオバコ科カワヂシャ、オモダカ科サジオモダカ、イバラモ科イトトリゲモ、ガマ科ミクリ、カヤツリグサ科サギスゲなどの水生植物は、生育域が狭められた上、生育環境の悪化により個体数が減少しているものの、県全体として差し迫った絶滅の危険性がないものと思われる。

キンボウゲ科スハマソウ、ムラサキ科ルリソウ、アヤメ科ヒメシャガ、アヤメ、ラン科ジガバチソウなどは園芸品として採掘され、個体数の減少が目立っている。

【情報不足 DD】

蘚苔(コケ)植物ではツボミゴケ科ユキミイチョウゴケ、キンシゴケ科ヒメキンシゴケ、イワダレゴケ科ヒヨクゴケなど6種を選定した。

シダ植物には該当種はない。被子植物では海産のアマモ科スガモ、オオアマモ、タチアマモ、キンボウゲ科オオヤマオダマキ、ツツラフジ科ツツラフジ、ベンケイソウ科ツツメレンゲ、ゴマンノハグサ科ヒナノウスツ

ポの7種を選んだ。宮城県RDB 2016で【情報不足】としたクサスギカズラ科ナルコユリ、ナデシコ科ナガバツメクサは宮城県に自生しないため、また、スイレン科ネムロコウホネは標本未確認のため削除した。宮城県RDB 2016と比較すると、10種→7種と3種減少ということになった。

【要注目種】

宮城県独自の 카테고리であり、県内での分布状況、個体数などの点から絶滅の危険は低いと考えられるが、分布の北限・南限である、宮城県が基準産地である、環境省の絶滅危惧種に指定されている、県内において稀産であるなどの条件で選定した。

蘚苔(コケ)植物には該当種はない。シダ植物では、メシダ科シケチシダ、オシダ科ナンゴクナライシダ、ナンタイシダの3種、被子植物では、ラン科ヒメフタバラン、フサザクラ科フサザクラ、ブナ科アラカシ、キョウチクトウ科イヨカズラなど13種を選定した。宮城県RDB 2016で【要注目種】としたカヤツリグサ科ヒメガヤツリ、キキョウ科モイワシャジン は誤同定、イグサ科ミヤマイ は標本未確認、シソ科タツナミソウ は分類学的な扱いの変更のため削除した。宮城県RDB 2016と比較すると、39種→16種と23種減少ということになった。

【植物分科会名簿(執筆者)】

氏名	所属等
浅井 元朗	宮城植物の会会員
市ノ渡 彰	宮城植物の会会員
上野 雄規	宮城植物の会会員
恵美 泰子	宮城植物の会会員・逝去
大越 秀樹	宮城植物の会会員
尾形 良太	宮城植物の会会員
葛西 英明	東北植物研究会会員
加藤 啓子	宮城植物の会会員
国京 潤一	宮城植物の会会員
境 秀紀	宮城植物の会会員
菅野 登志子	宮城植物の会会員
杉山 多喜子	宮城植物の会会員
高橋 和吉	宮城植物の会会員
滝口 政彦	宮城植物の会会員
細谷 治夫	宮城植物の会会員
松永 和久	宮城植物の会会員・逝去
三島木 進	宮城植物の会会員
八巻 克己	宮城植物の会会員
横山 正弘	宮城植物の会会員

参考文献【維管束植物以外(蘚苔類)】

- 飯柴永吉・植松榮次郎・加藤鐵次郎. 1912. 普通日本蘚苔図説. 568pp. 成美堂, 東京.
- 飯柴永吉. 1932. 日本産蘚類の分類. 続日本産蘚類総説. 176pp. 西ヶ原刊行会, 東京.
- 井上侑哉・山口富美夫. 2024. 日本産セン類の分類表. Hikobia 19:105-124.
- 岩月善之助・水谷正美. 1972. 原色日本蘚苔類図鑑. 405pp. 保育社, 大阪.
- 岩月善之助(編). 2001. 日本の野生植物　コケ. 355pp.+192pl. 平凡社, 東京.
- 片桐知之・古木達郎. 2018. 日本産タイ類・ツノゴケ類チェックリスト, 2018. Hattoria 9: 53-102.
- 環境省(編). 2025. 第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物 蘚苔類. 環境省, 東京. 1195pp.
- 滝田謙譲. 1999. 北海道におけるミズゴケの分布及びその変異について. MIYABEA 4:1-84.
- 野口彰. 1947,1948.　日本、琉球、台湾産イタチゴケ亜属及びメリンスゴケ亜族の蘚類(其一、其二). 服部植物研究所報告2:27-79, 3:53-98.
- 野口彰. 1955. 日本産蘚類の研究(17). 植物研究雑誌第30巻第5号. 143-147.
- Higuchi,M. 2025. Hisatsugia, a New Genus Based on Gollania splendens (Hypnaceae, Bryophyta). J. Jap. Bot. 100(2): 117-123.
- Horikawa, Y. 1929. Studies on the Hepaticae of Japan II. Sci. Rep. Tohoku Imp. Univ. ser. 4, 4 : 395-429.Pl. 18.
- Matsui,T. et Z. Iwatsuki. 1990. A taxonomic revision of the family Ditrichaceae (Musci) of Japan, Korea and Taiwan. J. Hattori Bot. Lab. 68:317-366.
- Mizutani, M. 1961. A revision of the Japanese Lejeuneaceae. J. Hattori Bot. Lab. 24:115-302.
- 宮城県環境生活部自然保護課. 2016. 宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016. 503pp. 宮城県環境生活部自然保護課, 仙台.
- 宮城県植物誌編集委員会(編). 2017. 宮城県植物誌 370pp. 宮城植物の会, 大崎.
- 宮城県野生植物分布図集編集委員会(編). 2024. 宮城県野生植物分布図集【電子版】. 宮城植物の会, 仙台.
- 宮城県野生植物目録編集チーム(編). 2024. 宮城県野生植物目録2024【電子版】. 宮城植物の会, 仙台.
- 横山正弘. 2018. 宮城県におけるウキゴケRiccia fluitans L.とその近縁種の分布および生態. 宮城の植物. 第43号:29-34.
- Warnstorf, C. 1911. Sphagnales-Sphagnaceae (Sphagnologia universalis) 546pp. in: Engler,A. ed., Das Pflanzenreich. 51. Heft. Verlag von Wilhelm Engelmann, Leipzig.

参考文献【維管束植物】

全体に関する文献

- 上野雄規. 2001. 環境庁編RDB植物Ⅰに収録された宮城県産植物. 宮城の植物 (26): 25-34.
- 滝口政彦・杉山多喜子・恵美泰子. 2017. 宮城県の絶滅危惧植物. 宮城県植物誌 123-132. 宮城植物の会.
- 宮城県植物誌編集委員会(編). 2017. 宮城県植物誌 37pp. 宮城植物の会.

各種に関する文献

- 相場清一. 1975. 宮城県の2〜3の興味ある植物. 宮城の植物 (3): 42-43.
- 相場清一. 1977. 宮城県七ヶ宿町・白石市のミヤマツチトリモチ. ヤッコソウ・ツチトリモチの友 6 (1): 44.
- 秋保大滝植物園植物目録担当者. 2006. 仙台市秋保大滝植物園植物目録. 19pp. 仙台市公園緑地協会.
- 阿久津栄太郎. 1980. 宮城県白石市材木岩付近に発生しているミヤマツチトリモチ. ヤッコソウ・ツチトリモチの友 9 (2): 20-27.
- 浅野 修・庄子邦光. 1988. 大倉山風穴(仮称)について. 宮城の植物 (14): 38-39.
- 浅野 修・庄子邦光. 1991. 仙台市に自生！ -ヒメカイウの新産地. 宮城の植物 (16): 64-65.
- 浅利聡温. 伊具郡丸森町における注目すべき植物の分布. 宮城の植物 (5・6):3-12.
- 浅利聡温. 1984. 植物. 丸森町史 85-133 + 3pl.. 丸森町.
- 阿部功之. 2019. ホンゴウソウを仙台平野の丘陵地帯で確認. 東北植物研究 (21): 29-32.
- 井波一雄. 1986. 東北地方基準産地植物図譜Ⅰ タキネツクパネウツギ・ハマヒナノウスツボ. 東北植物研究 (3): 1-6.
- 井波一雄. 1988. 東北地方基準産地植物図譜Ⅲ シラカワタデ. 東北植物研究 (5): 1-3.
- 井波一雄. 1992. 東北地方基準産地植物図譜Ⅴ タチドジョウツナギ. 東北植物研究 (8): 1-3.
- 今井 力. 1987. 宮城県白石市大萩山の植物 (2). 東北の自然 (31): 18-22.
- 上野雄規. 1972. 宮城県江島諸島植物誌. 92 pp. 自刊.
- 上野雄規. 1973. 北上山地・田東山, 惣内山周辺の興味ある植物. やまくさ (3): 7-10.
- 上野雄規. 1974. 大鷹沢の植物誌. 180 pp. 蔵王自然保護協会.
- 上野雄規. 1974. 麓岳丘陵の興味ある植物 (1). 北陸の植物 22: 24-27.
- 上野雄規. 1976. 高等植物分布資料 (90) ヤブミョウガ. 植物研究雑誌 51: 128.
- 上野雄規. 1977. 宮城県迫町に分布する貴重な植物. やまくさ (4): 35-39.
- 上野雄規. 1978. 高等植物分布資料 (97) チシマギキョウ. 植物研究雑誌 53: 83.
- 上野雄規. 1979. 宮城県材木岩・虎岩周辺地域における植物相の概観. 宮城県材木岩・虎岩周辺地域植物調査報告書110-134 + 2pl. 白石市及び七ヶ宿町教育委員会・建設省東北地方建設局七ヶ宿ダム工事事務所.
- 上野雄規. 1985. 宮城県白石市に産する注目すべき植物. 宮城の植物 (11・12): 15-19.
- 上野雄規. 1985. 高等植物分布資料 (116) ヨコグラノキ. 植物研究雑誌 60: 268.
- 上野雄規. 1986. 北本州植物分布資料 (3) ヒメマイヅルソウ. 東北植物研究 (3): 20.
- 24-2. 上野雄規. 1987. 宮城県白石市権現山のシダ植物. 東北植物研究 (4): 4-13.
- 上野雄規. 1988. 北本州植物分布資料 (6) シラカワタデ. 東北植物研究 (5): 3.
- 上野雄規. 1991. 北本州植物分布資料 (12) ヒメミヤマウズラ. 東北植物研究 (7): 16.
- 上野雄規. 1992. 北本州植物分布資料 (13) ヒメノヤガラ. 東北植物研究 (8): 3；
- 上野雄規. 1992. ヒメサユリの東限. 東北植物研究 (8): 39.
- 上野雄規. 1996. 北本州植物分布資料 (15) キョスミヒメワラビ. 東北植物研究 (9): 10.
- 上野雄規. 1996. 北本州植物分布資料 (16) ハカタシダ. 東北植物研究 (9): 26.
- 上野雄規. 1997. 東北におけるフサタヌキモの現状と保全. 植物地理・分類研究 45: 53-64.
- 上野雄規. 1998. 仙台市太白山自然観察の森の植物相. 平成9年度(1997) 仙台市太白山自然観察の森自然観察センター事業報告及び研究報告書 23-52.
- 上野雄規. 1998. 植物版レッドリストに収録された白石市・丸森町産維管束植物. 白石植物愛好会会誌 (29): 23-27.
- 上野雄規. 2007. タチスミレの宮城県産標本. 東北植物研究 (13): 48.

- 上野雄規. 2007. カラフトダイコンソウを宮城で再確認. 東北植物研究 (13): 26.
- 35-2. 上野雄規. 2008. 宮城県維管束植物目録 89pp. 自刊.
- 上野雄規. 2020. 宮城県産維管束植物のタイプ標本 2 アブクマトラノオ・キンカアザミ. 宮城の植物 (45): 23-24.
- 36-2. 上野雄規. 2021. 宮城県の植物相における新知見Ⅰ. 宮城の植物 (46): 17-26.
- 上野雄規. 2021. 宮城県産維管束植物のタイプ標本 3 アブクマトウヒレン・チャボニリンソウ. 宮城の植物 (46): 27-28.
37. 上野雄規. 2021. 宮城県産ムカゴサイシン(ラン科)の生育状況についての詳報. 植物地理・分類研究 69: 103-106.
- 38-2. 上野雄規. 2022. 宮城県の植物相における新知見Ⅱ. 宮城の植物 (47): 16-25.
- 上野雄規. 2022. 三陸沿岸固有種ハマヒナノウスツボの研究史 1907-2010年. 岩手植物の会会報 (59): 11-22；
- 上野雄規. 2023. ハマヒナノウスツボの研究史. 宮城の植物 (48): 1-6.
- 上野雄規. 2023. 宮城県産維管束植物のタイプ標本 5 ケズズダケ・ナトリアザミ. 宮城の植物 (48): 37-38.
- 上野雄規. 2023. 宮城県植物誌 (2017) 補遺 維管束植物. 東北植物研究 (23): 37-46.
- 上野雄規・上田宗敏. 1975. 宮城県にオサバグサ産す. 宮城の植物 (3): 44.
- 上野雄規・薄葉 満・葛西英明. 2018. 宮城県栗原市におけるオオタヌキモの分布及び生育地の現状. 宮城の植物 (43): 22-28.
- 上野雄規・大橋広好. 2007. エゾノチャルメルソウの南限と東北地方における分布. 植物研究雑誌 82: 355-356.
- 上野雄規・森 俊. 1990. 宮城県にヒメタヌキモ産す. 食虫植物研究会会誌 41: 1-2.

- 46-2. 上野雄規. 2025. 宮城県の植物相に関する森俊先生(1930-2024)の業績. 宮城の植物 (50): 58-61.
- 移川 仁・溝田浩二. 2005. 青葉山市有林(仙台市)の植物相 (2). 宮城教育大学環境教育研究紀要 8: 105-112.
- 移川 仁(編). 2010. 社の都「青葉山」の今！ 青葉山自然観察ガイドブック 127pp. 青葉山の緑を守る会.
- 恵美泰子. 2000. カザグルマに出会って. 宮城の植物 (24・25): 44-45.
- 恵美泰子. 2008. 仙台市青葉区でトキホコリを確認. 東北植物研究 (14): 16.
- 大野義輝. 宮城県のコモウセンゴケは越冬するだろうか. 食虫植物研究会会誌 (56): 9-11.
- 大橋広好・立石庸一・黒沢高秀・梶田忠・横山正弘. 1990. 仙台城址およびその周辺地域の植物相. 仙台城址の自然 47-99 + 3pl. 仙台市教育委員会.
- 大橋広好・吉田 繁・上野雄規. 2004. ミヤマスカシユリの新分布. 植物研究雑誌 79: 140-142.
- 大橋広好・吉田 繁. 2005. トウゴクサバノオの北限と分布パターン. 植物研究雑誌 80: 57-60.
- 大柳雄彦. 1992. 一桧山・田代県自然環境保全地域の植物相・植生(一桧山地域). 一桧山・田代県自然環境保全地域学術調査報告書 5-31. 宮城県保健環境部環境保全課.
- 大柳雄彦・菅原亀悦. 1991. 船形山南西部の植物. 県立自然公園船形連峰(船形山南西部)学術調査報告書 11-21 + 1pl. 宮城県保健環境部環境保全課.
- 大柳雄彦・平吹喜彦. 1994. 加護坊・箕岳山環境保全地域の植物相. 加護坊・箕岳山環境保全地域学術調査報告書13-42 + 2pl. 宮城県.
- 大柳雄彦・平吹喜彦. 1998. 斗蔵山県自然環境保全地域の植物相. 斗蔵山県自然環境保全地域学術調査報告書 13-33. 宮城県保健環境部環境保全課.
- 大柳雄彦・平吹喜彦・三浦修. 1993. 県民の森緑地環境保全地域の植物相. 県民の森緑地環境保全地域学術調査報告 9-41 + 2pl. 宮城県.

- 岡崎 千ヌ. 1988. 北本州植物分布資料 (8) イチヨウラン. 東北植物研究 (5): 24.
- 岡田要之助. 1926. おにばす分布ノ北限二就イテ. 植物学雑誌 15: 423-424.
- 岡田要之助. 1926. おにばすノ根茎. 植物研究雑誌 3: 257-260.
- 尾形良太. 2018. 築館いこいの森周辺の植物. 古川植物愛好会会誌 (20): 5-10.
- 尾形良太. 2023. 三陸自動車道沿線の観察地を巡って. 古川植物愛好会会誌 (24): 3-11.
- 尾形良太. 2024. 田東山の花を訪ねて. 古川植物愛好会会誌 (25): 5-9.
- 小黑仁司・上野雄規・杉山多喜子・恵美泰子. 2008. 宮城大学食産業学部附属農場の植物相. 宮城大学食産業学部紀要 2: 1-24.
- 小島和夫・齋藤宗夫・森 俊(編). 2002. 角田市の自然 植物編 173pp. 角田市教育委員会.
- 小野 治子. 1993. イノモトソウ. 宮城の植物 (18): 65.
- 小原黒森風穴調査チーム(宮城植物の会内). 2020. 小原黒森風穴の維管束植物相. 白石市文化財調査報告書第61集 小原黒森風穴並びに近隣の風穴における自然とその利用 38-44. 白石市教育委員会.
- 葛西英明. 2008. 仙台市・大沼畔ハス池に出現した興味ある植物. 東北植物研究 (14): 35-41.
- 葛西英明. 2009. 福島・宮城両県の新産植物など. 東北植物研究 (15): 33-35.
- 葛西英明. 2011. 福島・宮城両県の新産植物. 東北植物研究 (16): 85-87.
- 葛西英明. 2013. 宮城県の東日本大震災津波浸水域における希少植物等の2012年の現状. 東北植物研究 (17): 32-43.
- 葛西英明. 2015. 宮城県の東日本大震災津波浸水域における希少植物等の2012年9月中旬から2013年10月の現状. 東北植物研究 (18): 43-53.
- 葛西英明. 2017. 宮城県の東日本大震災津波浸水域における希少植物等の2013年10月から2014年10月の現状. 東北植物研究 (19): 65-74.
- 葛西英明. 2019. 宮城県の東日本大震災津波浸水域における希少植物等の2014年11月から2015年11月の現状. 東北植物研究 (20): 31-41.
- 葛西英明. 2019. 宮城県の東日本大震災津波浸水域における希少植物等の2015年9月から2016年11月の現状. 東北植物研究 (21): 33-46.
- 葛西英明. 2021. 宮城県の東日本大震災津波浸水域における希少植物等の2016年11月から2017年11月の現状. 東北植物研究 (22): 5-40.
- 葛西英明. 2022. 宮城県の東日本大震災津波浸水域における希少植物等の2017年11月から2018年11月の現状. 東北植物研究 (23): 51-56.
- Kadota Y. 2009. Systematic studies of Asian Saussurea (Asteraceae) III. Saussurea fuboensis, a new species from the southernmost part of Tohoku District, northern Japan. J. Jpn. Bot. 84: 171-183.
- Kadotta Y. 2011. Taxonomic studies of Cirsium (Asteraceae) in Japan X X II . Four new species from Honshu, central Japan. Bul. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. B 37: 31-45.
- Kadota Y. 2013. Systematic studies of Asian Saussurea (Asteraceae) VI. A new species and a new combination from Hokkaido and three new species from Honshu, Japan. J. Jpn. Bot. 88: 267-285.
- Kadotta Y. 2014. Taxonomic studies of Cirsium (Asteraceae) in Japan X X V. Identity of Cirsium nipponicum (Maxim.) Makino and two new species from Tohoku district, northern Japan. Bul. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. B 40: 73-94.

- 狩野泰三. 1981. 宮城県宮城町の野生カザグルマの自生地. レポート日本の植物 (10): 95-96.
- 萱場喜太郎. 1971. 亙理のコモウセンゴケの観察 (1). 食虫植物研究会会誌 (57): 4-9.
- 萱場喜太郎. 1972a. 亙理のコモウセンゴケの観察 (2). 食虫植物研究会会誌 (59): 17-22.
- 萱場喜太郎. 1972b. 亙理のコモウセンゴケの観察 (3). 食虫植物研究会会誌 (60): 5-9.
- 菅野 洋・大柳雄彦. 2007. 植物. 登米市自然環境基礎調査報告書 34-114. 登米市市民生活部環境課.
- 菊地政雄. 1968. 北上山地産ゴマノハグサ属の一新種. 国立科学博物館専報 1: 67-70.
- 菊地政雄. 1968. 新種ハマヒナノウスツポについて. 岩手植物の会会報 (5): 1-13.
- 木村紗重子・長橋美智子・長橋広幸. 2022. 宮城県仙台市でイチヨウランを確認. 宮城の植物 (47): 13.
- 木村有香. 1954. 宮城県北部の海岸地帯の植物. 三陸海岸・牡鹿半島・松島学術調査書 (国立公園候補地) 21-68 + 8pl. 宮城県商工部観光課.
- 木村有香. 1955. 蔵王山の植物. 蔵王連峯学術調査書 (国立公園候補地) 7-51 + 16pl. 宮城県観光課.
- 木村有香・菅谷貞男. 1970. 松島産植物目録. 特別名勝松島 90-124. 第一法規.
- 木村有香. 1980. 経ヶ峯の植物. 仙台市文化財調査報告書 第22集 経ヶ峯 (瑞鳳殿周辺) 75-108. 仙台市教育委員会.
- 木村中外. 1973. 南三陸の植物. 南三陸海岸自然公園学術調査報告 31-36. 日本自然保護協会.
- 木村中外. 1985. 長沼およびその周辺のフロラ. 尚綱女学院短期大学研究報告書 32: 1-11.
- 木村中外・小川 茂. 1983. セキシウオモ (*Vallisneria natans* (Lour.) Hara) の雄花片細胞にみられる赤色顆粒について. 宮城の植物 (10): 1 + 口絵1.
- 木村中外・小倉洋志. 1976. 県立自然公園船形連峰の植物. 県立自然公園船形連峰学術調査報告25-36. 宮城県.
- 木村中外・佐々木 豊・藤田 卓. 1992. 陸金華山国定公園の植物. 南三陸金華山国定公園学術調査報告書 71-150 + 12pl. 宮城県.
- 木村中外・佐々木 豊・庄子邦光・藤田 卓. 1994. 広瀬川流域の植物相. 広瀬川流域の自然環境 255-310.
- 木村中外・藤田 卓. 1978. 自然公園蔵王連峰の植物. 蔵王国定公園・県立自然公園蔵王連峰学術調査報告 35-51. 宮城県.
- 木村中外・藤田 卓. 1979. 県立自然公園二口峡谷の植物相. 県立自然公園二口峡谷学術調査報告12-20 + 2pl. 宮城県.
- 木村中外・藤田 卓. 1980. 県立自然公園気仙沼の植物相. 県立自然公園気仙沼学術調査報告書 16-22 + 付図1. 宮城県生活環境部.
- 木村中外・藤田 卓. 1981. 県立自然公園松島の植物相. 県立自然公園松島学術調査報告書 28-42. 宮城県生活環境部環境保全課.
- 木村中外・藤田 卓. 1982. 仙台湾海浜県自然環境保全地域の植物相. 仙台湾海浜県自然環境保全地域学術調査報告書 21-50+2 pl. 宮城県.
- 木村中外・藤田 卓. 1983. 高館・千貫山県自然環境保全地域の植物相. 高館・千貫山県自然環境保全地域学術調査報告書 21-64+8pl. 宮城県保健環境部環境保全課.
- 木村中外・藤田 卓. 1983. 栗駒国定公園の植物相. 栗駒国定公園及び県立自然公園旭山学術調査報告書 16-29 + 2. 宮城県保健環境部環境保全課.
- 木村中外・藤田 卓. 1984. 釜房湖県自然環境保全地域の植物. 釜房湖県自然環境保全地域学術調査報告書 15-49. 宮城県生活環境部環境保全課.
- 木村中外・藤田 卓. 1985. 太白山県自然環境保全地域の植物相. 太白山県自然環境保全地域学術報告書 39-74+4 pl. 宮城県保健環境部自然保全課.
- 木村中外・藤田 卓. 1986. 谷山県自然環境保全地域の植物相. 谷山県自然環境保全地域学術調査報告書. 35-61. 宮城県保健環境部環境保全課.
- 木村中外・藤田 卓. 1988. 阿武隈溪谷県立自然公園 (仮称) 予定地の植物相 (丸森町の植物相). 阿武隈溪谷県立自然公園 (仮称) 予定地学術調査報告書. 35-89 + 4pl. 宮城県保健環境部環境保全課.
- 木村中外・藤田 卓. 1988. 蕃山・斉勝沼, 権現森緑地環境保全地域の植物相. 蕃山・斉勝沼緑地環境保全地域, 権現森緑地環境保全地域学術報告書 33-65+8pl. 宮城県生活環境部環境保全課.
- 木村中外・藤田 卓・佐々木 豊. 1989. 翁倉山県自然環境保全地域の植物. 翁倉山県自然環境保全地域学術調査報告書 21-47+9pl. 宮城県保健環境部環境保全課.
- 京極隆弥. 1968. 宮戸島のフローラ. 宮城県高等学校教育研究会理科研究収録 (5): 27-67.
- 京極隆弥. 1969. 仙台湾内の島嶼の植物. 宮城県の生物 51-89. 日本生物教育会第24回全国大会仙台大会実行委員会.
- 京極隆弥. 1974. 伊豆沼に産する若干の注目すべき植物. 宮城の植物 (2): 1-2.
- 京極隆弥・木村中外. 1973. 伊豆沼湖沼群内沼の水生植物. 伊豆沼湖沼群学術調査報告書 31-43. 日本自然保護協会.
- 京道信次郎・加藤鐵治郎. 1932. 金華山島の植物. 宮城県史跡名勝天然記念物調査報告 7: 127-182.
- 京道信次郎・加藤鉄治郎. 1938. 出島の石碑 (せきこく). 宮城県史跡名勝天然記念物調査報告 12: 97-104.
- 京道信次郎・加藤鐵治郎. 1938. 岩井崎の植物. 宮城県史跡名勝天然記念物調査報告 12: 172-184.
- 京道信次郎・加藤鐵治郎. 1940. 横倉の木の自生 (分布の北限). 宮城県史跡名勝天然記念物調査報告 12: 172-184.
- 京道信次郎・加藤鉄治郎. 1940. 「野花菫蒲」及「かきつばた」自生の群落. 宮城県史跡名勝天然記念物調査報告13: 137-140.
- 国京潤一. 2016. 東北のアザミとその仲間たち 126pp. 自刊.
- 国京潤一. 2017. 東北地方におけるアザミ属 (キク科) の形態およびそれに基づく検索表. 東北植物研究 (19): 1-26.
- 熊耳久雄. 1976. レンゲシウマ雑記. 宮城の植物 (4): 26-28.
- 熊耳久雄. 1985. 宮城県松島町のホンゴウソウ. 東北植物研究 (2): 56-57.
- 黒沢高秀・大橋広好. 2000. 「絶滅危惧ⅠA類ムサシタイゲキ」はセンダイタイゲキと区別できない -センダイタイゲキの分類と分布の再検討-. 植物研究雑誌 75: 104-110.
- 黒沢高秀・庄子邦光. 1994. ヤマクボスゲの分布. 植物研究雑誌 69: 327-329.
- 黒沢高秀・葛西英明. 2011. 阿武隈川および荒川の植物相. 阿武隈川流域の環境学 53-72. 福島民報社.
- 小宮定志. 2011. 東北地方に見られる食虫植物についてのトピックス. 東北植物研究 (16): 31-38.
- 斉藤 助. 1978. 宮城県のラン科植物について. 蘭和会会報 (1): 17-23.
- 齋藤 清. 1973. 宮城県におけるトキリマメの産地について. 宮城の植物 (1): 34.
- 齋藤 清・岡崎 弘. 1973. 宮城県におけるトケンランの産地について. 宮城の植物 (1): 34.
- 齋藤 慧. 1977. 異常穂型のスゲ-宮城県伊豆沼湖沼群周辺の高等植物. 福島生物 (20): 11-12.
- 桜田 章. 1962. コモウセンゴケの研究. 食虫植物研究会会誌 (29): 1-3.
- 佐々木 洋. 1990. 御嶽山県自然環境保全地域の植物・植生. 御嶽山県自然環境保全地域学術調査報告書 15-29. 宮城県保健環境部環境保全課.
- 佐々木敏雄. 1978. 生きていたムラサキ. 白石植物愛好会会誌 (1): 10-11.
- 佐々木 豊. 1973. 石巻市牧山の自然植生と注目すべき植物. 宮城の植物 (1): 1-9.
- 佐々木 豊. 1987. 北本州植物分布資料 (4) クリンユキフデ. 東北植物研究 (4): 13.

- 佐々木 豊. 1992. 北本州植物分布資料 (14) ヒメノヤガラ. 東北植物研究 (8): 41.
- 佐々木 豊. 1994. 硯上山・万石浦県立自然公園の植物相. 硯上山・万石浦県立自然公園学術調査報告書13-79 + 16pl. 宮城県.
- 佐々木 豊. 1998. 植物. 石巻市自然環境調査報告書 3-20. 石巻市.
- 佐々木 豊. 2021. 宮城県迫川水系におけるハナムグラの分布と生態. 宮城の植 (46): 41-57.
- 佐々木 豊・上野雄規. 1973. 高等植物分布資料 (81) マツバラシ. 植物研究雑誌 48: 204.
- 佐々木 豊・大橋広好. 2007. モクゲンジの日本国内における分布と生態, および新品種のウスギモクゲンジ. 植物研究雑誌 82: 160-174.
- 佐々木 豊. 2020. 佐々木豊遺稿集編集委員会(編), 三陸南部における中間温帯の植物 63pp. 宮城植物の会.
- 佐藤彌市. 1973. 大関川流域の野草と茸. やまくさ (2): 20-22.
- 佐藤彌市. 1975. 続大関川流域の野草. やまくさ (3): 4-6.
- 佐藤彌市. 1979. 大関川流域の植物 (四). やまくさ (5): 6-9.
- 清水大典. 1965. 新産地探訪 (6) ホソバツルリンドウ. 植物採集ニュース (19): 40
- 下山祐樹. 2004. 河北町沢田山の植物目録. 宮城の植物 (29): 12-24.
- 下山祐樹・吉田 馨. 2008. センズモドキの花柄の毛について. 宮城の植物 (33): 38-39.
- 下山祐樹. 2009. 仙台市西部の溜池の水草. 宮城の植物 (34): 25.
- 下山祐樹. 2013. 宮城県の三陸沿岸における東日本大震災後の砂丘植生の分布状況. 宮城の植物 (38): 1-5.
- 下山祐樹. 2014. 松島湾一帯における東日本大震災後の砂丘植生の分布状況. 宮城の植物 (39): 8-12.
- 下山祐樹. 2015. 仙台市から山元町にかけての東日本大震災後の砂丘植生の分布状況. 宮城の植物 (40): 22-28.
- 下山祐樹. 2015. ハマハコベ *Honckenya peptoides* (L.) Ehrh. var. *minor* Hook. を宮城県気仙沼市で確認. 東北植物研究 (18): 55-56.
- 下山祐樹. 2016. 石巻市南浜地区復興祈念公園 (仮称) 検討区域における植物相および植生. 宮城の植物 (41): 40-48.
- 庄子邦光. 1983. 北限のギフベニシダについて. 東北植物研究 (1): 31-32.
- 庄子邦光. 1983. 宮城県新産植物. 宮城の植物 (10): 54-55.
- 庄子邦光. 1985. ステゴビルの新分布. 東北植物研究 (2): 51.
- 庄子邦光. 1988. 高等植物分布資料 (123) チャボイ. 植物研究雑誌 63: 232.
- 庄子邦光. 1990. “チシマツバイ”を求めて “チャボイ”との出会い. すげの会会報 (1): 15-19.
- 庄子邦光・浅野修. 1991. 宮城県高等植物分布資料Ⅰ. 東北植物研究 (7): 33-36.
- 白石市植物誌編集委員会(編). 1983. 貴重と思われる植物. 45-54. 白石市植物誌刊行会.
- 末次健司・阿部功之・上野雄規. 2021. エンシュウムヨウラン (ラン科) を東北地方に記録する. 植物地理・分類研究 69: 193-196.
- 666-2. 末次健司・阿部功之・上野雄規. 2023. クロヤツシロラン (ラン科) を宮城県に記録する. 植物地理・分類研究 71: 79-82.
- 菅野登志子. 2008. 仙台市葛岡墓園で観察された宮城県レッドデータブック掲載の植物. 宮城の植物 (33): 55-57.
- 菅野登志子. 2013. ホンゴウソウ *Schiaphila nana* Blumeを宮城県仙台市で確認. 東北植物研究 (17): 15-16.
- 菅原亀悦. 1983.セヶ宿町有谷「ヨコグラノキ」自生地の調査報告書 14pp. 宮城県セヶ宿町教育委員会. セヶ宿.
- 菅原亀悦. 1995. 荒沢県自然環境保全地域候補地の植物相と植生. 荒沢県自然環境保全地域候補地学術調査報告書 5-43 + 11. 宮城県.
- 菅原長太夫. 1971. ふるさと歌津の草花-みやぎ田東山系の植物 94pp.「ふるさと歌津の草花」刊行協力委員会.
- 菅谷貞男. 1961. 青葉山植物園に見られるヒメノヤガラについて. 日本植物学会東北支部報 11:3.
- 菅原亀悦 (監). 2014. 二口溪谷 三方倉山植物ガイドブック 189pp. 緑を守り育てる宮城県連絡会議.
- 杉山多喜子. 2008.名取市及びその近辺の植物探訪記 (1). 宮城の植物 (33): 51-54.
- 杉山多喜子. 2008. 名取市及びその近辺の植物探訪記 (2) 休耕田の絶滅危惧植物. 宮城の植物 (34): 21-24.
- 杉山多喜子. 2012. 大津波後の名取市美田園調整池の植物 (藻類含む). 宮城の植物 (37): 19-23.
- 杉山多喜子・葛西英明 2013. 大津波後の名取市下増田北原東の植物. 宮城の植物 (38): 9-15.
- 杉山多喜子・葛西英明・恵美泰子　2013　東日本大震災大津波後の仙台市大沼の植物相の変化. 東北植物研究 (17) 44-52.
- 杉山多喜子・葛西英明・恵美靖子. 2019. 東日本大震災大津波前後の仙台市海岸林の植物相の変化-2008年4月から2010年10月と2012年5月から2016年11月の比較. 東北植物研究 (21) 47-84.
- 杉山多喜子・平吹喜彦・内藤俊彦 2018. 維管束植物 (シダ植物・裸子植物・被子植物). 岩沼市史 第9巻 特別編Ⅰ 自然172－192. 岩沼市.
- 杉山多喜子・滝口政彦. 2021. 仙台市蒲生の海浜で見つかったハマゴウ. 宮城の植物 (46): 29-31.
- 仙台市の植物相調査委員会(編). 2010. 仙台市の植物相調査報告書 標本に基づいた仙台市野生植物目録 309pp. 仙台市講演緑地協会.
- Suzuki S. 1964. Taxonomical studies on the Bambusaceous Genus *Sasa* Makino & Shibata I. Jap. J. Bot. 18: 306 (1964)
- 鈴木長治. 1954. 松島公園の植生分布状況について. 62 pp. 宮城県林務部治山課.
- 高橋和吉. 1972. 宮城県網地島植物誌. 142 pp+16 pl. 自刊.
- 高橋和吉.1974. 県内初発見 ヒゴスミレ. 宮城の植物 (2): 30.
- 高橋 和吉. 1975. キヨシミウツポについて. 宮城の植物 (3): 18-20.
- 高橋和吉. 1981. 貴重と思われる植物. 古川市化女沼および周辺地域植物調査報告書 22-29.
- 高橋和吉. 1987. 化女沼治水ダム建設工事植物調査及び移植業務報告書. 55pp. 宮城県古川土木事務所.
- 高橋和吉. 1989. 葉菜山・田谷地沼湖沼群地域の植物. 葉菜山・田谷地沼湖沼群地域学術調査報告書 31-58.
- 高橋和吉. 1992. 上荒沢・荒沢湖沼群地域の植物相. 上荒沢・荒沢湖沼群地域学術調査報告書 21-47.
- 高橋和吉. 2007. 栗原市花山で確認したトガリバイヌワラビとアズマシロカネソウ. 東北植物研究 (13): 59-60.
- 高橋和吉. 2014. 化女沼を北限とするシダ フモトシダとハカクシダ. 古川植物愛好会会誌 (16): 1-2.
- 高橋和吉. 2020. 蕪栗沼のトネハナヤスリ. 古川植物愛好会会誌 (22): 1-4.
- 高橋和吉・大野利男・後藤 淳. 2011. 金華山でシハイスミレを再確認. 宮城の植物 (36): 12-13.
- 高橋和吉・齋藤宗夫・森俊. 1999. 斗蔵山と周辺地域の植物. 斗蔵山周辺自然環境調査報告書 6-51. 角田市教育委員会.
- 高山晴夫. 1989. 志津川の植物. 志津川町誌 I 自然の輝 309-463. 志津川町.
- 滝口政彦. 1975. 角田高校所蔵の明治時代の植物標本について. 宮城の植物 (3): 10-13.
- 滝口政彦. 1983. 蔵王山におけるコマクサの分布と人為的影響. 東北植物研究 (1): 13-24.
- 滝口政彦. 1984. 植物と動物. 角田市史Ⅰ通史編 (上) 108-177. 角田市.
- 滝口政彦. 1985. 宮城県のカシ林の分布. 東北の自然 4: 8-13.
- 滝口政彦・市ノ渡 彰. 2022. ムラサキセンブリ (リンドウ科) 絶滅記. 宮城の植物 (47): 14-15.

<div><div></div>イボイボツノゴケ</div>	ツノゴケモドキ目	絶滅危惧I類（CR+EN）
 <i>Phaeoceros gemmifer</i>	ツノゴケモドキ科	<div> <div>2016</div> <div>CR+EN</div> <div>環境省</div> <div>-</div> </div>

- 選定理由**　生育地は人家付近など、攪乱された狭い立地に限られており、開発により生育地、個体数共に著しく減少している。
- 分布の概要**　北海道、本州に分布する。
- 県内の生育状況**　石巻市、大和町、栗原市では、生育する個体数が極めて少なく、仙台市、白石市、亶理町では生育が確認できない。
- 形態**　植物体は長さ2～3cm、幅5～8mmほどで、中肋と細胞間隙がなく、表皮細胞が薄壁。腹面に、密にいぼ状の無性芽をつける。
- 近似種との区別**　ミヤケツノゴケとは、無性芽が長い柄をもたずいぼ状で、腹面に密につけることで区別される。
- 生育に対する脅威（減少の要因）**　土地造成
- 保護保全上の留意点**　人為的に攪乱される立地に生育することから、保護・管理対策などは特に必要ない。
- 主要文献番号**　12、15、16、17、18

（撮影：横山　正弘）

<div><div></div>コマチゴケ</div>	コマチゴケ目	絶滅危惧I類（CR+EN）
 <i>Haplomitrium mnioides</i>	コマチゴケ科	<div> <div>2016</div> <div>CR+EN</div> <div>環境省</div> <div>-</div> </div>

- 選定理由**　生育地は局限されており、生育環境の悪化により、個体数が著しく減少している。
- 分布の概要**　本州～沖縄、東アジアに分布する。
- 県内の生育状況**　山地帯の湿原の縁を流れる、小川周囲の地上に生育するが、水量の減少による乾燥化で、個体数が少なくなっている。
- 形態**　植物体は2cmと緑色で多肉。茎は地下茎が匍匐し、地上茎が斜上ないし直立して分枝をする。葉は円形～卵円形で、円頭で全縁。造卵器は裸出して茎に頂生し、造精器も茎に頂生する。
- 近似種との区別**　キレハコマチゴケとは、生殖器官が茎に頂生し、葉が全縁であることで区別される。
- 生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移
- 保護保全上の留意点**　周辺湿原の乾燥化が見られることから、繁茂しているヨシなどの刈取りなど、集水域の保全対策が必要。
- 主要文献番号**　12、15、16、17、18

（撮影：横山　正弘）

<div><div></div>ウキウキゴケ</div>	ゼニゴケ目	絶滅危惧I類（CR+EN）
 <i>Riccia fluitans</i>	ウキゴケ科	<div> <div>2016</div> <div>CR+EN</div> <div>環境省</div> <div>-</div> </div>

- 選定理由**　全ての生育地で生育環境が悪化し、個体数が著しく減少している。
- 分布の概要**　北海道～沖縄、世界各地に分布する。
- 県内の生育状況**　平野地帯や丘陵地帯の水田、ため池、河川に広く生育するが、水質汚濁、管理放棄等により、個体数が少なくなっている。
- 形態**　植物体は淡緑色をした、長さ1～5cm、幅1mmほどの細長いベルト状で、規則的に2叉状に分枝する。胞子体をつけることはごく稀で、日本では知られていない。
- 近似種との区別**　近似種のホソバウキゴケとは、腹鱗片が長さより幅が広く、半月状であることで区別される。
- 生育に対する脅威（減少の要因）**　湖沼開発、水質汚濁、農業汚染、管理放棄
- 保護保全上の留意点**　生育する一部ため池は、周辺水田の耕作放棄から取水利用されずに荒れているため、災害防止の観点とあわせて適正な管理・保全が必要。
- 主要文献番号**　15、16、17、18、19

（撮影：横山　正弘）

- 203. 滝口政彦・上野雄規. 2012. 宮城県のサクラバハナムキの分布と生態. 宮城の植物 (37): 27-31..
- 204. 滝口政彦・上野雄規. 2012. ヨコグラノキの北限地帯における生育地の調査報告. 宮城の植物 (37): 32-39.
- 205. 滝口政彦・杉山多喜子. 2020. ハマナス（バラ科）の虫こぶとハマナスの分布. 宮城の植物 (45): 11-13.
- 205-2. 滝口政彦・市ノ渡 彰・横山正弘. 2025. 秋保二口の三つ目の風穴. 宮城の植物 (50): 32.
- 206. 武田眞一. 2017. 東北地方におけるシロスマレ *Viola patrinii* DC. の分布と岩手県における自生地の植生. 東北植物研究 (19): 27-36.
- 207. 竹原明秀・内藤俊彦. 1986. 宮城県内のユビソヤナギ. 植物研究雑誌 61: 127-128.
- 208. 竹原明秀・伊藤 聡. 1992. 宮城県内のマツバラシ. 植物研究雑誌 67: 367-377.
- 209. 立花繁信. 1975. 河北町の植物. 河北町史 65-85. 河北町.
- 210. 内藤俊彦. 1978. ソヨゴ (*Ilex pedunculosa* Maxim.) (モチノキ科)の新産地. 宮城の植物 (5・6): 46-47
- 211. 内藤俊彦. 1981. ペニシスラン (*Goodyera macrantha* Maxim.)の採集報告. 宮城の植物 (8・9): 55 + 口絵.
- 212. 内藤俊彦. 1991. 危機に瀕する宮城県産高等植物. 宮城の植物 (16): 69-72 + 1pl.
- 213. 内藤俊彦. 1994. ソヨゴ (*Ilex pedunculosa* Miq.). 市史せんだい 4: 57. 仙台市博物館.
- 214. 内藤俊彦. 2015. 平成23年（2011）3月11日の東日本大震災に伴う津波が仙台市若林区井土浦ハマナス群落に及ぼした影響. 宮城の植物 (40): 18-21.
- 215. 内藤俊彦・黒沢高秀・立石庸一. 1990. 仙台城址およびその周辺地域の植物分布. 仙台城址の自然 101-123 + 付図1. 仙台市教育委員会.
- 216. 内藤俊彦・柴崎 徹・菅原亀悦・飯泉 茂. 1992. 伊豆沼・内沼の植生. 伊豆沼・内沼環境保全対策に関する報告書 201-262 + 2pl. 宮城県生活環境部環境保全課.
- 217. 中井猛之進. 1943. 小原のヨコグラノキ. 天然記念物調査報告 植物の部 (20): 9-10 + 1pl.
- 218. 長島康雄・高橋真実・攝待尚子. 2014 仙台北北部における北限ソヨゴ林の研究 1 ソヨゴ小林分の樹形に着目した検討. 仙台市科学館研究報告 (24): 62-67.
- 219. 長島康雄. 2015. 仙台北北部における北限ソヨゴ林の研究 2 匍匐枝による更新について. 仙台市科学館研究報告 (25): 42-47.
- 220. 日野 東・葛西英明. 2004. フラワートレッキング蔵王連峰 141pp. 無明舎出版.
- 221. 平吹喜彦. 1990. 森林帯の主要構成常緑樹11種の宮城県における分布状況. 文部省特定研究 宮城県における地域自然の基礎的研究 59-85. 宮城教育大学.
- 222. 藤田 卓. 1981. コウヤボウキ. 宮城の植物 (8・9): 55-56.
- 223. 細井幸兵衛.1999. 北本州植物分布資料 (17) ウスイロスゲ: 東北植物研究 (10): 22.
- 224. 細谷治夫. 2021. 横川流域に生育するクロブシヒョウタンボクの生育環境とフェノロジー. 宮城の植物 (46): 32-35.
- 224-2. 細谷治夫. 2025. 仙台市周辺におけるアキタスズムシソウの確認（短報）. 宮城の植物 (50): 30-31.
- 225. 村井三郎・棟方啓爾. 1957. 北限カラマツ林の現状. 日本林学会大会講演習 67: 198-202.
- 226. 村上孝夫. 1993. 蔵王の花 268pp. 金港堂出版部.
- 227. 目黒 聡・滝口政彦. 2002. 宮城県のヒメバイカモの分布と生活史. 宮城の植物 (27): 9-15.
- 228. 森 俊. 1985. 宮城県角田市で北限の植物3種を採集. 東北植物研究 (2): 55-56.
- 229. 森 俊. 1987. 角田市のシダ植物. 宮城の植物 (13): 23-28.
- 230. 森 俊. 1987. 阿武隈山地北部での採集ノート II. 東北植物研究 (4): 15-16.
- 231. 森 俊. 1988. 角田市「内町湖」の興味ある植物. 宮城の植物 (14): 30-32.
- 232. 森 俊. 1989. 北本州植物分布資料 (10) チョウセンキンミズヒキ. 東北植物研究 (6): 6.
- 233. 森 俊. 1990. アオホラゴケとミヤマウメモドキ. 宮城の植物 (15): 20.
- 234. 森 俊. 1992. 「角田市のシダ植物」補遺. 宮城の植物 (17): 39-40.
- 235. 森 俊. 2004. 宮城県内阿武隈川河岸でカワチシャを確認. 東北植物研究 (11): 24.
- 236. 森 俊. 2007. 宮城県内 2 新北限種. 東北植物研究 (13): 14.
- 237. 森 俊. 2008. 北本州植物分布資料 (18) オモエザサ. 東北植物研究 (14): 15.
- 238. 安原修次. 1993. 仙台の花 196 + 4pp. ほおずき書籍.
- 239. 山口賢一・上野雄規. 1998. ヒロハイヌワラビ、イトスゲの新産地. 植物研究雑誌 73: 332.
- 240. 山下由美・山下俊之・移川 仁・小笠原宏晃・黒沢高秀. 2013. 東北地方新産のタンザワサカネラン（ラン科）とその生育地および花の形態. 分類 13: 119-122.
- 241. 山元町植生調査会（編）. 1987. 山元町の植物 82pp. 山元町環境保全課.
- 242. 山元町植物植生調査会・山元町環境保全課（編）. 1995. やまもとの植物. 152 pp. 山元町.
- 243. 結城嘉美. 1977. またまたヒメカイウの群生地. 植物採集ニュース 89: 54.
- 244. 吉岡邦二・菅原亀悦. 1975. 天然記念物「ヨコグラノキ北限地帯」調査報告書 12pp. 宮城県教育委員会. 仙台.
- 245. Yonekura K., Iketsu J. and Ohashi H. 1995. A New Species of Bistorta (Polygonaceae) from Japan. J. Jap. Bot. 70: 107-110.
- 246. 米倉浩司・牧雅之. 2015. 宮戸島の植物相. 宮戸・野蒜地域の文化遺産の再生・活用検討事業報告書 II 奥松島 II -自然・景観・歴史・文化9-58. 宮戸・野蒜地域の文化遺産の再生・活用検討実行委員会.
- 247. 林木育種協会（編）. 1995. 第1回林木遺伝育種セミナー―隔離分布する天然生北限カラマツの特性と保存-幻のカラマツをみる 97pp. 林木育種協会.
- 248. 亶理町史編纂委員会（編）. 2023. 雑管束植物. 亶理町史 自然編 111-135. 亶理町.
- 249. 茨木 靖・仲村得喜秀・上野雄規. 2023. 宮城県新産タツノヒゲ属（イネ科）植物の検討. 植物研究雑誌 98: 150-155.
- 250. 斉藤憲治・速水裕樹. 2021. 2021. ミズワラビ属 *Ceratopteris* の世界の北限とみられる記録. 伊豆沼・内沼研究報告 15: 25-30.
- 251. 松永和久. 2017. ヒメウス *Semiaquilegia adoxoides*（キンポウゲ科）の新北限地を宮城県大和町で確認. 宮城の植物 (42): 25-27.
- 252. 宮城県野生植物目録編集チーム（編）. 2022. 宮城県野生植物目録2022 151pp. 宮城植物の会.
- 253. 岡本泰典. 2025. 10年を経て宮城の日々を想う-震災復興支援と宮城の植物を振り返って. 宮城の植物 (50): 11-20.
- 254. 宮城県野生植物目録〔電子版〕編集チーム（編）. 2025. 宮城県野生植物目録〔電子版〕2024補遺. 宮城野植物 (50): 70-77.
- 255. 仙台市の植物相調査委員会（編）. 仙台市の植物相調査報告書 標本に基づいた仙台市野生植物目録 309pp.（財）仙台市公園緑地協会.
- 256. 小原黒森風穴調査チーム（編）. 2020. 白石市文化財調査報告書 第61集 小原黒森風穴並びに近隣の風穴における自然とその利用 61pp. 白石市教育委員会.

（執筆：滝口　政彦）

カテゴリー	絶滅（EX）	野生絶滅（EW）	絶滅危惧I類（CR+EN）	絶滅危惧IＡ類（CR）	絶滅危惧IＢ類（EN）	絶滅危惧II類（VU）	準絶滅危惧（NT）	情報不足（DD）	絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	注目目種
-------	--------	----------	---------------	-------------	-------------	-------------	-----------	----------	--------------------	------

イチョウウキゴケ

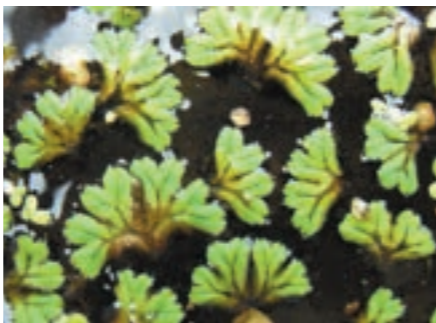
*Ricciocarpos natans*ゼニゴケ目
ウキゴケ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
NT

- 選定理由** 全ての生育地で生育環境の変化により、個体数が著しく減少している。
- 分布の概要** 北海道～沖縄。世界各地に分布する。
- 県内の生育状況** 平野地帯や丘陵地帯の水田などに広く生育するが、耕作放棄や除草剤散布等の影響により、個体数が少なくなっている。
- 形態** 植物体はイチョウの葉状で、光沢のある緑色をしているが、秋ごろから赤紫色を帯びる。長さは1～1.5cm前後で、気室孔が小さいが明瞭で、内部に数層の気室がある。腹鱗片は密につき、紫色をした長いリボン状で、縁に微鋸歯がある。
- 近似種との区別** 近縁のウキゴケ属の種からは、明瞭な気室孔があり、腹鱗片が多列につくことなどで区別される。
- 生育に対する脅威(減少の要因)** 湖沼開発、水質汚濁、農業汚染、管理放棄
- 保護保全上の留意点** 生育地である沼池の適正な水質管理と、水田耕地での適正な管理が必要。
- 主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)



(撮影：横山 正弘)

エゾヤハズゴケ

*Hattorianthus erimonus*クモノスゴケ目
チヂレヤハズゴケ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
-

- 選定理由** 生育地は局限されており、生育環境の悪化により、個体数が著しく減少している。
- 分布の概要** 北海道～九州、中国、韓国、極東ロシアに分布する。
- 県内の生育状況** 丘陵地帯等のコナラ林内の湿土上に生育するが、森林伐採の影響で生育不良となり、各地で個体数が少なくなっている。
- 形態** 植物体は淡緑色～鮮緑色。葉状で長さ5cm、幅5mm前後。葉状体の中肋部内に、2本の中心束がある。腹鱗片は長毛状。雌苞膜は鱗片状。
- 近似種との区別** クモノスゴケに似るが、中肋部内に2本の中心束があることで区別される。
- 生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、自然遷移
- 保護保全上の留意点** 森林内の立ち入れない立地にあるため、現状のままで良い。
- 主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)



(標本写真：横山 正弘)

シフネルゴケ

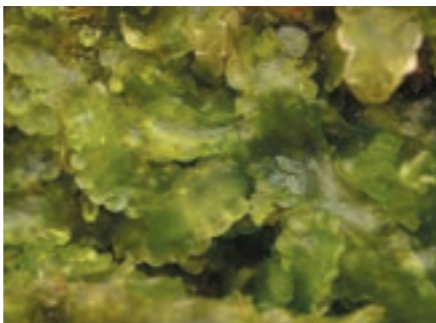
*Schiffneria hyalina*ツボミゴケ目
ヤバネゴケ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
-

- 選定理由** 生育地は局限されており、生育環境の変化により、個体群の生育範囲が狭まり、個体数も著しく減少している。
- 分布の概要** 本州～沖縄、東アジア、東南アジア、ヒマラヤに分布する。
- 県内の生育状況** 丘陵地帯や山地帯のモミヤキタゴヨウ林内の腐木上に生育するが、乾燥化や低木の繁茂などから、個体数が少なくなっている。
- 形態** 植物体は葉が茎にゆるく重なってほとんど縦につくので、葉状体のように見える。葉は半円形で、円頭で全縁。腹葉はない。
- 近似種との区別** シフネルゴケ属の種は、日本では本種のみ。日本産のヤバネゴケ科の種からは、茎が背腹に扁平で、葉状体のように見えることで区別される。
- 生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、自然遷移
- 保護保全上の留意点** 生育地は、植物群落保護林、国立公園として保護・保全されているが、来訪者へのさらなる啓発活動が必要。
- 主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)



(撮影：左木山 祝一[撮影地：京都府])

エゾヒメヤバネゴケ

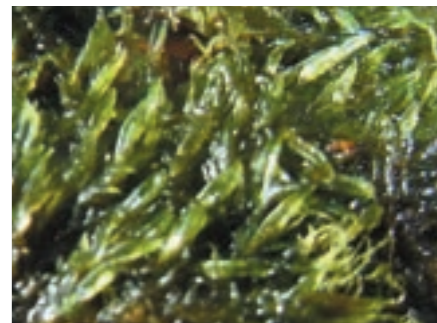
*Hygrobiella laxifolia*ツボミゴケ目
カサナリゴケ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
-

- 選定理由** 生育地は局限されており、生育環境の変化により、個体数が著しく減少している。
- 分布の概要** 北海道～九州、東アジア、ヨーロッパ、北アメリカの冷温帯に広く分布する。
- 県内の生育状況** 山地帯の溪谷の岩上等に生育するが、生育地が限られており、個体数も少ない。
- 形態** 植物体は緑褐色で、長さ3～10mm、先端が立ち、下部からは鞭枝が生じる。葉は離れし、長卵形で葉先が1/4までV字状に2裂し、裂片の先端が尖る。腹葉は葉とほぼ同じ大きさ。
- 近似種との区別** 西日本に分布するニシムラヤバネゴケとは、腹葉があり葉に翼がないことで区別される。
- 生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、自然遷移
- 保護保全上の留意点** 生育地は、国立公園や県立自然公園として保護・保全されているため、現状のままで良い。
- 主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)



(撮影：横山 正弘)

ユキミイチョウゴケ

*Mesoptychia heterocolpos*ツボミゴケ目
ツボミゴケ科

情報不足 (DD)

2016
-環境省
CR

- 選定理由** 生育地は1ヶ所で、周辺森林の伐採による生育環境の著しい変化から、現在生育が確認されていないため、絶滅が危惧される。
- 分布の概要** 釧路(北海道)、八ヶ岳(山梨県)、南アルプス(長野県)、白山(石川県)、ヨーロッパ、北アメリカの北極周辺、中国などに分布する。
- 県内の生育状況** 現在、白石市の風穴地から生育が確認できず、現状不明である。
- 形態** 植物体は黄褐色で、長さ1.5cm。葉はやや長く1/5～1/4まで浅く2裂する。腹葉は舌状で2裂し、基部に鋸歯がある。植物体上部は細く伸びて、先端部の葉先に1～2細胞性で楕円形をした無性芽をつける。
- 近似種との区別** 近似種からは、植物体の上部が細く伸びて、先端部の葉先に無性芽をつけることで区別される。
- 生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採
- 主要文献番号** 16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)



(標本写真：横山 正弘[服部植物研究所所蔵])

ヨコグラハネゴケ

*Plagiochila parvifolia*ツボミゴケ目
ハネゴケ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
-

- 選定理由** 本県は分布の北限。生育地は局限されており、生育環境の悪化により、個体数が著しく減少している。
- 分布の概要** 本州(宮城県以南)～沖縄、東アジア、北アメリカ東部に分布する。
- 県内の生育状況** 丘陵地帯や島嶼の森林の樹幹上に生育するが、森林伐採等による影響により、個体数が少なくなっている。
- 形態** 植物体は黄緑褐色で、長さ2～5cm。葉は三角形で著しく折れやすい。背縁は外曲し1～2歯があり、背縁基部が長く流下する。
- 近似種との区別** 他のハネゴケ科の種とは、葉が折れやすいので完全な葉がほとんどないという、顕著な特徴によって区別される。
- 生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、ニホンジカ食害
- 保護保全上の留意点** 生育地は、国立公園や県環境保全地域として保護・保全されているため、現状のままで良いが、生育環境の変化に注意する必要がある。
- 主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)



(撮影：道盛 正樹[撮影地：兵庫県])

シゲリゴケ

*Cheilolejeunea trapezia*クラマゴケモドキ目
クサリゴケ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
-

■**選定理由** 本県は分布の北限。生育地は1ヶ所で、極めて局限されており、生育環境の悪化により、個体数が著しく減少している。

■**分布の概要** 本州(宮城県以南)～沖縄、小笠原、東南アジア～ニューギニアに分布する。

■**県内の生育状況** 島嶼の森林の樹幹に生育するが、生育地がごく限られており、個体数が少なくなっている。

■**形態** 植物体は灰緑色で1～4cm、着生基物をはう。葉の腹片は背片の1/2の長さで、先端に1細胞幅で2～4細胞の長さの歯牙が1本ある。油体は1細胞に2個で、ブドウ房状。

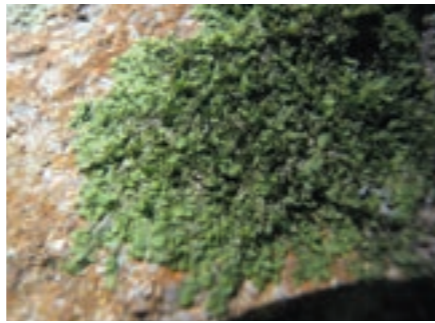
■**近似種との区別** オガサワラシゲリゴケに似るが、腹片の歯牙(2～4細胞長)の他、小さな葉のついた小枝が無く、背片の縁が内曲しないことで区別される。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 産地局限、ニホンジカ食害

■**保護保全上の留意点** 生育地は、国立公園内にあり、保護・保全されているが、ニホンジカによる周辺林床植物への採食圧が高く、生育環境が変化しているため、注意する必要がある。

■**主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)



(撮影：道盛 正樹[撮影地：兵庫県])

ナカジマヒメクサリゴケ

*Cololejeunea nakajimae*クラマゴケモドキ目
クサリゴケ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU環境省
-

■**選定理由** 生育環境の悪化により、全ての個体群で、個体数が大幅に減少している。

■**分布の概要** 本州(主に日本海側)に分布する。日本固有種。

■**県内の生育状況** 山地帯の沢沿いなど、空中湿度の高い立地に生育する、ハイイヌガヤ等の葉上に着生して生育するが、個体数が少ない。

■**形態** 植物体は長さ0.5～1cm前後で匍匐し、不規則に分枝する。葉は腹片と背片からなり、背片の背側の細胞に1個の乳頭状突起をもつ。腹片の表面は平滑で、基部に1～2細胞の糸状のステルスがある。

■**近似種との区別** 同属の他の種とは、腹片の腹面側が平滑で、ステルスが1～2細胞層、葉の乳頭の高さが、5～7μmであることなどで区別される。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、自然遷移

■**保護保全上の留意点** 生育地は、国立公園や県立自然公園内にあるが、登山道沿いに生育しているものでは、刈取り管理がなされているので、配慮が必要である。

■**主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)



(撮影：横山 正弘)

ヤマナカヨウジョウゴケ

*Cololejeunea ornata*クラマゴケモドキ目
クサリゴケ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU環境省
-

■**選定理由** 生育地の全ての個体群は極めて小さく、生育環境の悪化により、個体数が大幅に減少している。

■**分布の概要** 本州～沖縄に広く分布する。

■**県内の生育状況** 丘陵地帯のコナラ林内の岩上に生育する、シダ植物や蘚類の葉上に着生しているが、森林伐採の影響で生育不良となり、各地で個体数が少なくなっている。

■**形態** 植物体は長さ1～3mm前後で茎がはい、不規則に分枝する。葉は腹片と背片からなり、ともに表面に乳頭状突起があり、背片の先端が内曲する。腹片基部のステルスは、多細胞性で棍棒状。

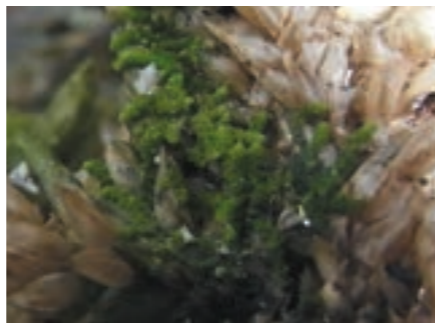
■**近似種との区別** 近似種とは、腹片の腹面側に乳頭状突起があり、ステルスが多細胞性で棍棒状であることで区別される。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、土地造成

■**保護保全上の留意点** 生育地は、国立公園、保存緑地や城址公園などとなり、保護・保全されているが、生育地周縁域の改変を避ける必要がある。

■**主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)



(撮影：横山 正弘)

ヨウジョウゴケ

*Cololejeunea trichomamis*クラマゴケモドキ目
クサリゴケ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
NT

■**選定理由** 本県は太平洋側分布の北限。生育地は局限されており、生育環境の悪化により、個体数が著しく減少している。

■**分布の概要** 本州～沖縄、東アジア～東南アジアに分布する。

■**県内の生育状況** 島嶼の森林の樹幹に生育するが、生育地がごく限られており、個体数も少ない。

■**形態** 植物体は白緑色で長さ10mm前後。葉の背片は卵形で円頭。腹片は背片の約2/5の長さで卵形、先端が切頭で2個の小さな歯牙がある。葉細胞は薄膜で、トリゴン(細胞膜の隅にある肥厚)が大きい。

■**近似種との区別** 西日本に分布する近縁種のイボケクサリゴケとは、葉の背辺が背側に偏向せず立ち上らないこと、幅が基部で最大であることなどで区別される。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 産地局限、ニホンジカ食害

■**保護保全上の留意点** 生育地は、国立公園内にあり、保護・保全されているが、ニホンジカによる周辺林床植物への採食圧が高く、生育環境が変化しているため、注意する必要がある。

■**主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)



(撮影：道盛 正樹[撮影地：三重県])

ナンヨウサンカクゴケ

*Drepanolejeunea ternatensis*クラマゴケモドキ目
クサリゴケ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU環境省
-

■**選定理由** 本県は分布の北限。生育範囲が極めて狭く、個体数に大幅な減少が見られることから、絶滅の危険が増大している。

■**分布の概要** 本州(宮城県以南)～沖縄、台湾、東南アジア、オーストラリアに分布する。

■**県内の生育状況** 島嶼の林内の岩上等に生育するが、個体数が極めて少なくなっている。

■**形態** 植物体は黄緑色で、長さ5mmと極めて小さい。葉の背片は長卵形で、葉先が著しく鎌状に曲がり、先端が鋭尖頭で背縁に大きな鋸歯がある。腹片は背片の1/2の長さで強く膨らむ。腹葉は離在して深く2裂する。

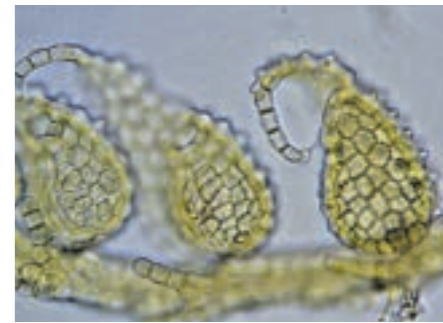
■**近似種との区別** サンカクゴケに似るが、葉が著しく鎌状に曲がり、先端が鋭くとがることで区別される。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** ニホンジカ食害、自然遷移

■**保護保全上の留意点** 生育地は、国立公園内にあり、保護・保全されているが、ニホンジカによる周辺林床植物への採食圧が高く、生育環境が変化しているため、注意する必要がある。

■**主要文献番号** 14、15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)



(標本写真：佐伯 雄史[大阪府産])

マルバヒメクサリゴケ

*Myriocoleopsis minutissima*クラマゴケモドキ目
クサリゴケ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU環境省
-

■**選定理由** 本県は国内分布の北限。生育環境の悪化により、個体数が大幅に減少している。

■**分布の概要** 本州(宮城県以南)～沖縄、小笠原、北半球の温帯に分布する。

■**県内の生育状況** 丘陵地帯のコナラ樹幹などに着生するが、森林伐採等による影響で個体数が少なくなっている。

■**形態** 植物体は長さ0.5～1cm前後で茎がはい、不規則に分枝する。背片は円形で円頭。腹片は背片の3/4以上の大きさで、卵形の先端に1～3細胞の2歯牙がある。細胞膜は厚くトリゴン(細胞膜の隅にある肥厚)がない。

■**近似種との区別** 類似するヒメクサリゴケ属の種とは、腹片が背片の3/4以上の長さで大きく、トリゴンがないことなどで区別される。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、土地造成

■**保護保全上の留意点** 生育地は、社寺林、県環境保全地域等として保護・保全されているところも多いので、現状のままで良い。

■**主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)



(撮影：横山 正弘)

クラマゴケモドキ

Porella perrottetiana

クラマゴケモドキ目
クラマゴケモドキ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN

環境省
-

- 選定理由** 生育地は局限されており、生育環境の悪化により、個体数が著しく減少している。
- 分布の概要** 本州～沖縄、東アジア～ヒマラヤ、インドに分布する。
- 県内の生育状況** 丘陵地帯のコナラ林内の岩上に生育するが、森林伐採の影響により、個体数が少なくなっている。
- 形態** 植物体は暗緑色で、長さ5～10cmと大きく、定期的に1～2回羽状に分枝する。背片は内曲せず鋭尖で、先端部に数個の長歯があり、腹片と腹葉にも全周に長歯がある。
- 近似種との区別** 同属の他種からは、背片が内曲せず、葉の長歯が先端部のみにあること、腹片と腹葉の全周にも長歯があることなどで区別される。
- 生育に対する脅威（減少の要因）** 森林伐採
- 保護保全上の留意点** 生育地は、車道や登山道が整備され人の出入りも多いので、啓発活動が必要。
- 主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会)



(撮影：左木山 祝一〔撮影地：京都府〕)

フナガタミズゴケ

Sphagnum imbricatum

ミズゴケ目
ミズゴケ科

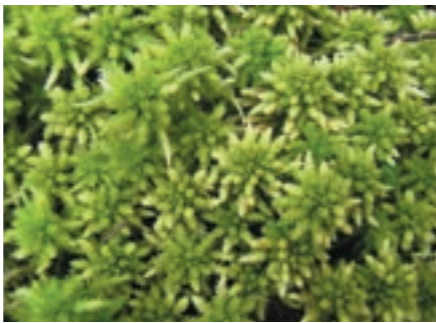
絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
DD

環境省
-

- 選定理由** 生育地は1ヶ所で、極めて狭い範囲に生育しており、危機的水準にまで減少している。
- 分布の概要** 北海道～本州、中国、インド、朝鮮半島、コーカサス、ヨーロッパ、アメリカに分布する。
- 県内の生育状況** 仙台市青葉区の丘陵地帯の湿地に生育するが、生育量が極めて少ない。
- 形態** 大形のミズゴケで、茎が細く、枝や葉がまばらにつく。茎葉は舌形。枝葉は卵状楕円形で深くくぼみ、長さ1.2～1.7mm。葉緑細胞は、葉の横断面で正三角形で腹面側に広く開き、葉緑細胞に接する透明細胞の側壁に櫛の歯状の突起がある。
- 近似種との区別** ミズゴケ節の他の種からは、大形で茎の表皮細胞にらせん状の肥厚があることで似るが、枝葉の横断面で葉緑細胞に接する透明細胞の側壁に、櫛の歯状の突起があることなどで区別される。
- 生育に対する脅威（減少の要因）** 土地造成、園芸採取
- 保護保全上の留意点** 地域住民による保護活動が行われているが、生育量がわずかなことから、より一層の啓発活動や監視の強化などの対応が必要。
- 主要文献番号** 1、15、16、17、18、20

(執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会)



(撮影：横山 正弘)

コアナミズゴケ

Sphagnum microporum

ミズゴケ目
ミズゴケ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN

環境省
-

- 選定理由** 丘陵地帯の開発により生育地が減少し、個体数も園芸用材料として採取されていることから、著しく減少している。
- 分布の概要** 北海道～九州、朝鮮半島、中国に分布する。
- 県内の生育状況** 丘陵地帯や山地帯の湿地に生育するが、各生育地とも個体数が少なく、石巻市では生育が確認できない。
- 形態** 茎葉は舌形で、先端が円頭。縁に狭い舷(他の細胞から分化した細胞の帯)がある。枝葉は卵形で深くくぼみ、鎌状に片方に曲がっている。枝葉の透明細胞の背面側には、縁に沿って数多くの小さい孔が、不連続に列をつくる。
- 近似種との区別** シタミズゴケなどからは、茎葉の縁にある舷が狭く、下部で広がらないことなどで区別される。
- 生育に対する脅威（減少の要因）** 土地造成、園芸採取
- 保護保全上の留意点** 丘陵地帯では太陽光発電施設などが設置されており、また園芸利用による採取もあることから、啓発活動が必要。
- 主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会)



(標本写真:横山 正弘〔東北大学植物園記念館所蔵〕)

オオミズゴケ

Sphagnum palustre

ミズゴケ目
ミズゴケ科

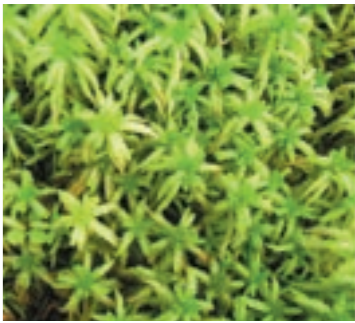
絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN

環境省
NT

- 選定理由** 園芸用材料としての採取及び開発などにより、生育地、個体数共に著しく減少している。
- 分布の概要** 北海道～九州、世界に広く分布する。
- 県内の生育状況** 平野地帯から亜高山帯の湿地及び湿原に生育する。七ヶ宿町の低地で、新たに生育を確認した。低地にある生育地では、宅地開発や園芸用材料として採取されていることから、消滅及び個体数が少なくなっている。
- 形態** 茎は長さが10cm以上になり、頂端部に多くの枝が集まってつく。茎の表皮細胞には、らせん状の肥厚がある。茎葉は舌形で長さ2mm前後、枝葉では卵状楕円形で深くくぼみ、長さ1.5～2mm。葉緑細胞は、葉の横断面で二等辺三角形をしており、腹面側に広く開く。
- 近似種との区別** ミズゴケ節の他の種からは、枝葉の葉緑細胞と接する透明細胞の側壁面に乳頭がなく、平滑であること、葉緑細胞が枝葉の横断面で腹面側に底辺があることなどで区別される。
- 生育に対する脅威（減少の要因）** 森林伐採、湿地開発、土地造成、園芸採取
- 保護保全上の留意点** 自然公園内でも園芸用材として採取されることが多いので、より一層の監視と啓発活動が必要。
- 主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会)



(撮影：横山 正弘)

シタミズゴケ

Sphagnum subobesum

ミズゴケ目
ミズゴケ科

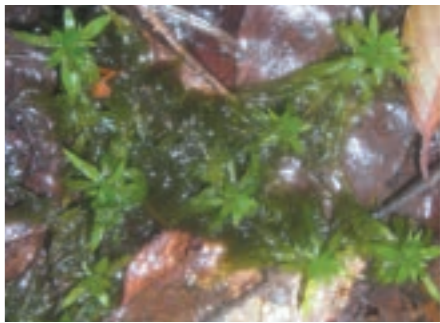
絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN

環境省
-

- 選定理由** 生育地は局限されており、生育環境の悪化と園芸用材料として採取されていることから、個体数が著しく減少しており、絶滅が危惧される。
- 分布の概要** 北海道～本州に分布する。
- 県内の生育状況** 平野地帯及び山地帯の湿地に生育する。各生育地では、森林伐採による乾燥化と園芸用材料としての採取により、個体数が少なくなっている。
- 形態** 黄緑色をしたやや大形のミズゴケ。枝葉は長さ1.5～2mm、広卵形で深くくぼむが歪まない。茎葉は1mm前後の舌状で、透明細胞の腹面側に多数の孔がある。茎の皮層は1～2層。
- 近似種との区別** ヒラハミズゴケとは、茎葉の透明細胞の腹面側に多数の孔があり、また、茎の皮層が1～2層であることで区別される。
- 生育に対する脅威（減少の要因）** 森林伐採、園芸採取
- 保護保全上の留意点** 自然公園内でも園芸用材として採取されることが多いので、より一層の監視と啓発活動が必要。
- 主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会)



(撮影：横山 正弘)

オキナスギゴケ

Polytrichum strictum

スギゴケ目
スギゴケ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU

環境省
DD

- 選定理由** 生育地は1ヶ所で、極めて狭い範囲に生育しており、個体数も減少している。
- 分布の概要** 北海道～本州中部、朝鮮半島、中国、シベリア、ヨーロッパ、北アメリカ、グリーンランド、パタゴニア、南極大陸に分布する。
- 県内の生育状況** 山地帯の特殊な環境にある風穴地に生育するが、周辺森林の伐採等による影響で、個体数が少なくなっている。
- 形態** 植物体は直立し、茎の長さが3～8cm、葉が3～5mmと短く、茎のほとんどがフェルト状の灰色の仮根で覆われている。
- 近似種との区別** スギゴケとは、フェルト状の仮根以外に葉が短いこと、乾燥時に茎に強く接着することなどで区別される。
- 生育に対する脅威（減少の要因）** 森林伐採、自然遷移
- 保護保全上の留意点** 風穴地の維持管理及び見学者への注意喚起が必要。
- 主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会)



(撮影：横山 正弘)

クマノチョウジゴケ

*Buxbaumia minakatae*キセルゴケ目
キセルゴケ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU環境省
-

(撮影：市ノ渡 彰)

- 選定理由** 全国的に稀な種で、県内でも生育地が少ない希少種。生育環境の変化により、生育地、個体数共に大幅に減少している。
- 分布の概要** 北海道～四国、朝鮮半島、中国、シベリア、北アメリカ東部に分布する。
- 県内の生育状況** 丘陵地帯及び山地帯の森林内の腐木上に生育する。大崎市や七ヶ宿町では、管理放棄により低木が繁茂しており、生育が確認できない。
- 形態** 配偶体の葉や茎が退化し、孢子体だけが目立つ。蒴柄は長さ2～3mm、蒴が長さ3～5mmで稜がなく、ほぼ円筒形。
- 近似種との区別** ウチワチョウジゴケとは、腐木上に生育し、蒴に稜がなく円筒形で、扁平にならないことで区別される。
- 生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、管理放棄
- 保護保全上の留意点** 県立自然公園や保安林等に生育することから、来訪者への啓発活動が必要であるが、保護対策などは特に必要ない。
- 主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)

クマノゴケ

*Diphyscium lorifolium*イクビゴケ目
イクビゴケ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
DD

(撮影：横山 正弘)

- 選定理由** 生育地は局限されており、生育環境の悪化により、個体数が著しく減少している。
- 分布の概要** 本州～九州、朝鮮半島、中国、カシミールに分布する。
- 県内の生育状況** 丘陵地帯と山地帯にある、森林内の沢沿の湿岩上に生育するが、森林伐採や土地造成等により、生育地及び個体数共に少なくなっている。
- 形態** 植物体は暗緑色で、葉がひも状に長く伸び、長さ6～12mmで、乾くと内側に巻く。中肋は葉身の大部分を占め、横断面が楕円形。蒴は長さ5mmほどで非相称。
- 近似種との区別** カシミールクマノゴケに似るが、葉は乾いてもあまり縮れず、中肋の両側の葉身部分が、基部だけに認められることで区別される。
- 生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、土地造成、自然災害
- 保護保全上の留意点** 生育地の一部は、県立自然公園及び県緑地環境保全地域として保護・保全されているが、来訪者へのさらなる啓発活動が必要。
- 主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)

キヌシツポゴケモドキ

*Brachydontium trichodes*ギボウシゴケ目
チヂレゴケ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU環境省
DD

(標本写真：小林 亮平[石川県産])

- 選定理由** 生育地は1ヶ所で、個体群が極めて小さく、生育環境の変化により、絶滅の危険が増大している。
- 分布の概要** 北海道～本州、中国、ヨーロッパ、北アメリカに分布する。
- 県内の生育状況** 山地帯の特殊な環境にある風穴地に生育するが、面積が極めて小さな岩上に生育しており、個体数も少ない。
- 形態** 植物体は長さ1mm以下と微小で、密に葉をつける。葉は細く、長さ1～1.6mm。蒴は卵形で直立し、明瞭な縦の溝があり、乾くと深くしわよる。蒴歯は短いが、口環が良く分化する。
- 近似種との区別** オリニックゴケとは、蒴が葉の上に抜き出て卵形で、縦に溝があり、先端が切形の短い蒴歯があることなどで区別される。
- 生育に対する脅威(減少の要因)** 人の踏みつけ、自然遷移
- 保護保全上の留意点** 風穴地の維持管理及び自然愛好家への注意喚起が必要。
- 主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)

ヤマトハクチョウゴケ

*Campylostelium brachycarpum*ギボウシゴケ目
チヂレゴケ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
NT環境省
NT

(撮影：横山 正弘)

- 選定理由** 生育地は局限されており、生育環境の変化により、生育地、個体数共に減少している。
- 分布の概要** 本州～九州、北アメリカ東部に分布する。
- 県内の生育状況** 島嶼や沿岸部、丘陵地帯及び山地帯の森林内の岩上に生育する。生育が確認できない沿岸部や山地帯の生育地では、震災や津波被害により、絶滅した可能性が高い。
- 形態** 高さ1～2mm。葉は線形で長さ1～1.5mmで、中肋が葉頂に達する。蒴柄は白鳥の首のように湾曲する。蒴歯は赤褐色で線形。
- 近似種との区別** ハクチョウゴケに似るが、蒴歯が単一で2裂せず、蒴歯の間隔が広いことで区別される。
- 生育に対する脅威(減少の要因)** 土地造成、自然災害、自然遷移
- 保護保全上の留意点** 生育地は、県立自然公園や自然植物園として保護・保全されているが、来訪者へのさらなる啓発活動が必要。
- 主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)

ヒメキンシゴケ

*Ditrichum macrorhynchum*キンシゴケ目
キンシゴケ科

情報不足 (DD)

2016
DD環境省
-

(標本写真：横山 正弘[東北大学植物園記念館所蔵])

- 選定理由** 仙台市(基準産地)から記録があるが、現在生育が確認されていない。
- 分布の概要** 本州～沖縄に分布する。
- 県内の生育状況** 現在、仙台市から生育が確認できず、現状不明である。
- 形態** 植物体は小形で長さ7～20mm。葉は幅広い基部から狭披針形に漸尖し、長さ1～2mmで葉縁が狭く反曲する。葉の細胞は基部で矩形～線形。蒴は円筒形で直立。仮根の上に無性芽をつくる。
- 近似種との区別** イトキンシゴケとは、葉縁が狭く反曲し、葉が乾くと開出することで区別される。
- 生育に対する脅威(減少の要因)** 土地造成
- 主要文献番号** 13、15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)

チャボナガダイゴケ

*Trematodon asanoi*ブルッフゴケ目
ブルッフゴケ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
-

(作画：横山 正弘)

- 選定理由** 高地の湿潤な立地に生育するが、分布が局限されており、生育環境の悪化により、個体数が著しく減少している。
- 分布の概要** 本州、九州、北アメリカに分布する。
- 県内の生育状況** 蔵王山等の亜高山帯の登山道沿いの湿潤地に生育するが、登山者による踏みつけ等で少なくなっている。
- 形態** 小形で茎の長さは3～6mm。葉は密につき、幅広い鞘部から急に中肋が針状に伸びる。蒴柄は黄色で長さ5mm程度。蒴は褐色で長さ2mm前後、頸部は壺とほぼ同じ大きさ。
- 近似種との区別** キンシナガダイゴケに似るが、蒴がやや傾き、蒴柄が長さ5mm程度と短く、鞘部の肩の細胞が薄壁であることで区別される。
- 生育に対する脅威(減少の要因)** 道路建設(登山道整備)、人の踏みつけ
- 保護保全上の留意点** 生育地は、国定公園内にあるが、登山道沿いの湿潤地に生育するので、立ち入り制限や登山者への注意喚起が必要。
- 主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)

オオカサゴケ

Rhodobryum giganteum

ハリガネゴケ目
ハリガネゴケ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-



(撮影：横山 正弘)

- 選定理由** 生育地は局限されており、生育環境の悪化による減少が顕著で、一部個体群で絶滅の危険性が高い。
- 分布の概要** 本州～沖縄、朝鮮半島、中国、熱帯アジア、ハワイ、マダガスカルに分布する。
- 県内の生育状況** 山地帯のハンノキ林下の湿地等に生育する。森林伐採等により、個体数が少なくなっている。
- 形態** 植物体は長さ6～8cm、茎頂に大形で濃緑色の葉が集まり、湿ると傘を広げたような形になる。葉の上半の縁には、対になった鋭い歯が並んでいる。葉身細胞は六角形。
- 近似種との区別** カサゴケモドキに似るがより大きく、葉縁に双生する歯をもつことで区別される。
- 生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、管理放棄
- 保護保全上の留意点** 治山工事に伴う森林伐採などにより、減少・消滅する恐れがあることから、より一層の監視が必要。
- 主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)

カサゴケモドキ

Rhodobryum ontariense

ハリガネゴケ目
ハリガネゴケ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
NT



(撮影：加藤 啓子)

- 選定理由** 生育地は局限されており、生育環境の悪化により、一部個体群が消滅する可能性がある。
- 分布の概要** 北海道～九州、北半球に広く分布する。
- 県内の生育状況** 丘陵地帯と山地帯のコナラ林及びミズナラ林内に生育する。環境が悪化している生育地では、生育を確認できない。
- 形態** 植物体は1～3cmほどで、葉が傘状になる。傘の部分の葉は20～50枚あり、葉の長さが10mm前後で、葉縁上部に単生の歯がある。葉身細胞は狭い六角形。
- 近似種との区別** オオカサゴケより小形で、葉縁に単生の歯を持つこと、カサゴケとは葉の数がより多いことなどで区別される。
- 生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、管理放棄
- 保護保全上の留意点** 森林伐採などにより、減少・消滅する恐れがあることから、より一層の監視が必要。
- 主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)

カサゴケ

Rhodobryum roseum

ハリガネゴケ目
ハリガネゴケ科

情報不足 (DD)

2016
DD 環境省
-



(標本写真：横山 正弘[東北大学植物園記念館所蔵]
[山形県産])

- 選定理由** 金華山から記録があるが、現在生育が確認されていない。
- 分布の概要** 北海道～四国、ヒマラヤ、ヨーロッパ、北アメリカ西部に分布する。
- 県内の生育状況** 現在、金華山から生育が確認できず、現状不明である。
- 形態** 植物体は1～2cm。傘の部分の葉の数が20枚弱と少なく、葉先が狭く尖り、中肋が普通葉頂に達しない。葉縁の歯は単生。
- 近似種との区別** カサゴケモドキに似るが、傘の部分の葉の数がより少ないことなどで区別される。
- 生育に対する脅威(減少の要因)** 自然遷移
- 主要文献番号** 1、15

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)

テヅカチョウチンゴケ(アズミチョウチンゴケ)

Plagiomnium tezukae

ハリガネゴケ目
チョウチンゴケ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
DD



(撮影：横山 正弘)

- 選定理由** 生育地は局限されており、生育環境が悪化し、個体数が著しく減少している。
- 分布の概要** 北海道～四国、朝鮮半島、中国に分布する。
- 県内の生育状況** 山地帯のアカマツ林、カラマツ植林等の腐葉土が厚く堆積した場所に生育する。奥羽山脈周辺や北上高地の山々で確認されているが、個体数が少ない。
- 形態** 匍匐茎の葉は光沢のある黄緑色で長さ3～6mm、卵形で葉縁に2～3細胞の大きな歯があり、円頭の葉先には短い突起がある。中肋は葉頂部に終わり、葉身細胞が長い六角形で厚壁、ところどころにくびれがある。
- 近似種との区別** オオバチョウチンゴケに似るが、葉縁に2～3細胞の大きな歯があることで区別される。
- 生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、管理放棄
- 保護保全上の留意点** 林内の下層に低木が繁茂し、生育に影響が出ることのないよう、下刈りなどの適正な管理が求められる。
- 主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)

コシノヤバナゴケ

Dichelyma japonicum

ハイゴケ目
カワゴケ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
NT



(撮影：横山 正弘)

- 選定理由** 生育地は局限されており、環境の悪化により、全ての個体群で著しい減少が見られる。
- 分布の概要** 日本固有種で、北海道～本州中部にかけて分布する。
- 県内の生育状況** 山地帯の湿原や溪流沿いにある低木に着生して生育する。栗原市等の湿原などでは、過去に周辺森林が伐採された影響から、水路の流量が減少して乾燥化していることから、個体数が少なくなっている。
- 形態** 植物体は暗黄緑色で、長さ5～10cm。葉はややまばらにつき、長さ4mm。中肋は葉先に達し、中肋部で葉が縦に折りたたまれる。葉縁は反曲し、葉の先端に小歯がある。葉は円筒形で直立する。
- 近似種との区別** クロカワゴケに似るが、水際に生育し葉が披針形で葉縁が反曲すること、葉頂に達する中肋があること、また葉柄がより長いことで区別される。
- 生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、湖沼開発、湿地開発
- 保護保全上の留意点** 生育地は、国定公園、県立自然公園として保護・保全されているが、来訪者へのさらなる啓発活動が必要。
- 主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)

クロカワゴケ

Fontinalis antipyretica

ハイゴケ目
カワゴケ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
NT



(撮影：横山 正弘)

- 選定理由** 生育地は局限されており、生育環境の悪化により、個体数が著しく減少している。
- 分布の概要** 北海道、本州、北半球に広く分布する。
- 県内の生育状況** 丘陵地帯の河川、湧水で涵養される水路などの水中に生育する。大崎市、石巻市では、護岸工事や水路の改修等で個体数が少なくなっている。
- 形態** 植物体は黒緑色を帯び、長さ30cmほどに生長する。葉は長さ3～8mmで広い披針形～卵形で、縦に折りたたまれ、舟形となる。葉は中肋を欠き、葉先が鈍頭で、目立たない鋸歯がある。葉柄は非常に短い。
- 近似種との区別** カワゴケに似るが、葉が縦に折りたたまれることで区別される。
- 生育に対する脅威(減少の要因)** 河川開発、水質汚濁
- 保護保全上の留意点** 河川や水路は、護岸工事や農業用水路として改修されることが多いことから、生育に配慮した工法での施工が必要。
- 主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)

カワゴケ

Fontinalis hypnoides

ハイゴケ目
カワゴケ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN

環境省
NT

■**選定理由** 生育地は局限されており、生育環境の変化により、個体数が著しく減少している。

■**分布の概要** 北海道、本州、北半球に広く分布する。

■**県内の生育状況** 南三陸にある寺院境内の湧水で涵養される池や周辺の水路にのみ生育するが、池等の浚渫等で個体数が少なくなっている。

■**形態** 植物体は柔らかく、葉をまばらにつけ、長さ20cmほどに生長する。葉は平坦で長さ1.5mm、先端が尖り、狭い卵状披針形で全縁。

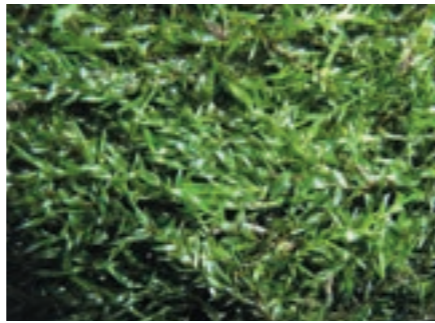
■**近似種との区別** クロカワゴケに似るが、葉は普通平坦で、折りたたまれないことで区別される。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 河川開発、水質汚染、その他

■**保護保全上の留意点** 生育地は適正に管理されているが、池や水路の浚渫と除草など、過度の管理を行わないよう配慮する必要がある。

■**主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会)



(撮影：横山 正弘)

ササオカゴケ (アオモリカギハイゴケ)

Sasaokaea aomoriensis

ハイゴケ目
ヤナギゴケ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN

環境省
NT

■**選定理由** 生育地は局限されており、生育環境の悪化により、個体数が著しく減少している。

■**分布の概要** 本州～九州、韓国(济州島)、台湾に分布する。

■**県内の生育状況** 大崎市にある湿地やその周辺にある休耕田、涌谷町の沼地等に生育する。沼地の改修工事や草本類の繁茂で、個体数が少量となっている。

■**形態** 植物体は大形で、匍匐し長さ10cm。葉は卵形で茎に扁平につき、先端が鋭頭。茎一面に分歧した毛葉がつく。中肋は1本で、葉長の3/4以上に達する。

■**近似種との区別** 近似種とは、茎葉の先端が鎌状に曲がり鋭頭で、中肋が葉先に達せず、細胞が線状で薄壁であることなどで区別される。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 湖沼開発、湿地開発、管理放棄

■**保護保全上の留意点** 生育に配慮した改修工事の実施と、繁茂したヨシ等の定期的な刈取りなど、適切な管理が必要。

■**主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会)



(撮影：横山 正弘)

コハイヒモゴケ

Meteorium buchananii subsp. *helminthocladulum*

ハイゴケ目
ハイヒモゴケ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN

環境省
-

■**選定理由** 生育地は局限されており、生育地、個体数共に著しく減少している。

■**分布の概要** 本州～沖縄、朝鮮半島、中国に分布する。

■**県内の生育状況** 丘陵地帯の岩上や人家付近の石垣上に生育するが、福島県沖地震等の災害により、仙台市の一部で生育が確認できない。

■**形態** 植物体は10cmほどのひも状で、黄緑色で光沢があり、岩上などをはうか垂れ下がる。葉は深くくぼみ、葉先がまっすぐで短く、乾いても縦ひだが不明瞭。葉身細胞中央に、1個の大きい乳頭がある。

■**近似種との区別** ハイヒモゴケに似るが、葉に縦ひだがなく、やや光沢があつて深くくぼみ、葉先がまっすぐで短いことなどで区別される。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 土地造成、自然災害

■**保護保全上の留意点** 生育地は、仙台市の保存緑地や城址公園などとして保護・保全されているが、石垣周縁域の改変を避ける必要がある。

■**主要文献番号** 9、15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会)



(標本写真:横山 正弘[東北大学植物園記念館所蔵])

キヨスミイトゴケ

Neodicladiella flagellifera

ハイゴケ目
ハイヒモゴケ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN

環境省
-

■**選定理由** 本県は分布の北限。生育地は局限されており、生育環境の変化により、生育範囲の減少及び個体数に著しい減少が見られる。

■**分布の概要** 本州(宮城県以南)～沖縄、小笠原、中国、熱帯アジアに分布する。

■**県内の生育状況** 空中湿度の高い立地にある、モミ等の樹幹や枝に着生し生育する。松島町及び東松島市で新たに生育を確認したが、他の生育地では森林内の乾燥化などの影響により、生育範囲が狭められ、個体数も少なくなっている。

■**形態** 植物体は30cmほどで、枝や茎の基部の葉が大きく、糸状に垂れ下がる葉では小形で、鮮緑色をした絹状の光沢がある。葉は長さ2mm、中肋が細く葉の中部に達する。葉身細胞は線形で、中央に1個の乳頭がある。

■**近似種との区別** イトゴケに似るが、葉に中肋があり、葉細胞の乳頭が普通1個であることで区別される。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、自然遷移

■**保護保全上の留意点** 生育地は、植物群落保護林、県立自然公園等として保護・保全されているが、来訪者へのさらなる啓発活動が必要。

■**主要文献番号** 9、15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会)



(撮影：横山 正弘)

ヤリノホゴケ

Calliergonella cuspidata

ハイゴケ目
キノゴケ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU

環境省
-

■**選定理由** 生育地は局限されており、生育環境の悪化により、生育地、個体数共に大幅に減少している。

■**分布の概要** 北海道～九州、アジアの温帯、シベリア、ヨーロッパ、北アメリカ、ニュージーランド、北アフリカに分布する。

■**県内の生育状況** 平野地帯及び丘陵地帯の水田周辺など、湿った場所に生育する。栗原市、七ヶ浜町で生育が確認されたが、他の生育地では、宅地造成等によって消滅及び個体数が少なくなっている。

■**形態** 茎は長さ10cmほどで、短い枝をやや羽状につける。葉は展開せず、枝先では覆瓦状に卵形の葉をつけてまっすぐに尖る。中肋は短く2又する。

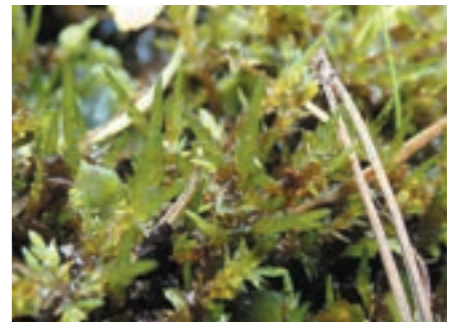
■**近似種との区別** 湿った場所に生育することから、ササバゴケ科の種と似ているが、茎葉の中肋が短く2又することなどで区別される。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 土地造成、管理放棄

■**保護保全上の留意点** 水辺での生育に配慮した改修工事の実施と、繁茂したヨシ等の定期的な刈取りなど、適切な管理が必要。

■**主要文献番号** 1、15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

オオカギイトゴケ

Hisatsugia splendens

ハイゴケ目
ハイゴケ科

情報不足 (DD)

2016
DD

環境省
EN

■**選定理由** 日本固有種で、仙台市青葉区東照宮が基準産地の一つ。現在生育が確認されていないため、絶滅が危惧される。

■**分布の概要** 宮城県と千葉県、茨城県に分布する。

■**県内の生育状況** 現在、仙台市青葉区東照宮から生育が確認できないため、現存しているか不明である。

■**形態** 植物体は匍匐し、長さ8cmほどで、不規則に分枝し、葉を丸くつける。茎葉は楕円状披針形で深くくぼみ、葉縁が全縁で長さ2mm、上部に向かってしだいに細くなる。

■**近似種との区別** サジバラッコゴケとは、茎葉の先が漸尖して長く尖り、葉の縁が全縁であることなどで区別される。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 土地造成、自然遷移

■**主要文献番号** 2、10、11、15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会)



(標本写真:横山 正弘[東北大学植物園記念館所蔵])

コウライイチイゴケ

Taxiphyllum alternans

ハイゴケ目
キャラハゴケ科

準絶滅危惧 (NT)	
2016 CR+EN	環境省 -



(撮影：横山 正弘)

- **選定理由** 水辺環境の悪化で、生育地、個体数共に減少している。
- **分布の概要** 本州～九州、朝鮮半島、中国、極東ロシア、北アメリカ東部に分布する。
- **県内の生育状況** 平野地帯の水辺を中心に広く分布するが、湖沼開発や河川改修などで産地が減少しており、個体数も少なくなっている。
- **形態** 植物体は5cm前後ではい、不規則に分枝する。葉はゆるく茎についてあまり重ならず、乾いても展開したままで、短く尖った葉先が下方を向く。葉は卵形ないし広卵形でくぼみ、多くが非相称、葉縁には細かい歯がある。
- **近似種との区別** アオモリサナダゴケとは、葉がゆるく茎についてあまり重ならず、大きくて長さ2～4mm、水辺に生育することで区別される。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 湖沼開発、河川開発
- **保護保全上の留意点** 生育している平野部の池沼では、農業用水池としてコンクリート構造物で改修されることが多いため、環境に配慮した改修が必要。
- **主要文献番号** 15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)

ヒヨクゴケ

Hylocomiastrum umbratum

ハイゴケ目
イワダレゴケ科

情報不足 (DD)	
2016 DD	環境省 -



(作画：横山 正弘)

- **選定理由** 泉ヶ岳から採集された標本や不忘山(御前岳)から記録があるが、現在生育が確認されていない。
- **分布の概要** 北海道～本州、ロシア、中国、ヨーロッパ、北アメリカなどに分布する。
- **県内の生育状況** 現在、泉ヶ岳、不忘山から生育が確認できず、現状不明である。
- **形態** 植物体は暗緑色で頑丈で大形。茎は斜上し、不規則に枝を出す。茎葉は三角形で葉縁に細かい歯があり、先が長く尖り鎌形となる。枝葉は広卵形で、葉縁全周に荒い歯がある。中肋は2本で弱く、葉の中央で終わる。
- **近似種との区別** シノブヒバゴケとは、茎葉の先端が長く尖り、中肋が2本であることで区別される。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 自然遷移
- **主要文献番号** 1、15

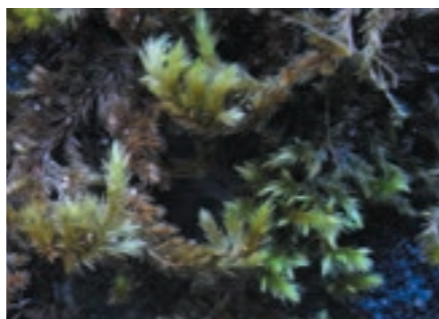
(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)

ヒムロゴケ

Pterobryon arbuscula

ハイゴケ目
ヒムロゴケ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)	
2016 CR+EN	環境省 -



(撮影：横山 正弘)

- **選定理由** 自然災害等により一部生育地が消失し、他の生育地でも個体数が減少している。
- **分布の概要** 北海道～沖縄、朝鮮半島、中国に分布する。
- **県内の生育状況** 樹幹、岩、石垣に着生する種で、金華山では個体数が少なくなっている。記録がある仙台市では、確認できていない。
- **形態** 大形で第一次茎は細く基物上をはい、第二次茎が立ち上がるか垂れ下がり、規則正しく2回羽状に分枝する。枝葉は2mm前後で縦じわがあり、先端が鋭く尖る。中肋は葉の3/4に達する。葉先縁には大形の鋭い歯がある。
- **近似種との区別** ヒムロゴケ科の他属の種からは、第二次茎が多く枝を羽状に出し、葉が披針形に長く伸びてあまりくぼまず、中肋が長いことなどで区別される。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 土地造成、自然災害
- **保護保全上の留意点** 生育地の一つの島嶼は、国立公園として保護・保全されているので、現状のままで良い。
- **主要文献番号** 9、15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)

フクラゴケ(ナワゴケ)

Eumyurium sinicum

ハイゴケ目
ナワゴケ科

情報不足 (DD)	
2016 DD	環境省 -



(標本写真：横山 正弘[東北大学植物園記念館所蔵][福島県産])

- **選定理由** 本県は分布の北限。金華山から記録があるが、現在生育が確認されていない。
- **分布の概要** 本州(宮城県以南)～沖縄、朝鮮半島、中国、台湾、フィリピンに分布する。
- **県内の生育状況** 現在、金華山から生育が確認できず、現状不明である。
- **形態** 植物体は5cmほどで、主茎が長くはい、第二次茎が多数生じて斜上する。葉は覆瓦状について、枝がなわ状になる。葉は広卵形で舟形に深くくぼみ、縦ひだがある。葉先は急に細く尖り、ほぼ全縁。
- **近似種との区別** 宮城県以南に分布するカクレゴケに似るが、小形で葉が乾くと茎に接着し、葉縁がほぼ全縁で、葉柄が10mmと長いことで区別される。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 自然遷移
- **主要文献番号** 9、15、16、17、18

(執筆：宮城県希少野生動物植物保護対策検討会植物分科会)

ミズスギ

Lycopodiella cernua

ヒカゲノカズラ科

絶滅 (EX)	
2016 EX	環境省 -



(生態写真：横山 正弘 標本写真：植物分科会調査員[東北大学植物園記念館所蔵])

- **選定理由** 噴気孔に生育していたが、周辺で地熱発電が行われたり、地殻変動のため噴気が無くなり、環境が寒冷になり生育不能となり絶滅した。
- **分布の概要** 本州の伊豆半島・東海地方から沖縄まで分布、東北・北海道にも例外的に分布している。世界の熱帯・亜熱帯に分布する暖地性植物である。
- **県内の生育状況** 大崎市鳴子地域の噴気孔地帯の一年中暖かい場所に生育していた。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 地熱発電、自然災害など
- **主要文献番号** 108

(執筆：植物分科会)

チシマヒカゲノカズラ

Lycopodium alpinum

ヒカゲノカズラ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)	
2016 CR+EN	環境省 EN



(撮影：市ノ渡 彰[撮影地：山形県])

- **選定理由** 生育地は国立公園内の数ヶ所で、分布は局限されている。
- **分布の概要** 北海道・本州(福井県以北)の高山帯に分布している。北半球の温帯に広く分布する。
- **県内の生育状況** 蔵王連峰の高山に稀に生育が見られるだけで、個体数も極めて少ない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 自然遷移、園芸採取など

(執筆：植物分科会)

スギラン

Phlegmariurus cryptomerinus

ヒカゲノカズラ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
VU

■選定理由 生育地は国定公園内の数ヶ所で、分布が局限されている。園芸品として乱獲されている。

■分布の概要 北海道南部・本州・四国・九州・屋久島に分布している。南千島・朝鮮・中国・台湾に分布する。

■県内の生育状況 山地帯のブナなどの樹上に稀に着生している。個体数が減少している。

■生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移、園芸採取など

(執筆:植物分科会)



(撮影:細谷 治夫)

カタヒバ

Selaginella involvens

イワヒバ科

絶滅 (EX)

2016
EX 環境省
-

■選定理由 角田市角田近郊で採集された標本があるだけで、その後生育の確認はない。

■分布の概要 本州(福島県以南)・四国・九州・琉球列島の岩上や樹上に分布している。朝鮮・中国・台湾・熱帯アジアに広く分布する。

■県内の生育状況 角田市が分布の北限とされている。

■生育に対する脅威(減少の要因) 自然災害、園芸採取など

■主要文献番号 42、198、200

(執筆:植物分科会)



(生態写真:石隈 健斗[撮影地:埼玉県] 標本写真:植物分科会調査員[東北大学植物園記念館所蔵])

ミズニラ

Isoetes japonica

ミズニラ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT 環境省
NT

■選定理由 生育地は50ヶ所程度で、農業等の環境汚染、環境悪化に伴い生育地・個体数共に減少している。

■分布の概要 北海道・本州・四国・九州に分布している。朝鮮・中国に分布する。

■県内の生育状況 島嶼を除く地域の水田、池沼に生育する。環境悪化に伴い生育地、個体数が減少している。東日本大震災の津波浸水域で一時的に増加した。

■生育に対する脅威(減少の要因) 農業汚染、水質汚染、干拓、管理放棄など

■主要文献番号 33、57、67、74、75、76、77、78、79、88、99、101、153、175、177、188、212、234、248

(執筆:植物分科会)



(撮影:細谷 治夫)

ミズニラモドキ

Isoetes pseudojaponica

ミズニラ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
VU

■選定理由 生育地は数ヶ所あるが、ミズニラと同様に農業による環境汚染、生育地の環境悪化に伴い、減少率も大きい。

■分布の概要 宮城県以南の本州・四国に分布している。日本固有種。

■県内の生育状況 平野部から丘陵地の池沼、溜池に生育しており、生育地、個体数共に減少している。

■生育に対する脅威(減少の要因) 農業汚染、水質汚染、池沼開発など

(執筆:植物分科会)



(撮影:根本 秀一[撮影地:福島県])

ヒメハナワラビ

Botrychium lunaria

ハナヤスリ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
VU

■選定理由 生育地は国定公園内の1ヶ所に局限され、個体数も極めて少ない。

■分布の概要 北海道・本州(北陸地方以北)の高山帯に分布している。南千島・北半球・オーストラリア・南米に分布する。

■県内の生育状況 蔵王連峰の高山のごく一部に生育が見られるだけで、個体数も極めて少ない。

■生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移、園芸採取など

■主要文献番号 22、33、165

(執筆:植物分科会)



(撮影:藤田 玲[撮影地:北海道])

ヤマハナワラビ

Botrychium multifidum var. *multifidum*

ハナヤスリ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

■選定理由 生育地は数ヶ所で局限され、個体数も少ない。

■分布の概要 北海道・本州(中部地方以北)に分布している。ロシア・ヨーロッパ・北米に分布する。

■県内の生育状況 奥羽山地、北上山地、島嶼の日当たりの良い草原に生育する。

■生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、草原開発など

(執筆:植物分科会)



(撮影:上野 雄規)

トネハナヤスリ

Ophioglossum namegatae

ハナヤスリ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
NT

- 選定理由 本県は分布の北限。平野部の河川域1ヶ所に生育地は局限されている。
- 分布の概要 本州(宮城県・関東地方・大阪府・和歌山県)の河川の氾濫原に生育している。日本固有種。
- 県内の生育状況 仙北の平野部の河川域に群生して生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 河川改修、自然災害、自然遷移など
- 主要文献番号 144、194

(執筆:植物分科会)



(撮影:国京 潤一)

マツバラシ

Psilotum nudum

マツバラシ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
NT

- 選定理由 本県は分布の北限。生育地は国立公園内の2ヶ所で局所的である。
- 分布の概要 本州(宮城県以南)・四国・九州・琉球列島・小笠原に分布している。朝鮮・中国・台湾・東南アジア・オーストラリアの熱帯・亜熱帯に広く分布する。
- 県内の生育状況 南三陸の島嶼にごく稀に少数が生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など
- 主要文献番号 42、100、143、145、208、212

(執筆:植物分科会)



(撮影:根本 秀一[撮影地:福島県])

オニゼンマイ

Osmunda claytoniana

ゼンマイ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
- 環境省
-

- 選定理由 生育地は1ヶ所で局限されている。
- 分布の概要 本州(福島県・関東地方・中部地方)に分布している。ロシア(極東)・朝鮮・中国・南アジア・北米(東部)に分布する。
- 県内の生育状況 山地の湿地などに生え、丸森町で採集された標本がある。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 湿地開発、自然遷移など

(執筆:植物分科会)



(撮影:滝沢 玲子[撮影地:福島県])

ヤシャゼンマイ

Osmunda lancea

ゼンマイ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT 環境省
-

- 選定理由 生育地が10ヶ所程度と限定されている。園芸品として乱獲されている。
- 分布の概要 北海道(日高)・本州・四国・九州に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 溪流の水飛沫を浴びるような所に生育し、生育地も限定され、乱獲されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然災害など
- 主要文献番号 7、8、88、112、130

(執筆:植物分科会)



(撮影:岡崎 キヌ)

アオホラゴケ

Crepidomanes latealatum

コケシノブ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- 選定理由 生育地は1ヶ所に局限されている。
- 分布の概要 本州・四国・九州・琉球列島・小笠原の低地の山林に分布している。朝鮮・中国・台湾・東南アジアの亜熱帯～熱帯地域に分布する。
- 県内の生育状況 岩上や樹上に着生するが、白石市に僅かに生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移など
- 主要文献番号 233

(執筆:植物分科会)



(撮影:上野 雄規)

ホソバコケシノブ

Hymenophyllum polyanthos

コケシノブ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
- 環境省
-

- 分布の概要 本州・四国・九州・琉球列島に分布している。世界の熱帯～暖温帯に広く分布する。
- 県内の生育状況 山地の湿った岩上、樹幹に生え、仙台市と丸森町で生育が確認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取など

(執筆:植物分科会)



(撮影:上野 雄規)

ウラジロ

Diplazium glaucum

ウラジロ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- **選定理由** 本県は太平洋側北限。生育地は1ヶ所で極めて局限され、個体数も極めて少ない。
- **分布の概要** 本州(宮城県以南)・四国・九州・琉球列島に分布している。朝鮮・中国・台湾にも分布する。
- **県内の生育状況** 石巻市の島嶼部に生育している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 自然遷移など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 合田 爽馬 [撮影地: 滋賀県])

デンジソウ

Marsilea quadrifolia

デンジソウ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
EW 環境省
NT

- **選定理由** 最も新しい標本は約50年前の栗原市の池沼の標本である。池沼や水田などの環境悪化によって絶滅した。
- **分布の概要** 北海道・本州・四国・九州の水田や池沼に分布している。朝鮮・中国・ベトナム・ヨーロッパに分布する。
- **県内の生育状況** 3ヶ所の生育地の標本があり、自然条件下では絶滅し、栽培条件下で生育は確認されている。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 池沼開発、水質汚染、農薬汚染など
- **主要文献番号** 19、88、118、135、188、212、216

(執筆: 植物分科会)



(生態写真: 新井 隆介 [撮影地: 岩手県] 標本写真: 植物分科会調査員 [東北大学植物園記念館所蔵])

サンショウモ

Salvinia natans

サンショウモ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT 環境省
NT

- **選定理由** 生育地は30ヶ所近くあるが、減少率の高い所が半数近くある。環境悪化により生育地、個体数ともに減少している。
- **分布の概要** 本州・四国・九州(熊本県以北)に分布している。ロシア・朝鮮・中国・台湾・インド・東南アジア・ヨーロッパに分布する。
- **県内の生育状況** 各地の溜池、湖沼及び水田に生育する。環境悪化により生育地、個体数とも激減している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 池沼改修、水質悪化、農薬汚染、管理放棄など
- **主要文献番号** 73、74、75、76、77、78、88、175、242

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 細谷 治夫)

オオキジノオ

Plagiogyria euphlebia

キジノオシダ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- **選定理由** 本県は分布の北限。阿武隈山地に生育地は1ヶ所に局限されている。
- **分布の概要** 本州(新潟県・宮城県以南)・四国・九州・琉球列島(奄美大島以北)に分布している。朝鮮・中国・台湾・南アジアに分布する。
- **県内の生育状況** 阿武隈山地の林床に生育地は局限されている。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、土地開発など
- **主要文献番号** 236

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 葛西 英明)

ホラシノブ

Odontosoria chinensis

ホングウシダ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- **選定理由** 生育地は1ヶ所で極めて局限されている。
- **分布の概要** 本州(岩手県以南)・四国・九州・琉球列島・小笠原諸島に分布している。アジア・南太平洋・ハワイ・マダガスカルの熱帯に広く分布する。
- **県内の生育状況** 石巻市の島嶼の一部にごく僅かに生育している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 自然遷移、園芸採取など
- **主要文献番号** 143

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 根本 秀一 [撮影地: 福島県])

コバノイシカグマ

Dennstaedtia scabra

コバノイシカグマ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- **選定理由** 本県は分布の太平洋側北限。生育地は1ヶ所で局限されている。
- **分布の概要** 本州(秋田県以南)・四国・九州・屋久島に分布している。朝鮮・中国・台湾・東南アジアに分布する。
- **県内の生育状況** 角田市の一部にごく僅かに生育している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 自然遷移など
- **主要文献番号** 42、228、229

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 藤田 玲 [撮影地: 北海道])

フモトシダ

Microlepia marginata

コバノイシカグマ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
CR+EN環境省
-

- 選定理由 本県の分布は太平洋側北限。生育地は10ヶ所近くあるのでランクを下げた。
- 分布の概要 本州(秋田県以南)・四国・九州・琉球列島に分布している。朝鮮・中国・台湾・南・東南アジアに分布する。
- 県内の生育状況 乾いた林床に生え、県南、仙台市、仙北と広く生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移、土地開発など
- 主要文献番号 193、196、234

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 上野 雄規)

ヒメミズワラビ

Ceratopteris gaudichaudii var. *vulgaris*

イノモトソウ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
-環境省
-

- 選定理由 本県が分布の北限。生育地は1ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
- 分布の概要 本州(山形-宮城以南)、四国、九州、琉球(沖縄島以北)に分布している。アジアの亜熱帯や熱帯に広く分布する。
- 県内の生育状況 松島町の海岸近くの平地の水田に生育。除草剤の散布等で絶滅する恐れがある。
- 近似種との区別 以前はミズワラビだけだったが、本州から九州のものはヒメミズワラビに分けられた。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 産地極限、水田開発、農業汚染など
- 主要文献番号 250

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 細谷 治夫)

リシリシノブ

Cryptogramma crista

イノモトソウ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
-環境省
NT

- 選定理由 本県が太平洋側の南限。生育地は1ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
- 分布の概要 北海道・本州の高山帯に分布している。アジア~ヨーロッパ・北アメリカに分布する。
- 県内の生育状況 奥羽山地の岩場に生育。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移など
- 主要文献番号 36-2

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 藤田 玲 [撮影地: 北海道])

タチシノブ

Onychium japonicum

イノモトソウ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
-環境省
-

- 選定理由 本県が分布の北限。生育地は1ヶ所で局限されている。
- 分布の概要 本州(宮城県以南)・四国・九州・琉球列島(沖縄島以北)・小笠原諸島(父島)に分布している。朝鮮・中国・台湾・東南アジアに分布する。
- 県内の生育状況 東松島市の標本が一点ある。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移など
- 主要文献番号 246

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 大越 秀樹)

イノモトソウ

Pteris multifida

イノモトソウ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT環境省
-

- 選定理由 生育地は30ヶ所近くで限定的である。園芸品として採取される。
- 分布の概要 本州(岩手県以南)・四国・九州・琉球列島(宮古島以北)に分布している。朝鮮・中国・台湾・アジアに広く分布する。
- 県内の生育状況 平野部、丘陵地、島嶼等の石垣などに生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取など
- 主要文献番号 69、196、248

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 三島木 進)

マツザカシダ(マツサカシダ)

Pteris nipponica

イノモトソウ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
-

- 選定理由 本県は分布の北限。生育地は1ヶ所で局所的である。
- 分布の概要 本州(宮城県以南)・四国・九州・琉球列島(沖縄島以北)に分布している。朝鮮・台湾に分布する。
- 県内の生育状況 角田市の一部にごく僅かに生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など
- 主要文献番号 67

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 安達 悦之)

オオバノハチジョウシダ

Pteris terminalis

イノモトソウ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- **選定理由** 本県は分布の太平洋側北限。生育地2ヶ所で局所的である。
- **分布の概要** 本州(秋田県以南)・四国・九州・種子島に分布している。朝鮮・中国・台湾・南アジア・東南アジア・南太平洋・ハワイに分布する。
- **県内の生育状況** 富谷市、利府町の丘陵地のやや湿った林床に生育している。個体数は少ない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、土地開発など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 石隈 健斗 [撮影地: 千葉県])

ウスヒメワラビ

Acystopteris japonica

ナヨシダ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- **選定理由** 生育地は1ヶ所で局限され、個体数も少ない。
- **分布の概要** 本州(宮城県以南)・四国・九州・屋久島に分布している。中国にも分布する。
- **県内の生育状況** 奥羽山地の山地帯の林内に局所的に生育している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、土地開発など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 石隈 健斗 [撮影地: 茨城県])

ウサギシダ

Gymnocarpium dryopteris

ナヨシダ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- **選定理由** 生育地は数ヶ所で、特定の限られた立地にある。生育地、個体数とも少ない。
- **分布の概要** 北海道・本州(岐阜県以北)に分布している。ロシア・朝鮮・中国・西アジア・ヨーロッパ・北米に分布する。
- **県内の生育状況** 奥羽山地の山地帯の特別な立地、風穴に僅かに生育している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 自然遷移、土地開発、園芸採取など
- **主要文献番号** 5、21、22、102、165

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 上野 雄規)

コバノヒノキシダ

Asplenium anogrammoides

チャセンシダ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
- 環境省
-

- **選定理由** 生育地は1ヶ所で、局限されている。
- **分布の概要** 本州(福島県以南)・四国・九州・種子島に分布している。朝鮮・中国・ベトナムに分布する。
- **県内の生育状況** 角田市の丘陵で生育が確認されている。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 自然遷移、土地開発、園芸採取など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 上野 雄規)

コハシゴシダ

Thelypteris angustifrons

ヒメシダ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- **選定理由** 本県が分布の北限。生育地は1ヶ所で局限され、個体数も少ない。
- **分布の概要** 本州(宮城県以南)・四国・九州・琉球列島(沖縄島以北)に分布している。朝鮮(済州島)・中国南部・台湾に分布する。
- **県内の生育状況** 石巻市の島嶼に生育する。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、土地開発など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 石隈 健斗 [撮影地: 千葉県])

ハシゴシダ

Thelypteris glanduligera

ヒメシダ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- **選定理由** 本県が分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所で局限されている。
- **分布の概要** 本州(秋田県・宮城県以南)・四国・九州・琉球列島(与論島以北)に分布している。朝鮮・中国・台湾・フィリピン・インドシナ半島・南アジアに分布する。
- **県内の生育状況** 山元町と石巻市の島嶼に局限して生育し、個体数は少ない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、自然災害、自然遷移など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 根本 秀一 [撮影地: 福島県])

コモチシダ

Woodardia orientalis

シシガシラ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 本県は分布の北限。生育地は数ヶ所で限定されている。
- 分布の概要 本州(宮城県以南)・四国・九州に分布している。中国にも分布する。
- 県内の生育状況 沿岸部の七ヶ浜町、東松島市、石巻市に生育している。また、東日本大震災による津波の影響を受けている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然災害、園芸採取、土地開発など
- 主要文献番号 92、94、100、105、115、116、142、184、185、246

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

ハコネシケチシダ

Athyrium christensenianum

メシダ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 本県は分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所で局限されている。
- 分布の概要 本州・四国・九州に分布している。朝鮮(済州島)・中国(浙江省)に分布する。
- 県内の生育状況 生育地は湿った林床で局限されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移、土地開発など
- 主要文献番号 100、164、254

(執筆：植物分科会)



(撮影：根本 秀一[撮影地：茨城県])

シケチシダ

Athyrium decurrentialatum

メシダ科

要注目種

2016
要注目種 環境省
-

- 選定理由 本県は分布の太平洋側北限。生育地は10ヶ所近くで限られている。
- 分布の概要 本州・四国・九州・屋久島に分布している。朝鮮(済州島)・中国・台湾・ベトナム・南アジアに分布する。
- 県内の生育状況 奥羽山地、北上山地、阿武隈山地の丘陵地から山地帯に生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、自然遷移など
- 主要文献番号 234

(執筆：植物分科会)



(撮影：滝沢 玲子[撮影地：福島県])

オクヤマワラビ

Athyrium distentifolium

メシダ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- 選定理由 生育地1ヶ所で、極めて局限されている。
- 分布の概要 北海道(知床半島・大雪山系)・本州(石川県以北)に分布している。朝鮮・ロシア・ヨーロッパ・北米の温帯に広く分布する。
- 県内の生育状況 船形連峰の一部のブナ林で僅かに生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：佐竹 恵一[撮影地：山形県])

ホソバイヌワラビ

Athyrium iseanum var. *iseanum*

メシダ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT 環境省
-

- 選定理由 生育地は数ヶ所で限られており、生育地、個体数とも少ない。
- 分布の概要 本州・四国・九州・屋久島に分布している。朝鮮・中国・台湾に分布する。
- 県内の生育状況 丘陵地のやや湿った林床に生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発など
- 主要文献番号 78、196

(執筆：植物分科会)



(撮影：森 俊)

トガリバインワラビ

Athyrium iseanum var. *angustisectum*

メシダ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- 選定理由 生育地は1ヶ所で、極めて局限されている。
- 分布の概要 東北地方～四国・九州・屋久島に分布している。台湾・中国に分布する。
- 県内の生育状況 栗駒山のやや湿った森林の林床に稀に生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、土地開発など
- 主要文献番号 192

(執筆：植物分科会)



(撮影：植物分科会調査員[東北大学植物園記念館所蔵])

イワイヌワラビ

Athyrium nikkoense

メシダ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
- 環境省

- 選定理由 生育地は1ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
- 分布の概要 北海道～本州・九州・屋久島に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 阿武隈山地の岩上に生育。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 藤田 玲 [撮影地: 北海道])

ヒロハイヌワラビ

Athyrium wardii

メシダ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
VU 環境省

- 選定理由 本県は分布の太平洋側北限。生育地は2ヶ所で局限、ランクを上げた。
- 分布の概要 本州・四国・九州・屋久島に分布している。朝鮮・中国・スリランカに分布する。
- 県内の生育状況 蔵王町の奥羽山地及び仙台市の森林下に生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、土地開発など
- 主要文献番号 239

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 根本 秀一 [撮影地: 福島県])

ヤリホノシケシダ(ヤブシダ)

Deparia conilii var. *angustata*

メシダ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT 環境省

- 選定理由 生育地は2ヶ所で局所的である。
- 分布の概要 北海道・本州・四国・九州に分布している。朝鮮・中国に分布する。
- 県内の生育状況 仙台市と東松島市の丘陵地に分布は局限されている。個体数も少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 植物分科会調査員 [東北大学植物園記念館所蔵])

コウライイヌワラビ

Deparia coreana

メシダ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
VU

- 選定理由 生育地は数ヶ所で、局限されている。
- 分布の概要 北海道(胆振)・本州(新潟県以東)・四国(愛媛県)・九州(対馬)に分布している。朝鮮・中国に分布する。
- 県内の生育状況 仙台市、登米市、石巻市牡鹿半島のやや湿った林床に僅かに生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、土地開発など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 植物分科会調査員 [東北大学植物園記念館所蔵])

セイトカシケシダ

Deparia dimorphophylla

メシダ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省

- 選定理由 本県が分布の太平洋側北限。生育地は1ヶ所で限定されている。
- 分布の概要 本州(秋田県以南)・四国・九州・琉球列島(屋久島・奄美大島)に分布している。朝鮮・中国に分布する。
- 県内の生育状況 角田市の限定された湿った林床に僅かに生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移、土地開発など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 根本 秀一 [撮影地: 茨城県])

ヒカゲワラビ

Diplazium chinense

メシダ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省

- 選定理由 本県は分布の北限。生育地は1ヶ所で局限、個体数も少ない。
- 分布の概要 本州(新潟県以南)・四国・九州・琉球列島(沖永良部島以北)に分布している。朝鮮(済州島)・中国・ベトナムに分布する。
- 県内の生育状況 仙北の丘陵地の森林の林床に生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移、森林伐採など
- 主要文献番号 96

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 石隈 健斗 [撮影地: 東京都])

オニヒカゲワラビ

Diplazium nipponicum

メシダ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

■選定理由 生育地は数ヶ所で局限されている。

■分布の概要 本州・四国・九州・屋久島に分布している。朝鮮(済州島)・中国(浙江省)に分布する。

■県内の生育状況 丘陵地、島嶼の林内のやや湿った場所に生育する。

■生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、土地開発など

■主要文献番号 248

(執筆：植物分科会)



(撮影：根本 秀一[撮影地：茨城県])

オニカナワラビ

Arachniodes chinensis

オシダ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

■選定理由 生育地は1ヶ所で極めて局限されている。

■分布の概要 本州(秋田県以南)・四国・九州に分布している。朝鮮・中国にも分布する。

■県内の生育状況 角田市の一部にごく僅かに生育している。

■生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、土地開発など

■主要文献番号 196

(執筆：植物分科会)



(撮影：佐竹 恵一[撮影地：山形県])

ナンゴクナライシダ

Arachniodes fargesii

オシダ科

要注目種

2016
要注目種 環境省
-

■選定理由 本県は分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所で限られている。

■分布の概要 本州・四国・九州・屋久島に分布している。朝鮮・中国・インド(北東部)に分布する。

■県内の生育状況 奥羽山地、阿武隈山地の林内に生育地は限られている。

■生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採など

■主要文献番号 248

(執筆：植物分科会)



(撮影：根本 秀一[撮影地：福島県])

ハカタシダ

Arachniodes simplicior

オシダ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

■選定理由 分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所で局限されている。

■分布の概要 本州(秋田県以南)・四国・九州に分布している。朝鮮・中国にも分布する。

■県内の生育状況 白石市、角田市、仙台市、大崎市で確認されている。

■生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、土地開発など

■主要文献番号 30、193

(執筆：植物分科会)



(撮影：上野 雄規)

ミヤコヤブソテツ

Cyrtomium yamamotoi

オシダ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

■選定理由 本県は分布の北限で、生育地は2ヶ所で局所的である。

■分布の概要 本州(宮城県以南)・四国・九州に分布している。中国にも分布する。

■県内の生育状況 白石市と柴田町の丘陵地に生育している。個体数は少ない。

■生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、土地開発など

(執筆：植物分科会)



(撮影：根本 秀一[撮影地：茨城県])

オクヤマシダ

Dryopteris amurensis

オシダ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

■選定理由 生育地は数ヶ所で限定されている。

■分布の概要 北海道・本州(長野県以北)に分布している。ロシア(極東)・朝鮮・中国(北部)に分布する。

■県内の生育状況 船形連峰のブナ帯の林床にごく僅かに生育する。

■生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移、森林伐採など

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明)

サイゴクベニシダ

Dryopteris championii

オシダ科

絶滅 (EX)

2016
EX 環境省
-

■選定理由 白石市のスギ植林の一部の林床にごく僅かに生育していたが、採取などにより絶滅した。

■分布の概要 本州(山形県・宮城県以南)・四国・九州の低山の林床に分布している。朝鮮・中国・台湾にも分布する。

■県内の生育状況 白石市が太平洋側分布北限とされている。

■生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など

■主要文献番号 24-2

(執筆: 植物分科会)



(生態写真: 上野 雄規 標本写真: 上野 雄規 [国立科学博物館植物研究部所蔵])

ニオイシダ

Dryopteris fragrans

オシダ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
- 環境省
-

■選定理由 生育地は県立公園内の2ヶ所で、局限されている。

■分布の概要 北海道・本州(東北地方・長野県)に分布している。南千島・ロシア・朝鮮・中国(北部)・ヨーロッパ・北米に広く分布する。

■県内の生育状況 船形連峰、二口山塊の岩壁で生育が確認されている。

■生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移、森林伐採など

■主要文献番号 5

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 根本 秀一 [撮影地: 山形県])

サクライカグマ

Dryopteris gymnophylla

オシダ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

■選定理由 分布の北限近くであり、生育地は数ヶ所で局所的である。

■分布の概要 本州(岩手県以南の太平洋側)・九州(大分県)に分布している。朝鮮・中国・タイに分布する。

■県内の生育状況 松島町、柴田町の限定された立地にごく僅かに生育している。

■生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など

■主要文献番号 107

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 杉山 多喜子)

オオイタチシダ

Dryopteris hikonenensis

オシダ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT 環境省
-

■選定理由 本県は分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所で限定されている。

■分布の概要 本州(秋田県以南)・四国・九州・琉球列島(沖縄島・久米島以北)に分布している。朝鮮・中国に分布する。

■県内の生育状況 県南地域から仙台市、塩竈市の丘陵地の林縁、斜面に分布は限られている。

■生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発など

■主要文献番号 229、248

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 大越 秀樹)

ギフベニシダ

Dryopteris kinkiensis

オシダ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

■選定理由 本県は分布の太平洋側北限。生育地は1ヶ所で局所的である。

■分布の概要 本州(秋田県以南)・四国・九州に分布している。朝鮮・中国南部に分布する。

■県内の生育状況 仙台市でごく僅かに生育している。

■生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、土地開発など

■主要文献番号 101、159

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 植物分科会調査員 [東北大学植物園記念館所蔵])

リョウトウイタチシダ

Dryopteris kobayashii

オシダ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
- 環境省
-

■選定理由 本県が分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所と限定されている。

■分布の概要 本州(山形県・宮城県以南)・四国・九州に分布している。朝鮮・中国に分布する。

■県内の生育状況 丘陵地の乾燥した林内に生える。白石市、川崎町、東松島町で生育が確認されている。

■生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 大越 秀樹)

イワカゲワラビ

Dryopteris laeta

オシダ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
VU

- 選定理由 生育地は1ヶ所で極めて局限されている。
- 分布の概要 北海道(北見・釧路・十勝)・本州(東北地方太平洋側・中部地方)に分布している。ロシア極東・朝鮮・中国に分布する。
- 県内の生育状況 登米市東和町の明るい林床という限定された立地にごく僅かに生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 葛西 英明 [撮影地: 岩手県])

キヨスミヒメワラビ

Dryopteris maximowicziana

オシダ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 本県は分布の太平洋側北限。本県の生育地は10ヶ所程度で局限されている。
- 分布の概要 本州・四国・九州・屋久島に分布している。朝鮮・中国・台湾にも分布する。
- 県内の生育状況 利府町以南の湿った林床にごく僅かに生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、自然遷移など
- 主要文献番号 29、196、228、229、248

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 上野 雄規)

ナンタイシダ

Dryopteris maximowiczii

オシダ科

要注目種

2016
要注目種 環境省
-

- 選定理由 本県は分布の太平洋側北限。生育地は国定・県立公園内の2ヶ所で限定されている。
- 分布の概要 本州(宮城県以南・奈良県以東)に分布している。朝鮮にも分布する。
- 県内の生育状況 蔵王連峰、二口山塊の山地帯に生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、自然遷移など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 根本 秀一 [撮影地: 福島県])

イワオオイタチシダ

Dryopteris subhikonensis

オシダ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
- 環境省
-

- 選定理由 生育地は1ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
- 分布の概要 本州の関東内陸と西部日本海側に分布している。
- 県内の生育状況 巨理町の低地の林床に生育。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移など
- 主要文献番号 252

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 上野 雄規 [国立科学博物館植物研究部所蔵])

イノデモドキ

Polystichum tagawanum

オシダ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 本県は分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所で、個体数も少ない。
- 分布の概要 本州・四国・九州に分布している。朝鮮にも分布する。
- 県内の生育状況 県中部以南の丘陵地の林内に生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、自然遷移など
- 主要文献番号 254

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 上野 雄規)

マメヅタ

Lemmaphyllum microphyllum

ウラボシ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT 環境省
-

- 選定理由 本県は分布の北限。生育地は20ヶ所程度で限定されている。園芸品として採取される。
- 分布の概要 本州(宮城県以南)・四国・九州・琉球列島に分布している。朝鮮・中国・台湾・ベトナムに分布する。
- 県内の生育状況 山元町、丸森町から石巻市までの沿岸部、島嶼及び内陸部の山裾の岩上や樹上に着生する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、園芸採取など
- 主要文献番号 7、8、96、100、105、112、115、116、119、130、142、143、184、185、246

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 細谷 治夫)

ナガオノキシノブ

Lepisorus angustus

ウラボシ科

絶滅 (EX)

2016
環境省

- **選定理由** 生育地は角田市の上の1ヶ所のみであったが、絶滅が確認された。
- **分布の概要** 本州(宮城県以南)・九州まで深山の樹上・岩上に着生、分布している。また中国に分布する。
- **県内の生育状況** 県南の角田市で過去に確認された。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、自然遷移など
- **主要文献番号** 42、196

(執筆: 植物分科会)



(生態写真: 石隈 健斗 [撮影地: 山梨県] 標本写真: 上野 雄規 [国立科学博物館植物研究部所蔵])

ヒメサジラン

Loxogramme graminoides

ウラボシ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
環境省

- **選定理由** 生育地は2ヶ所で局限されている。
- **分布の概要** 北海道(日高)・本州・四国・九州・屋久島に分布している。朝鮮(済州島)・中国・台湾・インド(北東部)に分布する。
- **県内の生育状況** 仙台市の山地の岩上で生育が確認されている。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発、園芸採取、自然遷移など
- **主要文献番号** 101、102

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 藤田 玲 [撮影地: 秋田県])

エゾデングダ

Polypodium sibiricum

ウラボシ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
環境省

- **選定理由** 国定・県立公園内で2ヶ所生育地が局限されている。
- **分布の概要** 北海道・本州(中部地方以東)に分布している。南千島・ロシア(極東)・朝鮮・中国(北部)・モンゴルに分布する。
- **県内の生育状況** 蔵王連峰と船形連峰の岩上で生育が確認されている。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、自然遷移など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 藤田 玲 [撮影地: 北海道])

イワオモダカ

Pyrrosia hastata

ウラボシ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
環境省

- **選定理由** 生育地は数ヶ所で限定され、個体数も少ない。園芸植物として価値が高く、乱獲され激減している。
- **分布の概要** 北海道・本州・四国・九州に分布している。朝鮮・中国(安徽省)に分布する。
- **県内の生育状況** 奥羽山地、阿武隈山地の岩場や樹幹に着生しているが、乱獲により個体数が激減し絶滅が危惧される。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発、園芸採取、自然遷移など
- **主要文献番号** 55、100

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 上野 雄規)

カラマツ

Larix kaempferi

マツ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
環境省

- **選定理由** 植林は多いが、国定公園内の高山で1ヶ所だけ自然分布が確認されている。
- **分布の概要** 本州の中部山岳地帯と宮城県・石川県側白山に隔離分布している。日本固有種。
- **県内の生育状況** 蔵王連峰馬ノ神岳で生育が確認されている。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 自然災害、自然遷移など
- **主要文献番号** 22、93、102、165、225、247

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 三島木 進)

オニバス

Euryale ferox

スイレン科

絶滅 (EX)

2016
環境省

- **選定理由** 水田地帯の数ヶ所の沼地に生育記録があるが、埋め立てなどにより絶滅した。仙台市若林区大沼の100年前の標本が残されている。
- **分布の概要** 宮城県以南～九州の低地の池に分布している。台湾・中国南部・インドに分布する。
- **県内の生育状況** 仙台市の池沼で過去に確認された。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 池沼開発など
- **主要文献番号** 61、62、178、182、212、255

(執筆: 植物分科会)



(生態写真: 国京 潤一 [撮影地: 新潟県] 標本写真: 上野 雄規 [東北大学植物園記念館所蔵])

チョウセンゴミシ

Schisandra chinensis

マツブサ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016 CR+EN	環境省 -
---------------	----------

- 選定理由 生育地は数ヶ所と局限され、個体数は少ない。
- 分布の概要 北海道・本州中北部に分布している。アムール・朝鮮・中国・樺太に分布する。
- 県内の生育状況 仙台市と白石市の奥羽山地の山地帯の林内に生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採など

(執筆：植物分科会)



(撮影：上野 雄規)

ハンゲシヨウ

Saururus chinensis

ドクダミ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016 VU	環境省 -
------------	----------

- 選定理由 生育地は十数ヶ所で限定されている。湿地などの開発で生育地、個体数共に減少している。
- 分布の概要 本州～沖縄に分布している。朝鮮・中国・フィリピンに分布する。
- 県内の生育状況 平野部の湿地、沼沢地に生育し、生育地、個体数も少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 湿地開発、園芸採取、自然遷移など
- 主要文献番号 144

(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

ウマノスズクサ

Aristolochia debilis

ウマノスズクサ科

準絶滅危惧 (NT)

2016 -	環境省 -
-----------	----------

- 選定理由 生育地は20ヶ所近くで限定されている。
- 分布の概要 本州の東北以南から九州に分布している。中国にも分布する。
- 県内の生育状況 平野部の河川敷の日当たりのよい草地などに広く生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 河川改修、土地造成など
- 主要文献番号 16、17、88、130、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：杉山 多喜子)

フタバアオイ

Asarum caulescens

ウマノスズクサ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016 CR+EN	環境省 -
---------------	----------

- 選定理由 本県は分布の北限。生育地は2ヶ所で限定されている。園芸採取される恐れがある。
- 分布の概要 本州～九州に分布している。中国にも分布する。
- 県内の生育状況 県南部の山地の林床に生育するが、個体数は少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取など
- 主要文献番号 7、8、112

(執筆：植物分科会)



(撮影：上野 雄規)

ミチノクサイシン

Asarum fauriei var. *fauriei*

ウマノスズクサ科

準絶滅危惧 (NT)

2016 NT	環境省 VU
------------	-----------

- 選定理由 生育地は数ヶ所で局限されている。生きた化石のヒメギフチョウの食草の一つである。
- 分布の概要 本州の東北地方・群馬県・新潟県に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 奥羽山地に生育するが、生育地は限定的である。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、園芸採取など
- 主要文献番号 108

(執筆：植物分科会)



(撮影：尾形 良太 [撮影地：山形県])

オクエゾサイシン

Asarum heterotropoides

ウマノスズクサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016 VU	環境省 -
------------	----------

- 選定理由 本県の分布は太平洋側南限。生育地は栗駒山の数ヶ所で局限されている。以前に森林伐採等により生育地、個体数が減少した。
- 分布の概要 本州の東北地方・北海道に分布している。千島・樺太・ウスリーに分布する。
- 県内の生育状況 栗駒山の山地帯のブナ林の林床に生育し、生育地、個体数は以前のような減少は発生していない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 湿地開発、園芸採取、自然遷移など
- 主要文献番号 108

(執筆：植物分科会)



(撮影：菅野 壽代)

ヤブニッケイ

Cinnamomum yabunikkei

クスノキ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- **選定理由** 本県は分布の北限。生育地は1ヶ所で局限されている。個体数も少ない。
- **分布の概要** 関東・北陸以西の本州・四国・九州・沖縄に分布している。韓国・台湾に分布する。
- **県内の生育状況** 平野地区と島嶼に生育地は局限し、個体数も少ない。植栽からの逸出もある。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 細谷 治夫)

マイヅルテンナンショウ

Arisaema heterophyllum

サトイモ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
CR+EN 環境省
NT

- **選定理由** 生育地は数ヶ所で、限定されている。生育地、個体数が少し多いのでランクを下げた。
- **分布の概要** 本州の岩手県・秋田県～岡山県、九州に分布している。朝鮮南部・中国・台湾に分布する。
- **県内の生育状況** 仙北の平野部の河川、池沼の畔の草本群落中に生育している。大崎市と松島町にまたがる品井沼に生育していた個体は干拓により絶滅した。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 干拓、土地開発、自然遷移など
- **主要文献番号** 92、96、144、194

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 市ノ渡 彰)

ヒメカイウ

Calla palustris

サトイモ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
NT

- **選定理由** 生育地は数ヶ所と局限されている。園芸採取により絶滅が危惧される。
- **分布の概要** 北海道・本州中北部の水湿地に分布している。北半球の寒冷地に広く分布する。
- **県内の生育状況** 奥羽山地の池沼に少数点在して生育している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、自然遷移など
- **主要文献番号** 6、56、101、243

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 細谷 治夫)

ナベクラザゼンソウ

Symplocarpus nabekuraensis

サトイモ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
VU

- **選定理由** 生育地は1ヶ所と局限され、個体数も少ない。近年分類された種で詳細な生育地は情報不足。
- **分布の概要** 本州の北陸～東北地方の日本海側に分布する。日本固有種。
- **県内の生育状況** 大崎市の奥羽山地の湿地に生育する。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、森林伐採、自然災害など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 細谷 治夫 [撮影地: 山形県])

ザゼンソウ

Symplocarpus renifolius

サトイモ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- **選定理由** 生育地は数ヶ所と極めて限られ、生育地、個体数ともに少ない。周辺の森林伐採や道路開発により絶滅が危惧される。
- **分布の概要** 北海道・本州に分布している。朝鮮・樺太・ウスリー・アムールの水湿地に分布する。
- **県内の生育状況** 阿武隈山地の森林内湿地に生育する。生育地、個体数共に少ない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、園芸採取など
- **主要文献番号** 7、112

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 三島木 進)

チシマゼキショウ

Tofieldia coccinea var. *coccinea*

チシマゼキショウ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- **選定理由** 生育地は国定・県立公園内の数ヶ所で限られている。
- **分布の概要** 北海道・本州・四国に分布している。千島・樺太・朝鮮北部・中国北部・アリューシャン・カムチャツカ・シベリア・アラスカ・カナダに分布する。
- **県内の生育状況** 蔵王連峰から船形連峰にかけての奥羽山地の亜高山帯の岩場に生育する。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、自然遷移など
- **主要文献番号** 99、220、226

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 国京 潤一)

チャボゼキショウ

Tofieldia coccinea var. *gracilis*

チシマゼキショウ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016 CR+EN	環境省 -
---------------	----------

- **選定理由** 生育地は国定・県立公園内の亜高山帯の湿原数ヶ所と局限されている。
- **分布の概要** 中部地方以北の本州・四国の山地・亜高山帯に分布している。日本固有種。
- **県内の生育状況** 生育地は奥羽山地の船形連峰、栗駒山に局限されている。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：植物分科会調査員[東北大学植物園記念館所蔵])

サジオモダカ

Alisma plantago-aquatica var. *orientale*

オモダカ科

準絶滅危惧 (NT)

2016 NT	環境省 -
------------	----------

- **選定理由** 生育地は20ヶ所近くで限定的である。農業汚染などにより生育地や個体数が減少している。
- **分布の概要** 北海道・本州北部に分布している。アジア北東部に分布する。
- **県内の生育状況** 平野部の水田、沼沢地に広く生育する。農業汚染などにより生育地や個体数が減少している。東日本大震災の津波浸水域にも出現したが、復旧工事により消滅した所が多い。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 湿地開発、農業汚染、管理放棄など
- **主要文献番号** 73、74、75、76、77、78、130、179、180、230、231、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：杉山 多喜子)

マルバオモダカ

Caldesia parnassiiifolia

オモダカ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016 CR+EN	環境省 VU
---------------	-----------

- **選定理由** 生育地は数ヶ所のごく限られている。環境の悪化により絶滅が危惧される。
- **分布の概要** 本州～奄美大島に分布している。中国・インド・オーストラリア・マダガスカルに分布する。
- **県内の生育状況** 平野部の湿地に生える。生育する水湿地の環境の変化により絶滅する恐れがある。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 水質汚染、農業汚染、池沼開発、土地造成など
- **主要文献番号** 212

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明)

アギナシ

Sagittaria aginashi

オモダカ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016 VU	環境省 NT
------------	-----------

- **選定理由** 生育地は十数ヶ所で限られている。土地開発や管理放棄などにより個体数は減少している。
- **分布の概要** 北海道～九州に分布している。朝鮮にも分布する。
- **県内の生育状況** 水田、水田の用水路、池沼に生育する。生育地は限られており、個体数も少ない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 農業汚染、管理放棄、自然遷移など
- **主要文献番号** 33、88、189

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

ウリカワ

Sagittaria pygmaea

オモダカ科

準絶滅危惧 (NT)

2016 -	環境省 -
-----------	----------

- **選定理由** 生育地は20ヶ所程度であるが、水質汚染等で減少している。
- **分布の概要** 北海道から沖縄に分布している。アジアの温帯から熱帯に広く分布する。
- **県内の生育状況** 平野部の溜池、水田に広く生育している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 水質汚染、農業汚染、管理放棄など
- **主要文献番号** 174、246、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

スブタ

Blyxa echinosperma

トチカガミ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016 CR+EN	環境省 VU
---------------	-----------

- **選定理由** 生育地は数ヶ所のごく限られている。環境の悪化により絶滅が危惧される。
- **分布の概要** 本州～沖縄に分布している。東アジア・東南アジア・オーストラリアに分布する。
- **県内の生育状況** 山間の自然度の高い水田などに生育している。農業汚染、耕作放棄などにより絶滅が危惧される。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 農業汚染、水質汚染、耕作放棄など
- **主要文献番号** 33、67、180、212

(執筆：植物分科会)



(撮影：森 俊)

ヤナギスブタ

Blyxa japonica

トチカガミ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016 VU	環境省 -
------------	----------

- **選定理由** 生育地は十数ヶ所で限られており、土地開発や管理放棄などにより個体数は激減している。
- **分布の概要** 本州～沖縄に分布している。東アジアにも分布する。
- **県内の生育状況** 水田、水田の用水路、池沼に生育する。生育地は限られており、個体数も少ない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 農業汚染、管理放棄、自然遷移など
- **主要文献番号** 180、246

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

トチカガミ

Hydrocharis dubia

トチカガミ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016 CR+EN	環境省 NT
---------------	-----------

- **選定理由** 生育地は十数ヶ所と比較的多いのでランクを下げた。
- **分布の概要** 本州～沖縄に分布している。東南アジア～オーストラリアの温帯～熱帯に分布する。
- **県内の生育状況** 河川、湖沼に生育しているが、生育地が限られている。東日本大震災の津波浸水域でも確認。湖沼の開発などによる減少が危惧される。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 湖沼開発、水質汚染、農業汚染など
- **主要文献番号** 75、88、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：上野 雄規)

ムサシモ

Najas ancistrocarpa

トチカガミ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016 CR+EN	環境省 EN
---------------	-----------

- **選定理由** 本県が分布の北限で、生育地は数ヶ所でごく限られている。環境の悪化により絶滅が危惧される。
- **分布の概要** 本州・四国に分布している。台湾にも分布する。
- **県内の生育状況** 生育地は池沼、溜池に限られており、水質汚染などによる絶滅が危惧される。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 水質汚染、農業汚染、池沼開発など
- **主要文献番号** 88、164

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明)

サガミトリゲモ(ヒロハトリゲモ)

Najas chinensis

トチカガミ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016 VU	環境省 NT
------------	-----------

- **選定理由** 生育地は20ヶ所程度で限られている。絶滅、個体数が減少した所も多い。
- **分布の概要** 本州～沖縄に分布している。東南アジアにも分布する。
- **県内の生育状況** 平野部の貧栄養の池沼や山間部の水田や用水路に生育する。津波浸水域でも確認。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 池沼開発、水田改修、水質汚染、農業汚染など
- **主要文献番号** 33、73、74、75、76、77、78、177、178、196、212、246

(執筆：植物分科会)



(撮影：杉山 多喜子)

イトトリゲモ

Najas gracillima

トチカガミ科

準絶滅危惧 (NT)

2016 NT	環境省 NT
------------	-----------

- **選定理由** 生育地は20ヶ所程度で各所に見られるが限定されている。湿地の開発が進行しており、個体数も少ない。
- **分布の概要** 本州～九州に分布している。東アジアにも分布する。
- **県内の生育状況** 平野部、丘陵地の貧栄養の池沼、水田や用水路に生育する。2011年の東日本大震災の津波に遭遇した後に、新たに生育した所、消滅した所もある。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 水田改修、水質汚染、農業汚染、管理放棄など
- **主要文献番号** 33、73、74、75、76、77、78、101、177、178、196、212、246

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

ホッスモ

Najas graminea

トチカガミ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016 VU	環境省 -
------------	----------

- **選定理由** 生育地は20ヶ所程度で限られている。
- **分布の概要** 本州～沖縄に分布している。世界の温帯～熱帯に広くに分布する。
- **県内の生育状況** 貧栄養の池沼や山間部の水田や用水路に生育する。生育地は減少している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 池沼開発、水田改修、水質汚染、農業汚染など
- **主要文献番号** 76、78、88、189、246

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

イバラモ

Najas marina

トチカガミ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- 選定理由 生育地は数ヶ所でごく限られている。環境の悪化により絶滅が危惧される。
- 分布の概要 北海道～奄美諸島に分布している。世界の温帯～熱帯に広く分布する。
- 県内の生育状況 生育地は県北の池沼、溜池に限られている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 水質汚染、農業汚染、自然災害、池沼開発など
- 主要文献番号 88

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明[撮影地：福島県])

トリゲモ

Najas minor

トチカガミ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
VU

- 選定理由 生育地は10ヶ所程度とごく限られている。環境の悪化により絶滅が危惧される。
- 分布の概要 本州～沖縄に分布している。世界の温帯～熱帯に分布する。
- 県内の生育状況 生育地は池沼、溜池に限られており、水質汚染などによる絶滅が危惧される。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 水質汚染、農業汚染、池沼開発など

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

オオトリゲモ

Najas oguraensis

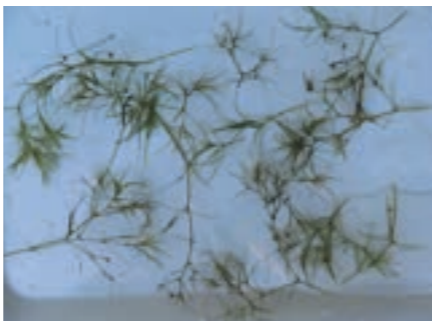
トチカガミ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
CR+EN 環境省
-

- 選定理由 生育地は20ヶ所以上と少し多いのでランクを下げた。生育地の減少が目立つ。
- 分布の概要 東北地方以南の本州・四国・九州・沖縄に分布している。中国にも分布する。
- 県内の生育状況 生育地は池沼、溜池等に限られており、水質汚染などによる絶滅が危惧される。津波浸水域で一時的に増加。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 池沼開発、農業汚染、水質汚染など
- 主要文献番号 74、76、77、78、79、88、117、118、188、216

(執筆：植物分科会)



(撮影：滝口 政彦)

イトイバラモ

Najas yezoensis

トチカガミ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
VU

- 選定理由 生育地は1ヶ所でごく限られている。環境の悪化により絶滅が危惧される。
- 分布の概要 本州・北海道に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 湖沼や溜池に稀に生育する。県南の溜池に生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 水質汚染、農業汚染、池沼開発など

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明)

ミズオオバコ

Ottelia alismoides

トチカガミ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
NT 環境省
NT

- 選定理由 生育地は60ヶ所以上と多いが、減少率の大きい場所が多いのでランクを上げた。水湿地は開発が危惧される。
- 分布の概要 北海道～九州・沖縄に分布している。アジアの熱帯～温帯域・オーストラリアに分布する。
- 県内の生育状況 各地の水湿地や水田等に局所的に生育する。津波浸水域で一時的に増加。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 池沼開発、水田改修、農業汚染、水質汚染など
- 主要文献番号 67、73、75、76、77、78、79、175、177、178、180、246、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

コウガイモ

Vallisneria denserrulata

トチカガミ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
CR+EN 環境省
-

- 選定理由 生育地が20ヶ所程度と比較的多いのでランクを下げたが、分布は限られている。
- 分布の概要 本州に分布している。中国にも分布する。
- 県内の生育状況 平野部の池沼、河川に生育している。東日本大震災の津波浸水域でも確認されたが、復旧工事等で消滅したところもある。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、農業汚染、水質汚染など
- 主要文献番号 88、151、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：横山 正弘)

セキショウモ

Vallisneria spiralis

トチカガミ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
-

- 選定理由 生育地は数ヶ所ではごく限られている。環境の悪化により絶滅が危惧される。
- 分布の概要 北海道～九州に分布している。アジア・オーストラリアに分布する。
- 県内の生育状況 溜池、用水路などに生え、生育地も少なく、土地開発により生育地が狭まっている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 農業汚染、水質汚染、土地開発など
- 主要文献番号 88、98、189

(執筆：植物分科会)



(撮影：根本 秀一[撮影地：福島県])

シバナ

Triglochin asiatica

シバナ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
NT

- 選定理由 生育地は数ヶ所と、ごく限られている。生育地、個体数とも少なくなった。
- 分布の概要 北海道～九州に分布している。北半球の温帯に広く分布する。
- 県内の生育状況 海岸塩生湿地に生育するが、東日本大震災の津波により個体数は激減した。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然災害、土地開発、自然遷移など
- 主要文献番号 73、78、100、142、143、209、212、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：根本 秀一[撮影地：福島県])

オオシバナ

Triglochin maritimum

シバナ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
NT

- 選定理由 生育地は以前は10ヶ所以上あったが、生育地、個体数とも少なくなった。
- 分布の概要 北海道・本州北部・中部の高地に分布している。北半球の温帯～亜寒帯に分布する。
- 県内の生育状況 海岸塩生湿地に生育するが、東日本大震災の津波により生育地、個体数とも激減した。
- 近似種との区別 シバナとの違いは葉幅が狭く、果実は楕円形。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然災害、土地開発、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：杉山 多喜子)

スガモ

Phyllospadix iwatensis

アマモ科

情報不足 (DD)

2016
DD環境省
-

- 選定理由 生育地は10ヶ所程度で限られている。海生種子植物であり詳細は分かっていない。
- 分布の概要 北海道・本州北部に分布している。千島・樺太・朝鮮・中国北部の海中に分布する。
- 県内の生育状況 松島湾～三陸海岸南部の海水中の砂地に生育する。東日本大震災の津波に遭遇し、生育地および個体数が減少したり、絶滅した生育地もあるものと思われる。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 海洋開発、自然災害、自然遷移など
- 主要文献番号 105、246

(執筆：植物分科会)



(撮影：大越 秀樹)

オオアマモ

Zostera asiatica

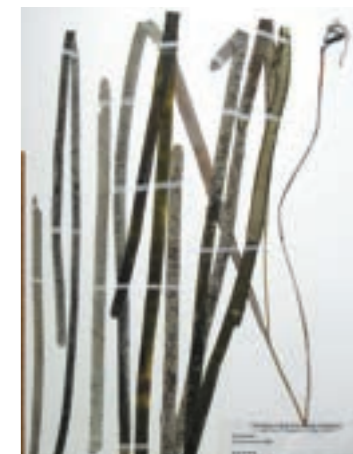
アマモ科

情報不足 (DD)

2016
DD環境省
VU

- 選定理由 生育地は1ヶ所で局限されている。海生種子植物であるが分布の詳細は分かっていない。
- 分布の概要 北海道に分布している。千島・朝鮮の海中に分布する。
- 県内の生育状況 三陸海岸の海水中の砂地に生育し、女川町の標本がある。東日本大震災の津波に遭遇し、絶滅した生育地もあるものと思われる。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 海洋開発、自然災害、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：植物分科会調査員[東北大学植物園記念館所蔵])

スゲアマモ

Zostera caespitosa

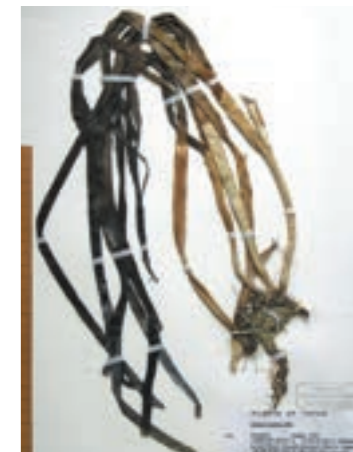
アマモ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
-環境省
NT

- 選定理由 海底に生えるアマモ科の植物、国立公園内の標本が1点あるのみである。
- 分布の概要 宮城県以北の太平洋・日本海海岸に分布している。朝鮮・中国に分布する。
- 県内の生育状況 石巻市の海中で採集した標本がある。生育地の情報が不足し、実態がよくわからない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 海岸開発など
- 主要文献番号 42

(執筆：植物分科会)



(撮影：植物分科会調査員[東北大学植物園記念館所蔵])

タチアマモ

Zostera caulescens

アマモ科

情報不足 (DD)

2016
DD

環境省
VU

- **選定理由** 生育地は数ヶ所で局限されている。海生種子植物であるが分布の詳細は分かっていない。
- **分布の概要** 北海道・本州中部以北の海中に分布している。朝鮮にも分布する。
- **県内の生育状況** 松島湾～三陸海岸の海中の砂地に生育する。東日本大震災の津波に遭遇し、生育地および個体数が減少したり、絶滅した生育地もあるものと思われる。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 海洋開発、自然災害、自然遷移など
- **主要文献番号** 246

(執筆：植物分科会)



(撮影：植物分科会調査員[東北大学植物園記念館所蔵])

コアマモ

Zostera japonica

アマモ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
要注目種

環境省
-

- **選定理由** 生育地は数ヶ所と少なくランクを変えた。
- **分布の概要** 北海道～沖縄に分布している。東アジアの亜寒帯～熱帯の内湾等に分布する。
- **県内の生育状況** 現在知られている生育地は塩釜湾から三陸沿岸にかけての海中である。海生種子植物である。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 海岸開発、自然災害など
- **主要文献番号** 246

(執筆：植物分科会)



(撮影：植物分科会調査員[東北大学植物園記念館所蔵])

ホソバヒルムシロ

Potamogeton alpinus

ヒルムシロ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN

環境省
VU

- **選定理由** 生育地は1ヶ所で、ごく限られている。個体数は少ない。
- **分布の概要** 北海道・本州の東北地方に分布している。北半球の北部に分布する。
- **県内の生育状況** 生育地は仙北の奥羽山地の谷地で、極めて限られている。水質などの変化で絶滅が危惧される。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 水質汚染、農業汚染、池沼開発など
- **主要文献番号** 164、170、191

(執筆：植物分科会)



(撮影：藤田 玲[撮影地：北海道])

イトモ

Potamogeton berchtoldii

ヒルムシロ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
要注目種

環境省
NT

- **選定理由** 生育地は60ヶ所以上と多いが、減少率が高い所が多くランクを変えた。生育地、個体数とも激減している。
- **分布の概要** 日本全土に分布している。世界の温帯～熱帯に分布する。
- **県内の生育状況** 各地の沼沢、湖沼、水路等に生育する。沿岸部では東日本大震災の津波に遭遇し消滅した生育地もある。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 沼沢開発、管理放棄、自然遷移など
- **主要文献番号** 32、33、70、74、75、78、178、180、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

エゾヤナギモ

Potamogeton compressus

ヒルムシロ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN

環境省
-

- **選定理由** 生育地は数ヶ所で、ごく限られている。個体数は少ない。
- **分布の概要** 北海道・中部地方以北の本州に分布している。北半球に広く分布する。
- **県内の生育状況** 生育地は平野部の湖沼、河川で水質などの変化で絶滅が危惧される。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 水質汚染、農業汚染、池沼開発など
- **主要文献番号** 88

(執筆：植物分科会)



(撮影：植物分科会調査員[東北大学植物園記念館所蔵])

コバノヒルムシロ

Potamogeton cristatus

ヒルムシロ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU

環境省
VU

- **選定理由** 生育地は10ヶ所以上あるが限られている。個体数が減少している場所もみられる。
- **分布の概要** 北海道・本州に分布している。朝鮮・中国に分布する。
- **県内の生育状況** 池沼、沼沢地等に生育するが、生育地は限られ、個体数も少ない。東日本大震災の津波浸水域で生育が確認された地点ではその後消滅。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 水質汚染、農業汚染など
- **主要文献番号** 52、75、76、78、101、143、189、212、246

(執筆：植物分科会)



(撮影：浅井 元朗)

エゾノヒルムシロ

Potamogeton gramineus

ヒルムシロ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 生育地は数ヶ所でごく限られている。
- 分布の概要 北海道・本州中部以北に分布する。北半球の寒冷地に広く分布する。
- 県内の生育状況 奥羽山地の池沼、沼沢に生育するが、生育地はごく限られている。個体数も少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 水質汚染、農業汚染など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 植物分科会調査員[東北大学植物園記念館所蔵])

センニンモ

Potamogeton maackianus

ヒルムシロ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 生育地は10ヶ所程度あるが、限られている。
- 分布の概要 北海道～九州に分布している。東南アジア北部にも分布する。
- 県内の生育状況 湖沼、池沼、沼沢地等に生育するが、生育地は限られている。個体数も少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 水質汚染、農業汚染、富栄養化など
- 主要文献番号 74、88

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 石隈 健斗[撮影地: 茨城県])

ホソバミズヒキモ

Potamogeton octandrus var. *octandrus*

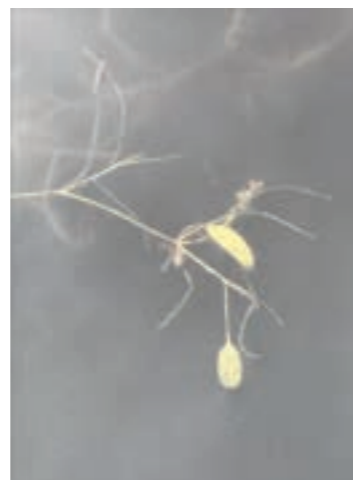
ヒルムシロ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 生育地は20ヶ所以上あるが限られている。絶滅あるいは個体数が減少した所もある。
- 分布の概要 北海道～沖縄に分布している。朝鮮・中国・東南アジアに分布する。
- 県内の生育状況 湖沼、池沼、沼沢地等に生育するが、生育地は限られている。個体数も少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 水質汚染、農業汚染など
- 主要文献番号 73、88、130、153

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 細谷 治夫)

ミズヒキモ

Potamogeton octandrus var. *miduhikimo*

ヒルムシロ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 生育地は10ヶ所程度で、ごく限られている。
- 分布の概要 本州～九州に分布している。朝鮮にも分布する。
- 県内の生育状況 池沼、沼沢地等に生育するが、生育地はごく限られている。個体数も少ない。津波浸水域でも確認。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 水質汚染、農業汚染など
- 主要文献番号 74、78、88、189

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 植物分科会調査員[東北大学植物園記念館所蔵])

ヒロハノエビモ

Potamogeton perfoliatus

ヒルムシロ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- 選定理由 生育地は数ヶ所まで、ごく限られている。個体数は少ない。
- 分布の概要 北海道～九州に分布している。世界の温帯～亜熱帯に分布する。
- 県内の生育状況 仙北の限られた池沼、河川に生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移、水質汚染、池沼開発、河川開発など
- 主要文献番号 88

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 根本 秀一[撮影地: 福島県])

ツツイトモ

Potamogeton pusillus

ヒルムシロ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
VU

- 選定理由 生育地は40ヶ所以上で、2011年の東日本大震災の津波後急激に増加したが、復旧工事により減少。それ以前は生育地は3ヶ所であった。
- 分布の概要 本州・四国に分布している。ヨーロッパ・北アメリカに分布する。
- 県内の生育状況 生育地は沿岸部の池沼、河川に限られている。水質などの変化で絶滅が危惧される。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 水質汚染、農業汚染、池沼開発など
- 主要文献番号 73、74、75、76、77、78、79、176、177、179、180、246、248

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 細谷 治夫)

ササバモ

Potamogeton wrightii

ヒルムシロ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- 選定理由 生育地は数ヶ所で、ごく限られている。個体数は少ない。
- 分布の概要 北海道・本州～沖縄に分布している。朝鮮・中国・東南アジアに分布する。
- 県内の生育状況 生育地はダム、池沼に極限られている。個体数も少ない。東日本大震災の津波浸水域で新たに確認された生育地もあったが一時的であった。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移、水質汚染、農業汚染、池沼開発など
- 主要文献番号 77、180

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

リュウノヒゲモ

Stuckenia pectinata

ヒルムシロ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
CR+EN 環境省
NT

- 選定理由 生育地が30ヶ所以上と比較的多いのでランクを下げたが、分布範囲は淡水から汽水域の湖沼や水路に生育する。
- 分布の概要 日本全土に分布している。世界の温帯～熱帯に分布する。
- 県内の生育状況 海岸沿いの塩性湿地に多い。水質汚染や埋め立てによって絶滅した所もある。他の生育地も絶滅が危惧される。津波浸水域でも確認。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 水質汚染、農業汚染など
- 主要文献番号 73、74、75、76、77、78、79、246、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：杉山 多喜子)

イトクズモ

Zannichellia palustris

ヒルムシロ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
VU

- 選定理由 生育地は20ヶ所近くで、東日本大震災前は7ヶ所と半分以下であった。
- 分布の概要 日本全土に分布している。世界に広く分布する。
- 県内の生育状況 生育地は数ヶ所であったが、東日本大震災後は一時的に生育地、個体数とも増加した。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移、自然災害、水質汚染、土地開発など
- 主要文献番号 73、74、75、76、77、78、79、143、212、246、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

カワツルモ

Ruppia maritima

カワツルモ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
NT

- 選定理由 生育地は30ヶ所程度で限られている。東日本大震災の津波後、生育地は大幅に増えたが、再び減少している。
- 分布の概要 本州～沖縄に分布している。世界に広く分布する。
- 県内の生育状況 沿岸部の汽水域の池沼に生育しているが、限定されている。東日本大震災の津波浸水域で多数確認。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 淡水化、水質汚染、農業汚染、富栄養化など
- 主要文献番号 73、74、75、76、77、78、79、143、246、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：杉山 多喜子)

ホンゴウソウ

Sciaphila nana

ホンゴウソウ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
NT

- 選定理由 県内で1983年に採集されているが、その生育地のものは工事で絶滅したものと見られ、新たに生育地が数ヶ所発見されている。宮城県が北限。
- 分布の概要 本州中部以南～沖縄に分布している。東南アジアに分布する。
- 県内の生育状況 最初は松島町、その後仙台市、名取市、利府町の丘陵地の森林の林床で生育していることが確認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、森林伐採など
- 主要文献番号 9、127、168、212

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

クルマバツクバネソウ

Paris verticillata

シュロソウ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 生育地は数ヶ所とごく限られており、個体数も少ない。
- 分布の概要 北海道～九州に分布している。千島・朝鮮・中国・樺太・シベリアに分布する。
- 県内の生育状況 山地の森林内に点在して生育する。生育地は県内広い範囲にわたるが、個体数は少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、園芸採取、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



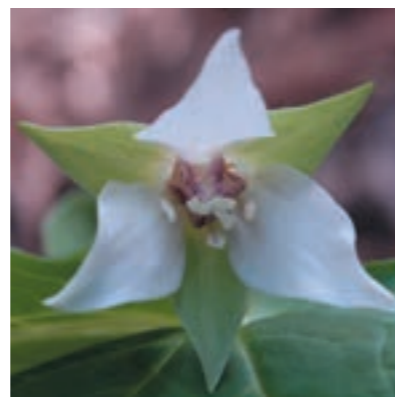
(撮影：三島木 進)

エゾノミヤマエンレイソウ

Trillium tschonokii var. *atrорubens*

シュロソウ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
環境省

(撮影：国京 潤一 [撮影地：岩手県])

- 選定理由 生育地は数ヶ所で局限されている。
- 分布の概要 北海道・本州・四国・九州に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 県北の北上山地の林床に生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、自然遷移など
- 主要文献番号 114

(執筆：植物分科会)

マルバサンキライ

Smilax stans

サルトリイバラ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
CR+EN 環境省

(撮影：上野 雄規)

- 選定理由 生育地が10ヶ所近く、比較的多いのでランクを下げた。分布は限られている。
- 分布の概要 本州～四国・九州に分布する。日本固有種。
- 県内の生育状況 生育地は奥羽山地、北上山地の林床であり、個体数も少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、自然遷移など

(執筆：植物分科会)

アマナ

Amana edulis

ユリ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省

(撮影：三島木 進)

- 選定理由 本県の分布は太平洋側北限。生育地は10ヶ所程度で限られており、個体数は多い。
- 分布の概要 秋田県・宮城県以南の本州・四国・九州・奄美大島に分布している。朝鮮・中国東北部に分布する。
- 県内の生育状況 県南の河川の土手、日当たりの良い草原に生育地が限られている。生育地、個体数とも少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、管理放棄、自然遷移など
- 主要文献番号 88、180、231、248

(執筆：植物分科会)

ミヤマスカシユリ

Lilium maculatum var. *bukosanense*

ユリ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
CR+EN 環境省

(撮影：三島木 進)

- 選定理由 生育地が10ヶ所以上と比較的多いのでランクを下げた。生育地は限られており、個体数は少ない。
- 分布の概要 本州の新潟県・福島県・山形県・秋田県・岩手県の深山に分布する。日本固有種。
- 県内の生育状況 奥羽山地の岩場に少数点在している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など
- 主要文献番号 53、112

(執筆：植物分科会)

ヒメサユリ

Lilium rubellum

ユリ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省

(撮影：上野 雄規)

- 選定理由 本県の分布が太平洋側北限。生育地は数ヶ所とごく限られており、個体数も少ない。
- 分布の概要 新潟県・福島県・山形県の県境付近に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 県南部の奥羽山地に少数点在している。最近ではニホンザルがユリ根を採餌しているとのことで絶滅が危惧される。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移、動物食害、園芸採取など
- 主要文献番号 21、22、28、33、102、165

(執筆：植物分科会)

コアニチドリ

Amitostigma kinoshitae

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省

(撮影：細谷 治夫)

- 選定理由 生育地は数ヶ所で、園芸価値が高く乱獲が続き、個体数とも激減している。
- 分布の概要 中北部以北の本州・北海道に分布している。南千島にも分布する。
- 県内の生育状況 限られた山地の湿原や湿った岩上に群生しているが、園芸品として乱獲され絶滅が危惧される。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など
- 主要文献番号 132、238

(執筆：植物分科会)

ムギラン

Bulbophyllum inconspicuum

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
NT

- **選定理由** 本県は分布の北限。生育地は2ヶ所で局限されている。
- **分布の概要** 宮城県以南の本州・四国・九州に分布している。朝鮮半島南部に分布する。
- **県内の生育状況** 県南部の限られた場所の樹木に着生している。乱獲された様子はないが、保護対策が必要である。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、自然遷移など
- **主要文献番号** 196、228

(執筆：植物分科会)



(撮影：根本 秀一[撮影地：茨城県])

エビネ

Calanthe discolor

ラン科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
NT

- **選定理由** 生育地は30ヶ所以上で比較的多いが、減少率の高い所も多い。園芸価値が高く、乱獲され個体数は激減している。
- **分布の概要** 北海道西南部～沖縄に分布している。朝鮮(済州島)にも分布する。
- **県内の生育状況** 里山や山地の林床に広く分布するが、乱獲が進み絶滅した所もある。個体数も減少している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、園芸採取など
- **主要文献番号** 33、48、67、101、130、142、143、149、173、180、212、238

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

キンセイラン

Calanthe nipponica

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
VU

- **選定理由** 生育地は20ヶ所以上あるが、個体数も少ない。園芸価値が高いため乱獲により絶滅が危惧される。
- **分布の概要** 北海道～九州宮崎県に分布している。チベットにも分布する。
- **県内の生育状況** 丘陵地のクリ・コナラ林やスギ植林などの林床に稀に生育する。乱獲による絶滅が危惧される。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、自然災害、自然遷移など
- **主要文献番号** 33、47、57、66、101、130、142、143、180、190、212、238、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

ナツエビネ

Calanthe puberula

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
VU

- **選定理由** 生育地は数ヶ所で局限され個体数も少ない。園芸価値が高いため乱獲により絶滅が危惧される。
- **分布の概要** 本州～九州に分布している。朝鮮(済州島)・中国南部・台湾に分布する。
- **県内の生育状況** スギやヒノキ植林の林床にごく稀に生育している。乱獲により絶滅した所もあり、個体数も激減した。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、自然災害、自然遷移など
- **主要文献番号** 33、67、130

(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

サルメンエビネ

Calanthe tricarinata

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
VU

- **選定理由** 生育地は20ヶ所近くで、個体数は少ない。園芸価値が高いため乱獲により絶滅が危惧される。
- **分布の概要** 北海道～九州に分布している。台湾・ヒマラヤに分布する。
- **県内の生育状況** 生育地は奥羽山地であるが、乱獲が行われ絶滅した所も多く、個体数も激減している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、自然災害、自然遷移など
- **主要文献番号** 100、130、212

(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

キンラン

Cephalanthera falcata

ラン科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
NT

- **選定理由** 生育地は50ヶ所以上で多いが、減少率の高い所も多い。園芸価値が高く盗掘が進み個体数が激減していたが、改善されつつある。
- **分布の概要** 本州～九州に分布している。朝鮮・中国に分布する。
- **県内の生育状況** 丘陵地の林床に生育、開発により生育環境が悪化し、園芸採取も行われて個体数が減少したが、自然保護の普及により改善された。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、園芸採取など
- **主要文献番号** 33、47、48、63、64、67、88、132、142、143、167、171、179、180、242

(執筆：植物分科会)



(撮影：上野 雄規)

クゲヌマラン

Cephalanthera longifolia

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN

環境省
VU

■**選定理由** 生育地は10ヶ所程度と局限されており、個体数も少ない。東日本大震災で生育地が減少した。

■**分布の概要** 青森県～和歌山県の本州・四国・九州に分布している。ユーラシア大陸に広く分布する。

■**県内の生育状況** 海岸に近い所に生育するが個体数は少ない。東日本大震災による津波の影響により消滅した生育地もある。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、自然遷移、自然災害など

■**主要文献番号** 73、74、100、105、115、116、132、142、143、179、180、212、246
(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

ユウシュンラン

Cephalanthera subaphylla

ラン科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT

環境省
NT

■**選定理由** 生育地は40ヶ所以上で少し多いが、減少率の高い所が多い。また、ランマニアによる乱獲、土地開発によって減少している。

■**分布の概要** 北海道～九州に分布している。朝鮮半島にも分布する。

■**県内の生育状況** 丘陵地から山地の落葉広葉樹林の林床に広く生育するが、個体数は少ない。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発、森林伐採、園芸採取など

■**主要文献番号** 3、32、33、47、48、88、100、102、113、114、132、139、142、143、167、179、238
(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

ヒメノヤガラ

Chamaegastrodia shikokiana

ラン科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU

環境省
VU

■**選定理由** 生育地は10ヶ所程度で限定され、個体数も少ない。

■**分布の概要** 岩手県以南の本州～四国・九州に分布している。

■**県内の生育状況** 無葉のランで菌従属栄養植物(腐生植物)。丘陵地の林床に生育するが、個体数は少ない。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採など

■**主要文献番号** 27、47、52、130、141、172
(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

トケンラン

Cremastra unguiculata

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN

環境省
VU

■**選定理由** 生育地は数ヶ所であるが、減少率が高い生育地が多く、個体数も少ない。園芸価値が高いため乱獲により絶滅が危惧される。

■**分布の概要** 北海道・本州・四国に分布している。朝鮮(済州島)にも分布する。

■**県内の生育状況** 山地に稀に生育し、個体数も少ない。園芸植物として採取されるため、場所によっては絶滅している。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、森林伐採、自然遷移など

■**主要文献番号** 33、134
(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

コアツモリソウ

Cypripedium debile

ラン科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
CR+EN

環境省
NT

■**選定理由** 生育地が10ヶ所以上と比較的多いのでランクを下げたが、減少率大の生育地が多い。園芸採取で絶滅が危惧される。

■**分布の概要** 北海道西南部・本州・四国・九州に分布している。中国にも分布する。

■**県内の生育状況** 里山から山地にごく稀に生育し、個体数も少ない。場所によっては絶滅している。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、土地開発、園芸採取など

■**主要文献番号** 33、47、92、100、101、113、132、139、142、143、198、212、238
(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

クマガイソウ

Cypripedium japonicum

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN

環境省
VU

■**選定理由** 生育地は20ヶ所近くあるが、減少率の高い生育地が多い。園芸価値が高く、園芸採取で絶滅が危惧される。

■**分布の概要** 北海道西南部～九州に分布している。朝鮮・中国に分布する。

■**県内の生育状況** 山地に稀に生育し、個体数も少ない。園芸植物として採取されるため、場所によっては絶滅している。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、森林伐採など

■**主要文献番号** 33、47、67、101、132、142、143、171、180、209、212、238、242
(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

アツモリソウ

Cypripedium macranthos

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
VU

■**選定理由** 生育地は数ヶ所で局限されている。園芸価値が高く、園芸採取で個体数が激減している。絶滅が危惧され保護する必要がある。

■**分布の概要** 本州中北部以北・北海道に分布している。南千島・アジア北東部～ヨーロッパ東部に分布する。

■**県内の生育状況** 山地にごく稀に生育する。乱獲で絶滅した所も多い。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、森林伐採など

■**主要文献番号** 15、33、47、100、132、171、212

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明)

イチヨウラン

Dactyloctenium ringens

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

■**選定理由** 園芸価値があり、生育地が数ヶ所と局限されている。

■**分布の概要** 北海道～九州に分布している。南千島・サハリンに分布する。

■**県内の生育状況** 蔵王連峰から栗駒山までの奥羽山地と阿武隈山地に生育している。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、自然災害、自然遷移など

■**主要文献番号** 60、91、101

(執筆：植物分科会)



(撮影：木村 紗重子)

セッコク

Dendrobium moniliforme

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

■**選定理由** 園芸価値が高く乱獲が続く、生育地は数ヶ所で、個体数とも激減している。保護対策が必要である。

■**分布の概要** 本州～沖縄に分布している。朝鮮南部・中国・台湾に分布する。

■**県内の生育状況** 南三陸の島嶼や沿岸部の崖壁や樹上に着生し、ごく稀に生育している。乱獲が進み絶滅した所も多く見られ、個体数は激減した。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、自然災害、自然遷移など

■**主要文献番号** 7、8、92、94、96、100、101、102、105、112、115、116、120、130、184、246

(執筆：植物分科会)



(撮影：八巻 克己)

サワラン

Eleorchis japonica

ラン科

準絶滅危惧 (NT)

2016
- 環境省
-

■**選定理由** 生育地は国定公園内の数ヶ所でごく限られている。

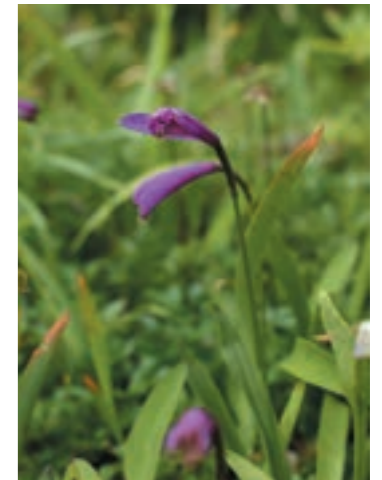
■**分布の概要** 本州中部以北から北海道の湿原に分布している。南千島にも分布する。

■**県内の生育状況** 蔵王連峰、栗駒山の高山の湿原で生育が確認されている。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、自然遷移など

■**主要文献番号** 220、226、238

(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

エゾスズラン(アオスズラン)

Epipactis papillosa var. *papillosa*

ラン科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
NT 環境省
-

■**選定理由** 生育地が20ヶ所程度と比較的少ないのでランクを上げた。減少率大の生育地が多い。園芸植物としてマニアによる乱獲が進んでいる。

■**分布の概要** 北海道～九州に分布している。南千島・樺太・中国東北部・ウスリー・カムチャツカに分布する。

■**県内の生育状況** 丘陵地から亜高山帯まで生育するが、個体数が極めて少ない。マニアによる乱獲が進み個体数が激減している。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、土地開発、園芸採取など

■**主要文献番号** 21、88、143、167、238

(執筆：植物分科会)



(撮影：国京 潤一)

ハマカキラン

Epipactis papillosa var. *sayekiana*

ラン科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
NT 環境省
VU

■**選定理由** 生育地が20ヶ所程度と比較的少ないのでランクを上げた。減少率大の生育地が多い。園芸植物としてマニアによる乱獲が進んでいる。

■**分布の概要** 青森県～愛知県の太平洋側の海岸地域に分布する。

■**県内の生育状況** 沿岸域の海岸林の林床等に生育し、個体数は少ない。東日本大震災の津波に遭遇し、海岸砂丘地では絶滅し、また復旧工事で消滅した所もあるが、復活した所もある。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 海岸開発、園芸採取、自然災害など

■**主要文献番号** 73、78、79、105、132、142、179、180、212、242、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

アオキラン

Epipogium japonicum

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
EN

- 選定理由 生育地は県立公園内の1ヶ所で局限されている。
- 分布の概要 中北部以北の本州に稀産している。ヒマラヤ西部にも分布する。
- 県内の生育状況 奥羽山地の二口山塊のただ1ヶ所で確認されただけである。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など
- 主要文献番号 182、255

(執筆：植物分科会)



(撮影：植物分科会調査員[東北大学植物園記念館所蔵])

カモメラン

Galearis cyclochila

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
NT

- 選定理由 生育地は数ヶ所と局限されている。園芸価値が高いため、乱獲され絶滅が危惧される。
- 分布の概要 中北部以北の本州・北海道に分布している。樺太・朝鮮・ウスリーに分布する。
- 県内の生育状況 奥羽山地の木陰に生育するが、園芸価値が高く乱獲され個体数は激減している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、森林伐採など
- 主要文献番号 132、238

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明)

マツラン(ベニカヤラン)

Gastrochilus matsuran

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
VU

- 選定理由 生育地は10ヶ所程度で局限されている。絶滅した生育地もあり、乱獲が心配される。
- 分布の概要 岩手県以南の太平洋側本州～九州に分布している。朝鮮半島南部にも分布する。
- 県内の生育状況 マツ等の樹上に着生するランであるが、生育地は海岸から丘陵地に局限されている。乱獲されて個体数が激減した所もある。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、森林伐採、自然遷移など
- 主要文献番号 8、58、92、96、100、106、112、119、130、139、142、143、179、200

(執筆：植物分科会)



(撮影：横山 正弘)

モミラン

Gastrochilus toramanus

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
VU

- 選定理由 本県は分布の北限。生育地は国立公園内の1ヶ所で局限されている。
- 分布の概要 宮城県以南の本州・四国・九州に分布している。
- 県内の生育状況 樹上に着生する。南三陸の島嶼に生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、森林伐採、自然遷移など
- 主要文献番号 100

(執筆：植物分科会)



(撮影：岡崎 キヌ)

シロテンマ

Gastrodia elata var. *pallens*

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
VU 環境省
EN

- 選定理由 生育地は数ヶ所で、個体数が少なく極めて稀な植物で、ランクを上げた。珍しいという事で採取されている。
- 分布の概要 北海道～本州に分布している。
- 県内の生育状況 山地の林床で数ヶ所生育地が確認されているのみである。オニノヤガラの変種で稀。
- 近似種との区別 オニノヤガラの変種で、花は白色で萼片と側花弁が合着して壺状になるのが特徴。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、珍種採取、自然遷移など
- 主要文献番号 88、142、143

(執筆：植物分科会)



(撮影：森 俊)

クロヤツシロラン

Gastrodia pubilabiata

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
- 環境省
-

- 選定理由 本県が分布の北限。生育地は1ヶ所で局限されており、個体数も少ない。2022年初めて生育が確認された。
- 分布の概要 宮城県以南の本州・四国・九州に分布している。
- 県内の生育状況 山元町で確認。丘陵地の広葉樹林に稀に生育する菌従属栄養植物。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、自然遷移など
- 主要文献番号 166-2、254

(執筆：植物分科会)



(撮影：阿部 功之)

ベニシュスラン

Goodyera biflora

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- **選定理由** 生育地は2ヶ所で局限されている。園芸価値が高いため乱獲され個体数は激減している。
- **分布の概要** 北海道南部・本州・四国・九州に分布している。朝鮮・台湾・中国〜ヒマラヤに分布する。
- **県内の生育状況** 山地の林床に生え、奥羽山地の栗駒山と川崎町で生育が確認されている。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、森林伐採、自然遷移など
- **主要文献番号** 210、212

(執筆：植物分科会)



(撮影：須川 敏幸)

ヒロハツリシュスラン

Goodyera pendula f. brachyphylla

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
EN

- **選定理由** 生育地は10ヶ所程度とごく限られており、マニアによる乱獲があり個体数が減少している。
- **分布の概要** 中北部以北の本州・北海道に分布している。
- **県内の生育状況** 山地のブナ等に着生するが、極限られた場所に生育している。乱獲により絶滅が危惧される。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、森林伐採、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

ヒメミヤマウズラ

Goodyera repens

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- **選定理由** 生育地は国立公園内の1ヶ所で限られている。マニアによる乱獲で個体数は減少している。
- **分布の概要** 北海道・本州中北部に分布している。南千島・中国東北部・朝鮮・樺太・ヒマラヤ・シベリア・ヨーロッパ・北アフリカ・北アメリカに分布する。
- **県内の生育状況** 蔵王連峰の山地帯から亜高山帯の針葉樹林下で生育が確認されているが、個体数も極めて少ない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、森林伐採、自然遷移など
- **主要文献番号** 26、220

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明)

テガタチドリ

Gymnadenia conopsea

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- **選定理由** 生育地は国立公園内の数ヶ所に限られており、個体数はごく少ない。
- **分布の概要** 中北部以北の本州・北海道に分布している。千島・樺太・朝鮮・中国〜シベリア・ヨーロッパに分布する。
- **県内の生育状況** 蔵王連峰の草原に生育し、確認地は極めて少ない。個体数も少ない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、自然遷移など
- **主要文献番号** 22、165、220

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

オオミズトンボ

Habenaria linearifolia

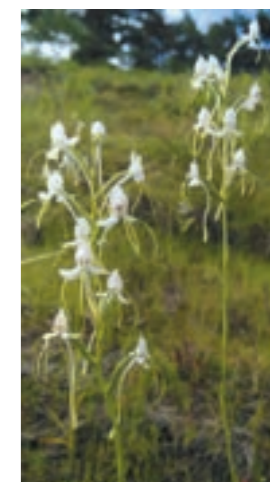
ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
EN

- **選定理由** 生育地は10ヶ所以上あるが、開発による減少、マニアによる乱獲で絶滅した所もある。
- **分布の概要** 北海道・関東以北の本州に分布している。ウスリー・アムール・中国東北部・朝鮮に分布する。
- **県内の生育状況** 奥羽山地の日当たりの良い湿地に生育するが、乱獲等によって絶滅した所が多く、生育地、個体数とも減少している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、土地開発など
- **主要文献番号** 63、88

(執筆：植物分科会)



(撮影：尾形 良太)

ミズトンボ

Habenaria sagittifera

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
NT

- **選定理由** 生育地は20ヶ所程度で、減少率が大いが多い。開発による減少、マニアによる乱獲で絶滅した所もある。
- **分布の概要** 北海道西南部〜九州に分布している。中国中部にも分布する。
- **県内の生育状況** 日当たりの良い丘陵帯の湿地に生育するが、乱獲等によって絶滅した所が多く、生育地、個体数とも激減している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、土地開発など
- **主要文献番号** 33、63、190、242

(執筆：植物分科会)



(撮影：尾形 良太)

ヒナチドリ

Hemipilia chidori

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
VU

■**選定理由** 生育地は数ヶ所で局限されている。園芸価値が高いため乱獲され、生育地、個体数共に激減している。

■**分布の概要** 本州・四国に分布する。日本固有種。

■**県内の生育状況** 丘陵から山地のコケの生えた樹上に着生し生育するが乱獲が進行し、個体数も激減している。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、森林伐採、自然遷移など

■**主要文献番号** 132

(執筆：植物分科会)



(撮影：上野 雄規)

ミヤマモジズリ

Hemipilia cucullata

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

■**選定理由** 分布は県立公園の2ヶ所に局限されている。園芸価値があり乱獲されている。

■**分布の概要** 北海道・中北部以北の本州・四国に分布している。千島・樺太・朝鮮・シベリア・ヨーロッパに分布する。

■**県内の生育状況** 山地帯から亜高山帯の針葉樹林下に生育する。個体数は極めて少ない。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、自然遷移など

■**主要文献番号** 132、238

(執筆：植物分科会)



(撮影：滝口 政彦)

ウチョウラン

Hemipilia graminifolia

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
NT

■**選定理由** 生育地は数ヶ所で局限されている。園芸価値が高いため、乱獲され絶滅が危惧される。

■**分布の概要** 東北以南の本州～九州に分布している。朝鮮にも分布する。

■**県内の生育状況** 丘陵地～山地の岩場のやや湿った場所に生育している。乱獲が進み絶滅した所もある。個体数は激減している。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、自然遷移など

■**主要文献番号** 21、33、99、101、102、103、109、132、212、238

(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

ムカゴソウ

Herminium angustifolium

ラン科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
VU

■**選定理由** 生育地は数ヶ所と局限され、個体数も少ない。

■**分布の概要** 北海道～沖縄に分布している。朝鮮・台湾・中国東北部に分布する。

■**県内の生育状況** 奥羽山地、平野部、島嶼のやや湿った草原に生育する。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、乾燥、自然遷移など

■**主要文献番号** 132

(執筆：植物分科会)



(撮影：根本 秀一 [撮影地：鹿児島県])

ハクウンラン

Kuhlhasseltia nakaiana

ラン科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

■**選定理由** 生育地は10ヶ所以上で広く分布するが、個体数は少ない。

■**分布の概要** 本州・九州に分布している。朝鮮にも分布する。

■**県内の生育状況** 山地帯の林床に生育するが、個体数は少ない。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、園芸採取など

(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

エンシュウムヨウラン

Lecanorchis suginoana

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
- 環境省
-

■**選定理由** 宮城県が新北限。生育地は2ヶ所で局限されている。

■**分布の概要** 本州の太平洋側で関東・東海地方・四国・九州に分布している。台湾にも分布する。

■**県内の生育状況** 仙台市の丘陵地で生育が確認されている。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、森林伐採、自然遷移など

■**主要文献番号** 166

(執筆：植物分科会)



(撮影：阿部 功之)

ギボウシラン

Liparis auriculata

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016 CR+EN	環境省 VU
---------------	-----------

■**選定理由** 生育地は数ヶ所で局限されている。園芸価値が高く乱獲が続き、個体数も激減している。

■**分布の概要** 北海道～九州・屋久島に分布している。朝鮮(済州島)にも分布する。

■**県内の生育状況** 山地の林床のやや湿った所に生育するが、生育地、個体数とも少ない。乱獲のため絶滅した所もある。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、森林伐採、自然遷移など

■**主要文献番号** 101、160、254

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

フガクスズムシソウ

Liparis fujisanensis

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016 CR+EN	環境省 VU
---------------	-----------

■**選定理由** 生育地は数ヶ所で局限されており、園芸価値が高く乱獲が行われており、個体数も激減している。

■**分布の概要** 北海道から九州に分布している。

■**県内の生育状況** 山地帯のブナ等の樹幹に着生するが、生育箇所、個体数共に少ない。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、森林伐採、自然遷移など

■**主要文献番号** 108、212

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

ジガバチソウ

Liparis krameri

ラン科

準絶滅危惧 (NT)

2016 NT	環境省 -
------------	----------

■**選定理由** 生育地は40ヶ所以上で少し多い。園芸植物として価値が高く採取され、生育地及び個体数が激減している。

■**分布の概要** 北海道～九州に分布している。朝鮮にも分布する。

■**県内の生育状況** 平野部から山地帯の林床に広く生育するが、園芸植物として乱獲され減少している。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、土地開発、園芸採取など

■**主要文献番号** 48、67、73、88、130、167、179、238、242

(執筆：植物分科会)



(撮影：国京 潤一)

アキタスズムシソウ

Liparis longiracemosa

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016 -	環境省 -
-----------	----------

■**選定理由** 生育地は1ヶ所で局限されており、個体数も少ない。

■**分布の概要** 北海道、本州、四国、九州に分布している。日本固有種。

■**県内の生育状況** 仙台市青葉区の奥羽山脈に生育。スズムシソウと同様、疎林の空中湿度が高い場所に生育すると思われる。極稀。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、自然遷移など

■**主要文献番号** 252

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

セイトカスズムシソウ

Liparis makinoana

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016 CR+EN	環境省 -
---------------	----------

■**選定理由** 生育地は1ヶ所で局限されており、園芸価値が高く乱獲が行われており、個体数も激減している。

■**分布の概要** 北海道～九州に分布している。朝鮮・中国東北部・アムールに分布する。

■**県内の生育状況** 山地の林床に生育するが、生育地、個体数とも少ない。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、森林伐採、自然遷移など

■**主要文献番号** 42

(執筆：植物分科会)



(撮影：藤田 玲 [撮影地：北海道])

スズムシソウ

Liparis suzumushi

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016 CR+EN	環境省 -
---------------	----------

■**選定理由** 生育地は2ヶ所で、ごく限られている。園芸価値が高いため乱獲が進み、個体数も激減している。

■**分布の概要** 北海道～九州に分布している。朝鮮にも分布する。

■**県内の生育状況** 県南の奥羽山地の林床に生育するが、生育地、個体数とも極めて少ない。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、森林伐採、自然遷移など

■**主要文献番号** 22、165

(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

ノビネチドリ

Neolindleya camtschatica

ラン科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU環境省
-

■選定理由 生育地は40ヶ所程度と多いが、個体数とも激減している。園芸価値が高いので乱獲が進んでいる。

■分布の概要 北海道・本州中北部・四国・九州に分布している。樺太・カムチャツカ・朝鮮に分布する。

■県内の生育状況 山地帯の湿地に広く生育するが、乱獲が進み個体数も激減し、場所によっては絶滅状態になっている。

■生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など

■主要文献番号 47、48、132、171、220、226、238

(執筆：植物分科会)



(撮影：加藤 啓子)

コフタバラン

Neottia cordata

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
-

■選定理由 生育地は国定・県立公園内の数ヶ所と局限されている。

■分布の概要 北海道・本州中北部・四国に分布している。千島・樺太にも分布する。

■県内の生育状況 蔵王連峰、二口山塊の亜高山帯の針葉樹林内に生育する。

■生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取など

■主要文献番号 132、220

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰[撮影地：福島県])

タンザワサカネラン

Neottia inagakii

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
-環境省
EN

■選定理由 生育地は近年2ヶ所で確認され、局限されている。

■分布の概要 本州の中部に分布している。日本固有種。

■県内の生育状況 白石市と仙台市の丘陵地帯の林床で生育が確認されている。

■生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、森林伐採、自然遷移など

■主要文献番号 42、240

(執筆：植物分科会)



(撮影：阿部 功之)

ヒメフタバラン

Neottia japonica

ラン科

要注目種

2016
要注目種環境省
-

■選定理由 本県は分布の太平洋側北限。生育地は40ヶ所近くで多いが、個体数は激減している。

■分布の概要 宮城県・秋田県以南の本州～沖縄に分布する。

■県内の生育状況 丘陵地、島嶼の林床に生育する。

■生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、森林伐採など

■主要文献番号 48、96、100、113、132

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

アオフタバラン

Neottia makinoana

ラン科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU環境省
-

■選定理由 生育地は2ヶ所で局限され、個体数も極めて少ない。

■分布の概要 本州の青森県～九州に分布している。日本固有種。

■県内の生育状況 県南の山地の林床に生育するが、個体数は少ない。

■生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、園芸採取など

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明)

サカネラン

Neottia papilligera

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
-環境省
VU

■選定理由 生育地は国定・県立公園内の2ヶ所で局限されている。

■分布の概要 北海道から九州まで分布している。樺太・朝鮮・中国・シベリアに分布する。

■県内の生育状況 船形連峰と白石市で生育が確認されている。

■生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、森林伐採、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

ムカゴサイシン

Nervilia nipponica

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016	環境省
-	NT

■**選定理由** 生育地の川崎町の標本が2点あるが、スギ植林が伐採されたため絶滅した。その後新たな生育地が見つかった。

■**分布の概要** 本州の関東から南・四国・九州・沖縄に分布している。韓国(済州島)にも分布する。

■**県内の生育状況** 県南の川崎町のスギ植林内で確認された。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、自然遷移など

■**主要文献番号** 38

(執筆：植物分科会)



(撮影：上野 雄規)

ヨウラクラン

Oberonia japonica

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016	環境省
CR+EN	-

■**選定理由** 本県は分布の北限であり、生育地は国立公園内の1ヶ所で、局限されている。個体数も極めて少ない。

■**分布の概要** 宮城県以南の本州～沖縄に分布している。朝鮮(済州島)・台湾・中国に分布する。

■**県内の生育状況** 島嶼に局限して生育し、個体数は少ない。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、森林伐採、自然遷移など

■**主要文献番号** 92、96、100、119

(執筆：植物分科会)



(撮影：根本 秀一 [撮影地：茨城県])

サギソウ

Pecteilis radiata

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016	環境省
CR+EN	NT

■**選定理由** 生育地は20ヶ所以上あったが、減少率が大きい所が多い。園芸価値が高いため、乱獲され、また、土地開発により絶滅した所も多い。

■**分布の概要** 北海道西南部～九州に分布している。中国中部に分布する。

■**県内の生育状況** 丘陵帯から山地帯の日当たりの良い湿地に生育するが、乱獲等によって絶滅した所が多く、生育地、個体数とも激減している。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、湿原開発など

■**主要文献番号** 33、47、48、63、101、132、170、191、212、238、242

(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

タカネトンボ

Platanthera chorisiana

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016	環境省
CR+EN	VU

■**選定理由** 生育地は国立公園内の1ヶ所で局限、個体数も少ない。

■**分布の概要** 中北部本州・北海道に分布している。千島・樺太・カムチャツカ・アリューシャンに分布する。

■**県内の生育状況** 蔵王連峰の高山の湿原に生育する。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 自然遷移、園芸採取など

■**主要文献番号** 33、47、220

(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

ミズチドリ

Platanthera hologlottis

ラン科

絶滅危惧II類 (VU)

2016	環境省
VU	-

■**選定理由** 生育地は20ヶ所以上であるが、個体数共に減少している。池沼の開発が進み、園芸採取も多い。

■**分布の概要** 北海道～九州に分布している。南千島・朝鮮・中国北東部・シベリアに分布する。

■**県内の生育状況** 平地から里山の池沼、湿地に生育する。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発、園芸採取など

■**主要文献番号** 7、8、63、88、132、144、238

(執筆：植物分科会)



(撮影：国京 潤一)

イイヌマムカゴ

Platanthera iinumae

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016	環境省
CR+EN	EN

■**選定理由** 生育地は数ヶ所で局限されており、減少率の大きい生育地も多く、個体数も少ない。

■**分布の概要** 本州の青森県から四国・九州の霧島山に分布する。日本固有種。

■**県内の生育状況** 奥羽山地の木陰に生育するが、ごく稀な植物である。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、森林伐採など

■**主要文献番号** 33

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

ツレサギソウ

Platanthera japonica

ラン科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
NT 環境省
-

■選定理由 生育地が20ヶ所程度と比較的少ないのでランクを上げた。個体数は少なく、園芸植物として乱獲されている。

■分布の概要 北海道～沖縄に分布している。中国にも分布する。

■県内の生育状況 平地から山地帯までの日当たりの良い湿原や湿った樹林下に生育する。

■生育に対する脅威(減少の要因) 湿原開発、園芸採取、自然遷移など

■主要文献番号 65、67、88、132、142、143、171、180、238、246、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：尾形 良太)

マイサギソウ

Platanthera mandarinorum subsp. *mandarinorum* var. *macrocentron*

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

■選定理由 生育地は10ヶ所以上あるが、個体数は少なく、乱獲されている。

■分布の概要 北海道・本州・四国・九州に分布している。朝鮮半島・中国に分布する。

■県内の生育状況 日当たりのよい湿地、草地に生育するが、個体数は少なく乱獲されている。

■生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、森林伐採など

■主要文献番号 22、63、165、167、179、180

(執筆：植物分科会)



(撮影：尾形 良太)

ヤマサギソウ

Platanthera mandarinorum subsp. *mandarinorum* var. *oreades*

ラン科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
VU

■選定理由 生育地は広いが、10ヶ所程度と局限されている。園芸採取が危惧される。

■分布の概要 北海道～九州に分布している。樺太・朝鮮・中国に分布する。

■県内の生育状況 日当たりの良い草原に生育地が限られている。草原が放置され自然遷移が進行、あるいは植林が行われ減少している。

■生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、管理放棄、自然遷移など

■主要文献番号 132、142、143、238

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

タカネサギソウ

Platanthera mandarinorum subsp. *maximowicziana* var. *maximowicziana*

ラン科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
- 環境省
-

■選定理由 確認されている生育地は国定公園内の1ヶ所で局限されている。

■分布の概要 本州中北部・北海道に分布している。南千島にも分布する。

■県内の生育状況 蔵王連峰の高山の湿原で生育が確認されている。

■生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など

■主要文献番号 132、220、226

(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

ノヤマトンボ(オオバノトンボソウ)

Platanthera minor

ラン科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

■選定理由 生育地は10ヶ所程度と限定されている。園芸品として乱獲される恐れがある。

■分布の概要 本州～九州に分布している。朝鮮半島・台湾・中国に分布する。

■県内の生育状況 丘陵地の林床に生育するが、個体数は少ない。

■生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、園芸採取など

(執筆：植物分科会)



(撮影：国京 潤一)

ガッサンチドリ

Platanthera takedae subsp. *uzenensis*

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
- 環境省
EN

■選定理由 生育地は国定公園内の1ヶ所である。

■分布の概要 本州中部地方以北の日本海側の高山から北海道まで分布している。日本固有種。

■県内の生育状況 蔵王連峰の高山草原で生育が確認されている。

■生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取など

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

トキソウ

Pogonia japonica

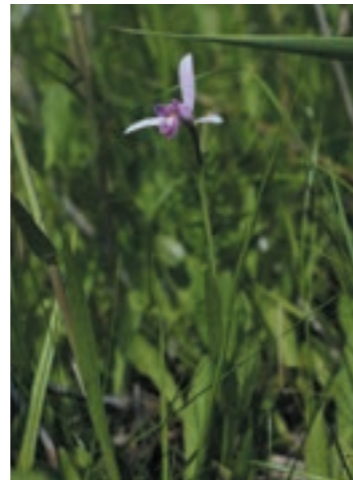
ラン科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
NT

- 選定理由 生育地は40ヶ所程度と多いが、減少率の高い所が多い。園芸価値が高いため盗掘が進み、個体数が激減していたが、自然保護の普及により改善されつつある。
- 分布の概要 北海道・本州・四国・九州に分布している。千島・朝鮮・中国に分布する。
- 県内の生育状況 丘陵から山地帯の日当たりの良い湿地に生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など
- 主要文献番号 33、56、63、113、130、226、242

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 細谷 治夫)

ヤマトキソウ

Pogonia minor

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- 選定理由 生育地は20ヶ所以上で、比較的限られている。個体数も少ない。園芸価値があり乱獲が進んでおり絶滅が危惧される。
- 分布の概要 北海道～九州に分布している。朝鮮・台湾に分布する。
- 県内の生育状況 奥羽山地の日当たりの良い草原や湿地に生育するが個体数は少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など
- 主要文献番号 63、130、180、242

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 三島木 進)

ミヤマトキソウ

Pogonia subalpina

ラン科

準絶滅危惧 (NT)

2016
- 環境省
-

- 選定理由 生育地は国定・県立公園内の10ヶ所程度で限定されている。
- 分布の概要 本州の中部から東北地方までの日本海側の高山に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 蔵王連峰、二口山塊、船形連峰、栗駒山の亜高山帯の湿った草場で生育が確認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 市ノ渡 彰)

カヤラン

Thrixspermum japonicum

ラン科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 生育地は20ヶ所程度と限られ、園芸価値が高い。個体数は激減している。
- 分布の概要 岩手県以南の本州～四国・九州に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 丘陵地のモミなどの樹上に着生し、生育地は多くなく、個体数は少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、園芸採取など
- 主要文献番号 8、48、58、92、95、96、100、106、112、130、180、184、200、248

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 杉山 多喜子)

ヒトツボクロ

Tipularia japonica

ラン科

準絶滅危惧 (NT)

2016
- 環境省
-

- 選定理由 生育地は20ヶ所近くで、分布範囲は広いが限定されている。
- 分布の概要 本州から九州に分布している。朝鮮南部にも分布する。
- 県内の生育状況 海岸、丘陵地のアカマツ林などの明るい林床で生育が確認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、園芸採取、自然遷移など
- 主要文献番号 73、111、179、242、248

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 三島木 進)

ショウキラン

Yoania japonica

ラン科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- 選定理由 生育地は数ヶ所と局限されており、個体数も少ない。
- 分布の概要 北海道西南部～九州・屋久島に分布する。
- 県内の生育状況 奥羽山地の林内に生育するが、ごく稀な植物である。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、森林伐採、自然遷移など
- 主要文献番号 102、108、132

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 上野 雄規)

コキンバイザサ

Hypoxis aurea

キンバイザサ科

絶滅 (EX)

2016 EX 環境省 -

- **選定理由** 本県唯一の仙台市の生育地が、宅地造成のため絶滅した。
- **分布の概要** 宮城県以南の本州から沖縄に分布している。中国南部・台湾・マレーシア・インドの暖地の山地に分布する。
- **県内の生育状況** 仙台市で過去に確認された。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発など
(執筆：植物分科会)



(生態写真：根本 秀一[撮影地：千葉県] 標本写真：植物分科会調査員[東北大学植物園記念館所蔵])

ヒオウギ

Iris domestica

アヤメ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016 CR+EN 環境省 -

- **選定理由** 生育地は数ヶ所とごく限られており、個体数も少ない。園芸採取が危惧される。
- **分布の概要** 本州～九州に分布している。朝鮮・中国・インドに分布する。
- **県内の生育状況** 丘陵地の草地にごく稀に生育する。観賞用にも栽培される。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、自然遷移など
- **主要文献番号** 88、101、142、171
(執筆：植物分科会)



(撮影：大友 良三)

ヒメシャガ

Iris gracilipes

アヤメ科

準絶滅危惧 (NT)

2016 NT 環境省 NT

- **選定理由** 生育地は70ヶ所近くと多いが、園芸植物として採取されている。
- **分布の概要** 本州の秋田県から九州北部に分布している。日本固有種。
- **県内の生育状況** 丘陵地のやや乾いた林床に広く生育するが、県北は少ない。都会地付近では土地開発により減少している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発、森林伐採、園芸採取など
- **主要文献番号** 19、32、33、47、48、52、88、95、167、215、238、242、248
(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

カキツバタ

Iris laevigata

アヤメ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016 VU 環境省 NT

- **選定理由** 生育地は20ヶ所程度で限られており、個体数も少ない。
- **分布の概要** 北海道～九州に分布している。朝鮮・中国東北部・シベリア東部に分布する。
- **県内の生育状況** 平野部から丘陵地の水湿地に生育するが、やや局限した場所に生育し、以前より個体数の減少が鈍化した。観賞用の植栽も見られる。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 湿地開発、園芸採取、自然遷移など
- **主要文献番号** 67、88、123、196
(執筆：植物分科会)



(撮影：八巻 克己)

アヤメ

Iris sanguinea

アヤメ科

準絶滅危惧 (NT)

2016 NT 環境省 -

- **選定理由** 生育地は30ヶ所近くと比較的多いが、園芸採取されている。
- **分布の概要** 北海道～九州に分布している。朝鮮・中国東北部・シベリア東部に分布する。
- **県内の生育状況** 平野部から丘陵地の明るい草原に生育するが、園芸採取により個体数は減少している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 草原開発、園芸採取、管理放棄、自然遷移など
- **主要文献番号** 65、73、248
(執筆：植物分科会)



(撮影：上野 雄規)

ヒオウギアヤメ

Iris setosa

アヤメ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016 - 環境省 -

- **選定理由** 生育地は1ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
- **分布の概要** 本州中部以北から北海道に分布している。アリューシャン、アラスカ、アメリカ北部などに分布する。
- **県内の生育状況** 本来は亜高山帯から高山帯にかけての湿地や湿原に生育。仙南の丘陵地の標本がある。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 湿地開発、園芸採取、自然遷移など
(執筆：植物分科会)



(撮影：本多 隆[撮影地：福島県])

ステゴビル

Allium inutile

ヒガンバナ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
VU

- 選定理由 本県が分布の北限。生育地は1ヶ所で局限されている。
- 分布の概要 本州の宮城県から広島県まで分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 確認されている生育地は県北東部である。現在もその場所に生育しているかは不明である。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取など
- 主要文献番号 88、161、212

(執筆:植物分科会)



(撮影:葛西 英明)

ヤマラッキョウ

Allium thunbergii

ヒガンバナ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 本県が太平洋側北限。生育地は10ヶ所程度で限られている。
- 分布の概要 秋田県以南の本州~沖縄に分布している。朝鮮南部・中国・台湾に分布する。
- 県内の生育状況 仙台市と県南の日当たりの良い草原に生育地が限られている。生育地、個体数とも少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、管理放棄、自然遷移など
- 主要文献番号 8、96、112、241、242

(執筆:植物分科会)



(撮影:細谷 治夫)

ギョウジャニンニク

Allium victorialis subsp. *platyphyllum*

ヒガンバナ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- 選定理由 生育地は数ヶ所でごく限られており、個体数が激減している。
- 分布の概要 新潟県・茨城県以北の本州・北海道・千島に分布している。樺太・カムチャツカ・オホーツク海沿岸・朝鮮に分布する。
- 県内の生育状況 沿岸域から丘陵地の限られた立地に生育し、山菜として採取され個体数が減少した。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 山菜採取、園芸採取、土地開発など
- 主要文献番号 142、143

(執筆:植物分科会)



(撮影:葛西 英明)

スズラン

Convallaria majalis var. *manshurica*

クサスギカズラ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 生育地は10ヶ所程度と限られており、個体数も少ない。
- 分布の概要 北海道・本州・九州に分布している。朝鮮・中国・シベリアに分布する。
- 県内の生育状況 丘陵地の草地、疎林内に点在して生育するが、生育地は局限されており、個体数も減少している。観賞用に採取されたものも多い。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、園芸採取、自然遷移など
- 主要文献番号 47、65、171、238

(執筆:植物分科会)



(撮影:三島木 進)

ヒメマイヅルソウ

Maianthemum bifolium

クサスギカズラ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
NT 環境省
-

- 選定理由 生育地は1ヶ所だったが、40年振りに新たな生育地が見つかった。個体数は少なく、ランクを上げた。
- 分布の概要 北海道・本州中部以北に分布している。朝鮮・中国・樺太・カムチャツカ・シベリアに分布する。
- 県内の生育状況 生育地は奥羽山地の南部白石市のブナ林帯である。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、園芸採取など
- 主要文献番号 24、93

(執筆:植物分科会)



(撮影:佐藤 敏夫)

ヤマトユキザサ

Maianthemum viridiflorum

クサスギカズラ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT 環境省
-

- 選定理由 本県は分布の太平洋側北限。生育地は国定・県立公園内の数ヶ所で限定されている。
- 分布の概要 本州の秋田県以南~奈良県に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 奥羽山脈の山地の林床に稀に生育し、個体数も少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採など

(執筆:植物分科会)



(撮影:三島木 進)

ヒメイズイ

Polygonatum humile

クサスギカズラ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT環境省
-

- **選定理由** 生育地は30ヶ所近くで海岸に多いが、生育地、個体数共に減少している。
- **分布の概要** 北海道・本州中北部・九州に分布している。朝鮮・中国東北部・樺太・シベリア東部に分布する。
- **県内の生育状況** 海岸の砂浜から丘陵地の草地に広く生育する。2011年の東日本大震災の津波に遭遇し減少した所もある。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発、園芸採取、自然遷移、自然災害など
- **主要文献番号** 76、78、179、246、248

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 三島木 進)

ヤブミョウガ

Pollia japonica

ツククサ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
-

- **選定理由** 本県が分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所で局限されている。個体数は激減している。
- **分布の概要** 本州・四国・九州に分布している。韓国・台湾・中国南部に分布する。
- **県内の生育状況** 生育地は丘陵地の林床で、個体数が激減しており、絶滅が危惧される。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 自然遷移、土地開発など
- **主要文献番号** 7、8、18、88、112、130

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 三島木 進)

ミズアオイ

Monochoria korsakowii

ミズアオイ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
-環境省
NT

- **選定理由** 生育地は30ヶ所程度である。環境省でNTに指定している。
- **分布の概要** 北海道から九州に分布している。朝鮮・中国・ウスリーに分布する。
- **県内の生育状況** 平野部の水田や用水路に群落をつくり広く分布している。本県では水田雑草として除草対象となる。津波浸水域でも確認。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発、管理放棄、農薬汚染など
- **主要文献番号** 57、67、70、73、74、76、77、78、79、88、101、130、143、151、175、176、177、178、180、212、238、242、248

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 三島木 進)

オオミクリ

Sparganium coreanum

ガマ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
VU

- **選定理由** 生育地は数ヶ所の池沼で、全国的に分布が稀である。常に攪乱が起こる場所であり、破壊される対象である。
- **分布の概要** 本州・四国に分布している。朝鮮・中国に分布する。
- **県内の生育状況** 生育地は平野部の池沼に限定、個体数は多いが、河川改修や埋め立てなどで産地は急減している。東日本大震災の津波浸水域でも確認。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 河川開発、池沼開発、自然遷移など
- **主要文献番号** 78、79、88

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 杉山 多喜子)

エゾミクリ

Sparganium emersum

ガマ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
-

- **選定理由** 全国的に極めて稀な水草で、生育地は数ヶ所である。常に埋め立て、改修、開発などにより生育条件は悪化する可能性がある。
- **分布の概要** 長野県以北の本州・北海道に分布している。東アジア・シベリア・コーカサス・ヨーロッパ・北アメリカに分布する。
- **県内の生育状況** 大崎市と東松島市の河川、池沼に分布し、個体数は少ない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 河川開発、池沼開発、自然遷移など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 根本 秀一 [撮影地: 山形県])

ヤマトミクリ

Sparganium fallax

ガマ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
NT

- **選定理由** 生育地は里山地域の10ヶ所以上あるが、極めて少なく、埋め立てや開発によって減少している。
- **分布の概要** 東北地方以南の本州・四国・九州に分布している。ビルマ・インドに分布する。
- **県内の生育状況** 丘陵地帯の池沼や側溝に広く生育し、個体数は少ない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 河川開発、池沼開発、自然遷移など
- **主要文献番号** 33、196、212

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 植物分科会調査員 [東北大学植物園記念館所蔵])

タマミクリ(ホソバタマミクリ)

Sparganium glomeratum

ガマ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016 CR+EN	環境省 NT
---------------	-----------

- **選定理由** 生育地は数ヶ所でごく稀である。ブナ林の伐採によって生育環境が悪化している。
- **分布の概要** 中北部の本州・北海道に分布している。アジア・ヨーロッパ・北アメリカの温帯～寒帯に分布する。
- **県内の生育状況** 奥羽山地と平野部の池沼に分布し、個体数は少ない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 池沼開発、自然遷移、森林伐採など
- **主要文献番号** 33

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

ナガエミクリ

Sparganium japonicum

ガマ科

準絶滅危惧 (NT)

2016 NT	環境省 NT
------------	-----------

- **選定理由** 生育地は20ヶ所近くで、限定されている。水質汚染、農業汚染、水域開発で生育環境が悪化して減少している所が多い。
- **分布の概要** 本州～九州に分布している。朝鮮にも分布する。
- **県内の生育状況** 内陸の丘陵地の河川、沼沢、用水路など水域に比較的広く生育している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 水質汚染、農業汚染、水域開発、自然災害など
- **主要文献番号** 57、88、101、130、153、212

(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

ミクリ

Sparganium stoloniferum

ガマ科

準絶滅危惧 (NT)

2016 NT	環境省 NT
------------	-----------

- **選定理由** 生育地は70ヶ所以上で多いが、水質汚染、農業汚染、水域開発で生育環境が悪化して減少している所が多い。
- **分布の概要** 北海道～九州に分布している。アジア・ヨーロッパ・北アフリカの温帯に分布する。
- **県内の生育状況** 平野、沿岸部の河川、沼沢、用水路など水域に比較的広く生育している。東日本大震災の津波に遭遇した地域に開放水域が発生し生育地が増加したが、復旧工事のために消滅した所もある。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 水質汚染、農業汚染、水域開発、自然災害など
- **主要文献番号** 33、67、70、73、74、75、76、77、78、79、88、101、130、143、153、178、179、180、212、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

ヒメミクリ

Sparganium subglobosum

ガマ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016 VU	環境省 VU
------------	-----------

- **選定理由** 生育地は20ヶ所程度で限られており、減少率の高い所、絶滅した所もある。管理放棄や開発により生育環境の悪化により激減の恐れがある。
- **分布の概要** 北海道～沖縄に分布している。朝鮮・中国北部に分布する。
- **県内の生育状況** 平地から山地帯下部にかけての池沼、溜池に稀に生育する。生育環境が悪化している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 管理放棄、自然遷移など
- **主要文献番号** 77、78、212

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

ホシクサ

Eriocaulon cinereum

ホシクサ科

準絶滅危惧 (NT)

2016 要注目種	環境省 -
--------------	----------

- **選定理由** 生育地が数ヶ所と少ないのでランクを変えた。
- **分布の概要** 本州～沖縄に分布している。朝鮮・中国・台湾・フィリピン・インドシナ・インド・アフリカ・オーストラリアに分布する。
- **県内の生育状況** 生育地はダム周辺の湿地に局限されている。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 自然遷移、自然災害など

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

エゾホシクサ

Eriocaulon miquelianum var. *monococcon*

ホシクサ科

準絶滅危惧 (NT)

2016 -	環境省 -
-----------	----------

- **選定理由** 生育地は2ヶ所で局限されている。
- **分布の概要** 本州の近畿地方から北海道に分布している。日本固有種。
- **県内の生育状況** 七ヶ宿町と加美町の湿地で生育が確認されている。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 湿地開発、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：根本 秀一 [撮影地：福島県])

アズマホシクサ(ミヤマヒナホシクサ)

Eriocaulon takae

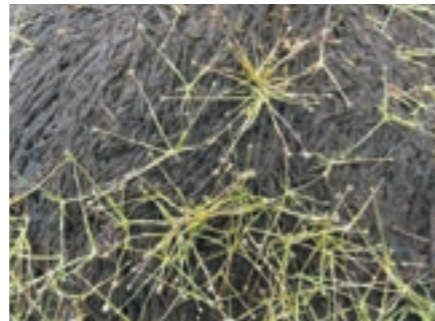
ホシクサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
NT 環境省
VU

- 選定理由 生育地が国立公園内の1ヶ所と少なくランクを上げた。個体数も少ない。
- 分布の概要 東北地方の高山・北海道に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 蔵王連峰の亜高山帯の湿原に生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移、踏みつけなど

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 杉山 多喜子)

ヒメコウガイゼキショウ

Juncus bufonius

イグサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 生育地は20ヶ所程度と限られており、個体数も少ない。
- 分布の概要 北海道~九州に分布している。千島・樺太・朝鮮・中国に分布する。
- 県内の生育状況 沿岸部の砂浜、湿地に生育地が多いが、山地にもみられる。津波浸水域で一時的に多く確認。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、自然遷移など
- 主要文献番号 74、75、76、77、78、143、246、248

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 杉山 多喜子)

ハマイ

Juncus haenkei

イグサ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
- 環境省
-

- 選定理由 本州には自生がないと図鑑にあるが、県内の生育地は1ヶ所ある。
- 分布の概要 北海道に分布している。千島・樺太・朝鮮・シベリア東部・カムチャツカ・アラスカに分布する。
- 県内の生育状況 海岸の砂浜に生え、東松島市の標本がある。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 海岸開発、自然遷移など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 植物分科会調査員[東北大学植物園記念館所蔵])

イセウキヤガラ

Bolboschoenus planiculmis

カヤツリグサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 生育地は数ヶ所で局限され、生育地は河川改修により減少する可能性が高い。
- 分布の概要 北海道・本州・四国・九州に分布している。朝鮮・中国・台湾・ロシア・モンゴル・フィリピン・西アジアに分布する。
- 県内の生育状況 県中南部の河川の河口に近い泥質の深い河岸に生育し、河川改修等により生育地、個体数とも減少している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、自然災害、自然遷移など
- 主要文献番号 73、74、164、180、248

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 葛西 英明)

タテヤマステ

Carex aphyllopus

カヤツリグサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
- 環境省
-

- 選定理由 確認されている生育地は県立公園内の1ヶ所である。
- 分布の概要 本州の中北部の日本海側の高山草原に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 亜高山帯の湿地に生育、船形連峰の標本がある。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移、踏みつけなど

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 石隈 健斗[撮影地: 群馬県])

ジョウロウスゲ

Carex capricornis

カヤツリグサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
CR+EN 環境省
VU

- 選定理由 生育地は河川敷、海岸、溜池などに限られ、生育地が10ヶ所以上と比較的多いのでランクを下げた。
- 分布の概要 北海道・本州の関東地方に分布している。東アジアに分布する。
- 県内の生育状況 平地の湿地に生育しており個体数は少ない。津波浸水域でも一時的に確認された所がある。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、河川改修、自然遷移など
- 主要文献番号 73、74、75、76、77、78、79、179

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 恵美 泰子)

ヌマアゼスゲ

Carex cinerascens

カヤツリグサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
VU

- 選定理由 生育地は数ヶ所ごく稀で、沼沢地の生育環境が悪化している。
- 分布の概要 関東・東北地方の川岸の湿地に分布している。朝鮮・中国に分布する。
- 県内の生育状況 伊豆沼など北部の湖沼、河川敷の湿地に生育するが、生育環境が悪化し減少している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 湖沼改修・開発、自然遷移など
- 主要文献番号 70、88、117、118、135、144、216

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明)

スナジスゲ

Carex glabrescens

カヤツリグサ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT 環境省
-

- 選定理由 生育地は10ヶ所以上あるが、限定されている。
- 分布の概要 北陸～本州の東北地方に分布している。朝鮮・中国東北部に分布する。
- 県内の生育状況 平野部の河川高水域等に生育している。個体数は少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 水質汚染、農業汚染、水域開発、自然災害など
- 主要文献番号 78、88、246

(執筆：植物分科会)



(撮影：恵美 泰子)

サナギスゲ

Carex grallatoria var. *heteroclita*

カヤツリグサ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- 選定理由 仙台市錦ヶ丘が唯一の生育地であったが、1980年代にニュータウン開発により絶滅した。しかし、最新新たな生育地が県南で確認された。
- 分布の概要 関東～近畿の本州・四国・九州に分布している。台湾にも分布する。
- 県内の生育状況 県南の阿武隈山地に局限して生育する。個体数は少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

イトキンスゲ

Carex hakkodensis

カヤツリグサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
- 環境省
-

- 選定理由 確認されている生育地は国定公園内の1ヶ所で局限されている。
- 分布の概要 本州の中部以北・北海道の高山に分布している。千島にも分布する。
- 県内の生育状況 高山の湿った斜面に生え、蔵王連峰で生育が確認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：大越 秀樹 [撮影地：山形県])

ハコネイトスゲ

Carex hakonemotana

カヤツリグサ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- 選定理由 全国的に極めて稀な植物で、宮城県が北限。生育地も数ヶ所、ごく稀である。道路改修などにより絶滅の恐れがある。
- 分布の概要 本州の宮城県と中部地方に分布する。日本固有種。
- 県内の生育状況 奥羽山地に生育地はごく限られ、個体数も極めて少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：上野 雄規)

ヤマクボスゲ

Carex hymenodon

カヤツリグサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
NT

- 選定理由 生育地は10ヶ所程度で里山地域に限定されている。手入れが放棄されたり、開発工事で生育地は減少している。
- 分布の概要 宮城県と栃木県の水湿地に稀に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 村田町から富谷町の里山の湿地に生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、自然遷移など
- 主要文献番号 59、66、101、129、160、212

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

クジュウツリスゲ

Carex kujuzana

カヤツリグサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
NT

- **選定理由** 全国的にも稀な植物であるが、本県でも生育地は数ヶ所と限られており、個体数も少ない。
- **分布の概要** 本州の青森県から長野県・九州に分布している。朝鮮南部に稀に分布する。
- **県内の生育状況** 北上山地の丘陵地の林床に生育するが、森林伐採により生育地、個体数とも減少している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、自然遷移など
- **主要文献番号** 143、212

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

ムジナスゲ

Carex lasiocarpa var. *occultans*

カヤツリグサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- **選定理由** 生育地が2ヶ所と局限されており、個体数も少ない。
- **分布の概要** 北海道・本州中部地方の日本海側に分布している。千島・樺太・朝鮮・シベリア東部に分布する。
- **県内の生育状況** 奥羽山地北部や平野の湿原や沼畔に生育する。仙台市大沼畔の生育地は埋立で消滅。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 湿地開発、踏みつけ、自然遷移など
- **主要文献番号** 70

(執筆：植物分科会)



(撮影：大越 秀樹 [撮影地：岩手県])

ハタバスゲ

Carex latisquamea

カヤツリグサ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
EN

- **選定理由** 河川改修により絶滅したと思われたが、新たに生育が確認された。しかし生育地は2ヶ所で限定され、個体数も少ない。
- **分布の概要** 北海道・本州中北部・九州に分布している。朝鮮・中国東北部・ウスリーに分布する。
- **県内の生育状況** 県北の河川敷に生育するが生育地は局限されている。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 河川開発、自然災害、自然遷移など
- **主要文献番号** 143、144

(執筆：植物分科会)



(撮影：国京 潤一)

ヒエスゲ

Carex longirostrata var. *longirostrata*

カヤツリグサ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
- 環境省
-

- **選定理由** 生育地は1ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
- **分布の概要** 北海道、中部以北の本州に分布している。朝鮮、千島、サハリン、東シベリア、中国東北部に分布する。
- **県内の生育状況** 石巻市の丘陵の草地に生育する。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 草地開発、自然遷移など
- **主要文献番号** 36-2

(執筆：植物分科会)



(撮影：藤田 玲 [撮影地：北海道])

タチスゲ

Carex maculata

カヤツリグサ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- **選定理由** 本県は分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所でごく限られている。里山に生育するので開発の恐れがある。
- **分布の概要** 本州～沖縄に分布している。朝鮮南部・中国・インドの水湿地に分布する。
- **県内の生育状況** 牡鹿半島と仙台市に生育地が限られ、仙台市の生育地は里山のごく狭い所にあり、隣接地で開発工事が行われ、生育環境が悪化している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：植物分科会調査員 [東北大学植物園記念館所蔵])

キンチャクスゲ

Carex mertensii var. *urostachys*

カヤツリグサ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT 環境省
-

- **選定理由** 生育地は国定公園内の1ヶ所で局限されている。
- **分布の概要** 北海道・本州中北部に分布している。千島にも分布する。
- **県内の生育状況** 蔵王連峰の亜高山帯の草原に生育地は局限されている。生育地、個体数は少ない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：根本 秀一 [撮影地：福島県])

ヌマクロボスゲ(シラカワスゲ)

Carex meyeriana

カヤツリグサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
VU

- **選定理由** 生育地が数ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
- **分布の概要** 本州中北部・九州の湿地に分布している。朝鮮・中国東北部・東シベリアに分布する。
- **県内の生育状況** 奥羽山地中部の山地帯と気仙沼市の湿原に生育する。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 湿地開発、自然遷移など
- **主要文献番号** 160

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

ノゲヌカスゲ

Carex mitrata var. *aristata*

カヤツリグサ科

要注目種

2016
要注目種 環境省
-

- **選定理由** 本県は分布の北限。生育地は10ヶ所以上あるが局限されている。個体数も少ない。
- **分布の概要** 宮城県以南の本州・四国・九州・台湾に分布する。
- **県内の生育状況** 沿岸部、丘陵地の明るい林内、草地に生育している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発など
- **主要文献番号** 246

(執筆：植物分科会)



(撮影：杉山 多喜子)

カンスゲ

Carex morrowii

カヤツリグサ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- **選定理由** 本県は分布の北限。生育地は数ヶ所でごく限られている。開発工事で絶滅の恐れがある。
- **分布の概要** 福島県以西の主として太平洋側の本州・四国・九州に分布している。日本固有種。
- **県内の生育状況** 県南丸森町の溪谷沿いの岩上に生育している。開発工事で生育地の破壊が危惧される。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明)

ナガエスゲ

Carex otayae

カヤツリグサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- **選定理由** 本県の分布は太平洋側北限。生育地は数ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
- **分布の概要** 本州の日本海側に分布している。日本固有種。
- **県内の生育状況** 奥羽山地の亜高山帯の湿った斜面に生育地は局限されており、個体数も極めて少ない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：大越 秀樹)

ウスイロスゲ

Carex pallida

カヤツリグサ科

絶滅 (EX)

2016
EX 環境省
-

- **選定理由** 本州で稀産、本県では牡鹿半島の牧ノ崎が唯一の生育地であったが、開発によって1998年までには絶滅した。
- **分布の概要** 北海道・本州北部に分布している。東アジア北部の針葉樹林内に稀に分布する。
- **県内の生育状況** 石巻市で過去に確認された。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 森林開発など
- **主要文献番号** 223

(執筆：植物分科会)



(生態写真：丸山 まさみ [撮影地：北海道] 標本写真：植物分科会調査員 [東北大学植物園記念館所蔵])

ツルスゲ

Carex pseudocuraica

カヤツリグサ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT 環境省
-

- **選定理由** 本県の分布は太平洋側南限。生育地は数ヶ所に限られるが、埋め立て、改修、開発によって生育環境は悪化している。
- **分布の概要** 本州の宮城県・新潟県以北の日本海側・北海道に分布している。朝鮮～シベリア東部に分布する。
- **県内の生育状況** 県北の平野部の湖沼に生育する。仙台市の大沼の側の湿地に一時的に生育したが、現在は埋め立てられてない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 水域開発、湖沼改修、自然遷移など
- **主要文献番号** 19、70、88、117、118、135、216

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明)

マメスゲ

Carex pudica

カヤツリグサ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

■選定理由 生育地は数ヶ所ごく稀であり、開発によって生育地が破壊されたり、生育環境が悪化している。

■分布の概要 岩手県以南～近畿までの本州の丘陵地に分布している。日本固有種。

■県内の生育状況 仙台市の沿岸部に生育するが、土地開発などにより激減の恐れがある。

■生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、自然災害など

■主要文献番号 76、77、78、179、180

(執筆：植物分科会)



(撮影：杉山 多喜子)

オオクグ

Carex rugulosa

カヤツリグサ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT 環境省
NT

■選定理由 生育地は40ヶ所近くで比較的多いが、海岸開発により生育環境が悪化している。

■分布の概要 北海道・本州・九州に分布している。朝鮮・中国東北部・ウスリーに分布する。

■県内の生育状況 生育地は海岸湿地であり、海岸開発により生育環境が悪化している。東日本大震災の津波に遭遇し、津波で増加した所や消滅した所もある。また、復旧工事のために消滅した所もある。

■生育に対する脅威(減少の要因) 海岸開発、自然災害、自然遷移など

■主要文献番号 76、78、79、130、143、158、179、180、212、246、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

カミカワスゲ

Carex sabyensis var. *sabyensis*

カヤツリグサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

■選定理由 生育地は2ヶ所で局限され、土地開発により減少する可能性が高い。

■分布の概要 北海道・本州北部に分布している。千島・樺太・朝鮮・シベリア東部に分布する。

■県内の生育状況 生育地は北上山地の南端の丘陵地の林内であるが、土地開発により生育環境は悪化している。

■生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、森林伐採など

■主要文献番号 142、143

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明)

ツルカミカワスゲ

Carex sabyensis var. *rostrata*

カヤツリグサ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
- 環境省
-

■選定理由 生育地は2ヶ所で局限されている。

■分布の概要 本州から九州に分布している。朝鮮・シベリア東部にも分布する。

■県内の生育状況 二口山塊と石巻市の丘陵地の林床で生育が確認されている。

■生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明 [撮影地：福島県])

ユキグニハリスゲ

Carex semihyalofructa

カヤツリグサ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

■選定理由 生育地は国定公園内の1ヶ所で、局限されている。個体数も少ない。

■分布の概要 北陸地方以北の本州日本海側に分布している。日本固有種。

■県内の生育状況 奥羽山地の栗駒山の湿地に生育する。

■生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：根本 秀一 [撮影地：山形県])

カンエンガヤツリ

Cyperus exaltatus var. *iwasakii*

カヤツリグサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
VU

■選定理由 生育地は数ヶ所で局限され、個体数も少ない。

■分布の概要 本州に分布している。朝鮮・中国に分布する。

■県内の生育状況 仙南の平野部の湿地などに生育が局限されている。個体数は少ない。

■生育に対する脅威(減少の要因) 湿地開発、自然遷移など

■主要文献番号 70、130、180

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明)

タチヒメクグ(マメクグ)

Cyperus kamschaticus

カヤツリグサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016 VU	環境省 -
------------	----------

■**選定理由** 生育地は数ヶ所で稀で、個体数も少ない。開発によって生育地、個体数共に減少が危惧される。

■**分布の概要** 宮城県以南～関東以北の本州に分布する。カムチャツカ半島にも分布する。

■**県内の生育状況** 県南から県北までの数ヶ所の池沼、溜池の湿性に生育する。個体数は少ない。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発、自然災害、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明)

オオシロガヤツリ

Cyperus nipponicus var. *spiralis*

カヤツリグサ科

準絶滅危惧 (NT)

2016 -	環境省 -
-----------	----------

■**選定理由** 本県が分布の北限。生育地は1ヶ所で局限されている。

■**分布の概要** 本州・四国に分布している。中国にも分布する。

■**県内の生育状況** 仙台市のダムの水際の湿った平地で生育が確認されている。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 湿地開発、自然災害など

(執筆：植物分科会)



(撮影：植物分科会調査員[東北大学植物園記念館所蔵])

ウキミガヤツリ

Cyperus pacificus var. *margoinflatus*

カヤツリグサ科

準絶滅危惧 (NT)

2016 要注目種	環境省 -
--------------	----------

■**選定理由** 本県が分布の北限。生育地が数ヶ所と少ないのでランクを上げた。個体数も少ない。

■**分布の概要** 本州(宮城県以南)・四国に分布している。新潟県で初めて採集された。

■**県内の生育状況** 生育地は池沼や河川敷で局限されている。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 湿地開発など

(執筆：植物分科会)



(撮影：植物分科会調査員[東北大学植物園記念館所蔵])

チシママツバイ

Eleocharis acicularis var. *acicularis*

カヤツリグサ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016 CR+EN	環境省 VU
---------------	-----------

■**選定理由** 全国的に生育地が極めて稀であり、生育地は1ヶ所で、個体数とも少ない。生育地が破壊される恐れがある。

■**分布の概要** 日本に稀産する。暖帯～温帯に分布する。

■**県内の生育状況** 名取市の休耕田に生育している。再耕作や開発により絶滅が危惧される。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 耕作、土地開発、自然遷移など

■**主要文献番号** 74、78、163

(執筆：植物分科会)



(撮影：植物分科会調査員[東北大学植物園記念館所蔵])

スジヌマハリイ

Eleocharis equisetiformis

カヤツリグサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016 VU	環境省 VU
------------	-----------

■**選定理由** 生育地は10ヶ所程度で稀であり、半数近くが減少率が高い。生育地の開発により生育環境が悪化している。

■**分布の概要** 青森県以南の本州・九州に分布している。朝鮮・中国～中央アジアに分布する。

■**県内の生育状況** 県南の巨理町から北上川に至る沿海部の水湿地に生育するが、丘陵地にも分布がある。東日本大震災の津波の影響を受け生育環境が悪化した。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発、自然災害、自然遷移など

■**主要文献番号** 77、78、79、130、180、212、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：恵美 泰子)

コツブヌマハリイ

Eleocharis parvinux

カヤツリグサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016 VU	環境省 VU
------------	-----------

■**選定理由** 本県は分布の北限。生育地は10ヶ所以上で少なく、個体数も少ない。開発によって生育環境は悪化している。

■**分布の概要** 本州の宮城県から神奈川県までの平地の沼や川岸の湿地に分布している。日本固有種。

■**県内の生育状況** 平野部の沼や川岸の湿地、沼沢地に稀に生育する。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発、自然遷移など

■**主要文献番号** 88、117、118、143、212、216

(執筆：植物分科会)



(撮影：杉山 多喜子)

チャボイ

Eleocharis parvula

カヤツリグサ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016 CR+EN	環境省 VU
---------------	-----------

■**選定理由** 生育地は20ヶ所近くで、東日本大震災後急激に生育地が増えた。復旧工事等により絶滅が危惧される。

■**分布の概要** 本州・四国・九州に分布している。ヨーロッパ・シベリア・南北アメリカに分布する。

■**県内の生育状況** 沿岸部の塩性湿地、休耕田に群生する。自然遷移、復旧工事等により絶滅が危惧される。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 自然遷移、耕作、土地開発など

■**主要文献番号** 73、74、75、76、77、78、79、162、163、180、212、246、248
(執筆：植物分科会)



(撮影：杉山 多喜子)

サギスゲ

Eriophorum gracile

カヤツリグサ科

準絶滅危惧 (NT)

2016 NT	環境省 -
------------	----------

■**選定理由** 生育地は20ヶ所以上あるが、限定されている。湿原の開発等によって、生育地、個体数とも減少している。

■**分布の概要** 北海道・本州に分布している。北半球に分布する。

■**県内の生育状況** 低地から亜高山帯の湿原が生育地であるが、生育地は少なく、低地では極めて稀である。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 湿原開発、踏みつけ、自然遷移など

■**主要文献番号** 102、170、198

(執筆：植物分科会)



(撮影：尾形 良太)

ナガボテンツキ

Fimbristylis longispica

カヤツリグサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016 VU	環境省 -
------------	----------

■**選定理由** 本県は分布の北限。生育地は数ヶ所で局限され、生育地の塩生湿地は開発により生育環境が悪化している。

■**分布の概要** 本州～九州に分布している。朝鮮・中国に分布する。

■**県内の生育状況** 亘理町から東松島市までの海岸近くの湿性に生育する。生育地、個体数とも少ない。津波浸水域でも確認。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発、自然災害、自然遷移など

■**主要文献番号** 73、74、75、78、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：杉山 多喜子)

トネテンツキ

Fimbristylis stauntonii var. *tonensis*

カヤツリグサ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016 CR+EN	環境省 VU
---------------	-----------

■**選定理由** 本県は分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所で、極めて稀で個体数は少ない。

■**分布の概要** 山形県・宮城県以南から近畿地方までの本州に稀に分布する。日本固有種。

■**県内の生育状況** 角田市と大崎市の溜池、池沼の水辺で生育が確認されている。水辺の開発により絶滅の危惧がある。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 水質汚染、土地開発、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：加藤 啓子)

ミチノクホタルイ

Schoenoplectiella orthorhizomata

カヤツリグサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016 VU	環境省 -
------------	----------

■**選定理由** 生育地は2ヶ所で局限され、個体数も少ない。

■**分布の概要** 東北地方に分布する。日本固有種。

■**県内の生育状況** 奥羽山地の湿地(仙台市、七ヶ宿町)に生育している。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 湿地開発、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明)

ノグサ

Schoenus apogon

カヤツリグサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016 VU	環境省 -
------------	----------

■**選定理由** 本県は分布の北限。生育地は10ヶ所程度で稀で、個体数も少ない。開発によって生育環境は悪化している。

■**分布の概要** 本州～沖縄に分布している。インドネシア・オーストラリアに分布する。

■**県内の生育状況** 沿岸部から丘陵地の日当たりのよい湿地、野原が生育地である。東日本大震災の津波で裸地ができ、新たな生育が確認されたが、一時的なものであった。

■**生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発、自然災害、自然遷移など

■**主要文献番号** 73、74、75、76、77、78、92、142、143、180

(執筆：植物分科会)



(撮影：杉山 多喜子)

タカネクロスゲ

Scirpus maximowiczii

カヤツリグサ科

準絶滅危惧 (NT)

2016	環境省
-	VU

- **選定理由** 生育地は国定公園内の1ヶ所で局限されている。
- **分布の概要** 北海道・本州に分布している。千島・樺太・朝鮮・中国・ロシア沿海州に分布する。
- **県内の生育状況** 栗駒山の高山の湿った草地で生育が確認されている。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 踏みつけ、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：大越 秀樹 [撮影地：岩手県])

コシンジユガヤ

Scleria parvula

カヤツリグサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016	環境省
-	-

- **選定理由** 生育地は10ヶ所程度で限定されている。
- **分布の概要** 本州から九州に分布している。朝鮮・中国・インドネシア・インド・アフリカの低湿地に分布する。
- **県内の生育状況** 仙台市、東松島市以南の低地の湿地で確認されている。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発、自然災害、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

ヒメコヌカグサ

Agrostis valvata

イネ科

準絶滅危惧 (NT)

2016	環境省
-	NT

- **選定理由** 生育地は20ヶ所近くで限定的である。
- **分布の概要** 本州の岩手県以南・四国・九州に分布している。日本固有種。
- **県内の生育状況** 丘陵地の湿地に生え、大和町から南部で分布が確認されている。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 湿地開発、自然遷移など
- **主要文献番号** 32、188

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

ヒナガリヤス

Calamagrostis nana

イネ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016	環境省
要注目種	-

- **選定理由** 本県は分布の太平洋側北限。国定公園内に1ヶ所生育地が確認されているだけなのでランクを上げた。
- **分布の概要** 本州の中部から北部の高山帯に分布している。日本固有種。
- **県内の生育状況** 蔵王連峰の高山の草原に生育は局限されている。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：植物分科会調査員 [東北大学植物園記念館所蔵])

フサガヤ

Cinna latifolia

イネ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016	環境省
-	-

- **選定理由** 生育地は1ヶ所で局限されている。
- **分布の概要** 本州の中・北部から北海道のブナ帯・亜高山帯に分布している。北半球の周極地帯に広く分布する。
- **県内の生育状況** ふつう亜高山帯の林床に生えるが、仙台市の風穴で生育が確認されている。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：根本 秀一 [撮影地：福島県])

ヒナザサ

Coelachne japonica

イネ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016	環境省
VU	NT

- **選定理由** 生育地は数ヶ所で局限されており、湿地の開発により減少している。
- **分布の概要** 本州・九州の湿地に分布している。日本固有種。
- **県内の生育状況** 平野部や阿武隈山地の湿地に生育している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 湿地開発、管理放棄、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

ミズタカモジグサ

Elymus humidus

イネ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
- 環境省
VU

- 選定理由 確認されている生育地は1ヶ所であり、個体数も少ない。
- 分布の概要 本州から九州に分布している。中国にも分布する。
- 県内の生育状況 水田の周りに生える多年草、蔵王町で確認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 湿地開発、管理放棄、自然遷移など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 浅井 元朗)

ミヤマドジョウツナギ

Glyceria alnasteretum

イネ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
- 環境省
-

- 選定理由 確認されている生育地は国定公園内の1ヶ所である。
- 分布の概要 本州の中部から北海道に分布している。千島・中国北部・サハリン・カムチャツカに分布する。
- 県内の生育状況 蔵王連峰の亜高山の林床で確認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 大越 秀樹)

ウキガヤ

Glyceria depauperata var. *infirma*

イネ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT 環境省
-

- 選定理由 生育地は10ヶ所程度で局限されている。個体数も少ない。
- 分布の概要 北海道南部から本州の中国地方の水辺に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 平野部の沼沢地に稀に生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 湿地開発、自然遷移など
- 主要文献番号 16、78

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 大越 秀樹)

カラフトドジョウツナギ

Glyceria lithuanica

イネ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT 環境省
-

- 選定理由 生育地は県立公園内の1ヶ所で局限されており、個体数ともに少ない。
- 分布の概要 北海道・本州中部以北に分布している。東アジア北部～ヨーロッパ東部に分布する。
- 県内の生育状況 船形連峰の山地帯の水湿地に生育が局限されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移など
- 主要文献番号 56、101、160

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 藤田 玲 [撮影地: 北海道])

ミチシバ

Melica onoei

イネ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 生育地は数ヶ所で、個体数共に減少している。
- 分布の概要 関東以西の本州～九州に分布している。朝鮮・中国に分布する。
- 県内の生育状況 北上山地の丘陵地の疎林内に稀に生育し、個体数も少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、自然遷移など
- 主要文献番号 248

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 大越 秀樹)

カリヤス

Miscanthus tinctorius

イネ科

要注目種

2016
要注目種 環境省
-

- 選定理由 本県が分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所で局限されている。
- 分布の概要 東北地方南部～近畿北部に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 中部の平野部から丘陵地の林縁、草地に生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 植物分科会調査員 [東北大学植物園記念館所蔵])

キダチノネズミガヤ

Muhlenbergia ramosa

イネ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT環境省
-

- **選定理由** 生育地は2ヶ所で局限されている。個体数も少ない。
- **分布の概要** 本州の秋田県・岩手県以南・四国・九州に分布している。中国にも分布する。
- **県内の生育状況** 奥羽山地の丘陵帯から山地帯の林内や林縁に生育する。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：石隈 健斗 [撮影地：山梨県])

ヒロハヌマガヤ

Neomolinia faurie

イネ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
-環境省
-

- **選定理由** 生育地は1ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
- **分布の概要** 本州の長野・群馬県に続く3県目。
- **県内の生育状況** 山地の林内に極稀に生育。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 自然遷移、森林伐採など
- **主要文献番号** 249、254

(執筆：植物分科会)



(撮影：植物分科会調査員 [東北大学植物園記念館所蔵])

アイアシ

Phacelurus latifolius

イネ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT環境省
-

- **選定理由** 生育地は30ヶ所程度で、群生し比較的多いが、海岸湿地の開発が進行し生育環境が悪化している。
- **分布の概要** 北海道～九州の海岸に分布している。朝鮮・中国に分布する。
- **県内の生育状況** 海岸湿地に生育する。東日本大震災の津波により消滅した生育地もあるが、増加した所もある。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 海岸開発、自然災害、自然遷移など
- **主要文献番号** 74、78、130、179、180、246、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：杉山 多喜子)

タチイチゴツナギ

Poa nemoralis

イネ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
-環境省
EN

- **選定理由** 生育地は1ヶ所で局限され、特殊な環境条件で個体数も少ない。
- **分布の概要** 本州の深山に分布している。朝鮮・千島・シベリア・ヨーロッパ・北アメリカに分布する。
- **県内の生育状況** 仙台市の風穴で確認されている。沿岸部では帰化種も確認されている。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：植物分科会調査員 [東北大学植物園記念館所蔵])

ハマヒエガエリ

Polypogon monspeliensis

イネ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
-環境省
-

- **選定理由** 生育地は数ヶ所で局限されている。
- **分布の概要** 本州から沖縄まで分布している。ヨーロッパ・アジア・北アメリカに分布する。
- **県内の生育状況** 仙台市から東松島市までの海岸や島嶼の東日本大震災の津浸水域で群生が確認されたが、一時的であった。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 海岸・湿地開発、自然遷移など
- **主要文献番号** 76、77、78、79、164、246

(執筆：植物分科会)



(撮影：加藤 啓子)

タチドジョウツナギ

Puccinellia nipponica

イネ科

要注目種

2016
-環境省
-

- **選定理由** 松島湾沿岸がタイプ標本の生育地。生育地は30ヶ所程度で比較的多い。
- **分布の概要** 日本では宮城県・岩手県・福島県の太平洋側に分布している。朝鮮・中国・ロシアにも分布する。
- **県内の生育状況** 海岸の塩性湿地に分布が限られ、北から南まで広く生育が確認されている。東日本大震災津波浸水域で一時的に増加したが、復旧工事等により消滅した。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 海岸・湿地開発、自然遷移など
- **主要文献番号** 12、73、74、75、76、77、78、100、142、197、246、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：杉山 多喜子)

ウシクサ

Schizachyrium brevifolium

イネ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- 選定理由 本県が分布の北限。生育地は2カ所で極めて少ない。
- 分布の概要 本州～沖縄に分布している。世界の各地の湿地に分布する。
- 県内の生育状況 県南の川崎町の湿地に生育しているが、土地開発による絶滅が危惧される。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発など

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明)

イヌアワ

Setaria chondrachne

イネ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
- 環境省
-

- 選定理由 本県が分布の太平洋側北限。生育地は1ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
- 分布の概要 本州の東北地方南部以西・九州まで分布している。朝鮮・中国南部に分布する。
- 県内の生育状況 丘陵地の藪などに生育、大和町で確認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 道路工事、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：石隈 健斗[撮影地：山形県])

ヒゲシバ

Sporobolus japonicus

イネ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
- 環境省
-

- 選定理由 生育地は10ヶ所程度で限定されている。開発などにより現在は数個所に減少している。
- 分布の概要 本州・四国・九州に分布している。朝鮮・中国に分布する。
- 県内の生育状況 丘陵地の湿地で生育が確認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 湿地開発、自然遷移など
- 主要文献番号 143、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：植物分科会調査員[東北大学植物園記念館所蔵])

ハイドジョウツナギ

Torreyochloa viridis

イネ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 生育地は2ヶ所で内陸地の水湿地に局限され、水質汚染、生育環境の悪化が進行している。
- 分布の概要 本州の関東以北・北海道に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 県北部の池沼などに限られ、個体数も少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 水質汚染、湖沼開発など
- 主要文献番号 59、160

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明[撮影地：福島県])

アキウネマ加里

Neosamorpha akiuensis

イネ科タケ亜科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- 選定理由 本県が分布の北限。生育地は数ヶ所で局限され、個体数も少ない。
- 分布の概要 宮城県に分布する。日本固有種。
- 県内の生育状況 仙台市の奥羽山地と栗駒山の山地に生育地は局限されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採など
- 主要文献番号 182、183、255

(執筆：植物分科会)



(撮影：植物分科会調査員[仙台市野草園所蔵])

オモエザサ

Neosamorpha pubiculmis

イネ科タケ亜科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 生育地は数ヶ所で局限されている。個体数も少ない。
- 分布の概要 北海道・本州の太平洋側に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 奥羽山地、阿武隈山地、島嶼の林床に生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、土地開発など
- 主要文献番号 237

(執筆：植物分科会)



(撮影：植物分科会調査員[東北大学植物園記念館所蔵])

ヤマキタダケ(ヒメスズダケ)

Sasaella yamakitensis

イネ科タケ亜科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT 環境省
-

- 選定理由 生育地は数ヶ所で局限され、個体数も少ない。
- 分布の概要 本州の宮城県・福島県・神奈川県に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 山地、丘陵地、河川敷に生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 植物分科会調査員[仙台市野草園所蔵])

フサザクラ

Euptelea polyandra

フサザクラ科

要注目種

2016
要注目種 環境省
-

- 選定理由 本県は分布の太平洋側北限。生育地は20ヶ所程度であるが、丸森町に限定されている。
- 分布の概要 本州・四国・九州に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 県南の阿武隈山地の谷筋に生育し、フサザクラ-タマアジサイ群集を形成している。七ヶ宿町にも分布がみられる。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、園芸採取など
- 主要文献番号 7、8、112、197、242

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 細谷 治夫)

キケマン

Corydalis heterocarpa var. *japonica*

ケシ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 本県が分布の北限。生育地は10ヶ所程度で限定されている。個体数も少ない。園芸植物として採取される。
- 分布の概要 宮城県以西の本州~沖縄に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 沿岸地域の丘陵地の日当たりの良い環境に生育している。個体数は少ない。東日本大震災の波浸水域で一時的に群生した。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、園芸採取など
- 主要文献番号 74、75、78、101、164、246

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 加藤 啓子)

ツルケマン

Corydalis ochotensis

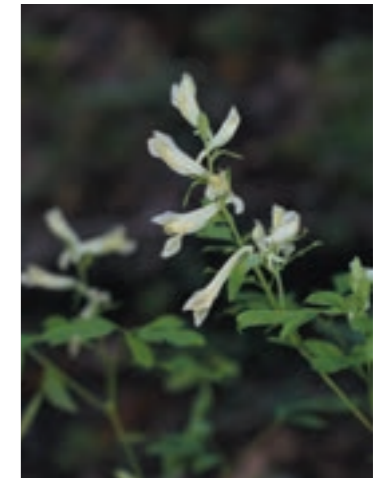
ケシ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
EN

- 選定理由 生育地は2ヶ所で局限されている。個体数も少ない。
- 分布の概要 関東・中部地方の本州に分布している。シベリア東部・オホーツク沿岸に分布する。
- 県内の生育状況 県南の奥羽山地の半日陰の湿った所に生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、自然遷移など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 三島木 進)

ナガミノツルケマン

Corydalis raddeana

ケシ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
- 環境省
NT

- 選定理由 生育地は50ヶ所程度が多い。環境省でNTに指定。
- 分布の概要 北海道から九州に分布している。朝鮮・中国・シベリア東部に分布する。
- 県内の生育状況 丘陵地の半日陰地で広く生育が確認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、森林伐採、自然遷移など
- 主要文献番号 32、33、88、130、248

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 細谷 治夫)

コマクサ

Dicentra peregrina

ケシ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
- 環境省
-

- 選定理由 生育地は国定公園内の1ヶ所で局限されている。
- 分布の概要 本州中北部・北海道に分布している。千島・カムチャツカ・樺太・シベリア東部に分布する。
- 県内の生育状況 蔵王連峰の高山の砂礫地で生育が確認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 火山噴火、園芸採取など
- 主要文献番号 102、199、220、226

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 三島木 進)

ヤマブキソウ

Hylomecon japonica

ケシ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
環境省

- **選定理由** 本県が国内分布の北限。生育地は40ヶ所程度が多いが、開発、園芸採取などで減少している。
- **分布の概要** 本州から九州に分布している。中国・朝鮮半島・シベリア東部に分布する。
- **県内の生育状況** 丘陵地の樹林の林床に各地で生育が確認されているが、北上山地の標本はない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、園芸採取、自然遷移など
- **主要文献番号** 7、13、21、58、67、107、113、198、226、238

(執筆：植物分科会)



(撮影：上野 雄規)

オサバグサ

Pteridophyllum racemosum

ケシ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
環境省

- **選定理由** 生育地は数ヶ所で局限されている。園芸植物として採取される恐れがある。
- **分布の概要** 本州中北部～東北地方の亜高山帯の針葉樹林内に分布する。日本固有種。
- **県内の生育状況** 仙台市と東北のブナ林の沢筋に生育し、個体数も少なく絶滅寸前である。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、園芸採取など
- **主要文献番号** 43

(執筆：植物分科会)



(撮影：早坂 徹)

トガクシソウ

Ranzania japonica

メギ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
環境省

- **選定理由** 生育地は数ヶ所で局限されている。園芸採取される恐れがある。
- **分布の概要** 本州中北部の多雪地に分布している。日本固有種。
- **県内の生育状況** 二口山塊と栗駒山の山地帯のブナ林の林床に生育するが、個体数は少ない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取など
- **主要文献番号** 212

(執筆：植物分科会)



(撮影：杉山 多喜子[撮影地：山形県])

センウズモドキ

Aconitum jaluense subsp. *iwatekense*

キンポウゲ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
環境省

- **選定理由** 生育地が70ヶ所程度と多いが、減少率が高い所が多くランクを上げた。環境省カテゴリー-VU。
- **分布の概要** 本州の東北地方から関東地方・長野県に分布している。日本固有種。
- **県内の生育状況** 丘陵地から山地帯に比較的多く生育する。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、自然遷移など
- **主要文献番号** 63、67、88、92、143、151、152、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：上野 雄規)

ワガトリカブト

Aconitum okuyamae var. *wagaense*

キンポウゲ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
環境省

- **選定理由** 本県が分布の南限。生育地は国定・県立公園内の数ヶ所で確認されている。
- **分布の概要** 本州東北地方の高山の風衝草原に分布している。日本固有種。
- **県内の生育状況** 高山の風衝草原や日当たりの良い林縁に生育。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、自然遷移など
- **主要文献番号** 220

(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

フクジュソウ

Adonis ramosa

キンポウゲ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
環境省

- **選定理由** 生育地は30ヶ所程度で、里山地域の開発が進み減少している。また、園芸植物として乱獲されている。
- **分布の概要** 北海道～九州に分布している。朝鮮・中国東北部・シベリア東部に分布する。
- **県内の生育状況** 各地の里山の林縁、畔などに生育しているが、生育地、個体数共に急激に減少している。よく人家付近に植栽される。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発、園芸採取など
- **主要文献番号** 33、65、88、103、143、148、171、209、238、242

(執筆：植物分科会)



(撮影：尾形 良太)

イチリンソウ

Anemone nikoensis

キンポウゲ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

■選定理由 本県が分布の北限。生育地は10ヶ所以上あるが、局限されている。園芸採取される危険性が高い。

■分布の概要 本州～九州の暖帯上部～温帯に分布する。日本固有種。

■県内の生育状況 県南の限定された場所に生育している。個体数も少ない。

■生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など

■主要文献番号 7、8、67、112、130、196、198、200

(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

レンゲショウマ

Anemonopsis macrophylla

キンポウゲ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
- 環境省
-

■選定理由 生育地は40ヶ所以上あるが、開発、園芸採取などで減少している。

■分布の概要 本州の岩手県から奈良県まで分布している。日本固有種。

■県内の生育状況 山地の落葉広葉樹林の林床で各地に比較的広く分布がみられる。

■生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、園芸採取、自然遷移など

■主要文献番号 64、65、67、88、100、102、104、110、112、113、114、126、142、143、171

(執筆：植物分科会)



(撮影：上野 雄規)

オオヤマオダマキ

Aquilegia buergeriana var. *oxysepala*

キンポウゲ科

情報不足 (DD)

2016
- 環境省
-

■選定理由 生育地は数ヶ所で局限されており、個体数も少ない。

■分布の概要 北海道、本州、四国、九州に分布している。朝鮮、中国(北部・東北部)、シベリア東部に分布する。

■県内の生育状況 大崎市鳴子の奥羽山地の林縁や道端の草地などに生育。

■生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、森林伐採、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明)

ミヤマオダマキ

Aquilegia flabellata var. *pumila*

キンポウゲ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

■選定理由 生育地は国定公園内の2ヶ所で、ごく限定されている。園芸採取される危険がある。

■分布の概要 本州中北部・北海道に分布している。南千島・樺太・朝鮮北部に分布する。

■県内の生育状況 蔵王連峰の高山の日当たりの良い草原に生育、個体数は少ない。

■生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移、園芸採取など

■主要文献番号 226

(執筆：植物分科会)



(撮影：大越 秀樹)

ハンショウヅル

Clematis japonica

キンポウゲ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
- 環境省
-

■選定理由 本県が分布の北限。生育地は1ヶ所で局限されており、個体数も少ない。

■分布の概要 本州、九州に分布している。主に温帯の地域に分布、日本固有種。

■県内の生育状況 仙台市の丘陵で標本が採集されている。山地、丘陵地の林縁や林内に生えるつる性の落葉木本。

■生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移、森林伐採など

■主要文献番号 38-2

(執筆：植物分科会)



(撮影：菅野 壽代)

カザグルマ

Clematis patens

キンポウゲ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
NT

■選定理由 生育地は60ヶ所以上と多いが、里山地域の開発が進み減少率の高い所が多い。また、園芸植物として乱獲されている。

■分布の概要 本州・四国・九州北部に分布している。朝鮮・中国東北部・南部に分布する。

■県内の生育状況 各地の里山の林縁などに生育しているが、生育地、個体数共に急激に減少している。庭にも植栽される。

■生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、土地開発、園芸採取など

■主要文献番号 16、33、47、48、49、67、84、101、130、142、143、148、149、188、212、238

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

ミツバノバイカオウレン

Coptis trifoliolata

キンポウゲ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
VU 環境省

- 選定理由 生育地は国定公園内の1ヶ所で局限されており、ランクを上げた。個体数とも少ない。
- 分布の概要 本州の中部地方～東北地方の日本海側の高山帯～亜高山帯に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 栗駒山の亜高山帯の限られた立地に生育し、個体数も少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移など
- 主要文献番号 108

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 市ノ渡 彰 [撮影地: 山形県])

アズマシロカネソウ

Dichocarpum nipponicum

キンポウゲ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省

- 選定理由 生育地は数ヶ所で、局限されている。生育地や個体数も少ない。
- 分布の概要 本州の日本海側・青森県から鳥取県に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 栗駒山のブナ林のやや湿った林床に生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、自然遷移など。
- 主要文献番号 192

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 細谷 治夫)

トウゴクサバノオ

Dichocarpum trachyspermum

キンポウゲ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
- 環境省

- 選定理由 本県が日本の分布北限。生育地は20ヶ所程度で限られている。
- 分布の概要 宮城県以南の本州・四国・九州に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 大和町七ッ森から南部の丘陵地帯の樹林の林床で生育が確認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、自然遷移など
- 主要文献番号 54、58、67、110、200

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 三島木 進)

シラネアオイ

Glaucidium palmatum

キンポウゲ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
- 環境省

- 選定理由 生育地は50ヶ所程度であるが、花が目立つため園芸採取などで減少している。
- 分布の概要 本州の中部地方の日本海側から北海道に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 奥羽山地のブナ林の林床に広く分布しているが、北上山地の標本はない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、園芸採取、自然遷移など
- 主要文献番号 56、137、173、226、238

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 三島木 進)

ヒメキンポウゲ

Halerpestes kawakamii

キンポウゲ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省

- 選定理由 生育地は10ヶ所近く記録されているが、現在生育地は県内では確認されていない。
- 分布の概要 本州の青森県～千葉県・秋田県の海岸付近の湿地に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 海岸の砂地、湿地に生育し、個体数も少ない。東日本大震災後、生育は確認されていない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 海岸開発、自然災害など
- 主要文献番号 73、74、106、143、209、248

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 杉山 多喜子)

スハマソウ

Hepatica nobilis var. japonica f. variegata

キンポウゲ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT 環境省

- 選定理由 生育地は40ヶ所程度が多いが、園芸採取、開発などで個体数の減少が危惧される。
- 分布の概要 本州・四国に分布している。ヨーロッパと東アジアに離れて分布している。
- 県内の生育状況 丘陵帯から山地帯の林床に広く生育しているが、生育地及び個体数が減少している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、園芸採取など
- 主要文献番号 17、103、115、116、226、238

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 上野 雄規)

オキナグサ

Pulsatilla cernua

キンポウゲ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
NT

- 選定理由 生育地は以前は30ヶ所以上あったが、家畜の放牧が減少し、生育地であった半自然草原が減少し、園芸植物として乱獲され激減した。
- 分布の概要 本州～九州に分布している。朝鮮・中国の暖帯～温帯に分布する。
- 県内の生育状況 平地から山地の日当たりの良い草原、河川の土手などに生育するが、生育地、個体数共に急激に減少している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 草地開発、園芸採取、自然遷移など
- 主要文献番号 33、167、171、188、212、242

(執筆：植物分科会)



(撮影：尾形 良太)

コキツネノボタン

Ranunculus chinensis

キンポウゲ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
VU

- 選定理由 生育地は数ヶ所で局限されている。湿地に生育するが、土地開発等により絶滅が危惧される。
- 分布の概要 北海道南部～九州に分布している。朝鮮・中国・シベリア東部に分布する。
- 県内の生育状況 平地の日当たりの良い湿地に生育し、生育地、個体数共に少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、自然遷移など
- 主要文献番号 70、144、194

(執筆：植物分科会)



(撮影：滝口 政彦)

ヒキノカサ

Ranunculus extorris

キンポウゲ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
VU

- 選定理由 本県が分布の北限。局限された河川敷1ヶ所に生育し、開発で減少する可能性がある。
- 分布の概要 宮城県・新潟県以南の本州～九州に分布している。朝鮮(済州島)・中国・台湾に分布する。
- 県内の生育状況 登米市の河川敷のヨシ焼き後などの日当たりの良い湿地に生育。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移、河川開発など
- 主要文献番号 144

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

ツルキツネノボタン

Ranunculus hakkodensis

キンポウゲ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 生育地は数ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
- 分布の概要 本州(東北6県・長野県の日本海側)の山地に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 奥羽山地の船形連峰から栗駒山の山地帯の湿った森林下や林縁に生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：上野 雄規)

ヒメバイカモ

Ranunculus kadzusensis

キンポウゲ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
EN

- 選定理由 宮城県が分布の北限。生育地は数ヶ所で、開発等で減少した。
- 分布の概要 本州・四国・九州に分布している。朝鮮にも分布する。
- 県内の生育状況 平地から丘陵地の水田、溜池などに生育し、個体数も少ない。東日本大震災による津波で絶滅した所もある。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 水質汚染、農業汚染、土地開発など
- 主要文献番号 75、76、78、92、94、105、115、116、180、212、227、230、231、246

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

バイカモ

Ranunculus nipponicus var. *submersus*

キンポウゲ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
- 環境省
-

- 選定理由 生育地は20ヶ所近くあったが、丘陵地の河川では水質汚染などで減少している。
- 分布の概要 本州と北海道に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 奥羽山地や平野部のきれいな流水中に生育が確認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 河川開発、水質汚染など

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

ヒメウス

Semiaquilegia adoxoides

キンポウゲ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
環境省

- 選定理由 本県が分布の北限。生育地は1ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
- 分布の概要 関東より南の本州、四国、九州に分布している。朝鮮半島南部や中国の暖帯に分布する。
- 県内の生育状況 道端、草地に生育。大和町の標本がある。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、草地開発、自然遷移など
- 主要文献番号 251、38-2

(執筆：植物分科会)



(撮影：石隈 健斗 [撮影地：神奈川県])

ツツラフジ

Sinomenium acutum

ツツラフジ科

情報不足 (DD)

2016
DD
環境省

- 選定理由 本県は分布の北限。生育地は1ヶ所であるが、土地開発により絶滅が危惧される。また、現状の情報が無い。
- 分布の概要 東北部以南の本州・四国・九州に分布している。中国にも分布する。
- 県内の生育状況 丘陵地に林内に生育するつる性の低木。個体数は少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：根本 秀一 [撮影地：福島県])

マンセンカラマツ

Thalictrum aquilegifolium var. *sibiricum*

キンポウゲ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU
環境省
EN

- 選定理由 生育地は数ヶ所と限られており、生育地、個体数とも少ない。
- 分布の概要 本州～九州に分布している。千島・樺太・中国北部～東北部・シベリアに分布する。
- 県内の生育状況 県南の平地の日当たりの良い林縁の草原に生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、自然遷移など
- 主要文献番号 248

(執筆：植物分科会)



(撮影：杉山 多喜子)

イワカラマツ

Thalictrum minus var. *sekimotoanum*

キンポウゲ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
環境省
VU

- 選定理由 生育地は県立公園内とそれ以外の数ヶ所で局限されている。
- 分布の概要 本州の中部の山地に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 奥羽山地、千貫丘陵の日当たりのよい岩壁で生育が確認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移など
- 主要文献番号 21、33

(執筆：植物分科会)



(撮影：上野 雄規)

ノカラマツ

Thalictrum simplex var. *brevipes*

キンポウゲ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN
環境省
VU

- 選定理由 生育地は2ヶ所のみで、個体数は少なくないが、産地は局限されている。
- 分布の概要 青森県以南の本州～九州に分布している。朝鮮南部・中国中北部～東北部に分布する。
- 県内の生育状況 角田市と登米市の河川敷で生育が確認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 河川開発、自然遷移など
- 主要文献番号 100、143、144

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

ヤマシャクヤク

Paeonia japonica

ボタン科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
CR+EN
環境省
NT

- 選定理由 生育地が20ヶ所以上と比較的多いのでランクを下げた。大型の花で園芸価値が高く、乱獲される恐れがある。
- 分布の概要 北海道から九州までの山地に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 山地の林床の限られた立地に生育し、花は白色、個体数は急激に減少している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、園芸採取など
- 主要文献番号 33、173、238、242

(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

ベニバナヤマシャクヤク

Paeonia obovata

ポタン科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
VU

■選定理由 生育地は10ヶ所程度で限定されている。大型の花で園芸価値が高く、乱獲される恐れがある。

■分布の概要 北海道～九州に分布している。朝鮮・中国東北部・樺太に分布する。

■県内の生育状況 山地のやや湿った林床、林縁に生育する。生育地、個体数共に少ない。鹿の食害を免れている生育地もある。

■生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、園芸採取など

■主要文献番号 33、171

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

ヤシャビシャク

Ribes ambiguum

スグリ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
NT

■選定理由 生育地は20ヶ所程度であるが、減少率の高い所が半数近くある。ブナ林の伐採が進行したので、その生育環境が局限されている。

■分布の概要 本州・四国・九州に分布している。中国大陸西部に分布する。

■県内の生育状況 奥羽山地の山地帯のブナの大木等の樹幹に着生する植物で、大木が伐採されたため個体数も減少した。

■生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、園芸採取など

■主要文献番号 101、173、212

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

ザリコミ

Ribes maximowiczianum

スグリ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

■選定理由 生育地は2ヶ所で、個体数も少ない。

■分布の概要 本州の東北地方南部～中国地方・四国に分布している。朝鮮・中国東北部に分布する。

■県内の生育状況 二口山塊の山地帯の林内に生育している。

■生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、園芸採取など

(執筆：植物分科会)



(撮影：国京 潤一)

トガスグリ

Ribes sachalinense

スグリ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

■選定理由 生育地は数ヶ所で局限されている。

■分布の概要 北海道・中部地方以北の本州・四国に分布している。樺太にも分布する。

■県内の生育状況 奥羽山地の山地帯の林床や風穴に生育している。

■生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

ムカゴネコノメソウ

Chrysosplenium maximowiczii

ユキノシタ科

要注目種

2016
要注目種 環境省
NT

■選定理由 本県が分布の北限。生育地は20ヶ所以上あるが、個体数は少ない。

■分布の概要 宮城県以南・関東・東海の本州に分布している。日本固有種。

■県内の生育状況 県南の阿武隈山地の谷沿いの林床に局限して生育する。

■生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、土地開発、自然災害、自然遷移など

■主要文献番号 8、33、112、196、242、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：国京 潤一)

シコタンソウ

Saxifraga bronchialis subsp. *funstonii* var. *rebunshirensis*

ユキノシタ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
VU 環境省
-

■選定理由 生育地は1ヶ所で局限されており、ランクを上げた。園芸採取される恐れがある。

■分布の概要 北海道・本州中北部以北に分布している。千島・樺太にも分布する。

■県内の生育状況 生育地は二口山塊で極めて限定されており、個体数も少ない。

■生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など

■主要文献番号 102、238

(執筆：植物分科会)



(撮影：石隈 健斗[撮影地：山梨県])

エゾノチャルメルソウ

Spuriomitella integripetala

ユキノシタ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- 選定理由 分布の南限に近く、生育地は1ヶ所で、個体数は少ない。
- 分布の概要 本州の福島県から北海道に分布する。日本固有種。
- 県内の生育状況 七ヶ宿町の奥羽山地の山地帯の流水縁などに生育する。個体数は少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、森林伐採、自然遷移など
- 主要文献番号 45、93

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

アズマツメクサ

Crassula aquatica

ベンケイソウ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
NT

- 選定理由 生育地は20ヶ所程度で限定されている。湿地の開発によって、絶滅する危険がある。
- 分布の概要 北海道・本州に分布している。北半球の温帯に分布する。
- 県内の生育状況 沿岸部、平地の湿地に生育し、生育地、個体数が減少している。東日本大震災の津波浸水域で一時的に多数確認された。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 湿地開発、自然遷移など
- 主要文献番号 73、74、75、76、77、78、92、177、180、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：杉山 多喜子)

ベンケイソウ

Hylotelephium erythrostictum

ベンケイソウ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 本県が分布の大平洋側北限。生育地は数ヶ所で局限されており、ランクを上げた。沿岸部と丘陵地帯で見られる。
- 分布の概要 本州中北部・九州に分布している。中国にも分布する。
- 県内の生育状況 丸森町、東松島市、仙台市のやや乾いた草原や明るいやや乾いた林床に生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、森林伐採、草原開発、園芸採取

(執筆：植物分科会)



(撮影：杉山 多喜子)

ツメレンゲ

Orostachys japonica

ベンケイソウ科

情報不足 (DD)

2016
DD 環境省
NT

- 選定理由 本県は分布の北限。生育地は1ヶ所であるが、詳細な調査は行われていない。
- 分布の概要 本州～九州に分布している。朝鮮・中国東北部に分布する。
- 県内の生育状況 生育地は丘陵地の岩上である。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、園芸採取、自然災害、自然遷移など
- 主要文献番号 42

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

ミヤママンネングサ

Sedum japonicum var. *senanense*

ベンケイソウ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 生育地は数ヶ所で、限定されている。個体数も少ない。
- 分布の概要 本州の亜高山帯～高山帯に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 奥羽山地の山地、亜高山の岩場に生育している。生育地が特異なので個体数も少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：上野 雄規)

オグラノフサモ

Myriophyllum oguraense

アリノトウグサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
VU

- 選定理由 本県は分布の北限。生育地は10ヶ所程度で限定されている。
- 分布の概要 山形県・宮城県以南の本州・四国に分布している。朝鮮半島・中国に分布する。
- 県内の生育状況 平野部、丘陵地の溜池、沼沢に生育、生育地が減少し、水質汚染により絶滅が心配される。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、水質汚染、園芸採取など
- 主要文献番号 73

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明)

タチモ

Myriophyllum ussuriense

アリノトウグサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016 VU	環境省 NT
------------	-----------

- **選定理由** 生育地は10ヶ所程度と局限されており、個体数も少ない。
- **分布の概要** 北海道～九州に分布している。朝鮮・中国東北部・台湾・アムール・ウスリーに分布する。
- **県内の生育状況** 平野部、丘陵地の湖沼や沼沢地に生育。生育地・個体数がともに少ない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 水質汚染、土地開発など
- **主要文献番号** 188

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明)

タコノアシ

Penthorum chinense

タコノアシ科

準絶滅危惧 (NT)

2016 -	環境省 NT
-----------	-----------

- **選定理由** 生育地は50ヶ所以上と多い。環境省カテゴリーでNTに指定。
- **分布の概要** 本州から奄美大島に分布している。東アジアに広く分布する。
- **県内の生育状況** 平野部の湿地、河川、用水路など広く各地で生育が確認されている。津波による攪乱で増加している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 池沼開発、河川開発など
- **主要文献番号** 17、52、67、70、73、74、75、76、77、78、79、88、107、119、130、143、144、151、179、180、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

モメンヅル

Astragalus reflexistipulus

マメ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016 VU	環境省 -
------------	----------

- **選定理由** 生育地は10ヶ所程度で局限されており、個体数とも少ない。
- **分布の概要** 広島県東の本州から北海道に分布している。日本固有種。
- **県内の生育状況** 高山帯から丘陵地まで日当たりの良い草原に広く生育するが、生育地は限られている。草原が放置され自然遷移が進行したり、植林が行われたりしており、生育地、個体数とも少ない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 草地開発、自然遷移など
- **主要文献番号** 100、231

(執筆：植物分科会)



(撮影：石隈 健斗[撮影地：長野県])

ジャケツイバラ

Caesalpinia decapetala

マメ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016 CR+EN	環境省 -
---------------	----------

- **選定理由** 本県が分布の太平洋側北限。生育地が1ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
- **分布の概要** 宮城県以南の本州・四国・九州・沖縄に分布する。朝鮮・中国にも分布する。
- **県内の生育状況** 県南部の丘陵地に生育していたが、近年確認されていない。生育地、個体数とも少ない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、自然災害など
- **主要文献番号** 241、242

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰[撮影地：福島県])

タヌキマメ

Crotalaria sessiliflora

マメ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016 CR+EN	環境省 -
---------------	----------

- **選定理由** 本県が分布の北限。生育地は2ヶ所で、個体数も少ない。
- **分布の概要** 東北地方南部以南の本州～沖縄に分布している。朝鮮・中国・東南アジア・インドに分布する。
- **県内の生育状況** 仙台市と大崎市鹿島台の日当たりの良い草原や道端に生育していたが、近年確認されていない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 自然遷移、植林、道路工事、土地開発など

(執筆：植物分科会)



(撮影：岡崎 キヌ)

ノアズキ

Dunbaria villosa

マメ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016 CR+EN	環境省 -
---------------	----------

- **選定理由** 本県が分布の北限。生育地は数ヶ所で極めて限局的である。個体数も少ない。
- **分布の概要** 宮城県以南の本州～九州・奄美大島・小笠原に分布している。朝鮮・中国に分布する。
- **県内の生育状況** 県南の山元町、亶理町に極めて稀に生育している。林縁や日当たりの良い草地に生育、個体数も少ない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 道路工事、土地造成、自然遷移など
- **主要文献番号** 73、76、77、242

(執筆：植物分科会)



(撮影：恵美 泰子)

イワオウギ

Hedysarum viciooides subsp. *japonicum* var. *japonicum*

マメ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
環境省

- 選定理由 生育地は国定・県立公園の2ヶ所で局限されている。
- 分布の概要 本州中部以北・北海道に分布している。朝鮮・中国・シベリア東部に分布する。
- 県内の生育状況 蔵王連峰、船形連峰の高山の砂礫地で生育が確認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移など
- 主要文献番号 99、220、226

(執筆：植物分科会)



(撮影：加藤 啓子)

マルバヌスビトハギ

Hylodesmum podocarpum subsp. *podocarpum*

マメ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
要注目種 環境省

- 選定理由 本県は分布北限に近い。生育地は丘陵地の10ヶ所近くと少ないためランクを上げた。
- 分布の概要 岩手県以南の本州～九州に分布している。中国・台湾・ヒマラヤ・インドに分布する。
- 県内の生育状況 丘陵地の道端、草地に生え、広い範囲に分布がみられる。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、草刈りなど

(執筆：植物分科会)



(撮影：上野 雄規)

ケヤブハギ

Hylodesmum podocarpum subsp. *fallax*

マメ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
要注目種 環境省

- 選定理由 本県は分布の太平洋側北限。生育地が丘陵地の数ヶ所と少ないためランクを変えた。
- 分布の概要 宮城県・山形県以南の本州～九州に分布している。中国・台湾・ヒマラヤに分布する。
- 県内の生育状況 県南の丘陵地の林縁、林床に生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発など
- 主要文献番号 1、22、165、196

(執筆：植物分科会)



(撮影：上野 雄規)

エゾノレンリソウ

Lathyrus palustris

マメ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
環境省

- 選定理由 生育地は40ヶ所近くと比較的多いが、開発などで生育地・個体数ともに減少している。
- 分布の概要 本州・北海道・対馬に分布している。北半球に広く分布する。
- 県内の生育状況 海岸の後背地から丘陵地の草地に広い範囲で分布している。東日本大震災の津波浸水域でも確認されているが、津波により消滅した生育地も多い。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発など
- 主要文献番号 76、78、174、246、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

レンリソウ

Lathyrus quinquenervius

マメ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
環境省

- 選定理由 生育地は10ヶ所程度で限定されている。河川工事などで生育地が減少している。
- 分布の概要 本州から九州に分布している。朝鮮・中国・ロシア東部に分布している。
- 県内の生育状況 平野部から丘陵帯の河川敷の湿った草地などに生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 河川開発、自然遷移など
- 主要文献番号 248

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明)

イヌハギ

Lespedeza tomentosa

マメ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT 環境省
NT

- 選定理由 生育地は40ヶ所近くで比較的多いが、減少率の高い所が多い。
- 分布の概要 本州～沖縄に分布している。朝鮮・中国・マレーシア・インド・ヒマラヤに分布する。
- 県内の生育状況 丘陵地の河原など日当たりの良い砂地に生育する。津波による攪乱で一時的に増加した所もある。河川改修などで生育環境が悪化している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 河川改修、自然遷移など
- 主要文献番号 33、73、77、78、88、179、180、246、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：上野 雄規)

マキエハギ

Lespedeza virgata

マメ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT 環境省
-

- **選定理由** 生育地は40ヶ所近くと比較的多いが、人為の影響を受け易く個体数の減少が見られる。
- **分布の概要** 岩手県・山形県以南の本州～沖縄に分布している。朝鮮・中国・台湾に分布する。
- **県内の生育状況** 丘陵地の日当たりの良い草地を中心に生育する。その生育地は減少傾向にある。東日本大震災の津波浸水域でも確認。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 草地開発、除草、道路工事など
- **主要文献番号** 76、77、78、143、167、179、180、246

(執筆：植物分科会)



(撮影：大越 秀樹)

トキリマメ(オオバタンキリマメ)

Rhynchosia acuminatifolia

マメ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT 環境省
-

- **選定理由** 本県が分布の北限。生育地は10ヶ所以上あるが、限定されている。
- **分布の概要** 宮城県以南の本州・九州に分布している。朝鮮にも分布する。
- **県内の生育状況** 石巻市以南の沿岸部及び丘陵地の林縁に生育する。個体数は少ない。東日本大震災の津波浸水域でも確認。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 海岸開発、震災復興工事など
- **主要文献番号** 13、100、102、106、133、143、200、246、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：上野 雄規)

センダイハギ

Thermopsis fabacea

マメ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- **選定理由** 生育地は20ヶ所以上あったが、東日本大震災による津波により絶滅した生育地や新たに増加した生育地もあった。
- **分布の概要** 北海道・本州中部以北に分布している。朝鮮・中国・ロシア極東・北アメリカ北部に分布する。
- **県内の生育状況** 沿岸地域の海岸砂丘等に生育している。生育地、個体数は少ない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 自然遷移、自然災害、海岸開発、園芸採取など
- **主要文献番号** 73、74、75、76、78、142、143、158、179、180、209、242、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：杉山 多喜子)

シャジクソウ

Trifolium lupinaster

マメ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- **選定理由** 島嶼に分布し、生育地は国立公園内の数ヶ所で、個体数とも少ない。
- **分布の概要** 北海道・本州の長野県・群馬県・宮城県に分布している。東アジアの亜寒帯・シベリア・中央アジア・ヨーロッパ・アラスカに分布する。
- **県内の生育状況** 島嶼の海岸の岩上及び日当たりの良い草原に生育している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 自然遷移、踏付けなど
- **主要文献番号** 14、96、100、116、185

(執筆：植物分科会)



(撮影：高橋 和吉)

オオバグミ(マルバグミ)

Elaeagnus macrophylla

グミ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- **選定理由** 大平洋側の分布の北限に近く、生育地は局限されている。
- **分布の概要** 関東・中部以西の本州・四国・九州・沖縄に分布している。朝鮮南部にも分布する。
- **県内の生育状況** 極めて限られた地域に生育しており、個体数も少なく絶滅が危惧される。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発など
- **主要文献番号** 254

(執筆：植物分科会)



(撮影：植物分科会調査員[東北大学植物園記念館所蔵])

ホナガクマヤナギ

Berchemia longiracemosa

クロウメモドキ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- **選定理由** 生育地は1ヶ所で局限されている。個体数も少ない。
- **分布の概要** 本州中部以北の日本海側に分布している。日本固有種。
- **県内の生育状況** 奥羽山地北部のブナ帯の林内に局限されている。個体数も少ない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：石隈 健斗[撮影地：秋田県])

ヨコグラノキ

Berchemiella berchemiifolia

クロウメモドキ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

■選定理由 東北地方唯一の分布で北限。生育地が2ヶ所で局限されている。生育面積、個体数共に僅かである。

■分布の概要 本州・四国・九州の岩礫地に分布している。朝鮮半島南部にも分布するが希である。

■県内の生育状況 1カ所は国指定天然記念物で保護され健在である。他所のものは絶滅寸前である。

■生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移など

■主要文献番号 21、22、23、93、102、122、165、169、204、217、244

(執筆：植物分科会)



(撮影：上野 雄規)

マルバヤブマオ

Boehmeria robusta

イラクサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

■選定理由 生育地は数ヶ所で局限されている。個体数は少ない。

■分布の概要 本州～九州に分布している。

■県内の生育状況 平野部の林縁や路傍の草原に生育する。

■生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発など

(執筆：植物分科会)



(撮影：杉山 多喜子)

トキホコリ

Elatostema densiflorum

イラクサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
NT

■選定理由 生育地は10ヶ所近くで局限されている。個体数も少ない。

■分布の概要 本州の東北地方南部から関東地方・兵庫県に分布する。日本固有種。

■県内の生育状況 仙台市、川崎町の平地から丘陵地に生育地は限られており、個体数も少ない。

■生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移など

■主要文献番号 50

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

タチゲヒカゲミズ

Parietaria micrantha var. *coreana*

イラクサ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
VU 環境省
VU

■選定理由 本県は分布の北限。生育地は県立公園内の1ヶ所で局限され、個体数も少なく、ランクを上げた。

■分布の概要 本州・九州に分布している。朝鮮にも分布する。

■県内の生育状況 二口山塊の山地帯下部に生育する。

■生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採など

(執筆：植物分科会)



(撮影：根本 秀一 [撮影地：長野県])

コケミズ

Pilea peploides

イラクサ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT 環境省
-

■選定理由 本県が分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所で局限されている。

■分布の概要 宮城・山形県以南の本州～沖縄に分布している。朝鮮・中国・マレーシア・インド・ハワイ・ガラパゴス諸島に分布する。

■県内の生育状況 中部・南部の山地の陰湿地に生育し、生育地は局限、個体数も少ない。

■生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、森林伐採など

(執筆：植物分科会)



(撮影：根本 秀一 [撮影地：茨城県])

チョウセンキンミズヒキ

Agrimonia coreana

バラ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT 環境省
VU

■選定理由 生育地は数ヶ所で局限されており、生育環境の破壊が懸念される。

■分布の概要 北海道西南部～九州に分布している。朝鮮・中国東北部・ウスリーに分布する。

■県内の生育状況 丘陵地の林縁、草地に分布するが生育地は極めて局限されており、生育環境の悪化が懸念される。

■生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、森林伐採など

■主要文献番号 71、196、232

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

エゾツルキンバイ

Argentina anserina

バラ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
VU環境省
-

- 選定理由 本県が分布の南限に近く、生育地は数ヶ所で個体数も少ない。東日本大震災の津波で絶滅した所が多く、ランクを上げた。
- 分布の概要 北海道・本州北部の海岸に分布している。千島・樺太・朝鮮・ウスリー・カムチャツカ・北アメリカに分布する。
- 県内の生育状況 海岸の塩湿地に生育する。東日本大震災の津波で消滅した所もあるが消滅を免れた個体の一部は移植され、保護されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然災害、海岸開発など
- 主要文献番号 73、74、75、76、77、78、100、164

(執筆：植物分科会)



(撮影：丸山 まさみ [撮影地：北海道])

ミヤマザクラ

Cerasus maximowiczii

バラ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
-

- 選定理由 生育地は数ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
- 分布の概要 東北地方以南の本州・四国・九州に分布している。朝鮮・中国北東部・ウスリー・樺太に分布する。
- 県内の生育状況 蔵王連峰、船形連峰の山地帯に生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、森林伐採など

(執筆：植物分科会)



(撮影：忍頂寺 晃嗣)

クサボケ

Chaenomeles japonica

バラ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
-

- 選定理由 本県が太平洋側北限。生育地が2ヶ所で局限されている。
- 分布の概要 本州・九州に分布する。日本固有種。
- 県内の生育状況 日当たりの良い原野に生育するが、原野の利用が減少し、自然遷移が進行したり、スギなどの植林地に変更されたりして、生育環境が減少している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移、植林、土地開発など
- 主要文献番号 130、142、184

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

キンロバイ

Dasiphora fruticosa

バラ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
VU

- 選定理由 生育地が1ヶ所で局限されている。登山者による攪乱を受け易い所に生育している。個体数の減少が懸念される。
- 分布の概要 本州中北部～北海道に分布している。千島・樺太・朝鮮北部・中国・ヒマラヤに分布する。
- 県内の生育状況 船形連峰の亜高山帯の限られた立地に生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、踏付け、自然遷移など
- 主要文献番号 99、101

(執筆：植物分科会)



(撮影：根本 秀一 [撮影地：栃木県])

シモツケソウ(変種アカバナシモツケソウを含む)

Filipendula multijuga

バラ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
-環境省
-

- 選定理由 生育地は国定公園内の1ヶ所で局限されている。
- 分布の概要 関東以西の本州から四国・九州の山地に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 蔵王連峰の山地の草地に生育が確認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：大友 良三)

ノウゴウイチゴ

Fragaria iinumae

バラ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
-環境省
-

- 選定理由 生育地は県立公園内の1ヶ所で局限されている。
- 分布の概要 本州の日本海側から北海道に分布している。樺太にも分布する。
- 県内の生育状況 船形連峰の亜高山の湿った草地で生育が確認されている。蔵王連峰でも視認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：尾形 良太)

カラフトダイコンソウ

Geum macrophyllum var. *sachalinense*

バラ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- 選定理由 生育地は数ヶ所で局限され、個体数も少ない。
- 分布の概要 本州中北部～北海道に分布している。千島・樺太・北アメリカに分布する。
- 県内の生育状況 蔵王連峰の山地の林床に生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採など
- 主要文献番号 35

(執筆：植物分科会)



(撮影：杉山 多喜子)

カワラサイコ

Potentilla chinensis

バラ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 生育地は10ヶ所程度で限定されており、個体数とも少ない。
- 分布の概要 本州～九州に分布している。朝鮮・中国・モンゴル・アムール・ウスリーに分布する。
- 県内の生育状況 日当たりの良い河原や海岸の砂礫地に生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 河川開発、自然遷移、自然災害など
- 主要文献番号 73

(執筆：植物分科会)



(撮影：根本 秀一[撮影地：栃木県])

ヒロハノカワラサイコ

Potentilla niponica

バラ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT 環境省
VU

- 選定理由 生育地は20ヶ所以上あるが、比較的限定的である。
- 分布の概要 北海道・本州中北部に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 仙北の日当たりの良い河原や砂地に広く分布する。仙台市から南部の標本はない。東日本大震災の津波浸水域でも確認。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 河川改修、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：杉山 多喜子)

エチゴキジムシロ

Potentilla togasii

バラ科

要注目種

2016
要注目種 環境省
-

- 選定理由 生育地は数ヶ所で局限されている。
- 分布の概要 新潟県以北の本州日本海側(兵庫県～秋田県)に分布している。ウスリーにも分布する。
- 県内の生育状況 二口山塊の丘陵帯～山地帯の林縁、草地に生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採など
- 主要文献番号 102

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

エチゴツルキジムシロ

Potentilla toyamensis

バラ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 生育地は国定公園の2ヶ所で局限されている。個体数も少ない。
- 分布の概要 本州の日本海側の福井県～秋田県に分布する。日本固有種。
- 県内の生育状況 奥羽山地の北部の山地帯の林縁、草地に生育し、個体数も少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

ミチノクナシ(イワテヤマナシ)

Pyrus ussuriensis

バラ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT 環境省
EN

- 選定理由 生育地は数ヶ所で局限されている。個体数も少ない。
- 分布の概要 本州・九州北部に分布している。ウスリー・中国北部・北東部・朝鮮に分布する。
- 県内の生育状況 北上山地の日当たりのよい尾根筋に生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、土地開発など

(執筆：植物分科会)



(撮影：滝口 政彦)

シャリンバイ

Rhaphiolepis indica var. *umbellata*

バラ科

要注目種

2016
環境省

(撮影：上野 雄規)

- 選定理由 本県が分布の北限。生育地は20ヶ所近くである。
- 分布の概要 本州の宮城県から沖縄までに分布している。中国・台湾・朝鮮半島・フィリピン・ボルネオにも分布する。
- 県内の生育状況 日本の北限で東松島市まで分布、海岸の丘陵地に生育が確認されている。東日本大震災の津波浸水域でも確認。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 海岸開発、自然遷移など
- 主要文献番号 92、94、105、115、179、184、246、248

(執筆：植物分科会)

オオタカネバラ

Rosa acicularis

バラ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
環境省

(撮影：三島木 進)

- 選定理由 高山植物で特殊な環境に生育し、生育地は2ヶ所で局限されている。
- 分布の概要 北海道・本州中北部の日本海側高山に分布している。樺太・朝鮮・中国東北部・シベリア・カムチャツカに分布する。
- 県内の生育状況 奥羽山地の山地帯の風穴などの限られた立地に生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など

(執筆：植物分科会)

タカネバラ

Rosa nipponensis

バラ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
環境省

(撮影：三島木 進)

- 選定理由 本県が分布の太平洋側北限。生育地は国定・県立公園内の10ヶ所程度で限定的である。
- 分布の概要 本州中部・四国の亜高山帯・高山帯に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 蔵王連峰、船形連峰の高山の日当たりのよい場所で生育が確認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など
- 主要文献番号 99、102、220、226、238

(執筆：植物分科会)

ハマナス

Rosa rugosa

バラ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
環境省

(撮影：細谷 治夫)

- 選定理由 生育地は50ヶ所近くで比較的多いが、園芸植物として採取が危惧される。
- 分布の概要 北海道以南・太平洋側は茨城県南部まで・日本海側は東北・北陸～島根県まで分布している。東アジアの温帯～亜寒帯に分布する。
- 県内の生育状況 海岸砂丘に生育するが、生育地は比較的限定されている。園芸植物として採取される危惧がある。また、2011年の東日本大震災の津波に遭遇し絶滅した所も多々ある。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、海岸開発、復興工事など
- 主要文献番号 73、74、75、76、100、106、130、142、143、155、156、158、171、179、180、205、209、214、238、242、246、248

(執筆：植物分科会)

エゾキイチゴ(ミヤマウラジロイチゴ)

Rubus idaeus

バラ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
環境省

(撮影：国京 潤一)

- 選定理由 高山植物で特殊な環境に生育し、生育地は1ヶ所で局限されている。
- 分布の概要 本州の東北・関東・中部・近畿の亜高山帯に分布する。
- 県内の生育状況 奥羽山地の山地帯の風穴などの限られた立地に生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など

(執筆：植物分科会)

シモキタイチゴ

Rubus mesogaeus var. *adenothrix*

バラ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
環境省

(撮影：植物分科会調査員[東北大学植物園記念館所蔵])

- 選定理由 本県は分布の太平洋側南限。生育地は数ヶ所で局限されている。
- 分布の概要 北海道南部・本州北部・九州に分布している。
- 県内の生育状況 北上山地の日当たりの良い森林下や林縁に生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採など

(執筆：植物分科会)

ヒメゴヨウイチゴ

Rubus pseudojaponicus

バラ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
環境省

(撮影: 杉山 多喜子)

- **選定理由** 生育地は県立公園内の1ヶ所で局限されている。個体数も少ない。
- **分布の概要** 本州中北部から北海道の亜高山帯の針葉樹林下に分布している。南千島にも分布する。
- **県内の生育状況** 二口山塊の落葉樹林の林床で生育が確認されている。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、自然遷移など

(執筆: 植物分科会)

サナギイチゴ

Rubus pungens var. *oldhamii*

バラ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
要注目種
環境省
VU

(撮影: 市ノ渡 彰)

- **選定理由** 生育地が10ヶ所近くと少ないためランクを上げた。環境省カテゴリーVU。
- **分布の概要** 本州・四国・九州のブナ帯に分布している。中国・ヒマラヤにも分布する。
- **県内の生育状況** 県南の奥羽山地と北上山地の落葉広葉樹林の林床、林縁に比較的生育地が多い。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、土地開発など
- **主要文献番号** 13、21、22、143、165

(執筆: 植物分科会)

キビノナワシロイチゴ(キビナワシロイチゴ)

Rubus yoshinoi

バラ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU
環境省
-

(撮影: 細谷 治夫)

- **選定理由** 本県が分布の北限。生育地も数ヶ所で局限されており、個体数も少なく絶滅が危惧される。
- **分布の概要** 本州の宮城県・福島県・中国地方・九州に分布している。中国にも分布する。
- **県内の生育状況** 県南部の丸森町の林縁に生育地が局限されており、個体数も少ない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発、道路工事など
- **主要文献番号** 130

(執筆: 植物分科会)

ナガボノワレモコウ(ナガボノシロワレモコウ)

Sanguisorba tenuifolia

バラ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU
環境省
-

(撮影: 三島木 進)

- **選定理由** 生育地が10ヶ所程度で局限されている。個体数も少ない。
- **分布の概要** 北海道・本州の東北・関東に分布している。樺太にも分布する。
- **県内の生育状況** 湿った草地に生育する。生育地は局限されており、個体数も少ない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 自然遷移、園芸採取など
- **主要文献番号** 143、254

(執筆: 植物分科会)

エゾノシロバナシモツケ

Spiraea miyabei

バラ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN
環境省
-

(撮影: 三島木 進)

- **選定理由** 本県は分布の南限。生育地は数ヶ所で局限されている。個体数は少ない。
- **分布の概要** 本州の秋田県・宮城県以北・北海道に分布している。朝鮮・中国に分布する。
- **県内の生育状況** 奥羽山地の山地帯の限られた立地に生育している。個体数は少ない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、自然遷移など
- **主要文献番号** 21、22、93、165

(執筆: 植物分科会)

アラカシ

Quercus glauca

ブナ科

要注目種

2016
要注目種
環境省
-

(撮影: 滝口 政彦)

- **選定理由** 本県は分布の太平洋側北限。生育地は20ヶ所近くで限定されている。
- **分布の概要** 宮城県・石川県以南の本州・四国・九州に分布している。朝鮮(済州島)・中国・台湾・インドシナ~ヒマラヤに分布する。
- **県内の生育状況** 阿武隈山地と千貫丘陵の仙台市までの丘陵地に生育する。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、自然遷移など
- **主要文献番号** 95、107、180、196、201、215、221、248

(執筆: 植物分科会)

サクラバハンノキ

Alnus trabeculosa

カバノキ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016 VU 環境省 NT

- 選定理由 生育地は1ヶ所で局限されている。個体数も少ない。
- 分布の概要 岩手県・山形県以南の本州・九州宮崎県に分布している。中国東南部にも分布する。
- 県内の生育状況 県南部の奥羽山地に生育地は局限されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、自然遷移など
- 主要文献番号 203

(執筆：植物分科会)



(撮影：上野 雄規)

ネコシデ

Betula corylifolia

カバノキ科

準絶滅危惧 (NT)

2016 - 環境省 -

- 選定理由 生育地は国定公園内の1ヶ所で局限されている。
- 分布の概要 近畿地方以北の本州の亜高山帯に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 二口山塊の亜高山で生育が確認されている。蔵王連峰でも視認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

イワウメヅル

Celastrus flagellaris

ニシキギ科

準絶滅危惧 (NT)

2016 DD 環境省 -

- 選定理由 生育地が奥羽山地と北部北上山地に数ヶ所あることが判り、カテゴリーを変更した。
- 分布の概要 東北地方南部以南の本州・九州に分布している。朝鮮・中国東北部・アムールに分布する。
- 県内の生育状況 生育地は奥羽山地と県北部北上山地の林内や河畔林に限定されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、自然遷移、園芸採取など

(執筆：植物分科会)



(撮影：杉山 多喜子)

ノウルシ

Euphorbia adenochlora

トウダイグサ科

準絶滅危惧 (NT)

2016 要注目種 環境省 NT

- 選定理由 生育地が50ヶ所近くと多いが、減少率の高い所が多くランクを上げた。環境省カテゴリーNT。
- 分布の概要 北海道～九州に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 奥羽山地を除く平野部の河川敷や湿地に比較的広く生育している。津波浸水域で消滅した所も多く、また河川改修などで減少している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 河川開発、湿地開発、草刈りなど
- 主要文献番号 33、73、76、77、78、88、143、144、179、180、194、242、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

マルミノウルシ

Euphorbia ebracteolata

トウダイグサ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016 VU 環境省 NT

- 選定理由 生育地は10ヶ所程度で偏在している。個体数は少ない。
- 分布の概要 関東地方以北の本州に分布している。朝鮮・中国中部に分布する。
- 県内の生育状況 生育地である丘陵地の草原が減少し、生育地、個体数とも少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、自然遷移など
- 主要文献番号 100、142、143

(執筆：植物分科会)



(撮影：加藤 啓子)

センダイタイゲキ

Euphorbia sendaica

トウダイグサ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016 CR+EN 環境省 NT

- 選定理由 生育地が2ヶ所で局限されている。個体数も少ない。
- 分布の概要 関東以北の本州に分布する。日本固有種。
- 県内の生育状況 仙南の丘陵地の林縁の湿った谷間に生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、自然遷移など
- 主要文献番号 108、128、212

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

トカチヤナギ(オオバヤナギ)

Salix cardiophylla

ヤナギ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT環境省
-

- **選定理由** 生育地は10ヶ所程度とごく限られている。河川改修によって生育地・個体数は減少する一方である。
- **分布の概要** 中部以北の本州・北海道に分布している。南千島・朝鮮半島・中国東北部・シベリア・沿海州・アムール・サハリンに広く分布する。
- **県内の生育状況** 奥羽山地の河川敷に分布がみられる。河川改修で林分が狭められ、生育環境が悪化しており自然更新が危ぶまれる状況にある。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 河川改修、自然遷移、自然災害など
- **主要文献番号** 93、99、254

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

ユビソヤナギ

Salix hukaoana

ヤナギ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU環境省
NT

- **選定理由** 国内でも稀な植物で隔離分布。分布域は10ヶ所程度に限られている。砂防ダム、河川改修、林道からの廃土等により生育が脅かされている。
- **分布の概要** 本州の岩手県・秋田県～群馬県に分布する。日本固有種。
- **県内の生育状況** 鳴瀬川上流、荒雄川に生育している。荒雄川の生育地は河川改修で絶滅が危惧される。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 河川改修、自然遷移、自然災害など
- **主要文献番号** 207、212

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

シライヤナギ

Salix shiraii

ヤナギ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
CR+EN環境省
-

- **選定理由** 生育地は数ヶ所あるが、広く分布し個体数も多くランクを下げた。東北地方では数ヶ所の生育地が知られるのみである。
- **分布の概要** 本州の東北地方南部から関東地方北西部に分布する。日本固有種。
- **県内の生育状況** 蔵王連峰の岩場の限られた場所に生育している。かつて青根にも生育していたが、道路工事で消滅した。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

エゾノタチツボスミレ

Viola acuminata

スミレ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT環境省
-

- **選定理由** 生育地は10ヶ所程度で比較的限定的である。個体数も少ない。
- **分布の概要** 本州の中部以北・北海道に分布している。樺太・千島・シベリア東部・朝鮮・中国に分布する。
- **県内の生育状況** 奥羽山地の山地帯から北上山地の丘陵帯の林床、草地に生育している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採など

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

キバナノコマノツメ

Viola biflora

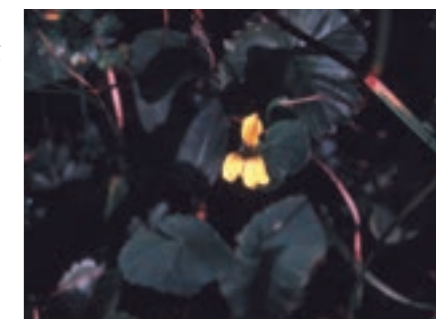
スミレ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
-環境省
-

- **選定理由** 黄花のスミレで、生育地は県立公園内の1ヶ所である。
- **分布の概要** 北海道・本州中北部・四国・屋久島まで分布している。北半球亜寒帯に広く分布する。
- **県内の生育状況** 船形山の高山の草原に生育する。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 園芸採取、自然遷移など
- **主要文献番号** 99、238

(執筆：植物分科会)



(撮影：岡崎 キヌ)

ヒゴスミレ

Viola chaerophylloides var. *sieboldiana*

スミレ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
-

- **選定理由** 本県が太平洋側北限。生育地が数ヶ所と局限、個体数も少ない。絶滅した所もある。
- **分布の概要** 本州の山形県・宮城県～九州に分布する。日本固有種。
- **県内の生育状況** 生育地は奥羽山地の日当たりのよい草地で、個体数も少ない。土地開発や園芸植物として採取され激減している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発、園芸採取など
- **主要文献番号** 99、186

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

シロスマイレ

Viola patrinii

スマイレ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
EX 環境省
-

(撮影：市ノ渡 彰)

- 選定理由 絶滅とみなされたが、他の場所1ヶ所で生育が確認されたので、ランクを変えた。
- 分布の概要 北海道～九州に分布している。南千島・樺太・朝鮮・中国東北部・シベリアの山地及び低地の湿地に分布する。
- 県内の生育状況 山形県との県境の大崎市の峠の草原で生育が確認された。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 湿地開発、園芸採取など
- 主要文献番号 72、206

(執筆：植物分科会)

タチスマイレ

Viola raddeana

スマイレ科

絶滅 (EX)

2016
EX 環境省
VU

(生態写真：上野 雄規 [撮影地：栃木県] 標本写真：上野 雄規 [東京大学総合研究博物館所蔵])

- 選定理由 分布の北限で、生育地は品井沼であったが、品井沼の干拓により絶滅した。全国的な稀産種。
- 分布の概要 関東地方などに稀に分布している。朝鮮・中国東北部・アムールの低湿地のヨシの間などに分布する。
- 県内の生育状況 大崎市鹿島台の池沼の標本がある。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 池沼干拓など
- 主要文献番号 34、42、118、216

(執筆：植物分科会)

フモトスマイレ

Viola sieboldii

スマイレ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

(撮影：三島木 進)

- 選定理由 生育地は10ヶ所程度で限定されており、個体数も少ない。
- 分布の概要 岩手県・山形県以南の本州・四国・九州に分布する。日本固有種。
- 県内の生育状況 日当たりのよい丘陵地の草地に生育、個体数が減少している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など
- 主要文献番号 17、19、48、88、101

(執筆：植物分科会)

シハイスミレ

Viola violacea var. *violacea*

スマイレ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

(撮影：三島木 進)

- 選定理由 生育地は2ヶ所で極めて局限され、個体数も少ない。
- 分布の概要 岩手県・山形県以南の本州～九州に分布している。朝鮮半島南部にも分布する。
- 県内の生育状況 島嶼と栗駒山に局限して生育し、個体数は少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など
- 主要文献番号 195

(執筆：植物分科会)

マツバニンジン

Linum stelleroides

アマ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
- 環境省
CR

(撮影：根本 秀一 [撮影地：茨城県])

- 選定理由 生育地は1ヶ所だけ確認されている。生育地の草地の減少で、絶滅の可能性も高い。
- 分布の概要 北海道から九州に分布している。東アジアに分布する。
- 県内の生育状況 加美町の草地で採集された標本がある。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 草地開発、園芸採取など

(執筆：植物分科会)

アゼオトギリ

Hypericum oliganthum

オトギリソウ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
- 環境省
EN

(撮影：浅井 元朗)

- 選定理由 本県が分布の北限。生育地は2ヶ所で局限されている。
- 分布の概要 関東以南の本州・九州に分布している。朝鮮にも分布する。
- 県内の生育状況 登米市の河川敷の湿地に生育、生育地は局限されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 河川開発、自然遷移など

(執筆：植物分科会)

オシマオトギリ

Hypericum vulcanicum

オトギリソウ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU環境省
-

- 選定理由 生育地は10ヶ所程度で限定されている。個体数とも少ない。
- 分布の概要 本州の新潟県以北の日本海側・石狩以西の北海道に分布する。日本固有種。
- 県内の生育状況 奥羽山地の日当たりのよい湿った岩場等に生育し、個体数も少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：国京 潤一)

タカネグンナイフウロ

Geranium onoei f. alpinum

フウロソウ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
-

- 選定理由 本県が分布の太平洋側北限。生育地は県立公園内の1ヶ所で、個体数も少ない。
- 分布の概要 本州の磐梯山～伊吹山に分布する。
- 県内の生育状況 船形連峰の亜高山帯の限られた立地に生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：根本 秀一[撮影地：山梨県])

コフウロ

Geranium tripartitum

フウロソウ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
-環境省
-

- 選定理由 生育地は10ヶ所近くで局限されている。
- 分布の概要 山形県・宮城県以南の本州・四国・九州に分布している。朝鮮にも分布する。
- 県内の生育状況 奥羽山地、阿武隈山地、北上山地の丘陵地の林縁、草地で生育が確認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、自然遷移など
- 主要文献番号 99、100、142、143、165

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

ヒメミソハギ

Ammannia multiflora

ミソハギ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
-

- 選定理由 本県が分布の太平洋側北限。生育地が2ヶ所で限られ、個体数も少ない。
- 分布の概要 本州～沖縄に分布している。アジア・アフリカ・オーストラリアの亜熱帯・熱帯に分布する。
- 県内の生育状況 分布域が仙南の湿地に限られ、1ヶ所は東日本大震災の津波浸水域に新たに確認されたもので、復旧工事により消滅した。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、園芸採取など
- 主要文献番号 74、78、130、177

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明)

ミズマツバ

Rotala mexicana

ミソハギ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU環境省
NT

- 選定理由 生育地は20ヶ所近くで限られている。農業汚染、農地転用、土地開発で個体数が激減している。
- 分布の概要 本州～沖縄に分布している。朝鮮・中国・フィリピン・インド・中央アジア・アフリカに分布する。
- 県内の生育状況 生育地は平野部から丘陵帯の水田や水位の低下したダムの湿地などである。津波浸水域でも一時的に確認された。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 農地転用、土地開発、農業汚染、水質汚染など
- 主要文献番号 74、75、78、175、178、180

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

ヒメビシ

Trapa incisa

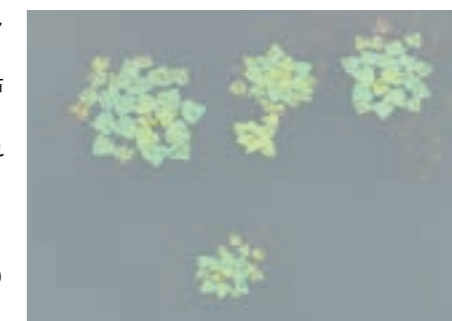
ミソハギ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
VU

- 選定理由 生育地は数ヶ所で限定されており、個体数も少ない。水環境の悪化で絶滅した所もある。
- 分布の概要 北海道～九州に分布している。ウスリー・中国東北部・台湾・朝鮮に分布する。
- 県内の生育状況 生育地は平野部から丘陵部の湖沼で、水環境の悪化により絶滅の恐れがある。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 農業汚染、水質汚染、池沼開発など
- 主要文献番号 88

(執筆：植物分科会)



(撮影：滝口 政彦)

ウスゲヤナギラン

Chamaenerion angustifolium subsp. *circumvagum*

アカバナ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- 選定理由 生育地は1ヶ所で限定されており、個体数も少ない。
- 分布の概要 北海道・本州中部以北に分布している。ヨーロッパ・アジア・アメリカに広く分布する。
- 県内の生育状況 生育地は奥羽山地の草地で、個体数は極めて少ない。また、森林伐採後や山火事後に発生することもある。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移、園芸採取など

(執筆：植物分科会)



(撮影：植物分科会調査員[東北大学植物園記念館所蔵])

アシボソアカバナ

Epilobium anagallidifolium

アカバナ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 生育地は国定公園の栗駒山1ヶ所で局限されている。
- 分布の概要 本州中部以北・北海道に分布している。北半球の周極地域に広く分布する。
- 県内の生育状況 亜高山帯の溪流沿いの砂礫草原に生育は局限されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：植物分科会調査員[東北大学植物園記念館所蔵])

カラフトアカバナ

Epilobium ciliatum

アカバナ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT 環境省
-

- 選定理由 生育地は20ヶ所近くで限定されている。個体数も少ない。
- 分布の概要 北海道・本州中部以北に分布している。朝鮮・アムール・ウスリー・オホーツク・樺太・千島・カムチャツカに分布する。
- 県内の生育状況 奥羽山地の溪流沿いの湿った場所などに生育している。低地の河川敷でも確認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、河川開発、乾燥化など
- 主要文献番号 88

(執筆：植物分科会)



(撮影：滝口 政彦)

ホソバアカバナ

Epilobium palustre

アカバナ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
- 環境省
-

- 選定理由 生育地は県立公園内の1ヶ所であり、個体数も少ない。
- 分布の概要 本州中北部から北海道に分布している。ヨーロッパ・北アメリカの温帯に広く分布する。
- 県内の生育状況 船形山の湿原に生育は局限されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移など

(執筆：植物分科会)



(撮影：藤田 玲[撮影地：北海道])

ナンブコハモミジ

Acer amoenum var. *nambuenum*

ムクロジ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
- 環境省
-

- 選定理由 生育地は国立公園内の1ヶ所であり、個体数も少ない。
- 分布の概要 本州の東北地方の三陸地方沿岸に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 オオモミジの変種で葉が小さく、三陸地方の金華山島で確認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移など
- 主要文献番号 42

(執筆：植物分科会)



(撮影：上野 雄規[国立科学博物館植物研究部所蔵])

ウスギモクゲンジ

Koelreuteria paniculata f. *miyagiensis*

ムクロジ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
- 環境省
-

- 選定理由 花の色が薄い黄色の品種であるが、生育地は石巻市だけで数ヶ所確認されている。
- 分布の概要 母種は本州の日本海側、長野県、宮城県・岩手県の太平洋側に分布している。朝鮮・中国に分布する。
- 県内の生育状況 石巻市の海岸の丘陵で生育が確認されている。
- 近似種との区別 モクゲンジの品種
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、土地造成など
- 主要文献番号 146

(執筆：植物分科会)



(撮影：佐々木 豊)

フユザンショウ

Zanthoxylum armatum var. *subtrifoliatum*

ミカン科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT 環境省
-

- **選定理由** 本県が分布の北限。生育地は数ヶ所で局限されている。生育地も個体数も少ない。
- **分布の概要** 関東以西の本州・四国・九州・沖縄に分布している。朝鮮南部・台湾・中国に分布する。
- **県内の生育状況** 生育地は塩竈市から気仙沼市までの沿岸部の丘陵地に限られている。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、土地開発など
- **主要文献番号** 92、100、184

(執筆：植物分科会)



(撮影：滝口 政彦)

カラスノゴマ

Corchoropsis crenata

アオイ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
- 環境省
-

- **選定理由** 生育地は10ヶ所以上あるが、限定されており、近年減少している。
- **分布の概要** 関東以西の本州・四国・九州に分布している。朝鮮・中国に分布する。
- **県内の生育状況** 丘陵地の畑や道端で生育が確認されている。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発、道路工事など
- **主要文献番号** 248

(執筆：植物分科会)



(撮影：上野 雄規)

ハマハタザオ

Arabis stelleri var. *japonica*

アブラナ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
- 環境省
-

- **選定理由** 生育地は40ヶ所近くあるが、近年減少している。
- **分布の概要** 北海道から九州まで分布している。朝鮮・樺太・千島に分布する。
- **県内の生育状況** 山元町から気仙沼市まで広い範囲の海岸の砂地に生育が確認されている。東日本大震災の津波浸水域で多数確認。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 震災復興工事など
- **主要文献番号** 74、76、78、246、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

ミズタガラシ

Cardamine lyrata

アブラナ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- **選定理由** 本県が分布北限。生育地は10ヶ所以上で、湿地の開発によって絶滅する危険がある。
- **分布の概要** 関東以南の本州～九州に分布している。朝鮮・中国・モンゴル・シベリア東部・ロシア極東に分布する。
- **県内の生育状況** 平野部の湿地、沼沢地に生育し、生育地、個体数も減少している。東日本大震災の津波により、仙台市の平野の生育地は消滅した。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発、自然遷移など
- **主要文献番号** 17、19、135

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

エゾハタザオ

Catolobus pendulus

アブラナ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
要注目種 環境省
-

- **選定理由** 生育地が10ヶ所以上あるが、少ないためランクを上げた。
- **分布の概要** 北海道・中部以北の本州に分布している。朝鮮・中国・モンゴル・ロシア極東・シベリア・ヨーロッパに分布する。
- **県内の生育状況** 丘陵地帯の湿った草地に広く、比較的多く生育する。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発、自然遷移など
- **主要文献番号** 21

(執筆：植物分科会)



(撮影：藤田 玲 [撮影地：北海道])

ナニワズ

Daphne jezoensis

ジンチョウゲ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- **選定理由** 生育地は数ヶ所で限定されており、個体数も少ない。
- **分布の概要** 北陸以北の本州・北海道に分布している。千島・サハリンにも分布する。
- **県内の生育状況** 生育地は奥羽山地、北上山地で、山林の開発、園芸植物としての採取による絶滅の恐れがある。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採、園芸採取など

(執筆：植物分科会)



(撮影：加藤 啓子)

オニシバリ

Daphne pseudomezereum

ジンチョウゲ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT環境省
-

■選定理由 本県は太平洋側分布の北限。生育地は20ヶ所近くで限定されている。個体数は極めて少ない。

■分布の概要 宮城県以南の本州・四国・九州に分布している。韓国(済州島)にも分布する。

■県内の生育状況 三陸沿岸まで丘陵地の落葉広葉樹林の林床に広く分布する。生育地の開発、園芸採取で減少が懸念される。

■生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、土地開発、園芸採取など

■主要文献番号 22、88、143、151、165、241、242

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 上野 雄規)

ハナハタザオ

Dontostemon dentatus

アブラナ科

絶滅 (EX)

2016
-環境省
CR

■選定理由 100年以上前の品井沼の標本が1点あるのみである。

■分布の概要 本州の中部・東北地方南部に分布している。朝鮮・中国・シベリアに分布する。

■県内の生育状況 大崎市鹿島台で過去に確認された。

■生育に対する脅威(減少の要因) 池沼開発など

■主要文献番号 212

(執筆: 植物分科会)



(生態写真: 根本 秀一[撮影地: 茨城県] 標本写真: 植物分科会調査員[東北大学植物園記念館所蔵])

オオユリワサビ

Eutrema okinosimense

アブラナ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
-環境省
-

■選定理由 生育地は数ヶ所で局限されている。

■分布の概要 北海道から九州に分布している。日本固有種。

■県内の生育状況 奥羽山地の蔵王連峰、加美町、白石市の小川で生育が確認されている。

■生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、園芸採取など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 三島木 進)

ハクセンナズナ

Macropodium pterospermum

アブラナ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
-環境省
-

■選定理由 生育地は県立公園内の1ヶ所で局限されている。

■分布の概要 本州中北部から北海道に分布している。中国・ロシア極東部に分布する。

■県内の生育状況 船形連峰の湿った斜面に生育が局限されている。

■生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 市ノ渡 彰[撮影地: 山形県])

コイヌガラシ

Rorippa cantoniensis

アブラナ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
NT

■選定理由 本県が分布の北限。生育地は2ヶ所で局限されている。

■分布の概要 関東地方以西の本州~九州に分布している。朝鮮・中国・アムール・ウスリーに分布する。

■県内の生育状況 溜池やダムの水位の下がった湿地に生育する1年草であり、管理の変化などにより、確認が難しくなっている。

■生育に対する脅威(減少の要因) 水質汚染、農業汚染など

■主要文献番号 59、164

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 葛西 英明)

ハタザオ

Turritis glabra

アブラナ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
-環境省
-

■選定理由 生育地は10ヶ所程度で限定されている。

■分布の概要 北海道から九州に分布している。ユーラシア大陸に広く分布する。

■県内の生育状況 東松島市から南の平野部、丘陵地で確認されている。東日本大震災の津波浸水域でも確認。

■生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、自然遷移など

■主要文献番号 74、76、78、246

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 葛西 英明)

ミヤマツチトリモチ

Balanophora nipponica

ツチトリモチ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU環境省
VU

- 選定理由 生育地は10ヶ所以上で限定されている。寄生植物で、個体数も少ない。
- 分布の概要 青森県以南の本州・九州に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 奥羽山地の山地帯の林床に稀に生育し、個体数も少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、自然遷移など
- 主要文献番号 2、4、21、33、69、93、102、103、238、256

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 上野 雄規)

ホザキヤドリギ

Loranthus tanakae

オオバヤドリギ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
NT環境省
-

- 選定理由 生育地が2ヶ所と少ないのでランクを上げた。生育地は局限されており、個体数も少ない。
- 分布の概要 本州の東北地方・中部地方中北部に分布している。朝鮮・中国北部に分布する。
- 県内の生育状況 奥羽山地の山地の落葉広葉樹に寄生している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、園芸採取など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 葛西 英明)

マツグミ

Taxillus kaempferi

オオバヤドリギ科

絶滅 (EX)

2016
-環境省
-

- 選定理由 100年以上前の角田市の標本が2点あるのみである。
- 分布の概要 関東・富山県以西の本州・四国・九州・沖縄に分布している。中国東部にも分布する。
- 県内の生育状況 県南の角田市で過去にモミに寄生しているのが確認された。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然災害など
- 主要文献番号 198、200

(執筆: 植物分科会)



(生態写真: 根本 秀一 [撮影地: 茨城県] 標本写真: 植物分科会調査員 [東北大学植物園記念館所蔵])

ハマサジ

Limonium tetragonum

イソマツ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
NT

- 選定理由 本県が分布の北限として貴重。生育地は10ヶ所以上あったが、東日本大震災の津波により生育地、個体数とも激減した。
- 分布の概要 三陸海岸以南の太平洋側本州・四国・九州に分布している。朝鮮・中国東北部の海岸砂地に分布する。
- 県内の生育状況 海岸の塩性湿地に生育し、亶理町から気仙沼市まで広く分布していたが、東日本大震災の津波後、復旧工事等により絶滅、現在は確認できない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 海岸開発、自然災害など
- 主要文献番号 73、74、75、78、92、96、100、106、121、142、143、246、248

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 国京 潤一)

オヤマソバ

Aconogonon nakaii

タデ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
-環境省
-

- 選定理由 生育地は国定公園内の1ヶ所で局限されている。
- 分布の概要 本州中部以北・北海道の高山帯に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 蔵王連峰の高山の砂礫地で生育が確認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 三島木 進)

アブクマトラノオ

Bistorta abukumensis

タデ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
VU環境省
-

- 選定理由 本県は分布の北限。生育地が30ヶ所近くと少し多いのでランクを下げたが、生育地は限定されている。タイプ標本の産地である。
- 分布の概要 福島県～宮城県の太平洋側の本州に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 生育地は仙南の丘陵地の谷筋に局限されており、園芸価値があり乱獲による個体数も減少している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移、自然災害など
- 主要文献番号 36、48、180、242、245

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 上野 雄規)

エゾイブキトラノオ

Bistorta officinalis subsp. *pacifica*

タデ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
環境省

- 選定理由 生育地は国定公園内の1ヶ所で局限されている。
- 分布の概要 北海道から九州に分布している。カナダ・アラスカ・ユーラシアに広く分布する。
- 県内の生育状況 蔵王連峰の高山の日当たりのよい草地で生育が確認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移など

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 三島木 進)

クリンユキフデ

Bistorta suffulta

タデ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省

- 選定理由 生育地は2ヶ所で、場所によっては絶滅した。
- 分布の概要 本州～九州に分布している。朝鮮・中国に分布する。
- 県内の生育状況 北上山地の落葉樹林の林床に生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移、園芸採取など
- 主要文献番号 100、107、140、142

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 石隈 健斗 [撮影地: 山梨県])

ムカゴトラノオ

Bistorta vivipara

タデ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
環境省

- 選定理由 生育地は国定・県立公園内の2ヶ所である。
- 分布の概要 本州中部以北・北海道に分布している。北半球に広く分布する。
- 県内の生育状況 蔵王連峰、船形連峰の高山の草地や岩礫地で生育が確認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移など
- 主要文献番号 99、220

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 三島木 進)

エゾノミズタデ

Persicaria amphibia var. *amurensis*

タデ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省

- 選定理由 生育地は1ヶ所で局限されている。
- 分布の概要 北海道・東北地方・長野県北部に分布している。北半球に広く分布する。
- 県内の生育状況 県北の湖沼の縁に生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 池沼開発、自然遷移など
- 主要文献番号 88、117、118、216

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 藤田 玲 [撮影地: 北海道])

ヒメタデ

Persicaria erectominor var. *erectominor*

タデ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省

- 選定理由 生育地は30ヶ所程度で限定され、個体数は少ない。
- 分布の概要 北海道～九州に分布している。朝鮮半島・中国に分布する。
- 県内の生育状況 平野部の水湿地に生育している。品種のアオヒメタデは東日本大震災の津波浸水域で一時的に増加した。
- 近似種との区別 ヒメタデは匍匐性が強く、花穂には開出毛が少なく短い。品種のアオヒメタデは立ち上がり、開出毛がやや多く長い。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 湿地開発など
- 主要文献番号 70、73、74、75、76、77、78、79、180、248

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 三島木 進)

ヤナギヌカボ

Persicaria foliosa var. *paludicola*

タデ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
要注目種 環境省

- 選定理由 生育地が30ヶ所近くと多いが、減少率が高い所が多くランクを上げた。環境省カテゴリー-VU。
- 分布の概要 北海道・本州・九州に分布している。朝鮮半島・中国に分布する。
- 県内の生育状況 平野部の水湿地に生育する1年草。生育地は限られている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 湿地開発、自然遷移など
- 主要文献番号 73、74、75、78、79、88、144、180

(執筆: 植物分科会)



(撮影: 上野 雄規)

ナガバノウナギツカミ

Persicaria hastatosagittata

タデ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016 VU 環境省 NT

- 選定理由 生育地は2ヶ所で局限、個体数は少ない。
- 分布の概要 本州～九州に分布している。中国南部・台湾に分布する。
- 県内の生育状況 平野部の湖沼の湿地に生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 湿地開発など

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

サデクサ

Persicaria maackiana

タデ科

準絶滅危惧 (NT)

2016 NT 環境省 -

- 選定理由 生育地が20ヶ所近くあるが、限定的である。干拓によって絶滅した所もある。
- 分布の概要 本州～九州に分布している。朝鮮・中国・ウスリーに分布する。
- 県内の生育状況 水湿地に生育するが、局限された場所に生育している。東日本大震災の津波後新たに確認された生育地もあるが一時的である。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、干拓、管理放棄など
- 主要文献番号 70、73、74、78、79、130、144、179、194、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：上野 雄規)

シラカワタデ

Persicaria maculosa subsp. *hirticaulis* var. *amblyophylla*

タデ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016 CR+EN 環境省 -

- 選定理由 本県は分布の北限。生育地は10ヶ所近くで、局限されている。個体数も少ない。
- 分布の概要 本県の宮城県中部～関東北部に分布する。
- 県内の生育状況 北上山地や阿武隈山地の草原や路傍に生育。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発など
- 主要文献番号 11、25

(執筆：植物分科会)



(撮影：植物分科会調査員/線画：井波一雄[東北大学植物園記念館所蔵])

ヌカボタデ

Persicaria taquetii

タデ科

準絶滅危惧 (NT)

2016 要注目種 環境省 VU

- 選定理由 生育地が30ヶ所近くと多いが、減少率が高い所が多くランクを上げた。環境省カテゴリーVU。
- 分布の概要 本州～九州に分布している。朝鮮にも分布する。
- 県内の生育状況 県中央部・北部の平野部の湖沼に生育地は限られている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 湿地開発、自然遷移など
- 主要文献番号 106、118、216

(執筆：植物分科会)



(撮影：浅井 元朗)

ホソバイヌタデ

Persicaria trigonocarpa

タデ科

準絶滅危惧 (NT)

2016 NT 環境省 NT

- 選定理由 生育地は30ヶ所以上であるが、比較的限定的である。
- 分布の概要 秋田県・宮城県以南～関東までの本州に分布している。朝鮮・中国北部・東北部・ウスリーに分布する。
- 県内の生育状況 平野部から丘陵地の河川敷の湿地に広く生育する。河川改修の影響を受け、生育環境が悪化している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 河川開発、自然遷移など
- 主要文献番号 79、88、130、144、180、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

ノダイオウ

Rumex longifolius

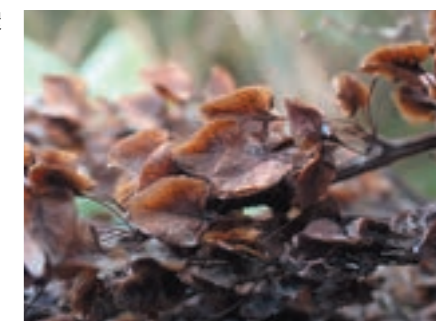
タデ科

準絶滅危惧 (NT)

2016 要注目種 環境省 VU

- 選定理由 生育地が50ヶ所程度と多いが、減少率が高い所も多くランクを上げた。環境省カテゴリーVU。
- 分布の概要 北海道・中部以北・和歌山県の本州に分布している。北半球に分布する。
- 県内の生育状況 丘陵地帯の湿った草地、路傍等に広い範囲で比較的多く生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、除草など
- 主要文献番号 33、130、143、144、151、194

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

マダイオウ

Rumex madaio

タデ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- 選定理由 本県が分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所で局限、個体数は少ない。
- 分布の概要 本州～九州に分布する。日本固有種。
- 県内の生育状況 平野部の水湿地に生育している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 河川改修、沼沢地開発など

(執筆：植物分科会)



(撮影：森 俊)

コモウセンゴケ

Drosera spatulata

モウセンゴケ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 本県が分布の北限。生育地は以前は10ヶ所あったが、2011年の大津波の影響で激減した。そのためランクを上げた。
- 分布の概要 宮城県以南の本州～沖縄に分布している。中国・台湾・東南アジア・オーストラリアに分布する。
- 県内の生育状況 山元町、亶理町の沿岸部の湿地に生育しているが、東日本大震災の津波により生育地、個体数とも減少した。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、土地開発、草刈り、自然遷移など
- 主要文献番号 51、73、85、86、87、106、131、136、241、242、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：森 俊)

タチハコベ

Arenaria trinervia

ナデシコ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
要注目種 環境省
VU

- 選定理由 生育地が20ヶ所近くあるが、減少率が高い所が多くランクを上げた。環境省カテゴリー-VU。
- 分布の概要 北海道・本州・四国・九州に分布している。北半球に分布する。
- 県内の生育状況 北上山地の丘陵帯の落葉広葉樹林の林床、林縁に比較的多く生育する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発など
- 主要文献番号 88、100、143

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明)

タカネナデシコ

Dianthus superbus var. *speciosus*

ナデシコ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 生育地は県立公園の2ヶ所に局限されている。
- 分布の概要 北海道・中部地方以北の本州の高山に分布している。ヨーロッパ・中国東北部・朝鮮に分布する。
- 県内の生育状況 二口山塊の山地帯の岩場に生育地がある。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など
- 主要文献番号 238

(執筆：植物分科会)



(撮影：植物分科会調査員[東北大学植物園記念館所蔵])

ハマハコベ

Honckenya peploides var. *major*

ナデシコ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- 選定理由 生育地は2ヶ所で分布が局限、個体数も少ない。
- 分布の概要 北海道・本州の主に日本海側に分布している。朝鮮・ロシア極東地方・南北アメリカに分布する。
- 県内の生育状況 三陸沿岸の砂浜、礫浜に生育する。東日本大震災の津波により生育地が消失した可能性がある。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 海岸開発、自然災害、自然遷移など
- 主要文献番号 72、77、157

(執筆：植物分科会)



(撮影：藤田 玲[撮影地：北海道])

ワダソウ

Pseudostellaria heterophylla

ナデシコ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 生育地は10ヶ所程度で限られており、生育環境が減少している。
- 分布の概要 中部以北の本州・九州北部に分布している。朝鮮・中国・ウスリーに分布する。
- 県内の生育状況 丘陵地の自然度の高い里山の林床に生育する。全県に分布するが生育地は点在し、個体数も少ない。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、自然遷移など
- 主要文献番号 15、88、100、114、130、142、143

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

ナンブワチガイソウ

Pseudostellaria japonica

ナデシコ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT環境省
VU

- **選定理由** 生育地は40ヶ所程度で比較的多いが、減少率の高い所が多い。生育環境が減少している。
- **分布の概要** 岩手県～長野県までの本州に分布している。中国北部・西南部・東北部・ウスリーに分布する。
- **県内の生育状況** 丘陵地帯の落葉広葉樹林の林床や林縁に広く分布する。里山地域の荒廃などにより生育環境が悪化している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発、管理放棄、自然遷移など
- **主要文献番号** 32、33、66、92、96、100、139、142、143、151、212

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

ヒゲネワチガイソウ

Pseudostellaria palibiniana

ナデシコ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
-

- **選定理由** 本県が分布の北限の植物。生育地は数ヶ所で局限されている。
- **分布の概要** 宮城県以南～中部地方の本州に分布している。朝鮮にも分布する。
- **県内の生育状況** 仙南の丘陵地の落葉樹林の林床や林縁に生育している。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発、園芸採取など
- **主要文献番号** 7、8、22、112、165

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

シラオイハコベ(エゾフスマ)

Stellaria fenzlii

ナデシコ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
-

- **選定理由** 生育地は2カ所で局限されている。
- **分布の概要** 北海道・本州中部以北に分布している。千島・樺太・ウスリー・アムール・オホーツク・カムチャツカに分布する。
- **県内の生育状況** 奥羽山地の特殊な環境に生育しており、生育地を含む地域を保全する必要がある。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 自然遷移、園芸採取など

(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

イトハコベ

Stellaria filicaulis

ナデシコ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN環境省
CR

- **選定理由** 生育地は2ヶ所でごく限られている。
- **分布の概要** 関東地方以北の本州に稀に分布している。朝鮮・中国東北部・モンゴルに分布する。
- **県内の生育状況** 県北の平野部から丘陵帯の湿地に生育する。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 土地開発、管理放棄など
- **主要文献番号** 17

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

ハマアカザ

Atriplex subcordata

ヒユ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
-環境省
-

- **選定理由** 生育地は20ヶ所近くで、限定的である。
- **分布の概要** 本州から北海道に分布している。朝鮮・ウスリー・樺太・千島に分布する。
- **県内の生育状況** 各地の海岸の砂浜で広く生育が確認されている。東日本大震災の津波浸水域でも確認されているが、個体数は多くない。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 復興工事、自然遷移など
- **主要文献番号** 73、76、78、154、155、246、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：加藤 啓子)

イワアカザ

Chenopodium gracilispicum

ヒユ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
要注目種環境省
CR

- **選定理由** 生育地が数ヶ所と局限、少ないのでランクを上げた。個体数も少ない。
- **分布の概要** 本州～九州に分布している。シベリア東部・アムール・ウスリー・朝鮮・中国に分布する。
- **県内の生育状況** 阿武隈山地の比較的岩礫のある林床等に生育地は局限されている。
- **生育に対する脅威(減少の要因)** 森林伐採など

(執筆：植物分科会)



(撮影：葛西 英明)

アッケシソウ

Salicornia perennans

ヒユ科

絶滅 (EX)

2016
EX環境省
VU

■選定理由 気仙沼市岩井崎付近の塩田跡地に生育していたが、土地開発のため絶滅した。

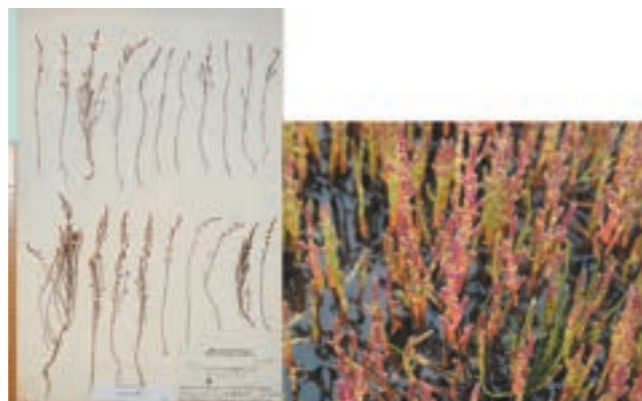
■分布の概要 四国・本州の宮城県・岡山県・北海道の塩沼地に分布している。北半球に広く分布する。

■県内の生育状況 かつて気仙沼市岩井崎付近で採集された標本がある。

■生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、生育環境変化など

■主要文献番号 42、92、121

(執筆：植物分科会)



(生態写真：藤田 玲 [撮影地：北海道] 標本写真：植物分科会調査員 [東北大学植物園記念館所蔵])

マツナ

Suaeda glauca

ヒユ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT環境省
-

■選定理由 本県は分布の北限。生育地は30ヶ所程度で限定されている。個体数も少ない。

■分布の概要 宮城県以南の本州～九州に分布している。朝鮮・中国・モンゴル・ウスリー・シベリア東部に分布する。

■県内の生育状況 七ヶ浜町から石巻市の沿岸部の塩性湿地に広く分布していたが、東日本大震災の津波に遭遇し一時的に増加した所と消滅した所がある。

■生育に対する脅威(減少の要因) 海岸開発、自然災害、自然遷移など

■主要文献番号 78、106、246

(執筆：植物分科会)



(撮影：上野 雄規)

ハママツナ

Suaeda maritima subsp. *asiatica*

ヒユ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT環境省
-

■選定理由 本県は分布の北限。生育地は40ヶ所近くで限定されている。

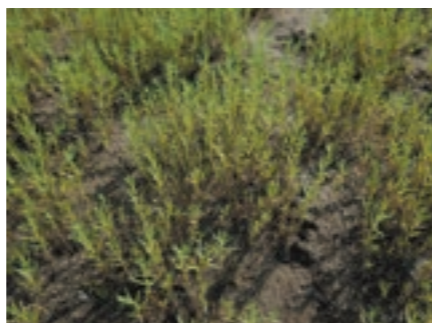
■分布の概要 宮城県以南の本州～九州に分布している。北半球に広く分布する。

■県内の生育状況 亘理町から気仙沼市の沿岸部の塩性湿地に広く分布していたが、東日本大震災の津波に遭遇し、生育地が増加し、個体数は激増した。

■生育に対する脅威(減少の要因) 海岸開発、自然災害、自然遷移など

■主要文献番号 73、74、75、76、78、92、96、106、142、143、179、246、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

クサアジサイ

Cardiandra alternifolia

アジサイ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
CR+EN環境省
-

■選定理由 本県は分布の北限。生育地が10ヶ所程度と少し多いのでランクを下げた。園芸植物として採取され、絶滅寸前である。

■分布の概要 宮城県・新潟県以南の本州～九州に分布する。日本固有種。

■県内の生育状況 仙南地域の丘陵地のやや湿った林床に分布は限られている。

■生育に対する脅威(減少の要因) 土地開発、園芸採取など

■主要文献番号 67、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

ヤマアジサイ

Hortensia serrata

アジサイ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT環境省
-

■選定理由 本県が分布の北限。生育地は20ヶ所程度で、限定的で個体数も少ない。

■分布の概要 宮城県以南の太平洋側の本州・四国・九州に分布している。

■県内の生育状況 阿武隈山地の丘陵地のやや湿った環境に生育する。

■生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、自然遷移など

■主要文献番号 67、130、196、242、248

(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

タマアジサイ

Platycrater involucreta

アジサイ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
NT環境省
-

■選定理由 本県が分布の北限。生育地は20ヶ所程度で限定的で個体数も少ない。

■分布の概要 本州の宮城県～岐阜県・福井県に分布している。日本固有種。

■県内の生育状況 阿武隈山地の谷筋に生育し、フサザクラ-タマアジサイ群集を形成している。

■生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、園芸採取、自然遷移、自然災害など

■主要文献番号 1、7、8、112、241、242

(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

ウミミドリ

Lysimachia maritima var. *obtusifolia*

サクラソウ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
-

- 選定理由 北方系要素の植物として貴重。生育地は10ヶ所近く、個体数とも少ない。
- 分布の概要 北海道・本州北部の海岸の湿地に分布している。アジア・北アメリカ北部に分布する。
- 県内の生育状況 海岸の塩性湿地に生育する。東日本大震災の津波により消滅した場所もある一方沿岸の水田跡などに生育域を拡大し、群落を生じたが復旧工事で消滅した。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 海岸開発、自然遷移、自然災害など
- 主要文献番号 73、74、75、76、77、78、96、100、121、142、143、209、248
(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

ヤナギトラノオ

Lysimachia thyrsiflora

サクラソウ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 生育地は数ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
- 分布の概要 北海道～本州中部地方以北に分布している。北半球の寒帯に広く分布する。
- 県内の生育状況 平地から山地帯までの溜池の縁、湿原に生育するが、生育地は局限されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など
- 主要文献番号 19、73、88、100、118、135、242
(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)

ユキワリコザクラ

Primula farinosa subsp. *modesta* var. *fauriei*

サクラソウ科

準絶滅危惧 (NT)

2016
- 環境省
-

- 選定理由 生育地は国定・県立公園内の10ヶ所程度で、局限されている。
- 分布の概要 本州北部・北海道に分布している。千島にも分布する。
- 県内の生育状況 蔵王連峰から船形連峰までの高山の湿った岩場で生育が確認されている。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、自然遷移など
- 主要文献番号 99、102、220、226、238
(執筆：植物分科会)



(撮影：三島木 進)

クリンソウ

Primula japonica

サクラソウ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
-

- 選定理由 生育地は20ヶ所近くで限られている。園芸植物として採取され、個体数が減少している。
- 分布の概要 本州の近畿地方から北海道に分布している。日本固有種。
- 県内の生育状況 各地の山間地の湿地に生育しているが、生育地、個体数共に急激に減少している。園芸植物として採取、減少している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 森林伐採、園芸採取、自然遷移など
- 主要文献番号 48、110、113、171、238
(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

サクラソウ

Primula sieboldii

サクラソウ科

絶滅危惧I類 (CR+EN)

2016
CR+EN 環境省
NT

- 選定理由 生育地は数十ヶ所と限定されている。生育地や個体数は減少している。
- 分布の概要 北海道南部・本州・九州に分布している。朝鮮・中国東北部・シベリア東部に分布する。
- 県内の生育状況 平地から低山の沢筋や湿地に生育しているが、土地開発、園芸採取などにより激減している。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 園芸採取、土地開発など
- 主要文献番号 33、48、52、64、65、67、101、142、143、147、170、171、196、197、209、212、238
(執筆：植物分科会)



(撮影：細谷 治夫)

ハイハマボツス

Samolus parviflorus

サクラソウ科

絶滅危惧II類 (VU)

2016
VU 環境省
NT

- 選定理由 生育地は数ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
- 分布の概要 北海道・本州に分布している。北アメリカに分布する。
- 県内の生育状況 県西部の奥羽山地の山地帯の湿地に稀産する。
- 生育に対する脅威(減少の要因) 自然遷移など
- 主要文献番号 99、170、191、212
(執筆：植物分科会)



(撮影：市ノ渡 彰)